

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第17集

はぎ やま い せき
萩 山 遺 跡

本文編

2 0 1 5

埼玉県熊谷市教育委員会

序

私たちの郷土熊谷は、関東随一の大河川である利根川と荒川の2大河川に育まれた肥沃な沖積低地と、台地・丘陵地からなる変化に富んだ豊かな自然が広がっております。

こうした自然環境のもと、市内には先人たちによって多くの貴重な文化財が営々と築かれてきました。これらの文化財は、地域の歴史・文化を伝えるばかりでなく、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、このような文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市形成のための礎としていかなければならないと考えております。

本書は、平成6年度に発掘調査を行った、千代地内に所在する萩山遺跡について報告するものであります。今回の調査では、県内でも発見例の少ない、縄文時代早期の集落跡や、古代の火葬墓が発見され、多大な成果を得ることができました。

本書が埋蔵文化財保護ならびに学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広くご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、ご指導、ご協力を賜りました関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

熊谷市教育委員会
教育長 野原 晃

例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市千代 325-1 に所在する萩山遺跡(埼玉県遺跡番号 65-021)の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、町立総合文化会館に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、江南町教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、第 I 章第 3 節のとおりである。
- 4 発掘調査期間は、平成 6 年 3 月 18 日から平成 6 年 7 月 22 日までである。整理・報告書作成期間は、平成 25 年 9 月 3 日から平成 27 年 3 月 20 日までである。
- 5 発掘調査および本書の執筆・編集は、主に森田が行った。第 III 章第 2 節 1 (第 19 号住居跡)・5、第 V 章第 2 節は新井が行った。また、熊谷市教育委員会社会教育課職員の支援を受けた。
- 6 発掘調査の現場写真および遺物の写真撮影は、森田が行った。
- 7 本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 8 発掘調査にあたって、以下の機関に業務委託もしくは協力を得た。
測量：中央航業株式会社
炭化材樹種同定分析：応用地質株式会社
黒曜石蛍光 X 線分析：明治大学文化財研究施設
- 9 本書の作成にあたり、下記の方々及び機関などからご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。
(敬称略、五十音順)
石井杏奈 太田陽介 梶ヶ山真里 神代知子 金子直行 金成太郎 栗島義明 杉原重夫 藤森靖枝
宮崎朝雄 渡邊 一
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 国立科学博物館 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課
中部測地研究所 明治大学文化財研究施設 明治大学博物館

凡 例

本書における挿図指示は次のとおりである。

- 1 遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。
遺構全測図…1/400、住居跡・土坑…1/60、集石土坑・集石・埋甕1/30、火葬墓…1/20、
溝跡…1/400
- 2 遺構の略記号は、次の通りである。
溝跡：SD、堅穴住居跡：SI、土坑：SK、ピット：SP、集石土坑：SS、屋外埋甕：SU、
火葬墓：SX
- 3 遺構挿図中、断面図に添えてある数値は標高を示している。
- 4 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。
土器・石器・土製品…1/2・1/3 石器 1/1・1/2・1/3・1/4、
- 5 遺物拓影図のうち、土器は向って左側に外面、右側に内面を示した。

6 遺物実測図の表現方法は、以下の通りである。

縄文土器・土師器・石器・土製品：白抜き

須恵器断面：黒塗り

7 遺物観察表の表記方法は次のとおりである。

・法量の単位はcm、gである。() が付されるものは推定値、現存値を表す。

・焼成は、以下の3段階に区分した。

A…良好 B…普通 C…不良

・胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で示した。

A：白色粒子 B：黒色粒子 C：赤色粒子 D：褐色粒子 E：赤褐色粒子 F：白色針状物質

G：長石 H：石英 I：白雲母 J：黒雲母 K：角閃石 L：片岩 M：砂粒 N：礫

・土製円盤の側面調整は以下の記号で示した。

A：全周研磨 B：部分研磨 C：研磨無

8 石器の計測は全点行い、石器計測表に示した。分類の基準は以下の基準に従った。

・石質 A：安山岩 C：チャート D：泥岩 F：フォルンフェルス G：玄武岩 Gy：凝灰岩

H：片岩 J：蛇紋岩 K：黒曜石 Ka：花崗岩 Ke：頁岩 N：粘板岩 R：礫岩 Rs：緑色岩

S：砂岩 Se：閃緑岩 Sm：千枚岩

・石鏃（形状）1：基部が丸く張る 2：基部が直線的 3：基部が僅かに括れる 4：基部が大きく括れる
5：細長く基部が直線的 6：基部が突出する

（残存）1：無欠損 2：基部一部欠損 3：基部欠損 4：先端部欠損 5：左右一方1/2欠損

6：基部・先端部欠損 7：基部一部のみ残存

基部長は、基部が湾入しているものは(－)で、突出しているものは最大幅を有する部位からの長さを(＋)で示す。

・石鏃未製品（形状）A：素材剥片の縁辺の一部に加工を加え形状を整えるもの。素材段階の主要剥離面が多く残されている段階。B：各縁辺からの加工が加えられ、形状が整えられているもの。素材段階の主要剥離面が僅かに残されている段階。平面中央付近に瘤状の素材時の厚みが残る傾向がある。C：切断様剥離面の除去が終了し、基部に対する加工が行われ、石鏃の形状にはほぼ整えられた段階。ほぼ左右対称形になる。D：平面形および厚みに対する成形加工が、完成品にはほぼ重なる程進んでいるが、側縁の微細な調整剥離が途中の段階。

・石鏃素材剥片（形状）A：打面部に最大厚をもつ縦長剥片。B：打面部または中央部に最大厚をもつ横長剥片。剥片端部に最大幅を持つものが多い。C：素材の縁辺に、切断様剥離による急角度剥離面が認められるもの。D：両極打法またはそれに類似する打撃方法で得られた剥片。

・打製石斧（形状）1：大きく胴部の括れるもの 2：両側縁の平行なもの 3：両側縁が刃部に向かって開くもの

（自然面）A：表面に残存するもの B：裏面に残存するもの

（残存）1：無欠損 2：基部一部欠損 3：基部欠損 4：刃部側1/2欠損 5：刃部のみ残存 6：刃部一部残存 7：刃部欠損 8：基部側1/2欠損 9：基部のみ残存 10：

基部・刃部欠損 11：左右一方 1/2 欠損 12：表裏片面欠損

(刃部) 円：円刃 直：直刃 偏：偏刃

・磨製石斧(形状) 1：横断面が円形ないし楕円形を呈するいわゆる乳房状磨製石斧 2：横断面が洞張状を呈するもので両側縁が研磨されたいわゆる定角式磨製石斧 3：小形の定角式磨製石斧

(残存) 打製石斧の分類と同様

・石錐(形状) 1：つまみ部が大きく精巧なつくり 2：つまみ部が小さく精巧なつくり 3：不定形な剥片の一部を加工調整したもの

(残存) 1：無欠損 2：錐部欠損 3：つまみ部欠損 4：つまみ部・錐部欠損

・磨石・凹石(形状) 平面形態 I：円形 II：楕円形 III両端が丸い棒状 IV：方形 V：長方形 VI：三角形 VII：両端が平行な棒状

側面形態 a：盤状 b：楕円形 c：楔形

(残存) a：無欠損 b：1/2 欠損 c：1/4 欠損 d：1/4 以下欠損

(研磨部位) 1：全周 2：片面 3：両面 4：外縁一部 5：外縁全部 6：無し

(敲打部位) 1：片端部 2：両端部 3：片縁 4：両縁 5：片面 6：両面

・スタンプ形石器(形状) a：側面の全周に加工を施すもの b：2側縁に加工を施すもの c：1側縁のみ加工を施すもの d：側縁に加工を施さないもの

(底面整形) 1度の打割で形成された底面に、調整剥離を施して平坦面を形成するもの。

(底側剥離) 底面から側縁部に延びる垂直の小剥離。使用の際に生じる使用痕。

(底面摩耗) 使用による底面の摩耗痕。

9 遺物の分布図をドットで示しているが、種別は以下の通りである。

●：土器 ○：土製品 ▲：石器 △：剥片 □：チップ ■：礫

10 石器の実測図において、▲←→▲は磨面の範囲を、△←→△は敲打の範囲を示す。

11 写真図版の遺物縮尺はすべて任意である。

12 本遺跡の基準点測量は、日本測地系で行っている。ただし、報告書抄録の北緯・東緯は世界測地系で表記している。

目次

序	4	集石土坑・集石	37
例言	5	火葬墓	42
凡例	6	溝跡	44
目次		第3節 遺構外出土遺物	
第I章 発掘調査の概要		1 土器	45
第1節 調査に至る経過	1	2 土製品	53
第2節 発掘調査・整理報告書刊行の組織	2	3 石器	53
第II章		第IV章 分析	
遺跡の立地と環境		第1節 萩山遺跡出土遺物樹種同定	60
第1節 遺跡周辺の地理的概要	4	第2節 萩山遺跡出土黒曜石製遺物の産地推定	64
第2節 遺跡周辺の歴史的環境	6	第3節 萩山遺跡出土人骨	77
第III章 検出された遺構と遺物		第V章 考察	
第1節 遺跡の概要	9	第1節 縄文時代早期出土遺物の検討	81
第2節 遺構とその出土遺物		第2節 萩山遺跡の古代火葬墓について	92
1 住居跡	13	○引用参考文献	
2 土坑	33	○出土遺物観察表	
3 屋外埋甕	36	○報告書抄録	

挿図目次

第1図 埼玉県地形略図	4	第10図 萩山遺跡の判別図3 (Rb分率)	73
第2図 江南台地・比企丘陵地質概略図	5	第11図 萩山遺跡の判別図4 (Rb分率)	73
第3図 周辺遺跡分布図	7	第12図 萩山遺跡における黒曜石利用構成	74
第4図 調査区全体図	10	第13図 萩山遺跡撚糸文土器変遷図(1)	82
第5図 調査地点位置図	12	第14図 萩山遺跡撚糸文土器変遷図(2)	83
第6図 萩山遺跡集石土坑出土炭化材の電子顕微鏡写真	63	第15図 萩山遺跡撚糸文土器変遷図(3)	84
第7図 石材遺物(黒曜石・サヌカイト)の原産地推定	69	第16図 西洞遺跡出土土器	86
第8図 萩山遺跡の判別図1 (Rb分率)	72		
第9図 萩山遺跡の判別図2 (Sr分率)	72		

挿表目次

第1表	分析試料一覧	60	第20表	石錐計測表	113
第2表	萩山遺跡の集石土坑炭化材の樹種同定結果	62	第21表	石核計測表	113
第3表	関東・中部地方における黒曜石原産地の区分	66	第22表	礫器計測表	114
第4表	関東・中部地方における黒曜石の測定値	70	第23表	磨製石斧計測表	118
第5表	判別分析における群間距離	71	第24表	打製石斧計測表	119
第6表	萩山遺跡における産地推定の集計結果	74	第25表	石錘計測表	120
第7表	萩山遺跡出土黒曜石製遺物の産地推定結果	75	第26表	へら状石器計測表	120
第8表	チャート製石鏃関連資料法量比較	88	第27表	有孔礫計測表	120
第9表	スタンプ形石器属性分類表	90	第28表	砥石計測表	120
第10表	埼玉県内の古代火葬墓	93	第29表	磨石計測表	121
第11表	土製円盤観察表	100	第30表	敲石計測表	136
第12表	遺構別出土石器表	102	第31表	棒状礫器計測表	137
第13表	ナイフ形石器計測表	102	第32表	凹石計測表	138
第14表	石鏃計測表	103	第33表	石皿計測表	138
第15表	石鏃未製品計測表	104	第34表	有溝砥石計測表	140
第16表	石鏃素材剥片計測表	104	第35表	チャート原石計測表	140
第17表	スタンプ形石器計測表	105	第36表	石槍計測表	140
第18表	剥片石器計測表	111			
第19表	石匙計測表	113			

第 I 章 発掘調査の概要

第 1 節 調査に至る経過

平成 5 年 10 月、江南町当局より、江南町長期総合振興計画に基づきかねてから計画されていた、町総合文化会館建設計画が示された。事業計画地は、萩山遺跡（県遺跡 No.65-21）内に位置し、現況は、平坦部と南へ傾斜する緩斜面地からなる畑地となっており、かねてより縄文時代早期の遺物が表採されていた。そこで、平成 6 年 1 月 11 日～13 日にかけて試掘調査を実施したところ、縄文時代早期の遺構・遺物が確認された。

試掘調査の結果を踏まえ、町当局との交渉を行ったが、建設計画の変更は困難であるとの判断に至り、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査に先立ち、埋蔵文化財発掘の届出が平成 6 年 1 月 10 日付けで江南町より提出され、埼玉県教育委員会教育長へ送付した。これに対し、平成 6 年 1 月 20 日付け教文第 3-534 号で発掘調査実施について指示通知があった。

発掘調査にかかる事務は、江南町教育委員会から「埋蔵文化財発掘調査の通知」（平成 6 年 1 月 10 日付江教発第 20 号）を埼玉県教育委員会へ通知している。



第2節 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

発掘調査は平成6年3月18日から同年7月22日まで行った。調査面積は約15,500㎡である。3月18日に重機による表土除去作業を開始し、3月24日より作業員による遺構発掘作業と遺構平面図を作成し、7月19日に調査区全景の航空写真撮影を行った。7月22日には、発掘機材等を撤収して現場における作業を終了した。取り上げた埋蔵物は、平成6年7月26日付けで熊谷警察署へ発見届を、平成6年7月26日付けで埼玉県教育委員会へ埋蔵文化財保管証を提出した。

(2) 整理・報告書作成

整理作業は、平成25年9月3日から平成26年3月14日、平成26年9月17日から平成27年3月20日まで実施した。

報告書は、平成25年度にPL・図版編を、平成26年度に本文編の刊行を行った。遺物の洗浄、注記については、平成7年度に実施済みであったため、平成25年度は、遺物の接合、復元作業から行った。その後、遺物の分類を行い、実測作業を開始し、これらと並行して遺構の図面整理を行った。遺物の拓本を採り図版を作成し、併せて遺構等のトレース・図版の作成を行った。そして、遺構の写真整理・遺物写真撮影を行い、写真図版の割付をした。最後に、印刷業者の選定を行い、校正を経て、平成26年3月14日にPL・図版編を刊行した。

平成26年度は、本文編の原稿執筆を行い、印刷業者の選定後、校正を経て平成27年3月14日にPL・図版編を刊行した。

(3) 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 江南町教育委員会

ア 発掘調査

平成5・6年度

事務局 教 育 長	岡部 進
教育次長	茂木 弘行
専門員	大久保光司
専門員	吉田千恵子
主任	新井 端
主任	関谷 隆弘
主任	森田 安彦
主 事	吉野 真伸
発掘担当者	新井 端
	森田 安彦

イ 整理・報告書作成

平成 25 年度

主体者 熊谷市教育委員会

事務局	教育長	野原	晃
	教育次長	鯨井	勝
	社会教育課長	岩上	精純
	社会教育課文化財保護担当副参事	根岸	敏彦
	社会教育課副課長兼文化財保護係長	森田	安彦
	主 幹	吉野	健
	主 査	松田	哲
	主 査	杉浦	朗子
	主 任	蔵持	俊輔
	主 事	山下	祐樹
	主 事	腰塚	博隆
	報告書編集・執筆者	森田	安彦

平成 26 年度

主体者 熊谷市教育委員会

事務局	教育長	野原	晃
	教育次長	米澤	ひろみ
	社会教育課長	岩上	精純
	社会教育課文化財保護担当副参事	森田	安彦
	社会教育課副課長兼文化財保護係長	吉野	健
	主 査	松田	哲
	主 査	杉浦	朗子
	主 査	小島	洋一
	主 任	蔵持	俊輔
	主 任	山下	祐樹
	主 任	腰塚	博隆
	報告書編集・執筆者	森田	安彦

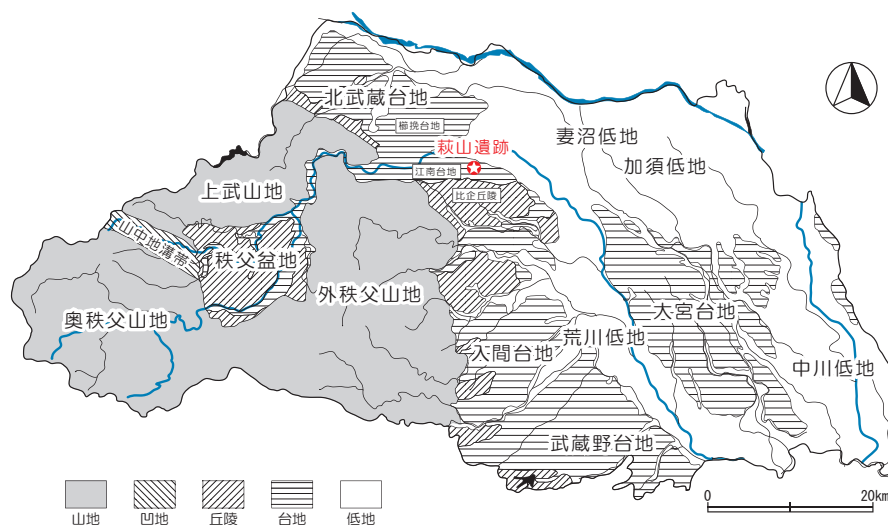
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡周辺の地理的概要

熊谷市は、北側で群馬県との境を利根川が、南側では荒川がそれぞれ西から南東方向に流れており、両河川が最も近接する地域にある。地形的には、市の西側に櫛引台地、荒川を挟んで南側には江南台地、比企丘陵、北側および東側には妻沼低地が広がっている（第1図）。

江南台地は、寄居町金尾付近より熊谷市に至る東西17km、南北3kmにわたる幅狭な洪積台地である。江南台地は、台地の基盤となる荒川中位段丘の発達した第三紀層上に秩父古生層（層厚8～20m）の上、川本粘土層とされる灰白色の粘土層（層厚2～5m）、下部を新期ローム層（層厚1～2m）に、また、上部を南関東の立川ローム層に対比されている大里ローム層と称されているローム層（層厚1～2m）が堆積し、表層に腐植土が載っている。台地の海拔高度は、上流の寄居町木持付近で140m、深谷市上本田付近で80m、台地末端にあたる熊谷市原新田付近で45mとなり、下流方向に次第に低くなっている。台地の北・東側は、荒川およびその沖積地に面し、比高差10～15m程の崖線で画され、崖線下には和田吉野川が流れている。台地上には平地林が発達し、狭小な開析谷や埋没谷が複雑に入り組み、その最奥部および開口部には溜池が築かれており、独特の自然景観を醸し出している。

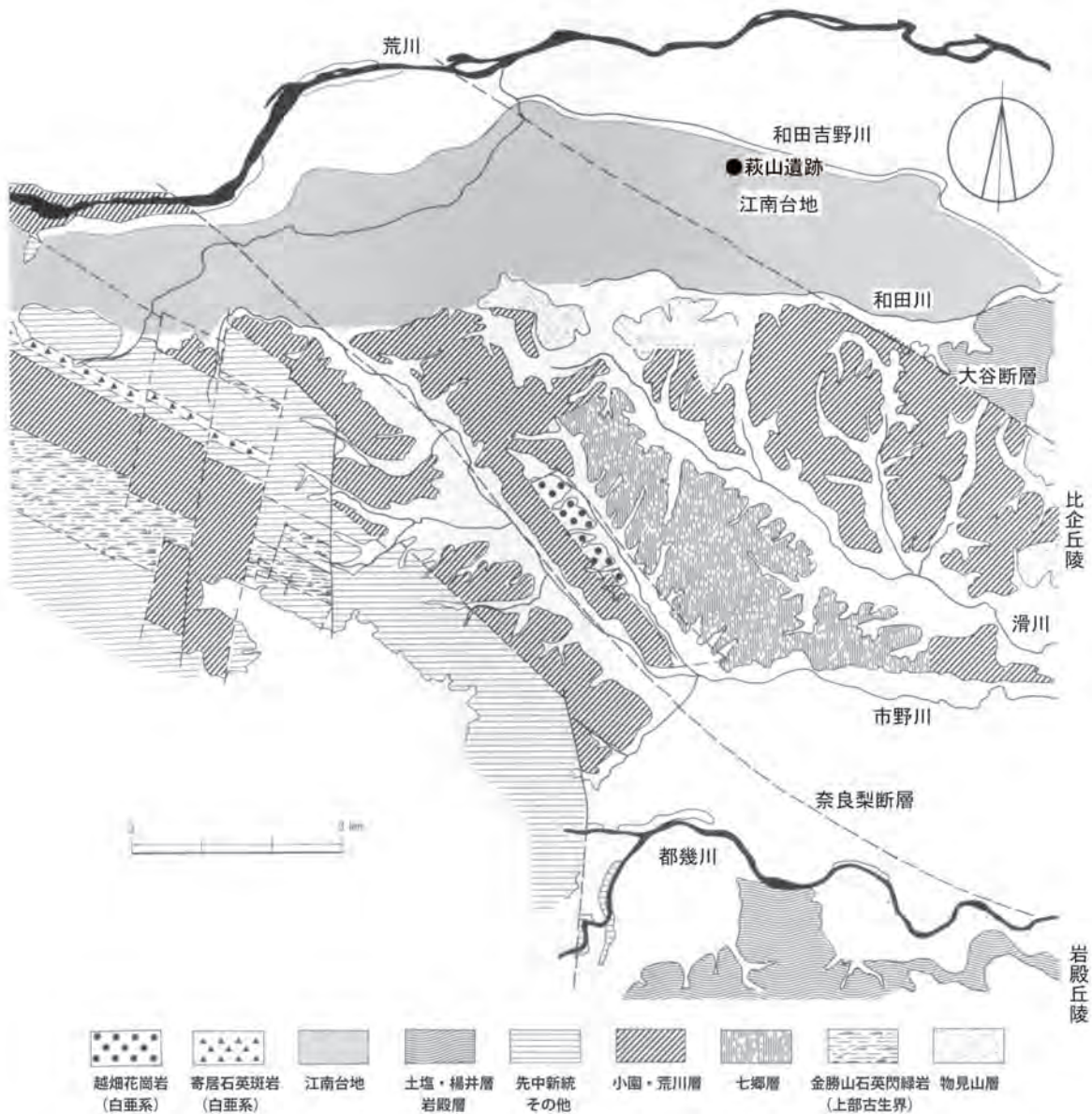
比企丘陵は、外秩父山地から東方に半島状に突き出した丘陵であり、北部は江南台地、南部は東町山台地、東部は吉見丘陵に接している。丘陵内では、高根山（標高105m）、二宮山（標高132m）、大立山（標高113m）など標高100m前後の山が丘陵西半分の地域に分布して、突出した地形をつくっているが、全体的には100m以下の丘陵地形となっている。本丘陵は、地質学的には新生代第三紀層に相当し、礫岩・砂岩・泥岩・凝灰岩等の互層によって構成されている。層序は、下位より、前期中新世に属する七郷層（凝灰岩質で緑色変質が特徴。層厚830m以上）、中期中新世に属する小園層（粗粒砂岩を主体とし、礫岩・泥岩・凝灰岩を伴う。層厚300m）、荒川層（砂岩・泥岩の互層で、下部に礫岩を伴う。



第1図 埼玉県の地形略図

層厚 350m)、土塩層 (砂質泥岩を主体とし、砂岩・凝灰岩を伴う。層厚 300m)、後期中新世に属する楊井層 (礫岩を主体とし砂岩・凝灰岩を伴う。層厚 300m) となり、これらの中新統を不整合に覆って更新世に属する物見山礫層が分布している (比企団体研究グループ：1991)。滑川町福田周辺から産出される通称「福田石」と呼ばれる斜長流紋岩質凝灰岩、熊谷市小江川周辺から産出される通称「小江川石」と呼ばれる白色細粒凝灰岩は、古くは周辺地域に分布する古墳石室石材として利用されている。

今回報告する萩山遺跡は、江南台地上に位置する。台地崖線部から 0.7km 程入った、和田吉野川右岸の標高 60m 前後の南へ傾斜する緩斜面に立地する。遺跡の南側は、和田吉野川へ注ぐ、植木沼下の谷と柴沼下の谷が合流する開析谷が南側に張り出して東流しており、開析されずに残った台地部は、南側へ舌状に張り出す地形となり、集落を営むには好立地となっている。



第2図 江南台地・比企丘陵地質概略図 (比企団体研究グループ=1991より)

第2節 遺跡周辺の歴史的環境

次に、萩山遺跡周辺の江南台地上の縄文時代・平安時代の歴史的環境について概観する（第3図）。

縄文時代の遺跡は、早期前半と中期後半に遺跡が増加し、前期と後期～晩期にかけての遺跡は極端に少ない。遺跡は、主に台地上の開析谷に面して小規模～大規模集落が分布する立地をとる。

草創期の遺跡は、諸ヶ谷遺跡（17・江南町：1995）で有舌尖頭器が、上原遺跡（9・江南町：1995）、船川遺跡（16・江南町：1995）、原谷遺跡（11・熊谷市原谷遺跡調査会：2010）からは多縄文系土器が出土している。深谷市四反歩遺跡（28・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団：1993）からは、尖頭器、矢柄研磨器が、同市白草遺跡（26・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団：1993）、権現堂遺跡（31・1991：川本町教育委員会）からは尖頭器が出土している。原谷遺跡は、本遺跡から植木沼下谷を挟んで対岸200mに位置する遺跡で、江南台地上で最多の多縄文系土器46点が出土している。

早期の遺跡は、撚糸文期に江南台地東部において遺跡数の増加が認められる。本遺跡の他、南方遺跡（14・江南町：1995）、野原宮脇遺跡（5・江南町：1995）、鹿島遺跡（4・立正大学文学部考古学研究室：1988）、船川遺跡において住居跡が確認されている。この他、遺物の散布は、姥ヶ沢遺跡（24・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996）、原谷遺跡、宮下遺跡（12・熊谷市宮下遺跡調査会：2010）、寺内遺跡（20・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996）、上前原遺跡（10・江南町教育委員会：1988）、山神遺跡（21・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996）、熊野遺跡（3・埼玉県遺跡調査会：1974）、野原遺跡（6・江南町：1995）、本田・東台遺跡（7・江南町教育委員会：1988）、塩新田遺跡（18・江南村教育委員会：1982）の各遺跡で確認されている。深谷市四反歩遺跡では、9軒の撚糸文期の住居跡が確認されている。

江南台地東部が、撚糸文期の集落立地に適していた結果と考えられ、該期における北関東における核的な地域の一つとして認識される。

早期後半期になると、江南台地西部にも遺跡が認められるようになる。市内では、北方遺跡（15・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996）で竪穴状遺構・炉穴が、富士山遺跡（23・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996）、丸山遺跡（2・江南町教育委員会：1996）で炉穴が確認されている。この他、遺物の散布が、姥ヶ沢遺跡、寺内遺跡、向原遺跡（8・江南町：1995）、山神遺跡、熊野遺跡、本田・東台遺跡、岩比田遺跡（19・岩比田遺跡調査会：1983）、塩西遺跡で確認されている。周辺の遺跡では、深谷市白草遺跡、四反歩東遺跡（26）、四反歩南遺跡（27）で住居跡・炉穴・土壌が検出されている。深谷市、舟山遺跡（28）、北篠場遺跡（28・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団：1993）、寄居町南大塚遺跡（寄居町遺跡調査会：2001）、甘粕原遺跡（寄居町遺跡調査会：1996）では、遺物の散布が確認されている。

前期の遺跡は、江南台地西部において遺跡が増加し、近接して集落が存在する傾向が認められる。市内では、花積下層式土器が、姥ヶ沢遺跡、富士山遺跡、権現坂遺跡（13・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996）、北方遺跡、丸山遺跡で確認されており、諸磯期の住居跡が富士山遺跡で確認されている。深谷市舟山遺跡からは、花積下層式土器が出土しており、関山期の住居跡が検出されている。寄居町南大塚遺跡は、関山期～黒浜期の大規模集落であり、甘粕原遺跡、むじな塚遺跡（寄居町遺跡調査会：1990・



第3図 周辺遺跡分布図

1. 萩山遺跡
2. 丸山遺跡
3. 熊野遺跡
4. 鹿島遺跡
5. 野原宮脇遺跡
6. 野原遺跡
7. 本田・東台遺跡
8. 向原遺跡
9. 上原遺跡
10. 上前原遺跡
11. 原谷遺跡
12. 宮下遺跡
13. 権現坂遺跡
14. 南方遺跡
15. 北方遺跡
16. 舟川遺跡
17. 諸ヶ谷遺跡
18. 塩新田遺跡
19. 岩比田遺跡
20. 寺内遺跡
21. 山神遺跡
22. 西原遺跡
23. 富士山遺跡
24. 姥ヶ沢遺跡
25. 四反歩東遺跡
26. 白草遺跡
27. 四反歩南遺跡
28. 四反歩遺跡
29. 北篠場遺跡
30. 舟山遺跡
31. 権現堂遺跡
32. 上本田遺跡

1996・1998)、東原遺跡(寄居町遺跡調査会：2004)も同期の集落遺跡である。諸磯期の集落は、寄居町ゴシン遺跡(埼玉県遺跡調査会：1987・寄居町教育委員会：1998)、上郷西遺跡が大規模なものとして挙げられる。

中期の遺跡は、勝坂式期後半から加曾利E式期にかけて最も遺跡数が増加する。勝坂式期の住居跡が、市内では上前原遺跡、寄居町露梨子遺跡(寄居町遺跡調査会：1997・寄居町：2002)・むじな塚遺跡・南大塚遺跡、深谷市上本田遺跡(32・川本町遺跡調査会：2000・2003)・舟山遺跡で確認されており、加曾利E式期へ継続して集落が営まれる。加曾利E式期になると、本市では西原遺跡(22・江南町千代遺跡群発掘調査会：1996)・富士山遺跡、寄居町増善寺遺跡(寄居町教育委員会：1993)・東国寺東遺跡(寄居町教育委員会：1982・1993)・牛無具利遺跡(寄居町遺跡調査会：2006)で住居跡が確認されている。特に加曾利E式期は最も遺跡数が増加し大規模化する時期となり、拠点集落として(増善寺・東国寺東遺跡)―むじな塚遺跡―牛無具利遺跡―上本田遺跡―西原遺跡―上前原遺跡の6遺跡が江南台地縁辺部に2～4km間隔で並ぶ状況となっている。

後期の遺跡は、江南台地上での遺跡数は、堀之内式期を境に著しく減少する。市内では、本遺跡、宮下遺跡で称名寺式期の住居跡、姥ヶ沢遺跡で堀之内式期の住居跡、富士山遺跡で埋甕が確認されている。遺物の散布は、寺内遺跡、北方遺跡、西原遺跡で出土している。

晩期の遺跡は、野原遺跡で、数点の浮線網状文系土器が採取されているのみで、実態は不明となっている。

平安時代の遺跡は、富士山遺跡・権現坂遺跡、宮下遺跡、山神遺跡、鹿島遺跡、西原遺跡等で集落跡が確認されている。

宮下遺跡からは、多量の鉄滓・羽口が出土しており、付近に鍛冶炉が存在していることが推測される。

また、本地域における最も注目される遺跡として、寺内遺跡が挙げられる(江南町：1995・江南町教育委員会：2002)。平安時代の古代寺院跡で、寺院の周囲を外界と区切る大溝が、北辺570m、東辺170m、西辺200m程が確認されている。伽藍内には、基壇をもつ建物跡が4基確認され、伽藍の東側には50軒以上の住居跡が確認された集落をかかえ、南側には参道と推測される道路跡が確認されている。寺院の活動時期は、8世紀後半から10世紀半ばの時期で、最盛期は9世紀後半と捉えられている。

また、この寺内遺跡の西側に隣接する、深谷市百済木遺跡では、8世紀初頭に位置づけられる豪族居宅跡と推測される遺構が確認されている(川本町遺跡調査会：2000)。柵列による区画内に、大型掘立柱建物跡と大型竪穴住居跡が配されており、古代男衾郡の成立を考えるうえで重要な位置を占めるものと考えられている。

第三章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

遺跡は、江南台地上の標高60m前後の南側に傾斜する、台地崖線部より約0.7m程入った地点が調査区となっている。遺跡の南側には、荒川の支流である和田吉野川へ注ぐ、植木沼下谷と、柴沼下の谷が合流する開析谷が東流しており、遺跡の南側で張り出す地形となり、集落を営むには好立地となっている。

遺跡は、約195,000 m²の範囲で広がる、山林と畑が主体となる地区となっており、縄文時代早期燃糸文土器やスタンプ形石器が採取されていた。また、立正大学古代文化研究会によって、旧石器時代に属するチャート製の細石刃や、縄文時代草創期のチャート製有舌尖頭器が採取されていた（立正大学古代文化研究会：1978）。

調査区は、畑として長年耕作されており、地表面より関東ローム層まで20～30 cm程の堆積しか確認されず、掘り込みの浅い早期の住居跡の検出には手間取った。遺構をローム層直上の確認面で平面的に確認することは困難であり、遺構確認の方法としては、遺物が集中する範囲を確認した段階でサブトレンチを設定し、壁の立ち上がり断面を確認し、平面的に堀広げていく方法を採用した。

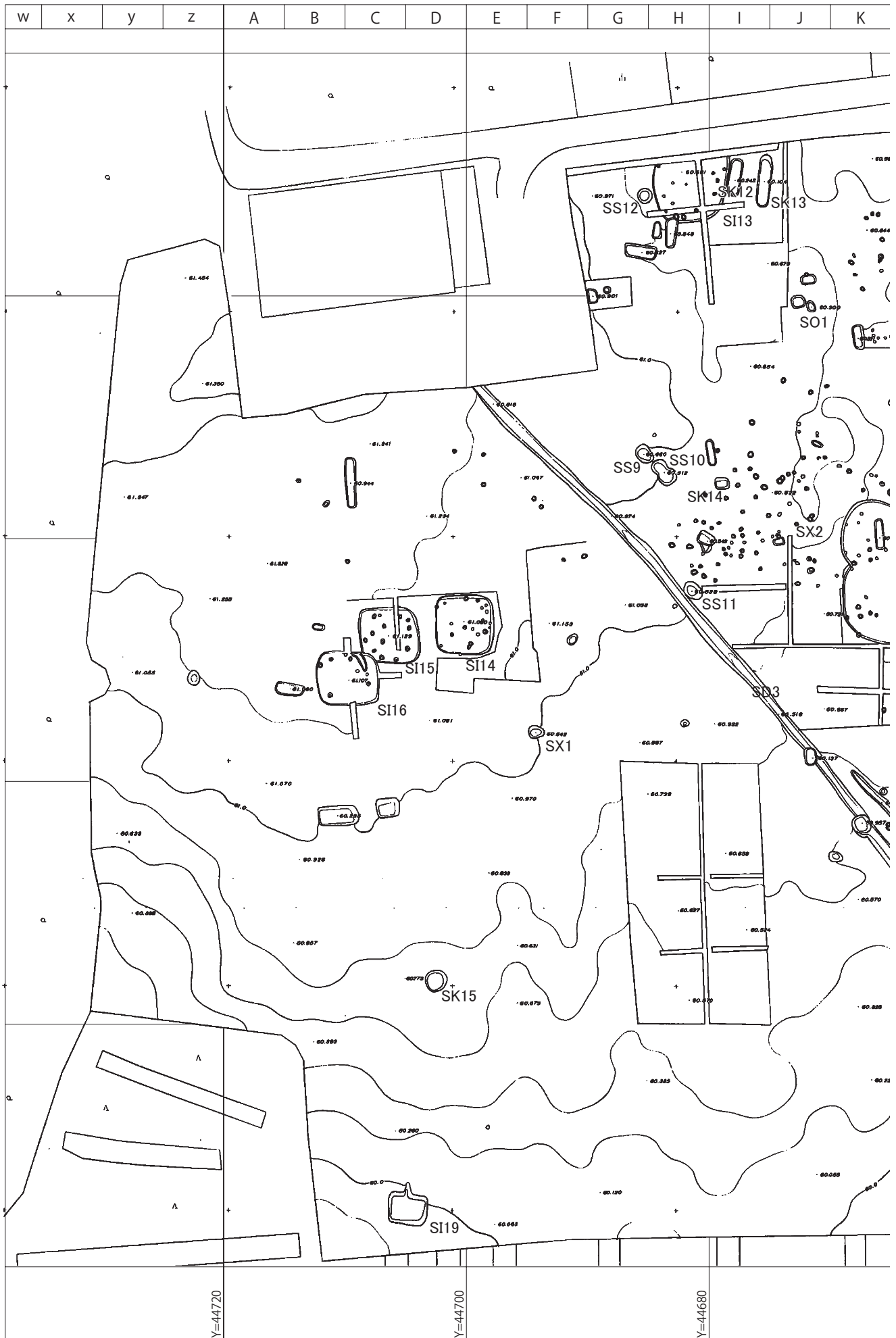
調査区は、国土方眼座標第IX系に基づいて、5mグリットを設定した。グリットは、北西隅を起点とし、X軸にx～Xグリット、Y軸に0～21グリットを設けている（第4図）。

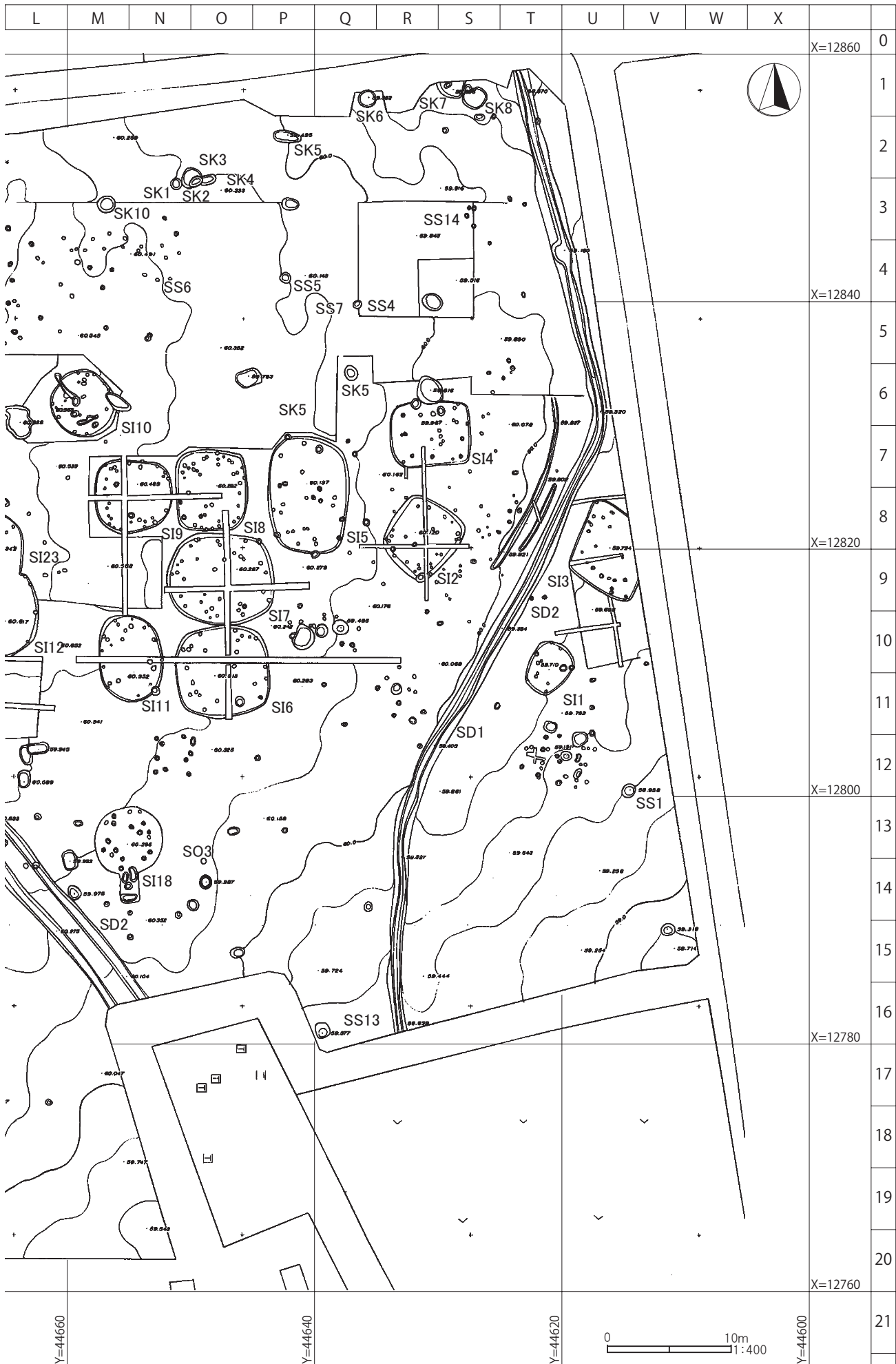
発掘調査は、遺跡南東の約15,500 m²を調査している。調査の結果、縄文時代の遺構としては、早期燃糸文期の住居跡17軒、集石土坑10基・集石4基、後期称名寺式期の住居跡1軒、屋外埋甕3基が確認されている。縄文時代の遺構は、調査区東側に主に分布しており、重複及び同時存在が不可能なほど近接して住居跡が検出されている。集石土坑・集石も、住居の周囲に分布している。住居跡とは判断できなかったが、y・z-4・5グリット、A-12・13グリット、C・D-7～9グリット、O・P-12・13グリット、P・Q-6グリット、R・S-10・11グリットで縄文時代早期の遺物の集中が、V-12グリットで縄文時代後期の遺物の集中する傾向が認められた。

遺物は、遺構の確認された縄文時代早期燃糸文土器・後期称名寺式土器の他、早期の条痕文系土器の子母口式土器と判ノ木山西式土器に類似する土器が出土しており、当地域周辺では出土例が少なく、注目される。

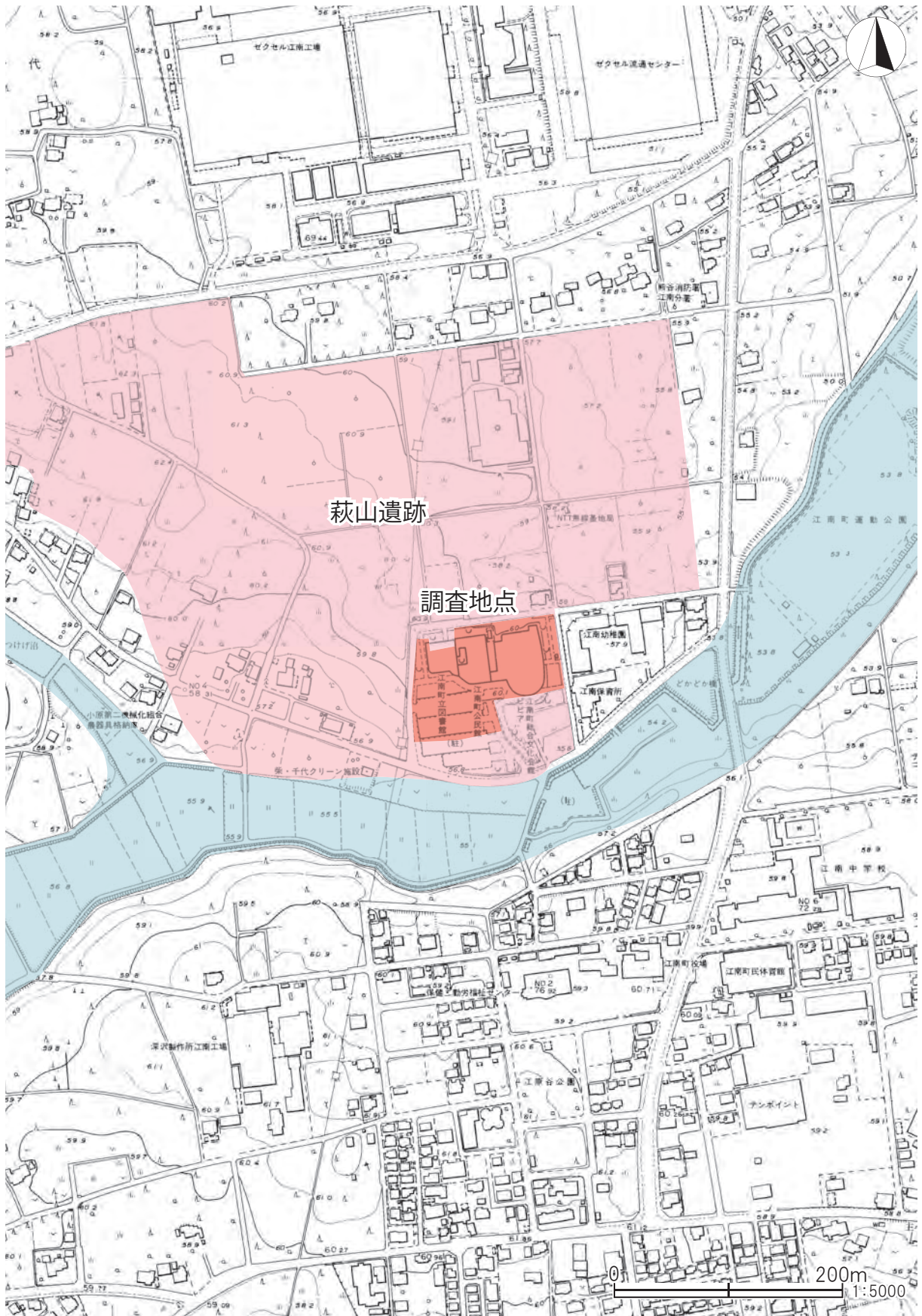
平安時代の遺構としては、住居跡1軒と火葬墓2基が確認されている。住居跡は3.4m×2.5mと小型のものであり、火葬墓との関連や、本遺跡の南側の開析谷を1.6km程遡った場所に位置する、寺内古代寺院との関係が推測される。

また、2013年3月に、本調査区の西側隣接地約10,000 m²の試掘調査を実施したが、遺構は検出されず、縄文時代早期のスタンプ形石器3点と土器片2点が出土したにとどまることから、縄文時代の集落としての中心は本調査区内にあり、東側に若干広がっている可能性が指摘される。





第4図 調査区全体図



第5図 調査地点位置図

第2節 遺構とその出土遺物

1. 住居跡

住居跡は、縄文時代早期撚糸文期の住居跡が17軒、平安時代の住居跡が1軒確認されている。

第1号住居跡（PL1～3・106、図版3・10・12・28・33・37、第11・14・17・18・20・22・29・31・34表）

〔位置〕V-10、U・V-11グリットに位置する。南側に第17号住居跡、北東側に第3号住居跡が位置する。

〔形状〕長軸4.4m、短軸3.3mの不整楕円形を呈し、確認面より最深部で10cm、最浅部で7cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、4層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

〔ピット〕ピットは、壁際を中心に12基確認されている。床面からの深さは、P1-42cm、P2-34cm、P3-30cm、P4-36cm、P5-38cm、P6-46cm、P7-24cm、P8-20cm、P9-30cm、P10-26cm、P11-8cm、P12-72cmを測る。

〔遺物出土状態〕平面的には、ほぼ全面より出土している。器形復元可能な同一個体と判断されるPL2-7の土器片が、中央やや南東寄りにまとまって出土している。

〔遺物〕土器89点、土製円盤2点、スタンプ形石器2点、磨石6点、石鏃2点、有溝砥石1点、礫器1点、棒状礫器2点、剥片石器2点、石錐1点、黒曜石剥片1点、チャート剥片4点が出土している。

PL2-1～5は口縁部破片。1は、撚糸Rを口唇上端に施文し、口唇下に撚糸Rを絡条体圧痕状に強く押付け、連続して胴部に縦位施文している。2は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節RL縄文を、口唇上端と外端に2段施文している。口唇下に、指頭圧痕が加えられ無文帯とし、成形により口唇下の縄文が磨り消されている。胴部には単節RL縄文が横位施文される。3は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節RL縄文を、口唇上端と外端に2段施文している。口端部より、単節RL縄文が斜位に施文されており、縄文施文後に指頭圧痕が等間隔に加えられている。4・5は、口唇部が外反する。口唇部成形後、口端部から単節RL縄文が縦位に施文されている。6は、胴部下半の破片。撚糸Rが縦位施文され、同心円状の圧痕が2条観察される。7は、唯一図上復元できた個体で、口縁がやや外反し、胴部が緩やかに膨らむ器形を呈する。口唇部成形後、口端部から撚糸Rを縦位施文している。底部付近は斜位に施文される。胴部上半に補修孔が1箇所表裏面より穿孔されている。推定口径17.2cm、推定器高18.8cmを測る。

8・9は閃緑岩製のスタンプ形石器。8は、底面の2/3を欠損する。残った底面は摩耗が認められる。9は、底面調整が行われ、底側剥離が僅かに認められる。PL3-10はチャート製の石錐。裏面に主要剥離面を残す。石鏃の未製品の可能性もある。11は、フォルンフェルス製の礫器。横長の長軸方向に刃部を作出している。12は、フォルンフェルス製の剥片石器。片面に自然面を残す縦長剥片を利用している。13～15は、閃緑岩製の磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用しており、15の側縁の一部には、敲打痕が残る。16・17は、棒状礫器。使用痕が観察できない。17は半折しており、敲石であった可能性がある。石質は、16は砂岩、17は緑色岩。18は、砂岩製の有溝砥石。長楕円形を呈していたものと推

測され、1/3 程残存。表裏面に、断面カマボコ状を呈する複条の溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。19・20 は、チャート製の石鏃。19 は、小形の石鏃で、長さ 1.2 cm を測る。20 は、片側基部を欠損する。

PL106-1・2 は、土製円盤。側面全周打ち欠きで、研磨は認められない。

この他図示していないが、黒曜石製チップ 1 点が出土している。蛍光 X 線分析の結果、確率 1.0000 で和田峠系 I (試料 No, HGY2-018) に産地推定されている。

[時期] 出土土器から判断して、縄文時代早期井草 I 式期～夏島式期。

第 2 号住居跡 (PL 4～6・106、図版 3・10・12・28・37、第 11・14・22・29 表)

[位置] S・T-8・9 グリットに位置する。北側に第 4 号住居跡、西側に第 2 号集石土坑、第 5 号住居跡が位置する。

[形状] 長軸 6.0m、短軸 5.5m の不整形を呈し、確認面より最深部で 13 cm、最浅部で 9 cm 程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、12 層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 30 基確認されている。床面からの深さは、P 1-36 cm、P 2-32 cm、P 3-22 cm、P 4-42 cm、P 5-19 cm、P 6-31 cm、P 7-35 cm、P 8-45 cm、P 9-15 cm、P 10-8 cm、P 11-15 cm、P 12-11 cm、P 13-20 cm、P 14-22 cm、P 15-29 cm、P 16-8 cm、P 17-46 cm、P 18-22 cm、P 19-9 cm、P 20-46 cm、P 21-26 cm、P 22-28 cm、P 23-27 cm、P 24-28 cm、P 25-17 cm、P 26-17 cm、P 27-15 cm、P 28-18 cm、P 29-22 cm、P 30-42 cm を測る。

[遺物出土状態] 平面的にはほぼ全面より出土している。土器片はいずれも小片となっており、復元できる個体の出土は無い。

[遺物] 土器 53 点、土製円盤 2 点、磨石 4 点、礫器 2 点、石鏃 1 点、黒曜石剥片 1 点 (和田峠・鷹山系)、黒曜石チップ 3 点 (和田峠系 I : 2 点、和田峠・鷹山系 : 1 点)、チャート剥片 52 点、チャートチップ 24 点が出土している。

PL 6-1～4 は口縁部破片。1 は、口唇部がやや肥厚し、角頭状を呈する。口唇部成形後、口端部より単節 RL 縄文を縦位施文している。2 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。口端部から撚糸 R を縦位施文後、口端部を成形する。3 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、口端部から単節 RL 縄文を短く斜位に施文し、胴部に縦位に施文している。4 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇外端に単節 RL 縄文を斜位に施文し、口端部より縦位施文している。5～9 は胴部破片。5・8・9 は無文土器。6・7 は、撚糸 R が斜位に施文されている。

10～12 は、磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用している。石質は、10 は閃緑岩、11 は緑色岩、12 は砂岩。13 は、フォルンフェルス製の礫器。横長の長軸方向に刃部を作出している。14 は、黒曜石製の石鏃。先端部と片側の基部を欠損する。蛍光 X 線分析により、確率 0.9184 で和田峠系 I (試料 No, HGY1-001) と産地推定されている。

PL106-3・4 は、土製円盤。3 は、側面全周打ち欠きで、4 は、側面全周研磨。

この他図示していないが、黒曜石剥片 1 点、チップ 3 点が出土している。剥片は、確率 1.0000 で和

田峠・鷹山系に、チップは、確率 1.000 で和田峠系 I (試料 No,HGY2-146)、確率 1.0000 で和田峠・鷹山系(試料 No,HGY2-147)、確率 1.000 で和田峠系 I (試料 No,HGY2-148) に産地推定されている。

[時期] 出土土器から判断して、縄文時代早期夏島式期。

第3号住居跡 (P L 7~11・106、図版 4・10・12・28・37、第 11・14・16~18・20~22・29・31・33・35 表)

[位置] V・W—8・9グリットに位置する。東側 1/3 が調査区外にかかり未調査となっている。南西側に第2号埋甕、第1号住居跡が位置する。

[形状] 長軸 3.6m 不整形を呈し、確認面より最深部で 18 cm、最浅部で 12 cm 程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、4層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 23 基確認されている。床面からの深さは、P 1—30 cm、P 2—31 cm、P 3—32 cm、P 4—32 cm、P 5—27 cm、P 6—29 cm、P 7—35 cm、P 8—26 cm、P 9—34 cm、P 10—25 cm、P 11—21 cm、P 12—35 cm、P 13—21 cm、P 14—28 cm、P 15—28 cm、P 16—20 cm、P 17—21 cm、P 18—22 cm、P 19—25 cm、P 20—30 cm、P 21—35 cm、P 22—29 cm、P 23—26 cm を測る。

[遺物出土状態] 平面的に、ほぼ全面的に出土している。中央やや南西側に、剥片のやや集中する箇所が認められる。

[遺物] 土器 128 点、土製円盤 3 点、礫器 4 点、石核 2 点、スタンプ形石器 5 点、磨石 13 点、棒状礫器 1 点、石鏃 2 点、石鏃素材剥片 1 点、石皿 1 点、剥片石器 1 点、石錐 1 点、チャート原石 1 点、黒曜石チップ 2 点、チャート剥片 38 点、チャートチップ 8 点が出土している。

P L 9—1~17 は、口縁部破片。1・2 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に 2 段施文され、口唇下は、幅狭い無文帯となり、口縁部には単節 RL 縄文が斜位に施文されている。3 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端に施文され、口唇下には、胴部の単節 RL 縄文施文後に、指頭圧痕が連続して加えられている。4 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇外端に短く施文され、口唇下より縦位に施文されている。5 は、口唇部がやや肥厚し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇外端に斜位に短く施文され、口唇下には縦位に施文されている。6~8 は、口端部から単節 RL 縄文を縦位に施文した後、口端部を成形している。9 は、口唇部がやや肥厚する。口唇部成形後、単節 RL 縄文が口端部より縦位に施文されている。10 は、口唇部が肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、撚糸 R が口唇下より施文されている。11・12 は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文が口端部より施文されている。13 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇下に絡条体圧痕状に押し付けられた後、連続して胴部に縦位施文している。14~16 は、口唇部下に幅狭い無文部を設け、粗い撚糸 R が縦位に施文されている。17 は無文土器。18~23 は胴部破片。18~21 は、単節 RL 縄文が縦位に施文され、22 は、撚糸 R が縦位に施文されている。23 は、無文土器。24~26 は、楕円押型土器。

27 は、フォルンフェルス製の石錐。縦長剥片を使用し、裏面に主要剥離面を残す。28・29、P L 10—30 は、フォルンフェルス製の礫器。28・29 は、横長の長軸方向に刃部を作出している。30 は石核の

可能性もある。31・32はチャート製の石核。剥離面を打面として、多方向の打面をもつ。33～36はスタンプ形石器。33・35・36は閃緑岩、34は砂岩製。33・36は、側面稜部に細かい敲打痕が観察され、特殊磨石との併用または転用品と推測される。底面整形が行われ、一部に摩耗が観察される。37、P L 11—39・40は、磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用しており、37・39の側縁の一部には、敲打痕が残る。石質は、37・39は閃緑岩、40は砂岩。38は、砂岩製の石皿。両面を使用しており、側縁の一部に敲打痕が残る。熱を受け一部赤化している。41は、フォルンフェルス製の棒状礫器。使用痕は観察されない。42・43は、チャート製の石鏃。42は、先端部と片側基部を欠損する。43は、片側縁に切断様剥離による、急角度剥離面が認められる。

P L 106—5～7は土製円盤。側面全周打ち欠きで、研磨は認められない。

この他図示していないが、チャートの亜円礫が1点出土している。最大長8.0 cm×最大幅6.5 cm×最大厚5.0 cmを測る。粒径6.4 cmを測り、石鏃製作用に荒川中流域より採取してきたものと思われる。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草I式期～夏島式期。

第4号住居跡 (P L 12～15・107、図版5・10・12・28、第11・17・22・24・28・29・33表)

[位置] S・T—6・7グリットに位置する。南側に第2号住居跡が位置する。

[形状] 長軸6.9m、短軸5.6mの方形を呈し、確認面より最深部で16 cm、最浅部で3 cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、ローム粒、炭化粒を多く含む。

[ピット] ピットは、壁際を中心に24基確認されている。床面からの深さは、P 1—32 cm、P 2—34 cm、P 3—32 cm、P 4—43 cm、P 5—31 cm、P 6—28 cm、P 7—34 cm、P 8—16 cm、P 9—24 cm、P 10—30 cm、P 11—29 cm、P 12—34 cm、P 13—29 cm、P 14—21 cm、P 15—27 cm、P 16—29 cm、P 17—27 cm、P 18—43 cm、P 19—33 cm、P 20—39 cm、P 21—26 cm、P 22—11 cm、P 23—32 cm、P 24—34 cmを測る。

[遺物出土状態] 住居跡南東隅からは遺物が出土せず、北西隅にやや遺物の集中する箇所が認められる。

[遺物] 土器291点、土製円盤1点、スタンプ形石器1点、礫器4点、石皿3点、磨石13点、打製石斧1点、砥石19点、チャート剥片15点、チャートチップ2点が出土している。

P L 14—1～9は、口縁部破片。1は、口唇部が肥厚角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、口唇下に縦位に施文されている。2は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節RL縄文が口端部より施文されている。3は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。口唇部成形後、撚糸Rが口端部より斜位に施文されている。4は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節RL縄文が口端部より施文されている。口唇部に、両面より穿孔された補修孔が1箇所確認される。5～7は、口唇部成形後、単節RL縄文が、口端部より縦位に施文されている。8は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。口唇部下に幅狭い無文部を設け、粗い撚糸Rを縦位に施文している。9は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、櫛歯状工具による条線を縦位に施文している。10・11は胴部破片。10は、撚糸Rを斜位に、11は単節RL縄文を縦位に施文している。

12は、閃緑岩製のスタンプ形石器。一部に、底側剥離と底面摩耗が認められる。13～15は、フォル

ンフェルス製の礫器。横長の長軸方向に刃部を作出している。16 は、フォルンフェルス製の打製石斧。片面に自然面を残す。P L15-18~21 は、閃緑岩製の磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用しており、19・20 の側縁の一部には、敲打痕が残る。17・22・23 は、石皿。17 は、使用面の中央と側縁の一部に敲打痕が残る。熱を受け、一部赤化している。石質は、閃緑岩。22 は、側縁の一部に敲打痕が残る。石質は、角閃石安山岩。

P L107-40 は、土製円盤。側面部分研磨。

[時 期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期～夏島式期。

第5号住居跡 (P L16~21・106、図版5・10・12・28・33・37、第11・14・17・18・21・22・28・29・33・36表)

[位 置] Q・R-7・8・9グリットに位置する。西側に第7・8号住居跡、北側に第8号集石土坑、東側に第2号集石土坑、第2号住居跡が位置する。

[形 状] 長軸10.0m、短軸7.2mの不整楕円形を呈し、確認面より最深部で14cm、最浅部で8cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、4層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、不規則に29基確認されている。床面からの深さは、P1-36cm、P2-38cm、P3-40cm、P4-32cm、P5-43cm、P6-29cm、P7-28cm、P8-30cm、P9-32cm、P10-30cm、P11-36cm、P12-34cm、P13-24cm、P14-30cm、P15-23cm、P16-28cm、P17-25cm、P18-30cm、P19-43cm、P20-29cm、P21-22cm、P22-38cm、P23-28cm、P24-50cm、P25-12cm、P26-8cm、P27-30cm、P28-30cm、P29-42cmを測る。

[遺物出土状態] 住居跡中央にやや遺物の集中する箇所が認められるが、全体的に散漫な出土状態を示す。土器は復元可能な個体は認められず、いずれも小片となって出土している。

[遺 物] 土器282点、土製円盤2点、スタンプ形石器8点、礫器9点、剥片石器5点、磨石31点、砥石2点、石鏃1点、石槍1点、石皿3点、石核1点、黒曜石剥片3点、黒曜石チップ5点、チャート剥片20点が出土している。

P L18-1~27・29 は、口縁部破片。1は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇上端と外端に2段施文した後、重複部に撚糸側面圧痕を1条施文している。口縁部には、単節 RL 縄文が横位に施文されている。2・3は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文が口端部より短く施文され、若干の無文部を設け胴部に縦位に施文されている。4は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇外端に施文され、若干の無文部を設けて、口唇下に短く縦位に、胴部には斜位に施文している。5・6は、口唇部が角頭状を呈する。口唇部成形後、口唇部下に撚糸 R を絡条体圧痕状に強く押付け、連続して胴部に縦位に施文している。7は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文を口端部より短く、胴部に縦位に施文している。8・9・11~13・16 は、口唇部成形後、単節 RL 縄文を、口端部より縦位に施文している。10・14 は、口唇部がやや肥厚し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、撚糸 R を縦位に施文している。15 は、口唇部が外反する。口唇部成形後、単節 RL 縄文を口端部より短く、胴部に縦位に施文している。

17は、口唇部がやや外反する。口唇部成形後、撚糸 R を口端部より縦位に施文している。18は、口唇部がやや肥厚し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を口端部より施文後、口端部を成形している。19は、口唇部成形後、緩い撚糸 R を斜位に施文している。20は、口唇部がやや肥厚し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を施文後、口端部を成形している。21は、口唇部下に無文部を設け、胴部に撚糸 R を斜位に施文している。22は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。口唇下より、櫛歯状工具による条線を斜位に施文している。23は、口唇部下に若干の無文部を設け、胴部に撚糸 R を斜位に施文している。24・26・29は、口唇部下に無文部を設け、胴部に緩い撚糸 R を縦位に施文している。25は、口唇部が角頭状を呈する。口唇部成形後、撚糸 R を口端下に縦位に施文している。27は、口唇部が角頭状を呈する無文土器。28は胴部破片。撚糸 R が縦位に施文されている。30は、無文の底部破片。

PL19-31~36・PL20-41・43は、スタンプ形石器。31は、最大長 6.6 cmを測る、砂岩製の小形品。底側剥離が認められる。32は、閃緑岩製で、1側縁に加工が認められる。底面摩耗。33は砂岩製で、被熱が認められる。34は、底面整形、底側剥離が施され、一部底部摩耗が観察される。閃緑岩製。35は、底側剥離が顕著に観察される。石質はフォルンフェルス。36は、上端部を欠損する。底面整形が施され、一部に底側剥離と底面摩耗が観察される。閃緑岩製。41は、1側縁に加工を施す。底面摩耗が観察される。石質は閃緑岩。43は、底面整形が施され、一部に底面剥離が認められる。砂岩製で、被熱が認められる。PL19-37・38、PL20-39・40・42・44・45は礫器。38・39は、横長の長軸方向に刃部を作出している。40は、縦長の短軸方向に刃部を作出している。42は、周縁部からの調整剥離で石斧状に成形されている。刃角が大きく石斧には分類できないと判断した。45は、石核の可能性がある。石質は千枚岩。46は、チャート製の石核。上面に自然面を残し、打面を移動し、剥片を剥離している。47は、頁岩製の剥片石器。横長剥片を利用した扇状削器で、下端の最大幅の部分が刃部。裏面に自然面を残す。PL21-48~52・54・56は磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用しており、49・54・56の側縁の一部には、敲打痕が残る。石質は、49~52・54・56は閃緑岩、48は砂岩。53は、凝灰岩製の砥石。表裏面および周縁部を研面として利用しており、擦痕状の細かい使用痕が残る。55は、頁岩製の石鏃。57は、安山岩製の石槍。表裏面に周縁部からの調整剥離が施されている。先端部を欠損する。

PL106-8・9は、土製円盤。8は、一部欠損するが、残存部側面全面打ち欠き。9の側面は、部分的に研磨されている。

この他図示していないが、黒曜石剥片 3 点、チップ 5 点が出土している。蛍光 X 線分析の結果、剥片は、確率 1.0000 で西霧ヶ峰系（試料 No,HGY2-043）、確率 0.9398 で和田峠Ⅱ・鷹山系（試料 No,HGY2-081）、確率 1.0000 で和田峠・鷹山系（試料 No,HGY2-082）に、チップは、確率 1.0000 で和田峠・鷹山系（試料 No,HGY2-037）に産地推定されている。

【時期】出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅰ式期～稻荷台式期。

第 6 号住居跡（PL22~26、106・107、図版 5・10・12・28・37、第 11・14・16・17・22・29 表）

【位置】O・P・Q-10・11 グリッドに位置する。西側に第 11 号住居跡、北側に第 7 号住居跡が位置する。第 7 号住居跡とは、プランが接している。

【形状】住居跡西側の壁を検出することが出来なかったが、長軸 8.0m、短軸 8.0mの隅丸方系を呈す

るものと判断される。確認面より最深部で 14 cm、最浅部で 10 cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、5層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 24 基確認されている。床面からの深さは、P 1—36 cm、P 2—42 cm、P 3—43 cm、P 4—43 cm、P 5—43 cm、P 6—34 cm、P 7—30 cm、P 8—32 cm、P 9—32 cm、P 10—32 cm、P 11—35 cm、P 12—29 cm、P 13—38 cm、P 14—33 cm、P 15—26 cm、P 16—36 cm、P 17—28 cm、P 18—51 cm、P 19—21 cm、P 20—33 cm、P 21—23 cm、P 22—18 cm、P 23—22 cm、P 24—25 cmを測る。

[遺物出土状態] 住居跡中央付近に、遺物の希薄な箇所が認められ、集中箇所は認められない。土器は、いずれも小破片となっており、器形の復元できるような個体は出土していない。

[遺物] 土器 157 点、土製円盤 5 点、礫器 7 点、スタンプ形石器 7 点、磨石 13 点、石鏃 1 点、石鏃素材剥片 1 点、石皿 1 点、黒曜石剥片 3 点、黒曜石チップ 2 点、チャート剥片 71 点、チャートチップ 20 点が出土している。

P L 24—1～13 は口縁部破片。1 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端と外端に 2 段施文されている。口唇下には、単節 RL 縄文を斜位に施文した後、成形のための指頭圧痕が連続して観察される。2 は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端と外端に 2 段施文されている。口唇下には、単節 RL 縄文を縦位に施文した後、成形のための指頭圧痕が連続して観察される。3 は、口唇部が屈曲して外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文が口端部より斜位に施文した後、口端部を成形し無文帯としている。4 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端に施文され、口唇部に若干の無文部を設けて、胴部に縦位に施文している。5 は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端と外端に 2 段施文され、口唇下は無文となっている。6 は、口唇部がやや外反する。口唇部成形後、撚糸 R が口唇下に斜位に施文されている。7 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇上端に、浅い 1 条の沈線が施文され、口唇外端の肥厚部に単節 RL 縄文が斜位に施文されている。8 は、口唇部が肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇外端の肥厚部と、口唇下に斜位に施文されている。9・11・13 は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文が縦位に施文されている。10 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端に斜位に、口端部より縦位に施文されている。12 は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。口唇部成形後、口端部より櫛歯状工具により条線が、縦位に施文されている。14～19 は胴部下半の破片。14・17～20 は単節 RL 縄文が縦位に、15・16 は、撚糸 R が縦位に施文されている。14 には、同心円状の圧痕が観察される。

P L 24—20～23、P L 25—24 は、フォルンフェルス製の礫器。20・23 は、縦長の短軸方向に刃部を作出している。21・24 は、横長の長軸方向に刃部を作出している。22 は、周縁部からの調整剥離で石斧状に成形されている。刃角が大きく、石斧に分類できないと判断した。石質は、フォルンフェルス。25～31 は、スタンプ形石器。25 は、最大長 8.3 cm のやや小形品。底側剥離が顕著に認められ、一部に底面摩耗が認められる。石質はフォルンフェルス。27 は、1 側縁に加工を施す。底面整形を施し、一部に底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。28 は、上端を打ち欠いている。底面に一部摩耗が認められ、

被熱を受ける。石質は閃緑岩。29は、底面整形が行われ、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。30は、1側縁に加工が施され、底面整形が施されている。石質は閃緑岩。31は、上端を欠損する。一部に、底面剥離と底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。P L 26-32~35は、磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用しており、35の1側縁には敲打痕が残ることから、特殊磨石との併用。石質は、33・35は閃緑岩、32・34は砂岩。36は、黒曜石製の石鏃。片側の基部を欠損する。蛍光X線分析により、確率1.0000で西霧ヶ峰系と産地推定されている（試料No,HGY1-002）。

P L 106-10・11、P L 107-41~43は土製円盤。10は、残存部側面全周研磨、11・41は、残存部側面全周打ち欠き、42は、側面全周打ち欠き、43の側面は、部分的に研磨されている。

この他図示していないが、黒曜石剥片3点、黒曜石チップ2点が出土している。蛍光X線分析の結果、剥片は、確率0.9986で和田峠系I（試料No,HGY2-092）、確率1.0000で和田峠・鷹山系（試料No,HGY2-093）、確率1.0000で和田峠・鷹山系（試料No,HGY2-094）に、チップは、確率1.0000で和田峠・鷹山系（試料No,HGY2-140）、確率0.9604で和田峠II・鷹山系（試料No,HGY2-141）に産地推定されている。

〔時期〕出土土器より判断して、縄文時代早期井草I式期～夏島式期。

第7号住居跡（P L 27~33・106・107、図版5・10・11・12・28・37、第11・14~18・20~22・24・29~31・33・34表）

〔位置〕O・P・Q—8・9・10グリットに位置する。北側に第8号住居跡、南側に第6号住居跡が接して位置している。

〔形状〕長軸9.0m、短軸7.7mの楕円形を呈し、確認面より最深部で15cm、最浅部で8cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、2層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

〔ピット〕ピットは、壁際を中心に39基確認されている。床面からの深さは、P 1—34cm、P 2—39cm、P 3—36cm、P 4—30cm、P 5—38cm、P 6—35cm、P 7—33cm、P 8—36cm、P 9—22cm、P 10—27cm、P 11—27cm、P 12—29cm、P 13—36cm、P 14—34cm、P 15—30cm、P 16—29cm、P 17—34cm、P 18—28cm、P 19—29cm、P 20—34cm、P 21—32cm、P 22—40cm、P 23—40cm、P 24—39cm、P 25—40cm、P 26—34cm、P 27—36cm、P 28—38cm、P 29—45cm、P 30—11cm、P 31—33cm、P 32—35cm、P 33—44cm、P 34—47cm、P 35—46cm、P 36—35cm、P 37—38cm、P 38—38cm、P 39—5cmを測る。

〔遺物出土状態〕遺物は、平面的には集中することなく、住居のほぼ全面より出土している。P L 30-21の土器が、唯一器形復元できる程度に出土しているが、分布は集中しない。

〔遺物〕土器212点、土製円盤5点、スタンプ形石器8点、礫器2点、打製石斧1点、剥片石器4点、有溝砥石1点、磨石25点、石鏃2点、石鏃未成品5点、石鏃素材剥片2点、石皿5点、敲打石1点、棒状礫器2点、石核1点、石錐1点、黒曜石剥片1点、黒曜石チップ1点、チャート剥片83点、チャートチップ6点が出土している。

P L 29-1~14は口縁部片。1は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。細かい単節RL縄文が、

口唇上端と外端に2段施文され、胴部に縦位に施文されている。口唇下には、縄文施文後に、指頭圧痕が連続して観察される。2は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端から外端にかけて施文され、口唇下に縦位に施文されている。口唇下には、丸頭状口唇を成形するため、横方向に爪を押し引いたと思われる沈線状の痕跡が観察される。3は、口唇部が外反し、やや肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇外端に施文され、口唇下に若干の無文部を設け、胴部に斜位に施文されている。4は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。細い単節 RL 縄文が、口唇上端に一部施文され、口唇下に縦位に施文されている。口唇下には、口唇部成形のための指頭状圧痕が連続して観察される。5は、口唇部が外反する。口唇下に単節 RL 縄文を縦位に施文した後、爪形の残る指頭圧痕を斜位に連続して施文している。6は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部は無文帯となり、胴部に単節 RL 縄文を縦位に施文している。7は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後口端部より縦位施文している。口唇の肥厚部で短く施文し、若干の無文部を設け胴部に施文している。両方向より穿孔された補修孔が1箇所確認される。8・11・13は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文が縦位に施文されている。9は、口唇部が角頭状を呈する、無文土器。10は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R が口唇下に、絡条体圧痕状に強く施文されている。12は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。口唇下に、浅い指頭圧痕が観察される無文土器。14は、口唇部が外反する。口唇部成形後、口端部より撚糸 R が斜位に施文されている。15は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文を縦位に施文している。推定口径 22.4 cmを測る。16は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇下に撚糸 R を縦位に施文した後、口唇下に指頭圧痕で成形を加え、撚糸文を磨り消している。推定口径 22.6 cmを測る。17は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇上端と外端に2段施文し、若干の無文部を設け、胴部に縦位に施文している。推定口径 24.8 cmを測る。18は、口唇部がやや外反する。撚糸 R を口端部より斜位に施文した後、口唇部を成形している。推定口径 27.4 cmを測る。19は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、口端部より撚糸 R がやや斜位に施文されている。推定口径 25.2 cmを測る。20は、口唇部が肥厚角頭状を呈する。撚糸 R が、口唇下より施文した後、口唇部を成形している。推定口径 31.2 cmを測る。21は、口唇部が肥厚丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文を縦位に施文している。口唇部は短く施文している。推定口径 31.8 cmを測る。

PL 31-22~28 はスタンプ形石器。底面整形が施され、一部底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。24 は、2側縁に加工を施した後、敲打した痕跡が認められる。石質は砂岩。25 は、砂岩製で、底面整形が施されている。26 は、底面整形が施され、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。PL 32-29 はフォルンフェルス製の剥片石器。横長剥片を利用し、下端のエッジを未調整のまま使用する。30 は、フォルンフェルス製の礫器。横長の長軸方向に刃部を作出している。31 は、チャート製の石錐。横長剥片を使用し、表面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。32 は、撥形を呈する、フォルンフェルス製の打製石斧。表面に一部自然面を残す。33 は、砂岩製の剥片石器。縦長剥片を利用している。34 は、チャート製の石核。剥離面を打面として、多方向の打面をもつ。盤状を呈する。35 は、砂岩製の有溝砥石。長楕円形を呈していたものと推測され、1/3 程残存。表面に断面カマボコ形を呈する複条の溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。36・37 は、チャート製の石鏃。完形

品。38・39は、チャート製の石鏃素材剥片。38は、1側縁に切断様剥離による急角度剥離面が認められる。40・41はチャート製の石鏃未製品。40は、各縁辺からの加工が加えられ、形状が整えられている。基部の加工が行われておらず、中央付近に素材時の厚みが残ることから、未製品と判断した。41は、1側縁に素材剥片作成時の切断様剥離面と素材段階の主要剥離面が残り、縁辺からの加工が一部加えられている。38・39は、チャート製の石鏃素材剥片。38は、1縁辺に切断様剥離による急角度剥離面が認められる。縁辺からの加工が加えられていないことから、石鏃素材剥片と判断した。39は、打面部に最大厚を持つ横長剥片。剥片の打面幅が広く、一方の端部が先鋭となっている。表面に自然面を残す。縁辺からの加工は行われていないことから、石鏃素材剥片と判断した。

PL32-42~45、PL33-46・48・50・52は磨石。やや扁平な円礫をそのまま使用しており。43・45・46・48・50・52の側縁の一部には、敲打痕が残る。石質は、46は砂岩で、それ以外は閃緑岩。47は、砂岩製の敲石。端部に敲打痕が観察される。49・51は、棒状礫器。使用痕が観察されないが、半折しており、敲石の可能性もある。53は、閃緑岩製の石皿。両面を使用している。

PL106-12~15、PL107-44は、土製円盤。12は、残存部側面全周研磨、13・15は、側面全周打ち欠き、14は側面部分研磨、44は残存部側面全周打ち欠き。

この他図示していないが、黒曜石製剥片1点、チップ1点が出土している。蛍光X線分析の結果、剥片は確率1.0000で和田峠・鷹山系(試料No,HGY2-004)、剥片は、確率0.9117で和田峠系Iに産地推定されている。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期～夏島式期。

第8号住居跡 (PL34~37・107、図版5・11・12・29・33、第11・17・18・22・29表)

[位置] O・P・Q-7・8グリッドに位置する。西側に第9号住居跡、南側に第7号住居跡が接して位置している。

[形状] 長軸7.0m、短軸6.3mの方形を呈し、確認面より最深部で15cm、最浅部で11cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、ローム粒、炭化粒を含む。

[ピット] ピットは、壁際を中心に41基確認されている。床面からの深さは、P1-30cm、P2-32cm、P3-39cm、P4-32cm、P5-37cm、P6-31cm、P7-28cm、P8-31cm、P9-31cm、P10-34cm、P11-41cm、P12-31cm、P13-32cm、P14-29cm、P15-29cm、P16-35cm、P17-28cm、P18-29cm、P19-32cm、P20-32cm、P21-35cm、P22-30cm、P23-47cm、P24-40cm、P25-44cm、P26-30cm、P27-33cm、P28-35cm、P29-42cm、P30-38cm、P31-32cm、P32-45cm、P33-40cm、P34-35cm、P35-56cm、P36-76cm、P37-35cm、P38-34cm、P39-33cm、P40-34cm、P41-35cmを測る。

[遺物出土状態] 住居内ほぼ全面より、集中することなくやや散漫に出土している。土器は、復元できる個体の出土は無く、いずれも小片となって出土している。

[遺物] 土器87点、土製円盤2点、スタンプ形石器3点、礫器4点、磨石11点、剥片石器2点、黒曜石剥片5点、チャート剥片4点、チャートチップ2点が出土している。

PL36-1~9は、口縁部破片。1は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節RL縄文を、口唇上端と外端に2段施文されている。口唇下に指頭圧痕が加えられ、成形により口唇下の斜縄文が磨り消されている。2は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。単節RL縄文が、口唇上端と外端に2段施文されている。口唇下に爪形の残る指頭圧痕が連続的に加えられ、胴部の縦位縄文を磨り消している。3は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節RL縄文が、口唇上端に2段、外端に1段施文されている。口唇下には、単節RL縄文が斜位に3cm程の幅で施文され、以下胴部は縦位施文されている。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が加えられ、斜縄文を磨り消している。4は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、口端部より縦位に施文されている。5は、口唇部が外反し、やや角頭状を呈する。口唇部成形後、口唇下に細い丸棒状工具による刺突列を施文している。胴部には撚糸Rがやや斜位に施文されている。6は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。口唇部成形後、撚糸Rが口唇下に絡条体圧痕状に押圧施文され、胴部はやや斜位に施文されている。7は、口唇部が外反する小形土器。口唇部成形後、撚糸Rが口唇下より斜位に施文されている。推定口径9.3cmを測る。8・9は、無文土器。10~15は、胴部破片。10~14は、撚糸Rが施文されている。16は、無文土器。

PL36-16・17、PL37-18は、スタンプ形石器。16は、底面整形が施され、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。17・18は、一部に底側剥離と底面摩耗が、側面上部には敲打痕が認められる。石質は砂岩。19はフォルンフェルス製の剥片石器。横長剥片を利用し、両面に自然面が一部残る。20は、フォルンフェルス製の剥片石器。片面に自然面を残す。21~23は、フォルンフェルス製の礫器。23は、縦長の短軸方向に刃部を作出している。24~26は、閃緑岩製の磨石。24・25は、側縁の一部に敲打痕が残る。

PL107-46・47は、土製円盤。46は、側面に一部打ち欠き部を残す他は研磨、47は側面全周研磨。

この他図示していないが、黒曜石製剥片5点が出土している。蛍光X線分析の結果、確率0.9371で和田峠系I(試料1No,HGY2-053)、確率1.0000で和田峠・鷹山系(試料No,HGY02-054)、確率1.0000で和田峠・鷹山系(試料No,HGY2-055)、確率1.0000で和田峠・鷹山系(試料No,HGY2-132)に産地推定されている。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草I式期~夏島式期。

第9号住居跡 (PL38~42、図版5・11・29、第17・18・22・24・28・29・33・37表)

[位置] N・O-7・8グリットに位置する。東側に第8号住居跡が接して位置している。

[形状] 長軸6.9m、短軸6.2mの不整円形を呈し、確認面より最深部で14cm、最浅部で5cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、2層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に29基確認されている。床面からの深さは、P1-35cm、P2-48cm、P3-35cm、P4-40cm、P5-37cm、P6-38cm、P7-36cm、P8-28cm、P9-30cm、P10-45cm、P11-29cm、P12-36cm、P13-30cm、P14-34cm、P15-30cm、P16-35cm、P17-36cm、P18-30cm、P19-38cm、P20-29cm、P21-41cm、P22-43cm、P23-40cm、P24-38cm、P25-32cm、P26-34cm、P27-42cm、P28-41cm、P29-48cmを測る。

[遺物出土状態] 住居内ほぼ全面より、集中することなくやや散漫に出土している。

[遺物] 土器 80 点、スタンプ形石器 8 点、礫器 7 点、磨石 14 点、石皿 2 点、剥片石器 3 点、搔器 1 点、打製石斧 2 点、砥石 1 点、黒曜石剥片 3 点、黒曜石チップ 3 点、チャート剥片 3 点が出土している。PL40-1~4、6・7 は口縁部破片。1 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と口端部に 2 段施文されている。口唇下には単節 RL 縄文が斜位に施文した後、指頭圧痕が連続して施文されている。2 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇上端に施文され、口唇下に縦位に施文している。口唇下には、縄文施文後、指頭圧痕を連続して施文している。3 は、薄手の小形土器。口唇部成形後、細かい撚糸 R を縦位に施文している。4 は、口唇部成形後、撚糸 R が口端部付近より縦位に施文されている。5 は、唯一器形の復元できたもので、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇部成形後、単節 RL 縄文が口端部より縦位に施文されている。口端部には短く施文している。推定口径 15.8 cm を測る。6 は、口唇部がやや外反する。撚糸 R を、口端部付近より縦位に施文した後、口唇部を成形している。7 は、無文のミニチュア土器。推定口径 5.8 cm を測る。8~12 は、胴部破片。8・9 は単節 RL 縄文、10~12 は撚糸 R を縦位に施文している。13 は、底部付近の破片。撚糸 R が施文されている。

PL40-14・16・17、PL41-18~22 は、スタンプ形石器。14 は、底面整形が施され、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。16 は、先端部に敲打痕、側面に磨面が確認される。底面整形が施され、底面の一部に摩耗が観察される。石質は閃緑岩。19 は、周囲から底側剥離が施され、一部に底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。20・21 は、底側剥離が施され、一部に底面摩耗が認められる。石質は砂岩。23・24 は、フォルンフェルス製の剥片石器。24 は、横長剥片を利用しており、エッジを未調整のまま使用する。片面に自然面を残す。25 は、チャート製の剥片石器。エッジを未調整のまま使用する。表面に自然面を残す。PL40-15、PL41-26、PL42-27・28 は、フォルンフェルス製の礫器。15 は、縦長の短軸方向に刃部を作出している。26・28 は、横長の長軸方向に刃部を作出している。27 は、石核の可能性もある。29~33 は、磨石。石質は、31 は砂岩で、その他は閃緑岩。34 は、閃緑岩製の石皿。両面を使用し、側縁の一部に敲打痕が残る。

この他図示していないが、黒曜石製剥片 3 点、黒曜石製チップ 3 点が出土している。蛍光 X 線分析の結果、確率 1.0000 で和田峠・鷹山系（試料 No,HGY2-041）、確率 1.0000 で和田峠系 I（試料 No,HGY2-061）、確率 1.0000 で和田峠・鷹山系（試料 No,HGY2-062）、確率 0.9560 で和田峠 II・鷹山系（試料 No,HGY2-063）に産地推定されている。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草 I 式期~夏島式期。

第 10 号住居跡（PL43~44・106、図版 6・11・12・29、第 11・17・21・22・29 表）

[位置] M・N-5・6・7 グリッドに位置する。南東側に第 9 号住居跡が位置している。

[形状] 長軸 6.3m、短軸 6.3m の楕円形を呈し、確認面より最深部で 20 cm、最浅部で 15 cm 程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、ローム粒、炭化粒を含む。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 21 基確認されている。

[遺物出土状態] 住居内ほぼ全面より、集中することなくやや散漫に出土している。

[遺物] 土器 72 点、土製円盤 2 点、スタンプ形石器 1 点、石核 1 点、礫器 1 点、磨石 5 点、黒曜石剥片 2 点、チャート剥片 4 点が出土している。

PL44-1～3・7は、口縁部破片。1は、撚糸 R を、口端部に斜位に施文し、口唇下に絡条体圧痕状に強く施文し、胴部に縦位に施文している。2は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。撚糸 R が、口唇部上端に横位に施文され、口端部より斜位に施文されている。3は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。単節縄文 RL が、口端部付近より施文した後、口唇部を成形している。4～6は、胴部破片。単節 RL 縄文が施文されている。7は、推定口径 12.7 cmを測る、無文土器。

PL44-8は、砂岩製のスタンプ形石器。周囲より底面整形が施され、中央部に底面摩耗が認められる。9は、フォルンフェルス製の石核。上面に自然面を残し、打面を移動し剥片を剥離している。10は、フォルンフェルス製の礫器。縦長の短軸方向に刃部を作出している。11は、閃緑岩製の磨石。

PL106-16・17は土製円盤。側面全周打ち欠き。

この他図示していないが、黒曜石製剥片 2 点が出土している。蛍光X線分析の結果、確率 1.0000 で和田峠・鷹山系（試料 No,HGY2-078）、確率 0.9993 で和田峠系 I（試料 No,HGY2-079）に産地推定されている。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期～夏島式期。

第 11 号住居跡（PL45～48・106、図版 6・11・12・29・34・37、第 11・14・17・22・24・29 表）

[位置] N・O—10・11 グリットに位置する。東側に第 6 号住居跡が位置している。

[形状] 長軸 7.5m、短軸 5.6mの楕円形を呈し、確認面より最深部で 13 cm、最浅部で 8 cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、3層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 25 基確認されている。床面からの深さは、P1—30 cm、P2—30 cm、P3—28 cm、P4—35 cm、P5—42 cm、P6—34 cm、P7—28 cm、P8—38 cm、P9—28 cm、P10—32 cm、P11—26 cm、P12—32 cm、P13—17 cm、P14—43 cm、P15—38 cm、P16—30 cm、P17—32 cm、P18—26 cm、P19—36 cm、P20—24 cm、P21—31 cm、P22—22 cm、P23—32 cm、P24—60 cm、P25—38 cmを測る。

[遺物出土状態] 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

[遺物] 土器 46 点、土製円盤 2 点、スタンプ形石器 2 点、礫器 3 点、石鏃 1 点、磨石 12 点、打製石斧 1 点、黒曜石剥片 2 点、チャート剥片 3 点が出土している。

PL47-1～5は口縁部破片。1は、単節 RL 縄文が、口唇部上端に斜位に施文され、口端部より縦位に施文されている。2は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。口唇部成形後、撚糸 R を口唇下に絡条体圧痕状に強く施文し、胴部に縦位に施文している。3は、口唇部がやや外反する。口唇部成形後、撚糸 R が口端部よりやや斜位に施文されている。4は、単節 RL 縄文が縦位に施文された胴部破片。5は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇部内端、口唇部上端、口唇部外端に 3 段施文している。口唇部下には、単節 RL 縄文を斜位に施文した後、口唇部下に指頭圧痕を連続して加え、

斜縄文を磨り消している。推定口径 22.3 cmを測る。6は、口唇部が角頭状を呈する。口唇部成形後、細い撚糸 R を縦位に施文している。砲弾形の器形を呈し、推定口径 25.4 cmを測る。

PL47-7・8はスタンプ形石器。7は、底面のほぼ全面に、顕著な摩耗が認められる。石質は砂岩。8は、底面整形が施される。石質は砂岩。9は、チャート製の礫器。PL48-10は、チャート製の石鏃。11~13は、閃緑岩製の磨石。

PL106-18・19は、土製円盤。側面は全周研磨。19は、裏面に直径 4 mm程の、丸棒状工具による未貫通の孔が穿たれている。

この他図示していないが、黒曜石製剥片 2 点が出土している。蛍光X線分析の結果、確率 0.9525 で和田峠Ⅱ・鷹山（試料 No,HGY2-026）確率 1.0000 で和田峠系Ⅰ（試料 No,HGY2-027）に産地推定されている。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅰ式期～夏島式期。

第 12 号住居跡（PL49~55・107、図版 6・11・12・29・34、第 11・16~18・21・22・29~31・33・34 表）

[位置] K・L・M-9・10 グリットに位置する。第 23 号住居跡を切って構築されている。

[形状] 長軸 7.5m、短軸 7.3mの不整形円形を呈し、確認面より最深部で 12 cm、最浅部で 7 cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、3層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 16 基確認されている。床面からの深さは、P8-24 cm、P9-26 cm、P10-23 cm、P11-10 cm、P12-11 cm、P13-30 cm、P14-30 cm、P15-23 cm、P16-31 cm、P17-29 cm、P18-31 cm、P19-36 cm、P20-31 cm、P21-30 cm、P22-37 cm、P23-33 cmを測る。

[遺物出土状態] 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

[遺物] 土器 111 点、土製円盤 1 点、スタンプ形石器 10 点、礫器 9 点、剥片石器 2 点、石核 2 点、有溝砥石 1 点、磨石 22 点、石皿 5 点、棒状礫器 3 点、敲石 2 点、石鏃素材剥片 1 点、チャート剥片 8 点が出土している。

PL52-1~11 は口縁部破片。1は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。口唇部上端に撚糸 R を施文し、口唇下に絡条体圧痕状に強く施文し、胴部は縦位に施文されている。2は、口唇部が外反する。口唇部成形後、撚糸 R が、口唇下に絡条体圧痕状に強く施文され、胴部はやや斜位に施文されている。3は、口唇部が外反する。単節 RL 縄文が、口唇部上端に斜位に施文され、口端部より縦位に施文されている。4は、口唇部がやや外反する。口唇部成形後、やや無文部を設け、撚糸 R が縦位に施文されている。5は、口唇部が外反する。櫛歯状工具による条線を、口端部付近より斜位に施文した後、口唇部を成形している。6は、口唇部が外反する。口唇部成形後、無文帯を設け、単節 RL 縄文が縦位に施文されている。7・8は、口唇部がやや外反する。口唇部成形後、口端部より単節 RL 縄文が縦位に施文されている。9~11 は、無文土器。11 は口唇部が折り返しとなり肥厚する。12~14・16・17 は胴部破片。12~14・17 は撚糸 R が縦位に施文され、16 は、単節 RL 縄文が縦位に施文されている。14

は、同心円状の擦痕が観察される。15 は、撚糸 R が口端部より不規則に施文されている。未貫通の孔が1箇所確認される。推定口径 14.0 cmを測る。18 は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。口唇部成形後、口端部より単節 RL 縄文が縦位に施文されている。推定口径 18.0 cmを測る。

PL53-19~24 はスタンプ形石器。19 は、底面整形が施され、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。20 は、周囲より底面整形が施され、一部に底側剥離が認められる。石質は閃緑岩。23 は、底面整形が施され、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。24 は、側面に敲打痕が認められ、底面整形が施されている。石質は閃緑岩。27 は、上端が斜位に打ち欠かれており、切断面を研面として使用している。底面整形が施され、一部に底面摩耗が認められる。石質は砂岩。32 は、フォルンフェルス製の剥片石器。先端部を作りだすように調整が加えられており、石錐の可能性もある。33 は、フォルンフェルス製の剥片石器。縦長剥片を利用し、片面に自然面を残す。34 は、砂岩製の有溝砥石。長方形を呈していたものと推測され、1/2 程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する、先細りで複条の浅い溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。PL53-25、PL54-28~31 は礫器。25・28・30・31 は、横長の長軸方向に刃部を作出している。29 は、縦長の短軸方向に刃部を作出している。35・36 は、フォルンフェルス製の石核。多方向の打面を持つ。37~39 は、閃緑岩製の磨石。40~42 は、砂岩製の棒状礫器。使用痕は観察されない。43・44 は、閃緑岩製の石皿。両面を使用し、43 の側縁の一部には敲打痕が残る。

PL107-48 は、土製円盤。側面は一部打欠きで、その他は研磨。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草 I 式期~稲荷台式期。

第 13 号住居跡 (PL58~62、図版 6・11・30・34、第 17・18・22・29・30・33 表)

[位置] H・I-2・3 グリットに位置する。北側 1/3 は、調査区外にかかり未調査となっている。西側に第 12 号集石土坑、東側に第 12 号土坑が位置している。

[形状] 長軸 7.0m、短軸 (6.6m) の不整楕円形を呈し、確認面より最深部で 9cm、最浅部で 4cm 程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、ローム粒、炭化粒を含む。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 13 基確認されている。床面からの深さは、P1-37cm、P2-34cm、P3-27cm、P4-44cm、P5-35cm、P6-32cm、P7-38cm、P8-30cm、P9-21cm、P10-32cm、P11-32cm、P12-34cm、P13-30cmを測る。

[遺物出土状態] 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

[遺物] 土器 93 点、磨石 10 点、スタンプ形石器 8 点、石皿 1 点、礫器 2 点、剥片石器 1 点、敲石 1 点、黒曜石チップ 1 点、チャート剥片 7 点が出土している。

PL60-1~9 は口縁部破片。1 は、口唇部が外反する。単節 RL 縄文が、口唇上端に斜位に施文され、胴部には縦位に施文されている。口唇下には、指頭圧痕が連続して加えられている。2 は、口唇部が外反する。単節 RL 縄文が、口唇上端に斜位に施文され、口唇部に無文帯を設け、胴部に縦位に施文している。3 は、口唇部が外反し、折り返し状を呈する。口唇の折り返し部に、単節 RL 縄文が施文されている。口唇部下は、無文となっている。4・5・7 は、口唇部成形後、口端部より単節 RL 縄文を

縦位に施文している。6は、無文土器。8は、口唇部がやや外反する。単節 RL 縄文を、口端部付近より縦位に施文された後、口唇部を成形している。9は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口端部付近より施文後、口唇部を成形している。10～14は、胴部破片。10・14は、単節 RL 縄文が縦位に、11～13は撚糸 R が縦位に施文されている。15は、口唇部がやや肥厚する。口唇部成形後、単節 RL 縄文を縦位に施文している。推定口径 32.0 cmを測る。

PL60-16・17、PL61-19～24はスタンプ形石器。17は、底側剥離が顕著に、一部に底面摩耗が認められる。石質は砂岩。18は、フォルンフェルス製の剥片石器。横長剥片を利用し、片面に自然面が一部残る。19は、最大長 6.0 cmの小形品。1側縁に加工が施される。底面整形が施される。石質は閃緑岩。20・21は底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。22・23は、底面整形が施され、底側剥離と摩耗が認められる。石質は閃緑岩。24は、一部に底面整形が施される。石質は閃緑岩。

PL62-25～29は、磨石。26・29の縁辺の一部には敲打痕が残る。石質は、25は砂岩、その他は閃緑岩。30は、砂岩製の敲石。端部に敲打面が観察される。31は、閃緑岩製の石皿。両面を使用している。

この他、図示していないが、黒曜石製チップ 1点が出土している。蛍光X線分析の結果、確率 0.9995で和田峠系 I（試料 No,HGY2-013）に産地推定されている。

〔時期〕 出土遺物より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期～夏島式期。

第 14 号住居跡（PL63～64・106、図版 7・11・12・30、第 11・14・17・18・29・34 表）

〔位置〕 D・E-10・11 グリットに位置する。西側に第 15 号住居跡が位置する。

〔形状〕 長軸 5.2m、短軸 5.2mの不整楕円形を呈し、確認面より最深部で 10 cm、最浅部で 5 cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、3層に分層され、ローム粒を含み、自然堆積を示す。

〔ピット〕 ピットは、壁際を中心に 21 基確認されている。床面からの深さは、P 1-31 cm、P 2-34 cm、P 3-41 cm、P 4-35 cm、P 5-35 cm、P 6-40 cm、P 7-36 cm、P 8-39 cm、P 9-28 cm、P 10-25 cm、P 11-19 cm、P 12-20 cm、P 13-20 cm、P 14-26 cm、P 15-21 cm、P 16-41 cm、P 17-26 cm、P 18-25 cm、P 19-30 cm、P 20-25 cm、P 21-41 cmを測る。

〔遺物出土状態〕 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

〔遺物〕 土器 45 点、土製円盤 1 点、磨石 3 点、スタンプ形石器 3 点、剥片石器 1 点、有溝砥石 3 点、石鏃 1 点、チャート剥片 2 点が出土している。

PL64-1～7は口縁部破片。1は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R を、口唇部上端に斜位に、口唇部下に縦位に施文している。2・3は、口唇部がやや外反し肥厚丸頭状を呈する。口端部付近より、撚糸 R を縦位に施文した後、口唇部を成形している。4は、口唇部が外反する。撚糸 R を、口唇下に絡条体圧痕状に強く施文し、胴部は斜位に施文している。5は、口唇部がやや外反する。口縁部下に無文部を設け、粗い単節 RL 縄文を縦位に施文している。6・7は無文土器。8・9は底部付近の破片。撚糸 R が縦位に施文されている。

10～12はスタンプ形石器。10・11は、底面調整を施し、一部に底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。12は、底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。13は、閃緑岩製の磨石。14は、砂岩製

の小形の有溝砥石。楕円形を呈していたものと推測される。表裏面に断面カマボコ形を呈する単条の溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。15は、砂岩製の有溝砥石。楕円形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表面に断面カマボコ形を呈する単条の溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。16は、砂岩製の有溝砥石。長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表面に断面カマボコ形を呈する単条の溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。17は、黒曜石製の石鏃。片側基部を欠損する。蛍光X線分析により、確率1.0000で和田峠・鷹山系(試料No,HGY1-003)と産地推定されている。

PL106-20は、土製円盤。側面は全周打ち欠き。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期～稻荷台式期。

第15号住居跡(PL65～67、図版7・11・30、第17・22・29・30・34表)

[位置] C・D-10・11グリットに位置する。第16号住居跡と切り合い、東側に第14号住居跡が位置する。

[形状] 長軸5.5m、短軸5.0mの不整楕円形を呈し、確認面より最深部で12cm、最浅部で5cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、ローム粒、炭化粒を含む。

[ピット] ピットは、壁際を中心に12基確認されている。床面からの深さは、P1-36cm、P2-35cm、P3-34cm、P4-35cm、P5-30cm、P6-35cm、P7-32cm、P8-31cm、P9-26cm、P10-19cm、P11-35cm、P12-31を測る。

[遺物出土状態] 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

[遺物] 土器72点、磨石2点、スタンプ形石器4点、礫器1点、敲石1点、有溝砥石1点、チャート剥片5点が出土している。

PL66-1～6は、口縁部破片。1は、口唇部がやや外反する。単節RL縄文が、口唇部と胴部に縦位に施文され、口唇下には爪形の残る指頭圧痕が連続して加えられている。2は、撚糸Rを口唇部付近より縦位に施文した後、口唇部を成形している。口唇下には、外側から先行された補修孔が1箇所確認される。3は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節RL縄文が、口唇部に斜位に、胴部に縦位に施文されている。口唇下には、指頭圧痕が連続して加えられており、縄文を磨り消している。4は、口唇部が角頭状を呈する。口唇部成形後、櫛歯状工具による条線を不規則に施文している。5は、口唇部成形後、単節RL縄文を縦位に施文している。口唇部付近は短く施文されている。6は、口唇部成形後、細かい単節RL縄文が斜位に施文されている。7～11は胴部破片。7・11は、単節RL縄文が縦位に、8・9は、撚糸Rが縦位に施文されている。10は、無文土器。12は、底部付近の破片。無文となっている。

PL66-13～16はスタンプ形石器。13は、側面に敲打痕を残す。底面の一部に摩耗が認められる。石質は閃緑岩。14・15は、底面整形を施し、一部に底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は閃緑岩。16は、底側剥離と底面摩耗が認められ、被熱を受けている。石質は砂岩。17は、砂岩製の有溝砥石。長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する単条の溝が確認さ

れる。表裏面とも平らに磨られている。石質は砂岩。P L67-18は、フォルンフェルス製の礫器。横長の長軸方向に刃部を作出している。19は、閃緑岩製の磨石。20は、砂岩製の敲石。端部に敲打痕が観察される。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期～夏島式期。

第16号住居跡 (P L68～70・107、図版7・12・30・35、第11・17・18・24・28・29・30表)

[位置] B・C-11グリットに位置する。第15号住居跡と切り合う。

[形状] 長軸5.8m、短軸4.9mの不整楕円形を呈し、確認面より最深部で12cm、最浅部で7cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、5層に分層され、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に7基確認されている。床面からの深さは、P1-45cm、P2-32cm、P3-31cm、P4-34cm、P5-32cm、P6-23cm、P7-30cmを測る。

[遺物出土状態] 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

[遺物] 土器37点、土製円盤1点、磨石11点、スタンプ形石器3点、剥片石器5点、敲石1点、打製石斧1点、砥石1点が出土している。

P L69-1～5は、口縁部破片。1は、口唇部がやや外反する。撚糸Rを口唇部付近より縦位に施文した後、口唇部を成形している。2は、無文土器。3は、口唇部がやや肥厚する。口唇下に無文部を設け、単節RL縄文を縦位に施文している。4は、口唇部が外反する。口唇部成形後、撚糸Rを口端部より斜位に施文している。5は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇下に単節RL縄文を撚糸圧痕状に強く施文している。胴部は無文となる。6・7・9は胴部破片。6は、撚糸Rが縦位に、7・9は、単節RL縄文が縦位に施文されている。8は、口唇部成形後、単節RL縄文を口端部より縦位に施文している。推定口径17.2cmを測る。10・11は、胴部下半。撚糸Rが、縦位に施文されている。

P L70-12～14はスタンプ形石器。12は、底面整形が施され、底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は砂岩。13は、1側縁に加工を施す。底面整形を施し、底側剥離が認められる。石質は閃緑岩。14は、底面整形を施し、一部に底側剥離と底面磨摩耗が認められる。石質は閃緑岩。15～18は、閃緑岩製の磨石。19は、砂岩製の敲石。端部に敲打痕が観察される。

P L107-33は、土製円盤。側面は全周打ち欠き。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第18号住居跡 (P L71～73、図版12・30、第15・22・29・30・33表)

[位置] N・O-13・14・15グリットに位置する。東側に第3号埋甕が位置する。

[形状] 主体部は、長軸8.5m、短軸5.7mの不整楕円形を呈し、南側に貼り出し部を持ついわゆる柄鏡型住居。確認面より最深部で10cm、最浅部で1cm程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は、主体部のほぼ中央に、長軸0.9m、短軸0.75mの平面楕円形を呈する地床炉が確認されている。住居覆土は、ローム粒、炭化粒を含み、自然堆積を示す。

[ピット] ピットは、壁際を中心に22基確認されている。床面からの深さは、P1-36cm、P2-35

cm、P 3—26 cm、P 4—29 cm、P 5—15 cm、P 6—45 cm、P 7—34 cm、P 8—31 cm、P 9—31 cm、P 10—30 cm、P 11—35 cm、P 12—40 cm、P 13—32 cm、P 14—36 cm、P 15—27 cm、P 16—28 cm、P 17—30 cm、P 18—32 cm、P 19—30 cm、P 20—32 cm、P 21—30 cm、P 22—33 cmを測る。

[遺物出土状態] 張り出し部を中心に遺物が出土しており、主体部からの出土は僅かである。

[遺物] 土器 74 点、磨石 6 点、石皿 1 点、礫器 1 点、敲石 1 点、石鏃未製品 1 点、チャート剥片 2 点、チャートチップ 1 点が出土している。

P L 73—1・2 は口縁部破片。1 は、沈線で三角・J 字状の文様を描き、列点文を充填している。2 は、沈線間に単節 LR 縄文を充填している。3 は、胴部破片。2 本の垂下する沈線間に列点文を充填している。

P L 73—4 は、砂岩製の敲石。端部に敲打痕が観察される。5・6 は、磨石。6 は、縁辺の一部に敲打痕を残す。石質は、5 は閃緑岩、6 は砂岩。7 は、閃緑岩製の石皿。側縁の一部に敲打痕が残る。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代後期称名寺式期。

第 19 号住居跡 (P L 126・127、図版 9・27)

[位置] D—20・21 グリットに所在する調査区内に 1 軒だけ確認された古代の竪穴住居跡である。標高 60m 付近に立地する。同時代の遺構は北側の斜面上位に位置する火葬墓群のみで、第 1 号火葬墓とは約 44m、第 2 号火葬墓とは約 68m 離れている。

[形状] 平面形は北側にカマドを持つ方形で、東西 3.4m×南北 2.5mの規模である。住居北壁のほぼ中央に位置するカマドを通る軸線が本住居の主軸となり、N—2°—E を示す。住居壁は 60°～70° 程で、45～50 cm 立ち上がるが南東隅部は不整形である。直床で、ほぼ平坦な床面となっており、各隅に柱穴が配されるが、南東部の柱穴は北側に偏する。柱穴はいずれも直径 15 cm 前後、深さ 8 cm 程度で概して浅い。

住居覆土は斜面上位からの流れ込みを示す自然なレンズ状堆積を示しており、土器等の遺物はほとんど含まず、竪穴住居放棄後の自然な埋没を示している。本竪穴住居は通常からすると起居には適さない小型の部類であり、遺物もあまり残されておらず生活臭が少ない。

カマドは両袖が造り付けだがほとんど残らず基底部の痕跡のみが認められた。焚口部が住居内に、掛口部が壁ライン上に位置し、煙道は壁外へ伸びる構造をとる。掛口付近には補強材の河原石が建てられていた。第 5 層の上面が最終の火床で、須恵器・土師器破片が検出されている。

遺跡内には他に竪穴住居跡など同時代の遺構が造られた形跡がなく、本住居は同時期の火葬墓との関係が窺われ、葬送儀礼に関連した「喪屋・斎家・墳墓屋」などの性格があったのではないかと思われる。

[遺物] 遺物はいずれもカマドから出土しており、破片又は欠損品であった。P L 127—1 は須恵器坏で、口径 13.1 cm、底径 6.4 cm、器高 3.9 cm を測る。灰色を呈し南比企産である。2 は土師器坏で灯明皿に使用されている。体部下半はヘラケズリ調整で仕上げられる。底部に墨書痕があるものの不明瞭で判読できない。口径 13.6 cm 器高、4.1 cm を測る。8 世紀中ごろ～後半のものと思われる。3 は須恵器碗で体部の破片である。4 は須恵器蓋の小片で口径約 18 cm 程である。5 は

土師器甕で、口径約 12 cm、底径 4.5 cm、器高約 14cm を測る。6 は須恵器甕で、口径 25.5cm に復元される。須恵器はいずれも南比企窯産で鳩山窯編年のⅥ期からⅦ期に収まり、土師器坏・甕は 8 世紀中ごろの遺物である。

[時 期] 遺物から見た本住居の営続期間は、8 世紀中～8 世紀末ごろと考えられる。

第 23 号住居跡 (P L 49～51・56・57・106、図版 7・11・12・29・34・37、第 11・14・17・18・20～22・29～34 表)

[位 置] K・L—8・9 グリットに位置する。第 12 号住居跡に切られている。

[形 状] 長軸 6.1m、短軸 (5.0) m の不整楕円形を呈し、確認面より最深部で 16 cm、最浅部で 5 cm 程掘り込まれている。床面は、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。炉は確認されていない。覆土は、ローム粒、炭化粒を含む。

[ピット] ピットは、壁際を中心に 7 基確認されている。床面からの深さは、P 1—28 cm、P 2—37 cm、P 3—31 cm、P 4—31 cm、P 5—33 cm、P 6—31 cm、P 7—30 cm を測る。

[遺物出土状態] 遺物は、住居内全体より、集中することなく散漫に出土している。

[遺 物] 土器 236 点、土製円盤 2 点、磨石 15 点、スタンプ形石器 4 点、石皿 3 点、礫器 6 点、剥片石器 5 点、棒状礫器 1 点、石核 1 点、敲石 1 点、凹石 1 点、石錐 1 点、有溝砥石 1 点、石鏃 1 点、黒曜石剥片 5 点、チャート剥片 4 点が出土している。

P L 56—1～11 は、口縁部破片。1 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に 2 段施文されている。胴部には単節 RL 縄文が縦位に施文され、口唇下に指頭圧痕が細かく加えられ、縄文を磨り消している。2 は、口唇部がやや外反する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に施文され、口唇下に無文部を設け、胴部に縦位に施文している。3 は、口唇部が外反する。単節 RL 縄文が、口唇外端に短く施文され、口唇下より縦位に施文している。4・5 は、無文土器。5 は、口唇下に指頭圧痕が加えられている。6 は、口唇部成形後、櫛歯状工具による条線が斜位に施文されている。7 は、無文土器。口唇下に等間隔に列点状の刺突が確認される。指頭圧痕を加えた際の爪の端が列点状に残った可能性もある。8・9 は、口唇部成形後、口端部から単節 RL 縄文を縦位施文している。10・11 は無文土器。12 は、胴部破片。撚糸 R が縦位に施文されている。

P L 56—13～16 はスタンプ形石器。13～15 は、底側剥離と底面摩耗が認められる。石質は、13・15 が砂岩、14 が礫岩。16 は、1 側縁に加工を施す。底面は一部欠損し、底面整形が施されている。石質は砂岩。17、P L 57—20 は、フォルンフェルス製の礫器。17 は、表面に自然面を残し、裏面は、調整剥離で自然面を剥ぎ取っている。石核の可能性もある。20 は、横長の長軸方向に刃部を作出している。21 は、砂岩製の有溝砥石。不整楕円形を呈していたものと推測され、1/2 程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する、先細りで単条の溝が確認される。石質は砂岩で熱を受け全体的に赤化している。P L 57—18 は、チャート製の石鏃。片側基部を欠損する。19 は、砂岩製の打欠石錘。最大長 5.0 cm、最大幅 4.0 cm、重量 30 g。自然礫の短軸方向を打ち欠いている。22 は、砂岩製の凹石。表裏面に敲打による窪みが観察される。また、表裏面には細い 1 条の溝が観察されることから、砥石と併用。23 は、フォルンフェルス製の石核。24～28 は磨石。石質は、25 は砂岩、それ以外は閃緑岩。29 は、千枚岩製の棒状礫

器。使用痕は確認されない。

PL106-23は土製円盤。一部を欠損するが、残存部側面全周研磨。

この他図示していないが、黒曜石製剥片5点が出土している。蛍光X線分析の結果、確率1.0000で和田峠系I（試料No,HGY2-028・No,HGY2-029）、確率1.0000で和田峠・鷹山系（試料No,HGY2-30・No,HGY2-031・No,HGY2-032）に産地推定されている。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期井草I式期～夏島式期。

2. 土坑

土坑は、13基確認されている。

第1号土坑（PL74・76、図版12）

[位置] O-2グリットに位置する。東側に第2号土坑が近接する。

[形状] 長径99.0cm、短径96.0cm、深さ20.0cmを測る。平面形は円形で、断面は皿型を呈する。

[覆土] 2層に分層され、ローム土を主体とする。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器が2点出土している。PL76-1は、口唇部成形後、単節RL縄文を口端部から施文している。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第2号土坑（PL74・76、図版12・30、第17表）

[位置] O・P-2グリットに位置する。第4号土坑に切られ、第3号土坑との切り合いは不明。西側に第1号土坑が近接する。

[形状] 長径190.0cm、短径180.0cm、深さ89.0cmを測る。平面形は円形で、中央がピット状に深くなる。

[覆土] 8層に分層され、ローム土を主体とする。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器26点、スタンプ形石器1点が出土している。PL76-2は、胴部破片。撚糸Rが斜位に施文されている。3は、砂岩製のスタンプ形石器。2側に研磨痕が観察される。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第3号土坑（PL74）

[位置] P-2グリットに位置する。第4号土坑に切られる。第2号土坑との切り合いは不明。

[形状] 不明。

[遺物] 無し。

[時期] 時期不明。

第4号土坑（PL74・76、図版12）

[位置] P-2グリットに位置する。第2・3号土坑を切って構築されている。

[形状] 長径80.0cm、短径39.0cm、深さ50.7cmを測る。平面楕円形で、断面は皿型を呈する。

[覆 土] 4層に分層され、ローム土を主体とする。

[遺 物] 縄文時代後期称名寺式土器2点が出土している。PL76-6は、櫛歯状工具による条線を地文に、2本の沈線を垂下させ、磨り消した沈線間に、列点文を充填している。10は、2本の沈線でO字状文を描き、列点文を充填している。

[時 期] 出土土器より判断して、縄文時代後期称名寺式期。

第5号土坑 (PL74)

[位 置] Q-1グリットに位置する。

[形 状] 長軸238.0 cm、短軸101.0 cm、深さ41.0 cmを測る。平面形は長方形を呈し、坑底は平坦。

[覆 土] 15層に分層され、黒色土粒子を含む。

[遺 物] 無し。

[時 期] 不明。

第6号土坑 (PL74・76・107-36、図版12・37、第11・14表)

[位 置] S-1グリットに位置する。

[形 状] 長径160.0 cm、短径142.0 cm、深さ34.0 cmを測る。平面は円形で、断面は皿型を呈する。

[覆 土] 4層に分層され、ローム土を主体とする。

[遺 物] 縄文時代早期擦糸文土器13点と土製円盤1点、石鏃1点が出土している。PL76-4は、口唇部が外反する。口唇部成形後、擦糸Rを口端部より縦位施文している。5は胴部破片。細かい単節RL縄文を縦位に施文している。7は、チャート製の石鏃。3側縁が括れる。PL107-36は、擦糸文土器を利用した土製円盤。側縁は全周打ち欠いている。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第7号土坑 (PL74・76、図版12・30、第29表)

[位 置] T-0・1に位置する。東側の第8号土坑に切られる。

[形 状] 長径265.0 cm、深さ55.0 cmを測る。平面形は楕円形を呈し、坑底に楕円形のピット状の掘り込みがある。

[覆 土] 7層に分層され、ローム土を主体とする。

[遺 物] 縄文時代早期擦糸文土器7点、磨石2点が出土している。PL76-8は、胴部破片。細かい単節RL縄文を縦位に施文している。9は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇部上端と外端に、細かい単節RL縄文を2段施文し、口唇下には縦位に施文されている。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が連続して施文されている。11は、口唇部成形後、単節RL縄文が縦位に施文されている。口端部は短く施文されている。12・14は、花崗岩製の磨石。14は、両面を磨面として使用し、側縁の一部に敲打痕が観察される。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期井草I式期～夏島式期。

第8号土坑 (PL74・77、図版30、第17表)

[位置] T・U-0・1グリットに位置する。西側の第7号土坑を切って構築されている。

[形状] 長径 218.0 cm、短径 197.0 cm、深さ 52.0 cmを測る。平面形は不整形で、坑底は不整形。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器 2点、スタンプ形石器 1点が出土している。PL77-16は、頁岩製のスタンプ形石器。1側面に加工が加えられている。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第10号土坑 (PL75・76、図版12)

[位置] N-2・3グリットに位置する。南側に時期不明のピット群が位置する。

[形状] 長径 153.0 cm、短径 145.0 cm、深さ 27.0 cmを測る。平面形は円形で、断面たらい型を呈する。

[覆土] 6層に分層され、ローム土を主体とする。

[遺物] 縄文時代後期称名寺式土器 2点が出土している。PL76-13・15は同一個体。太い隆帯を菱形状に貼付し、棒状工具により背割り状沈線を加えている。菱形で囲まれた中には、ハート形の沈線が描かれ、単節LR縄文が充填されている。

[時期] 出土土器より判断して、縄文時代後期称名寺式期。

第12号土坑 (PL75・図版6)

[位置] I・J-2グリットに位置する。第13号住居跡を切って構築されており、東側に、第13号土坑が近接する。

[形状] 長軸 348.0 cm、短軸 150.0 cm、深さ 34.0 cmを測る。平面形は長方形で、坑底は平らになっている。

[遺物] 無し。

[時期] 不明。

第13号土坑 (PL75、図版6)

[位置] J-2・3グリットに位置する。西側に第12号土坑が近接する。

[形状] 長軸 475.0 cm、短軸 123.0 cm、深さ 42.0 cmを測る。平面形は長方形で、坑底は平らになっている。北側に1段の段差がある。

[遺物] 無し。

[時期] 不明。

第14号土坑 (PL86)

[位置] H-7・8グリットに位置する。第10号集石土坑を切って構築されている。

[形状] 長径 17.0 cm、短径 155.0 cm、深さ 40.0 cmを測る。平面形は円形で、断面は深い皿型を呈する。

[遺物] 無し。

[時期] 不明。

第15号土坑（PL75）

〔位置〕 D-16・17グリットに位置する。

〔形状〕 長径197.0 cm、短径185.0 cm、深さ40.0 cmを測る。平面形は円形で、断面たらい型を呈する。

〔覆土〕 覆土は2層に分層され、ローム土を主体とする。自然堆積を示す。

〔遺物〕 縄文時代早期撚糸文土器1点が出土している。

〔時期〕 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第19号土坑（PL75・77、図版8・30、第17・18・28・29表）

〔位置〕 E-19グリットに位置する。

〔形状〕 長径40.0 cm、短径31.5 cm、深さ15.5 cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面は皿型を呈する。

〔遺物〕 縄文時代早期撚糸文土器3点、磨石2点、スタンプ形石器3点、剥片石器4点、砥石1点が出土している。PL77-19～21は、閃緑岩製のスタンプ形石器。20は、底面整形が施され、底面摩耗が一部認められる。熱を受け一部赤化している。21は、底面整形が施され、底面摩耗が中央に認められる。22は、砂岩製の砥石。23は、閃緑岩製の磨石。1/2を欠損する。24は、花崗岩製の磨石。

〔時期〕 出土石器より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

3. 屋外埋甕

屋外埋甕は、縄文時代後期称名寺式期に属するものが3基確認されている。

第1号埋甕（PL75・78、図版9・13）

〔位置〕 K-4グリットに位置する。

〔形状〕 長径93.0 cm、短径75.0 cm、深さ14.0 cmを測る、平面楕円形の掘り込みに埋設されている。依存状態は悪く、胴部上半の土器が正位に埋設されていたと推測される。

〔埋設土器〕 PL78-1は、胴部下半を欠損する。口縁部に環状の突起が1単位付く。連鎖状隆帯を2条垂下させ、器面を大きく2単位に縦位分割し、さらにそれぞれの区画内を沈線区画により2分割し、都合4単位の文様構成となっている。沈線で区画された文様内には、列点文が充填される。口径30.1 cm、現存器高27.2 cmを測る。

〔時期〕 縄文時代後期称名寺式期。

第2号埋甕（PL75・79、図版13）

〔位置〕 V-9グリットに位置する。東側に第3号住居跡、西側に第1号溝跡が位置する。

〔形状〕 径55.0 cm、深さ20.0 cmを測る、円形の掘り込みに埋設されている。依存状態は悪く、胴部下半の土器が正位に埋設されていたと推測される。

〔埋設土器〕 PL79-1は、口縁部を欠損する。沈線で区画された4単位の文様構成をとる。沈線区画内には、LR縄文が充填されている。底径7.4 cm、現存器高26.2 cmを測る。

[時期] 縄文時代後期称名寺式期。

第3号埋甕 (PL75・80、図版9・13・14)

[位置] P-14グリットに位置する。西側に第18号住居跡が位置する。

[形状] 径43.0 cm、深さ20.0 cmを測る、円形の掘り込みに埋設されている。南側は攪乱を受けている。口縁部を欠く土器が、正位状態で埋設されている。土器内に、径6 cm程の円礫が1個確認されている。

[埋設土器] PL80-1は、口縁部を欠損する。胴部上半で括れ、口縁部が大きく開く器形となる。沈線によりS字状文が2対1単位で3単位描かれる。各単位内には、地文状に縄文が充填されている。底径6.0 cm、現存器高27.2 cmを測る。

[時期] 縄文時代後期称名寺式期。

4. 集石土坑・集石

縄文時代の集石土坑10基、集石4基が確認されている。

第1号集石土坑 (PL81・87、図版7・30、第29・33表)

[位置] W-13グリットに位置する。調査区の東端。

[形状] 土坑は、長軸105.0 cm、短軸100.0 cm、深さ30.0 cmを測る。平面形は円形で、坑底部中央が一段深くなる形状を呈する。

[覆土] 覆土は8層に分層される。ローム土を主体とし、炭化粒が多く含まれる。

[用礫] 用礫は、覆土中に充填されているが、坑底中央の窪み部には充填されていない。下部に不規則であるが大形の礫が敷かれている。礫総数128個、総重量6.7 kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器4点、磨石1点、石皿1点が出土している。PL87-1は、閃緑岩製の石皿。熱を受け赤化しており、2/3を欠損する。本集石土坑出土の炭化材を樹種同定したところ、ブナ科クリ属のクリと同定されている。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第2号集石土坑 (PL82・87・108、図版12・30、第11・14・22・29表)

[位置] R・S-8グリットに位置する。東側に第2号住居跡、西側に第5号住居跡が位置する。

[形状] 土坑は、長軸60.0 cm、短軸59.0 cm、深さ8.0 cmを測る。平面形は円形で、断面は皿型を呈する。

[覆土] 覆土は1層で、炭化粒・焼土粒が多く含まれる。

[用礫] 用礫は、覆土中にほとんど充填されず、周囲に3.7m×3.5mの範囲で分布している。礫総数339個、総重量25.8 kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器26点、土製円盤1点、磨石6点、礫器2点、石鏃1点が出土している。PL87-2は、口唇部成形後、単節RL縄文を縦位に施文している。3は、口唇部成形後、細か

い撚糸 R を縦位に施文している。4は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R を、口唇下に絡条体圧痕状に強く施文し、胴部は斜位に施文している。口唇下に両方向より穿孔した補修孔が1箇所確認される。5は、口唇部が外反する。口唇部成形後、口端部より単節 RL 縄文が縦位に施文されている。推定口径 31.2 cmを測る。6は、チャート製の石鏃。基部の一部を欠損する。7・8はフォルンフェルス製の礫器。7は半折している。8は、横長の長軸方向に刃部を作出している。9は、花崗岩製の磨石。1/4 程残存し、表裏面に磨面が認められる。P L108-61 は、撚糸文土器を利用した土製円盤。側縁を部分的に研磨している。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第3号集石土坑 (P L83・87・88・107、図版 12・30、第 11・17・29・33 表)

[位 置] R-5・6 グリットに位置する。南西に第 8 号集石、北側に第 4 号集石土坑が位置する。

[形 状] 土坑は、長軸 135.0 cm、短軸 132.0 cm、深さ 75.0 cmを測る。平面は円形で、断面は、坑底中央部が一段深くなる形状を呈する。

[覆 土] 6層に分層される。土坑下部の第 6 層は、用礫は充填されず、多量の炭化粒を含む。用礫下部と第 6 層上部には炭化材を含む多量の炭化粒が確認される。

[用 礫] 用礫は、覆土上部に充填されており、さらに土坑西側に 3.7m×2.7mの範囲で分布している。総数 318 個、総重量 26kg をはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺 物] 縄文時代早期撚糸文土器 12 点、土製円盤 1 点、磨石 2 点、スタンプ形石器 1 点、石皿 1 点が出土している。P L88-11 は、胴部破片。撚糸 R が縦位に施文されている。P L87-10 は、閃緑岩製の石皿。2/3 を欠損する。P L88-12 は砂岩製の磨石。表裏面に磨り面が認められる。P L107-37 は、称名寺式土器を利用した土製円盤。側縁は全周打ち欠いている。

本集石土坑出土の炭化材を樹種同定したところ、ブナ科クリ属のクリと同定されている。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第4号集石土坑 (P L81・88・107、図版 8・12・30、第 11・17・22・23・29・30・33 表)

[位 置] R・S-4 グリットに位置する。西に第 7 号集石土坑、南側に第 3 号集石土坑が位置する。

[形 状] 土坑は、長軸 82.0 cm、短軸 70.0 cm、深さ 33.0 cmを測る。平面形は楕円形で、断面は鍋底形を呈する。

[覆 土] 6層に分層される。ローム土を主体とし、炭化粒を多く含む。

[用 礫] 用礫は、覆土上部に充填されており、さらに土坑周囲に 2.4m×2.3mの範囲で分布している。総数 226 個、総重量 5.8kg をはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺 物] 縄文時代早期撚糸文土器 14 点、土製円盤 1 点、磨石 3 点、スタンプ形石器 2 点、石皿 1 点、礫器 2 点、敲石 1 点、石鏃素材剥片 1 点が出土している。P L88-15 は、底部破片。撚糸 R が縦位に施文されている。16 は、閃緑岩製のスタンプ形石器。底面整形が施され、底面摩耗が一部認められる。上端部を欠損する。17 は、フォルンフェルス製の礫器。縦長の短軸方向に刃部を作出している。18 は、閃緑岩製のスタンプ形石器。底側剥離が一部認められ、底面の周囲が磨耗する。19 は、砂岩製の礫器。

横長の長軸方向に刃部を作出している。熱を受け赤化している。20は、閃緑岩製の石皿。1/3を欠損する。表裏面を使用している。PL107-38は、撚糸文土器を利用した土製円盤。側縁は全周打ち欠いている。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第5号集石土坑（PL84・89、図版12・30、第14・22・29表）

[位置] Q・R-3・4グリットに位置する。南東に第7号集石が位置する。

[形状] 土坑は、長軸360.0cm、短軸265.0cm、深さ12.0cmを測る。平面は不整円形で、断面は、皿状を呈する。ピットが南西隅に位置しているが、本集石土坑に伴うものかは判断できなかった。

[覆土] 覆土中には、用礫はほとんど充填されず、ローム土主体で、多量の炭化粒を含む。

[用礫] 用礫は、覆土上部に散漫に分布している。総数179個、総重量9.4kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器45点、磨石5点、礫器1点が出土している。PL89-22は、口唇部下に無文部を設け、櫛歯状工具による条線文を斜位に施文している。23・25は、胴部破片。撚糸Rが縦位に施文されている。24は、口唇部成形後、撚糸Rを口端部より縦位施文している。推定口径20.6cmを測る。26は、砂岩製の有溝砥石片。熱を受け赤化している。27は、フォルンフェルス製の礫器。表面に自然面を残し、裏面は、調整剥離で、自然面を剥ぎ取っている。28・29は、閃緑岩製の磨石。28は、片面を磨面とし、端部に敲打痕が観察される。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第6号集石（PL81・89、図版12・30、第21・22・29・33表）

[位置] O-4グリットに位置する。北側には、時期不明のピット群が位置する。

[用礫] 用礫は、280.0cm×180.0cmの範囲に分布する。総数104個、総重量5.4kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器8点、磨石3点、石皿1点、礫器1点、石核1点が出土している。PL89-30・31は胴部破片。30は撚糸Rが縦位に、31は単節RL縄文が斜位に施文されている。32は、フォルンフェルス製の礫器。横長の長軸方向に刃部を作出している。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第7号集石（PL89・82・90、図版12・30、第29・31表）

[位置] R-4グリットに位置する。東側に第4号集石土坑、北西に第5号集石土坑が位置する。

[用礫] 用礫は、260.0cm×130.0cmの範囲に分布する。総数56個、総重量2.9kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器21点、磨石2点、棒状礫器1点が出土している。PL89-21は、口唇下に無文部を設け、櫛歯状工具による条線文を斜位に施文している。PL90-33・34は、口唇部成形後、単節RL縄文を口端部より縦位に施文している。35は、凝灰岩製の棒状礫器。36・37は、閃緑

岩製の磨石。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期夏島式期。

第8号集石 (PL85・90、図版30、第17表)

[位置] R-6グリットに位置する。南側には第5号住居跡、北東に第4号集石土坑が位置する。

[用礫] 用礫は、180.0 cm×90.0 cmの範囲に分布する。総数66個、総重量3.5 kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器2点、スタンプ形石器1点が出土している。PL90-38は、花崗岩製のスタンプ形石器。底面整形が一部施されており、底面に一部摩耗が観察される。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第9号集石土坑 (PL86・90、図版8・12)

[位置] H-7グリットに位置する。南東に第10号集石土坑、第14号土坑が位置する。

[形状] 土坑は、長軸140.0 cm、短軸139.0 cm、深さ40.0 cmを測る。平面形は円形で、断面たらい型を呈する。

[覆土] 覆土は8層に分層される。ローム土を主体とし、炭化粒が多く含まれる。

[用礫] 用礫は、覆土中に充填されている。総数1,632個、総重量120kgを量る。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器5点が出土している。PL90-39は、無文の胴部破片。本集石土坑出土の炭化材を樹種同定したところ、ブナ科クリ属のクリと同定されている。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第10号集石土坑 (PL86・90、図版8・30、第29・33表)

[位置] H-7グリットに位置する。時期不明の第14号土坑に切られ、北西に第9号集石土坑が位置する。

[形状] 土坑は、長軸130.0 cm、深さ33.0 cmを測る。平面形は円形で、断面たらい型を呈する。

[覆土] 覆土は4層に分層される。ローム土を主体とし、炭化粒が多く含まれる。

[用礫] 用礫は、覆土中に充填されている。総数103個、総重量7.6kgを量る。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺物] 縄文時代早期撚糸文土器2点、磨石1点、石皿1点が出土している。PL90-41は、閃緑岩製の磨石。側面の一部に敲打痕が観察される。

本集石土坑出土の炭化材を樹種同定したところ、ブナ科クリ属のクリと同定されている。

[時期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第11号集石土坑 (PL85・90、図版8・12・30、第33表)

[位置] I-9・10グリットに位置する。西側に第2号溝跡、北側に時期不明のピット群が位置する。

[形 状] 土坑は、長軸 160.0 cm、短軸 140.0 cm、深さ 42.0 cmを測る。平面形は円形で、断面たらい型を呈する。

[覆 土] 覆土は 7 層に分層される。ローム土を主体とし、炭化粒が多く含まれる。

[用 礫] 用礫は、覆土中に充填されており、さらに土坑周囲に 3.0m×2.6mの範囲で分布している。総数 333 個、総重量 19kg をはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺 物] 縄文時代早期撚糸文土器 2 点、石皿 2 点が出土している。P L90-40 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇部上端と外端に横位施文され、口唇下に縦位に施文されている。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が連続して施文されている。42 は、閃緑岩製の石皿。1/3 を欠損する。本集石土坑出土の炭化材を樹種同定したところ、ブナ科クリ属のクリと同定されている。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期井草Ⅱ式期。

第 12 号集石土坑 (P L85、図版 6・8)

[位 置] H-2・3 グリットに位置する。東側に第 13 号住居跡が位置する。

[形 状] 土坑は、長軸 142.0 cm、短軸 132.0 cm、深さ 46.0 cmを測る。平面形は円形で、断面たらい型を呈する。

[覆 土] 覆土は 4 層に分層される。ローム土を主体とし、炭化粒が多く含まれる。用礫下部に炭化材が少量残る。

[用 礫] 用礫は、覆土中に充填されている。総数 5,521 個、総重量 289kg をはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第 13 号集石土坑 (P L86・90・91、図版 30、第 17・33 表)

[位 置] R-17 グリットに位置する。東側に第 1 号溝跡が位置する。

[形 状] 土坑は、長軸 130.0 cm、深さ 46.0 cmを測る。平面形は円形で、断面皿型を呈する。

[覆 土] 覆土は、ローム土を主体とし、炭化粒が多く含まれる。

[用 礫] 用礫は、覆土中に充填されている。総数 175 個、総重量 12.9kg をはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺 物] 磨石 2 点、スタンプ形石器 2 点、石皿 1 点が出土している。P L90-43、P L91-45 は、砂岩製のスタンプ形石器。43 は、1 側縁に加工が加えられ、底面整形が施され、底側剥離と底面磨耗が認められる。45 は、底面整形が施され、底面磨耗が認められる。上端部に敲打痕が観察され、一部熱を受け赤化している。44 は、花崗岩製の磨石。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

第 14 号集石 (P L84・91、図版 8・30、第 17・29・33 表)

[位 置] T-3 グリットに位置する。

[用 礫] 用礫は、300.0 cm×200.0 cmの範囲に分布する。総数 96 個、総重量 7.1 kgをはかる。用礫は全て被熱・赤化しており、ほとんどが破損している。

[遺 物] 縄文時代早期撚糸文土器 9 点、磨石 4 点、スタンプ形石器 1 点、石皿 2 点が出土している。P L 91-46 は、閃緑岩製の磨石。1/2 以上を欠損する。47 は、砂岩製のスタンプ形石器。48・49 は、閃緑岩製の石皿。1/3 を欠損する。表裏面を使用し、側縁端部に敲打痕が観察される。

[時 期] 出土遺物より判断して、縄文時代早期撚糸文期。

5. 火葬墓

標高 60.6～60.8m 付近に立地する。この場所は、台地上の平端部南側で東方から南面を経て西方に続く谷に張り出す位置に当たり、北側は台地奥に連続する。風水に適う適地に占地していると思われる。火葬遺構は 2 か所検出され、東側を第 2 号火葬墓、西側を第 1 号火葬墓とした。なお、第 1 号火葬墓は茶毘跡に設置され、第 2 号火葬墓は蔵骨器のみの埋納であった。第 1 号火葬墓の南斜面下に 44m 離れて第 19 号住居跡が位置している。

なお、第 2 号火葬墓の周囲には、時代・性格不明の小ピット、円形土坑、長方形土坑が存在する。方位や形態に特徴や共通性がなく、土葬墓であった可能性もあるが、火葬墓と共に集団墓を構成していたとは想定していない。

第 1 号火葬墓(P L 128・129、図版 9・27)

[位 置] F-12 グリッド内に所在する。第 2 号火葬墓とは西側に 28m 隔てて位置する。

[形 状] 一部に攪乱が入るが、1.0m×1.1mの方形をしており底面は西寄りで鍋底状に窪んでいる。深さは 31cm を測り、層位は 3 層に区分される。この土坑内に焼土や炭化材が混在する第 2 層が広がることから、茶毘の範囲に相当すると思われる。蔵骨器埋納坑は第 2 層を 74 cm×45cm の長方形に掘り込み、第 3 層の埋土中に蔵骨器を設置していた。蔵骨器は埋納坑底面に小石を置いて土師器甕を正立させ、須恵器蓋で覆っていた。甕底部には、骨粉状となった埋納骨が僅かに遺存していた。須恵器蓋も甕内に落ち込んでおり、当初より遺骨の埋納は少量であった可能性がある。蔵骨器体部の大半が失われており、口縁部等や須恵器蓋が甕内へ落ち込んだ後、かなりの削平が及んでいたと思われるが、蔵骨器確認面が周囲の地山より 5cm ほど高い位置に検出されたことから、当初は塚状の盛土が存在していたと思われる。

[遺 物] 蔵骨器は、須恵器蓋 (P L 129-1) と土師器甕 (P L 129-2) で、日用品を転用していたと思われる。蓋は甕内に落ち土圧で潰れた状態で検出されたため、ほとんどの部位が残り完形に復元できたが、土師器甕は胴部中位から下半のほとんどを失っていた。須恵器蓋は、口径 19.7cm、器高 3.4cm、環状つまみ径 5.3cm を測る。天井部を回転ヘラケズリ調整し、以下内面までロクロ目が残る。反りの緩い弓状形態をとり、端部を三角状につまみ出している。内面は天井平坦面に使用痕と思われる磨減が観察される。転用硯であったかもしれない。青灰色を呈し、胎土は選良される。南比企窯産で鳩山窯Ⅲ期～Ⅳ期に相当すると思われる。

土師器甕は、口縁部径 17.4cm、器高 26.4cm、胴部に最大径を持ち 23.4cm を測る。口頸部から胴部は横ヘラケズリ、体部下半から斜目ヘラケズリで整形される。口縁部は同じ厚さで、外反気味

に開く。蔵骨器に転用の多い長胴甕ではないことから、埋納骨量に見合った小型のものが使用されていると思われる。焼成良好で、茶褐色を呈し底部には焼成後の穿孔が施されている。須恵器の年代と同じく8世紀中ごろから後半のものと思われる。

第2号火葬墓(P L 128・129、図版9・27・39)

〔位置〕 J-8グリットに位置する。

〔形状〕 本火葬墓も、上部構造の大半は後世の削平を受けて消滅している。蔵骨器を納める土坑は、上面楕円形で74 cm×65 cm、深さ60 cmの穴底に、北側に片寄せた状態で蔵骨器が検出された。硬質なローム層を穿ち、穴底面にロームブロック塊を敷き、その上位に蔵骨器を正位で設置し、掘削したローム土で埋め戻している。覆土中には全く遺物を混在しておらず、蔵骨器を外護する施設や遺物も見いだせなかった。蔵骨器の上蓋は土圧のため破碎していたが、破片は壺身内には落下せず埋納時の位置で遺存していた。

〔遺物〕 蔵骨器は、須恵器蓋(P L 129—3)と短頸壺(P L 129—4)で、有蓋短頸壺一組として誂えた製品である。蓋の天井上面と内面には「×」の刻線が刻まれ、短頸壺底部に刻まれた「×」刻線と一致する。蓋は宝珠型のつまみを有し、平坦な天井からハの字状に口縁を伸ばし、薄く丸く口縁端部を納める。天井部は回転ヘラケズリ調整を施すが、内面はロクロ目のまま残されている。口径は14.0cm、口縁高2.5cm、宝珠つまみ直径2.1cm、つまみ高1.3 cmを測る。胎土は小砂を含む程度で精選され、黒青色を呈し堅緻に焼成される。

短頸壺は、口径より底径がやや上回り、胴が膨らむどっしりとした造りで、垂直に立ち上がる短く薄い頸部とハの字型に踏ん張る台脚を持っている。体部外面は、上位と下半で反転させて回転ヘラケズリ調整をしている。胴部外面の中位以下には自然釉が付着しているが、肩部のものは大部分剥落していた。高台は後付け、胎土・焼成は蓋と同様である。穿孔などの加工はない。口径12.3cm、胴部最大径23.3cm、高台径14.3cm、器高18.5 cmを測る。内容量はおよそ4.670 cm³である。

この有蓋短頸壺は南比企窯跡の製品で、宝珠形の蓋つまみや、口径より底径が大きく、肩や胴部の張る形態の特徴から、鳩山窯編年に示される「短頸壺Aタイプ」に相当し、同編年のⅢ期にあてられる。

〔火葬骨〕 短頸壺内には、肩付近まで火葬骨と砂質土で満されていたが、焼土・灰・木炭等はほとんどなかった。火葬骨の納入状態はおおむね3～4 cmの骨片となった頭骨片や四肢骨、肋骨の小破片が上位に置かれ、以下は混在した小破片であった。大白歯などの歯も数点含まれていた。大部分の遺骨は白色や灰色を呈し、四肢長骨は長軸方向や横方向の歪み断裂や亀裂が目立つことから、軟部の残るうちに火葬されており、高温で長時間焼かれたものと思われる。遺骨の詳細な鑑定は、後節に譲るが、遺骨は成人男性とされる。本蔵骨器に納骨された遺骨の総量は約670 gであり、成人の骨量としてはかなり少ないと判断されることから、他地点での茶毘後、特定の部位のみを収骨しており、この蔵骨器への保存分の他は遺棄されたか、別途分骨している可能性も考えられよう。

6. 溝 跡

溝跡は3条確認されている。

第1号溝跡 (P L130、図版2)

[位 置] S-13~17、T-11~13、U-0・9~11、V-1~5、W-5・6グリットに位置する。

[形 状] 平面形は、U-0グリット~W-7グリットにかけて北西—南東方向に、W-7グリットで方向を北東—南西方向に角度を変え、S-13グリットで再び南北方向に方向を変えている。南北端は調査区外に延び、全体の形状は不明。上面幅72cm、深さ32cm、調査区内で全長91.2mを測る。溝底の標高は、W-6グリット付近で59.320mと最も高く、北端部で58.870m、南端部で58.839mを測る。覆土は8層に分層され、自然堆積を示す。

[遺 物] 覆土中に、縄文土器・石器が出土する。溝の埋没過程で周囲より流入したものと判断され、本遺構に伴う遺物ではないと判断される。

[時 期] 覆土より判断して、中世~近世。

第2号溝跡 (P L131、図版2)

[位 置] L-13、M-14・15、N-15・16、O-16グリットに位置する。西側に第3号溝跡が並行する。

[形 状] L-13グリットからO-16グリットにかけて直線的に確認されている。南端は調査区外に延びる。上面幅82cm、深さ38cm、調査区内で全長24.2mを測る。断面は、箱葉研型を呈する。溝底の標高は、北端で60.533m、南端で60.104mを測る。

[遺 物] 覆土中に、縄文土器・石器が出土する。溝の埋没過程で周囲より流入したものと判断され、本遺構に伴う遺物ではないと判断される。

[時 期] 覆土より判断して、中世~近世。

第3号溝跡 (P L131、図版2)

[位 置] E-6・7、F-6・7、G-8、H-8~10、I-10・11、J-11・12、K-13、L-14・15、M-15・16、N-16・17グリットに位置する。東側に第2号溝跡が、一部並行する。

[形 状] E-6からN-17グリットにかけてほぼ直線的に確認されている。南北端は調査区外に延び、全体の形状は不明。上面幅92cm、深さ42cm、調査区内で全長70.8mを測る。断面は、箱葉研型を呈する。溝底の標高は、北端で60.818mと最も高く、中央付近のJ-12グリットで60.518m、南端で60.175mを測る。

[遺 物] 覆土中に、縄文土器・石器が出土する。溝の埋没過程で周囲より流入したものと判断され、本遺構に伴う遺物ではないと判断される。

[時 期] 覆土より判断して、中世~近世。

第3節 遺構外出土遺物

1. 土器 (P L 92~107、図版 14~26)

遺構外からは、縄文時代早期と後期に属する土器が出土している。主体は、早期撚糸文土器であるが、当地域では初見の早期判ノ木山西式類似土器や、子母口式土器が少量ではあるが出土しており、注目される。

第1群土器 (P L 92~101、図版 14・15・21~24)

縄文時代早期撚糸文系土器に比定されるもの。表裏面に撚糸文が施文される第1類土器、口唇部文様帯+口縁部文様帯+胴部文様帯の3文様帯構成をとる第2類土器、口唇部文様帯+胴部文様帯の2文様帯構成をとる第3類土器、口唇部上端に施文がなく、口唇部成形後、口端部から文様施文がおこなわれる第4類土器、口端部から施文した後に口端部を成形する第5類土器、口縁部に無文部を設ける第6類土器、口唇部下に若干の無文部を設けて、粗く縄文・撚糸文を施文する第7類土器、条線文の施文される第8類土器、口唇下に爪形が施文される第9類土器。無文の第10類土器、底部片の第11類土器に大きく分類される。

第1類土器：(P L 92-1、図版 14・21)

1点のみ出土している。1は、薄手のつくりで、口唇部がやや肥厚し外反する。細い撚糸Rを、口唇部から裏面にかけて横位に、口縁部に縦位に浅く施文している。

第2類土器：(P L 92-2~9・18・19、P L 93-22・23・32、図版 14・22)

2は、口唇部が肥厚し、大きく外反する。単節 RL 縄文を、口唇上端と外端と口唇下に3段施文するため、口端部は角頭状を呈する。口唇下に、爪形の残る指頭圧痕が加えられ、成形により口唇下の縄文が一部磨り消されている。口縁部には、単節 RL が横位施文されている。口縁部文様帯の幅は、残存幅で 3.5 cmを測る。胎土は、赤褐色を呈する堅緻な土器。3は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL を口唇部上端と外端に2段施文し、口縁部には縦位施文した後横位施文されている。胎土は、赤褐色を呈する堅緻な土器。4は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇上端と外端に2段施文し、口縁には横位に施文している。5は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇上端と外端に2段施文し、口縁部には横位施文している。口唇下に指頭による成形が行われ、口縁上部の縄文が磨り消されている。6は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇上端と外端に2段施文した後、重複部に撚糸側面圧痕を1条施文している。口縁部には、単節 RL 縄文が横位施文されている。7は、口縁下端から胴部上半の破片。口縁部に、単節 RL 縄文を横位施文した後、太い単節 RL の撚糸側面圧痕を鋸歯状に施文している。胴部には、口縁部と同様の施文具により縦位施文している。胎土は、赤褐色を呈する堅緻な土器。8は、7と同様の文様構成をとる別個体。口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇上端と外端に単節 RL 縄文を2段施文している。口縁部文様帯の幅は 3.0 cmを測る。9は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇上端と外端に2段施文し、口縁には横位に施文している。口唇下には指頭圧痕が加えられ、横位の縄文が磨り消されている。18は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。破片左端に補修孔が観察される。単節 RL 縄文が口唇部外端に施文され、口縁部は斜位に施文されている。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が加えら

れている。19は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が口唇部上端と外端に2段施文され、口縁部は斜位に施文されている。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が加えられている。22は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇内端と上端と外端に3段施文している。口唇下には指頭圧痕が加えられている。23は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に2段施文され、口縁部は斜位に施文される。口唇下は、指頭圧痕による成形が行われ、縄文が磨り消されている。32は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。破片右下に補修孔が観察される。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に2段施文され、口縁部は斜位に施文される。口唇下は、爪形の残る指頭圧痕が加えられている。

第3類土器：(P L 92-10~17・20・21、P L 93-24~31・33~42、P L 94-43~74、P L 95-81・82、P L 97-123、図版 14・15・22・24)

10は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇外端に施文し、胴部に縦位施文している。口唇下には軽く指頭圧痕による成形が行われている。11は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇部外端に、単節 RL 縄文を2段施文し、胴部に縦位施文している。口唇下には指頭圧痕による成形が行われており、縄文の胴部施文の上端が磨り消されている。12は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rを口唇上端に施文し、口唇下に絡条体圧痕文を施文し、その後、指頭圧痕による成形が行われており、一部絡条体圧痕が磨り消されている。胴部は縦位施文される。13は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇上端に2段施文し、胴部に縦位施文している。口唇下には指頭圧痕による成形が行われており、縄文が磨り消されている。14は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇部上端に施文し、口唇外端は無文となる。口唇下には単節 RL 縄文の側面圧痕が施文され、胴部は撚糸Rを縦位施文している。15は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rを口唇上端に施文し、胴部に縦位施文している。口唇下には、撚糸文施文後に指頭圧痕による成形が行われている。16は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が口唇部外端に2段施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には、指頭圧痕による成形が行われ、縄文が部分的に磨り消されている。17・31は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。細い単節 RL 縄文が口唇部上端と外端に2段施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が加えられている。20は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が口唇外端に施文され、胴部は縦位施文される。口唇下は、指頭圧痕による成形が行われており、縄文が磨り消されている。21は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。撚糸Rが口唇部上端と外端に2段施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には指頭圧痕が加えられており、撚糸文が一部磨り消されている。24は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に2段施文され、胴部は縦位施文されている。口唇下には爪形の残る指頭圧痕が加えられ、縄文を磨り消している。25は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rが口唇外端に施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には指頭圧痕が加えられており、撚糸が磨り消されている。26は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を口唇外端に施文し、胴部に縦位施文している。口唇下には、指頭圧痕が加えられ、縄文が磨り消されている。27は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に2段施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には指頭圧痕が加えられ、縄文が磨り消されている。28は、口唇部が外反し、角頭状を呈す

る。単節 RL 縄文が、口唇上端と外端に2段施文され、胴部は縦位施文される。口唇下は、指頭圧痕が部分的に加えられている。29 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇上端に施文され、胴部は縦位施文される。口唇下は、指頭圧痕が加えられ、撚糸文が部分的に磨り消されている。30 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部外端に施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には、指頭圧痕が加えられている。33 は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部外端に施文され、胴部に縦位に施文されている。口唇下には、指頭圧痕が加えられている。34 は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部外端に施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には、指頭圧痕が加えられ、部分的に縄文を磨り消している。35～37 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇部上端と外端に2段施文し、胴部は縦位施文される。口唇下には、指頭圧痕が加えられている。38 は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 LR 縄文が、口唇部上端と外端に2段施文され、胴部に縦位施文される。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が加えられている。39・40・42 は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端と外端に2段施文され、胴部に縦位施文される。口唇下には、指頭圧痕が加えられ、縄文を磨り消している。41 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端に施文され、胴部は縦位に施文される。口唇下には、指頭圧痕が加えられ、縄文が磨り消されている。43 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇部外端に施文し、胴部に縦位施文している。口唇下には爪形の残る指頭圧痕が加えられている。44 は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端に施文されている。口唇下には爪形の残る指頭圧痕が加えられている。45 は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇部上端に施文され、胴部は縦位施文されている。口唇下には爪形の残る指頭圧痕が加えられている。46 は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、胴部は縦位施文される。口唇下には、爪形の残る指頭圧痕が加えられている。47 は、口唇部がやや外反する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、口唇下に絡条体圧痕を施文し、胴部は縦位施文される。48 は、口唇部が外反する。単節 RL 縄文が、口唇部上端に施文され、口唇下には撚糸圧痕文が強く横位施文され、胴部は浅く縦位施文されている。49・57 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、外端は幅1cm程の無文帯となる。口唇下には、絡条体圧痕が施文され、胴部はやや斜位に施文されている。50 は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に2段施文され、外端は幅8mm程の無文帯となる。口唇下には、絡条体圧痕文が施文されているが、磨り消されている。51 は、口唇部が外反し、肥厚角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端と外端に3段施文されている。口唇下には、絡条体圧痕状に原体を強く押し付け、胴部へそのまま縦位施文している。52・53・58 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、外端は8mm程の無文帯となる。口唇下には、絡条体圧痕状に原体を強く押し付け、胴部へそのまま縦位施文している。54 は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。撚糸Rを、口唇部上端と外端部に2段施文している。口唇下には、絡条体圧痕状に原体を強く押し付け、胴部へそのまま縦位施文している。55 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、外端から胴部にかけて縦位施文している。口唇下には、施文具を止めて強く施文し、絡条体圧痕の効果を出している。56 は、口唇部がやや外反し、肥厚角頭状を呈する。単節 RL 縄文を、口唇部上端から外端に

2段施文している。口唇下には、撚糸圧痕文を横位に施文し、胴部は縦位に施文している。59は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、外端から胴部にかけて縦位施文している。口唇下には、施文具を止めて強く施文し、絡条体圧痕の効果を出している。60は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸Rを、口唇部上端に施文し、外端を無文帯としている。口唇下には、撚糸原体を強く押し付け、絡条体圧痕文状とし、以下原体を回転せず器面を垂下させており、見た目の効果は撚糸文と同じであるが、縦位の条痕となっている。61は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈している。単節RL縄文が、口唇部外端に施文され、以下無文となっている。62・63は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈している。単節RL縄文が、口唇部上端に施文され、外端は無文帯となっている。胴部には同様の施文具により縦位施文されている。64は、口唇部がやや外反し、肥厚丸頭状を呈している。単節RL縄文が、口唇部外端に施文され、口唇下は幅狭い無文帯となり、胴部には縦位施文されている。64は、口唇部がやや外反する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、外端は無文帯となっている。胴部には、同様の施文具により縦位施文されている。66は、口唇部が外反する。単節RL縄文が、口唇部外端に施文され、口唇下は1cm程の無文帯となり、胴部には縦位施文されている。67・70は、同一個体。口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、口唇外端は1cm程の無文帯となり、胴部には縦位施文されている。68は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、外端は無文帯となる。口唇下には、施文具を一旦強く押し付けて絡条体圧痕文状にし、続けて胴部へ縦位施文している。69は、口唇部がほぼ真っ直ぐに立ち上がり、無肥厚。撚糸Rが、口唇部上端に施文され、口縁上部に幅狭い無文部を残し、縦位施文されている。71は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rが、口唇上端と外端に2段施文され、口唇下より胴部に縦位施文されている。口唇下には爪形の残る指頭圧痕が加えられている。72は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節RL縄文が、口唇部上端に施文され、胴部にも縦位施文されている。73は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇上端に施文され、口唇外端から胴部にかけて、縦位羽状に施文されている。74は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。撚糸Rが、口唇上端に施文され、外端部は成形され、幅狭い無文帯となっている。胴部には撚糸Rが縦位施文され、両方向より穿孔された補修孔が確認される。81は、口唇部が外反し、やや肥厚する。単節RL縄文が、口唇外端に横位施文し、口唇下より胴部にかけて縦位施文している。82は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇上端に単節縄文RLが施文され、口唇外端より胴部にかけて縦位施文されている。123は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸Rが、口唇上端から外端に施文され、口唇下より縦位施文されている。口唇下には指頭圧痕が加えられており、両方向から穿孔された補修孔が確認される。推定口径15.1cmを測る。

第4類土器：(P L94-75~78、P L95-79・80、83~94・96・100、P L96-108~111・115・121、P L97-124~126・P L98-129、図版14・15)

75は、肥厚丸頭状口唇を呈する。口唇下に撚糸文を縦位に施文した後、指頭圧痕を加え、撚糸文が擦り消されている。76は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口唇下から胴部にかけて撚糸Rを縦位施文し、口唇下には指頭圧痕が連続して加えられており、撚糸文を磨り消している。77は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。口唇下から胴部にかけて単節縄文RLが縦位に施文され、口唇下には間隔を空けて指頭圧痕が加えられている。78は、口唇部がやや外反する。口唇端部より、単節RL縄文が縦位

施文され、口唇下には間隔を空けて、指頭圧痕が加えられている。79 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇外端にやや斜位に施文され、口唇下に縦位に施文されている。80 は、口唇部が外反し、やや肥厚する。撚糸 R が、口唇外端に横位施文され、口唇下には縦位に施文されている。83 は、口唇部がやや外反し、肥厚する。単節縄文 RL が、口唇端部と口唇下から胴部にかけて縦位施文されている。口唇部は、成形後縄文が施文されている。84 は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇端部に施文し、口唇下に短く撚糸圧痕状に施文した後、胴部に縦位施文している。口唇部は、成形後縄文が施文されている。85 は、口唇部がやや外反する。撚糸 R が、口唇下に絡条体圧痕状に押し付けられており、胴部には縦位施文されている。小形土器。86 は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇下に撚糸圧痕状に施文され、胴部には縦位に施文されている。87 は、口唇部がやや外反し、角頭状を呈する。撚りの緩い撚糸 R が、口唇外端にやや斜位に施文され、口唇下より縦位施文されている。88 は、口唇部がやや外反する。撚糸 R が、口唇外端に斜位に施文され、口唇下に絡条体圧痕状に短く施文され、胴部は縦位に施文されている。89 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文が、口唇外端に施文され、口唇下に撚糸圧痕状に短く施文し、胴部に縦位施文している。90 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇下に絡条体圧痕状に短く2段施文され、胴部に縦位施文されている。91 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。撚糸 R が、口端部に横位に施文し、口唇外端に短く、胴部に縦位施文されている。92 は、口唇部が外反し、肥厚丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇外端に短く施文され、口唇下よりやや斜位に施文されている。93 は、単節 RL 縄文が、口端部に横位施文され、口唇下より縦位に施文されている。94・108～111 は、口端部より単節 RL 縄文が縦位に施文されている。96 は、口端部に短く単節 RL 縄文を施文した後、胴部に縦位施文している。100 は、口唇部が外反する。口端部より撚糸 R が斜位に施文されている。115 は、口唇部が外反する。単節 RL 縄文が口端部より施文される。破片中央に未貫通となる円形の窪みが観察される。121 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。撚糸 R が、口端部より縦位に、胴部下半は斜位に施文されている。推定口径 22.3 cm を測る。124 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。口端部より撚糸 R が縦位に施文される。推定口径 20.2 cm を測る。125・126 は、口唇部が肥厚丸頭状を呈する。口端部より、単節 RL 縄文が縦位施文されている。125 は推定口径 27.4 cm、126 は 31.7 cm を測る。129 は、口唇部が外反する。口端部より単節 RL 縄文が施文されている。推定口径 22.0 cm を測る。

第5類土器：(P L 95-95・97~99・101・102、P L 96-114・116・117・120、P L 98-130・131 P L 99-132、図版 14・15)

95 は、口唇部が外反し、やや肥厚する。口端部から撚糸 R を斜位に施文した後、口端部を成形している。破片中央やや左側に、両方向から穿孔された補修孔が観察される。97~99 は、口端部から単節 RL 縄文を施文した後、口端部を成形している。101 は、口端部より撚糸 R を施文した後、口端部を成形している。102 は、口唇部がやや肥厚し丸頭状を呈する。口端部より、撚糸 R を斜位に施文した後、口端部をやや広く成形している。114 は、口唇部が外反し、丸頭状を呈する。撚糸 R が、口唇下より縦位施文されている。116 は、口唇部がやや肥厚する。単節 RL 縄文を、口端部より施文後、口端部を成形している。117 は、口唇部がやや外反する。撚糸 R を口端部より施文した後、口端部を成形している。120 は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節 RL 縄文を口端部より施文した後、口端部を成形して

いる。130・131は、口端部より単節RL縄文を施文した後、口端部を成形している。130は、推定口径23.5 cm、131は、25.8 cmを測る。132は、口唇部が角頭状を呈する。単節RL縄文が、口端部に斜位に施文され、口唇下に縦位施文している。

第6類土器：(PL95-103~105、PL96-107・112・113・118・119・PL97-122、PL98-127、PL99-134、PL100-149、図版14・15)

103~105、107は、口唇部がやや外反し、丸頭状を呈する。単節RL縄文を胴部より縦位に施文している。口縁部は無文となる。112は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。単節RL縄文を胴部より縦位施文している。口縁部は無文となる。113は、撚糸Rが、胴部より縦位施文されている。口縁部は幅狭い無文となる。118は、口唇部がやや肥厚する。単節RL縄文を胴部に施文し、口縁部は無文となる。破片やや左寄りに補修孔が穿たれている。119は、口縁部が外反する。細い撚糸Rが、胴部にやや斜位に施文され、口縁部は無文となる。122は、口唇部がやや外反する小形の土器。胴部に撚糸Rを施文し、口縁部は無文となる。134は、口唇部が丸頭状を呈する。太い単節RL縄文を胴部より縦位施文している。149は、口唇部が外反し、角頭状を呈する。口唇部が無文となり、口唇下に撚糸Rを、絡条体圧痕状に押し付け、以下連続して、胴部に回転させずに条痕状に縦位施文している。

第7類土器：(PL98-127、PL99-133・135~138・141、図版15)

127は、口唇部がやや外反する。撚糸Rが、胴部に施文され、口縁部は無文となる。133・135~138・141は、口唇部が丸頭状を呈し、口唇部下に若干の無文部を設け、緩い撚糸Rを粗く施文している。136は推定口径24.2 cm、137は推定口径23.6 cm、138は推定口径27.0 cmを測る。

第8類土器：(PL96-106、PL98-128、PL99-139・140・142・143、PL100-146、図版14・15・24)

106は、口唇部がやや外反する。口端部より櫛歯状工具による条線を縦位施文した後、口端部を成形している。128は、口唇部がやや外反する。口端部より櫛歯状工具による条線が縦位施文されている。推定口径20.3 cmを測る。139は、小形の土器。口端部より櫛歯状工具による条線が縦位施文されている。推定口径11.2 cmを測る。140は、口唇部が肥厚丸頭状を呈する。口端部より櫛歯状工具による粗い条線を縦位施文した後、口端部を成形している。推定口径14.4 cmを測る。142・143は、口唇部が外反する。口端部より櫛歯状工具による条線を斜位に施文した後、口端部を成形している。143は、推定口径19.8 cmを測る。146は、口端部より櫛歯状工具による条線を縦位施文した後、口端部を成形している。推定口径16.5 cmを測る。

第9類土器：(PL100-144・147・148、図版15・24)

144は、口唇部がやや外反する小形の土器。口唇下に間隔の空いた爪形が縦位に施文され、胴部は無文となる。147は、口唇部下に爪形が横位に連続施文され、胴部は無文となる。148は、口唇下に横位の爪形が不規則に施文され、胴部は無文となる。

第10類土器：(PL100-145・150~161、図版15)

145は、口唇部が丸頭状を呈する、薄手の無文土器。150は、推定口径12.0 cmを測る。151・153・155は、口唇部が外反し、丁寧な器面成形が行われている。151は推定口径15.8 cm、153は推定口径7.8 cm、155は推定口径12.6 cmを測る。156は胴部下半の破片。

第11類土器：(P L100-162・163、P L101-164~170、図版15)

162~167は、単節RL縄文が施文されている。167には、同心円状の成形痕と思われる擦痕が観察される。

第2群土器 (P L101-1~11、図版15・24)

縄文時代早期押型文系土器に比定されるもの。

1は、口縁部に山形押型文が横位に施文され、口唇部にも同一工具による山形押型文が施文されている。2は、胴部破片。山形押型文が縦位に施文されている。3~11は、楕円押型文が施文されている。

第3群土器 (P L102-1、図版15・25)

縄文時代早期貝殻沈線文系田戸上層式土器に比定されるもの。

1は、2条の沈線間にハ字状沈線を充填している。口唇部は角頭状を呈し、胎土に細かい雲母片を含む。内面は、横位の細かい擦痕が残る。

第4群土器 (P L102-2~P L103-39、図版15・16・25・26)

縄文時代早期条痕文系子母口式土器に比定されるもの。角棒状・丸棒状・半裁竹管工具により文様を描出する第1類土器、沈線により文様を描出する第2類土器、絡条体圧痕文が施文される第3類土器、条痕のみ観察される第4類土器に分類される。胎土に繊維を微量含む。

第1類土器：(P L102-2・3・5~13・15・29・31、図版15・16・25)

2は、角棒状工具により、口唇部に刺突を加え、口縁上部に横位に押し引き状に施文している。3・13は、先端のやや尖った丸棒状工具により口唇部に刺突を加えている。5・8・9・15・31は、半裁竹管により口唇部に押引文を施文している。6は、口唇部に丸棒状工具を横位に押し付け、刻みを加えている。7は、半裁竹管により、口唇部に刺突を加えている。10は、口唇部に半裁竹管により、斜位の刺突列を施文している。11は、口唇部に角棒状工具による刺突列を加えている。12は、口唇部に斜位に刻みを加え、口縁上部に角棒状工具による押し引き文を施文している。29は、幅広の隆帯上部に斜位の刻みを施し、中央に角棒状工具による連続押し引き文を施文している。

第2類土器：(P L102-16~18・23・30、図版15・16・25)

16~18・23は、同一個体。外削ぎ口縁を呈し、口唇部は波状と短沈線が施文され、口縁部には浅い沈線が不規則に施文される。30は、口縁部がやや外反し、口唇部上に斜位に沈線で刻みを加えている。

第3類土器：(P L102-19~22・24~28・P L103-37~39、図版16・25・26)

19・20・24~26・39は、口縁上端の段帯部に、斜位に絡条体圧痕文を施文している。39は、推定口径25.6cmを測る。21は、口縁上端の段帯部と、口縁部の弧状に貼りつけた隆帯上に絡条体圧痕文を施文している。胎土に細かい雲母片を含む。22は、角頭状口縁を呈し、口唇部上に絡条体圧痕文を斜位に、口縁部には、幅広の低い隆帯上に絡条体圧痕文を斜位に施文している。27は、幅3.5cm程の幅広で低い隆帯を貼付し、中央に背割り状に沈線を施文し、上下に羽状に絡条体圧痕文を施文している。隆帯右側には、斜位に鋭い沈線が3条施文されている。28は、口縁上端の段帯部に斜位に絡条体圧痕文を施文し、

口縁部に細かい擦痕状の沈線が不規則に施文されている。37は、タガ状に貼付した隆帯上に、絡条体圧痕文を施文している。薄手のつくりで、胎土にほとんど繊維を含まない。38は、3 cm×2.3 cm程に楕円形の隆帯を斜位に貼付し、中央に背割り状沈線を施文し、両側に絡条体圧痕文を施文している。隆帯の周囲には、数条の弧状の沈線が施文されている。薄手の作りで、胎土にほとんど繊維を含まない。

第4類土器：(P L102-4・14・32~34、図版15・16)

4・14・32~34は、表裏面に条痕を残す口縁部片。36は、尖底部付近。条痕が縦位に観察される。

第5群土器 (P L103-40~63、図版16・26)

縄文時代早期判ノ木山西式土器に類似するもの。胎土に微量の繊維を含む。口縁部上端に刺突列を巡らせ、その下に幅広い文様帯を設ける第1類と、無文で横位または斜位の擦痕などの調整痕を残す第2類に分類される。

第1類土器：(40~46・48・49・63)

1~6は、口唇部に半裁竹管による刺突列を施文し、同様の工具で、口縁部に波状の平行沈線を施文している。竹管の直径は6 mm程。40は、口縁部がやや外反し、41・42はほぼ直立している。43は、口唇部に円形竹管による刺突列を2列施文し、口縁部に、斜位の波状沈線を施文している。44は、口縁部に綾杉状に沈線を施文している。45・46は、多載原体で綾杉状に沈線を施文している。48は、半裁竹管で、口縁下にタガ状に沈線を巡らせ口縁部文様体を区画し、沈線を垂下させ、波状沈線を巡らせている。49は、細い波状沈線が施文されている。胎土に細かい雲母片を含む。63は、推定口径32.5 cmを測る。口唇部がやや肥厚し外反する。口唇部及び口縁部上端には、直径6 mm程の円形竹管による2列の刺突列を施文する。口縁部には、同様の工具による斜位の沈線が施文されている。

第2類土器：(47・50~62)

47は、多載原体によるものと思われる横位の擦痕が残る、口縁部片。50~58は、多載原体によると思われる横位、斜位、綾杉状の細かい擦痕が残る。59~62は、やや粗い擦痕が残る、口縁部片。62は、やや口縁が外反する。

第6群土器 (P L104・105、図版16・17)

縄文時代後期称名寺式に比定されるもの。沈線間に縄文と列点が充填される第1類、沈線間に縄文が充填される第2類、沈線間に列点を充填する第3類、沈線のみで文様を描出する第4類、縄文のみ施文される第5類 (P L105-27) に分類される。

第1類土器：(P L104-16、図版16)

16は、浅鉢形土器。内傾気味に立ち上がる口縁部に、楕円形の沈線区画が配され、列点と縄文が充填される。推定口径35.0 cmを測る。

第2類土器：(P L104-1・2・7・10~12・15、P L105-17・19~22・24・25、図版16)

1は、垂下する隆帯上に円形竹管が刺突される。薄手の土器。2は、X字状モチーフが沈線で描かれ、縄文を充填している。12は、胴部に渦巻き文が施文され、沈線間に縄文が充填される。加曾利E式土器の可能性もある。17は、J字状のモチーフになるものと思われる。

第3類土器：(P L104-3~6・8・9・13・14・16、P L105-18・28・29、図版17)

14・28・29は、X字状またはM字状の文様が崩れたもの。14は、推定口径21.2 cm、28は、推定口径28.5 cm、29は、やや大型で39.4 cmを測る。28は、胴部で括れる器形。13は、胴部下半の破片で、垂下する沈線間に列点が充填されている。

第4類土器：(P L105-23・26、図版16)

23は、口縁部が幅狭い無文帯となり、下部に6条の沈線で窓枠状の区画が施文されている。

第5類土器：(P L105-27、図版16)

27は、ほぼ直立する胴部片。RL単節縄文が横位または縦位に施文される。

2. 土製品 (P L106~109-21・22・25~32・34・35・39・45・49~60・62~107、図版12・13、第11表)

遺構外からは、72点の土製円盤が出土している。側面を全周研磨しているもの(26・49・54・62・70・79・83・88・92・105)、側面を部分的に研磨しているもの(34・50・51・53・55・57・58・60・66~69・75・89~91・93・96・99・104・106・107)、側面を全周打欠しているもの(21・22・25・27~32・35・39・45・56・63~65・71~74・76~78・80~82・84~87・94・95・97・98・100~103)がある。58・94は、称名寺式土器片を利用している。59は、裏面より先端のやや尖った丸棒状工具により、貫通しない孔が穿たれている。1/2欠損。70は、両側縁に、棒状工具で幅5 mm、深さ2 mm程の、擦り窪めたとされる括れがある。この括れにひもを括り付けて、錘として使用した可能性が高い。重量11.1 g。83は、表裏面より先端のやや尖った棒状工具により、貫通しない孔が穿たれている。90は、表面に先端のやや尖った丸棒状工具により、貫通しない孔が穿たれている。

3. 石器 (P L110~125、図版31・32・35~39、第12~37表)

遺構外からは、石器が総数1,888点出土している。石器の帰属時期については、縄文時代早期・後期の土器が出土しているが、概ね8割が早期撚糸文期であることから、石器群もその割合に近い値で該期に位置づけられる蓋然性が高い。出土した石器群の内訳は次の通りである(第11表)。ナイフ形石器1点、石鏃51点、石鏃未製品18点、石鏃素材剥片26点、スタンプ形石器347点、剥片石器89点、石匙1点、石錐2点、石核10点、礫器265点、磨製石斧7点、打製石斧53点、石錘2点、ヘラ状石器3点、有孔礫1点、砥石22点、磨石818点、敲石23点、棒状礫器65点、凹石5点、石皿59点、有溝砥石18点、チャート原石2点。

ナイフ形石器 (P L110-1、図版37、第13表)

ナイフ形石器が1点出土している。石刃状の素材の打点部側を基部とし、その周辺を中心にブランディングが施されている。刃部側は欠損している。現存長3.8 cm、幅1.7 cm、厚0.5 cmを測る。石質は頁岩。

石 鏃 (P L110~111-2~45、図版37~39・第14表)

遺構外からは、51点が出土しており、そのうち44点を図示した。2は、最大長0.9 cmを測り、今回

の調査では最小品となる。縁辺からの加工は粗いが、完成品と判断した。石質はチャート。3は、縦に1/2欠損し、基部が丸張る形状と判断した。石質は黒曜石。4～7は、基部が僅かに括れる。完形品。石質はチャート。8は、基部が僅かに括れ、一部欠損する。石質はチャート。9は、基部が大きく括れる。完形品。石質はチャート。10は、基部が大きく括れ、一部欠損する。石質はチャート。11は、基部が僅かに括れ、一部欠損する。石質はチャート。12・13は、基部が大きく括れる。完形品。石質はチャート。14は、基部が直線的で一部欠損する。石質はチャート。15は基部が括れる。完形品。石質は黒曜石。16は、基部が括れる。先端部と基部を欠損する。石質はチャート。17は、基部が大きく括れる。先端部と基部の一部を欠損する。縁辺からの加工が粗い。石質はチャート。18は、基部が大きく括れる。基部の一部を欠損する。石質はチャート。19は、基部が僅かに括れる。完形品。石質は黒曜石。20は、基部が大きく括れる。先端部を欠損する。石質はチャート。21は、基部が突出する。基部の一部を欠損する。石質は黒曜石。22は、基部が大きく括れ、先端部が長く二等辺三角形形状を呈する。完形品。石質は黒曜石。23は、基部が僅かに括れ、一部を欠損する。石質は黒曜石。24は、基部が丸く張る。横長剥片を使用し、主要剥離面を大きく残す。縁辺からの加工も粗く、未成品の最終段階の可能性もある。石質は黒曜石。25は、基部が直線的となる。横長剥片を使用し、主要剥離面を一部残す。完形品。石質はチャート。26は、基部が直線的となる。縦長剥片を使用し、主要剥離面が一部残る。縁辺からの加工が粗く、未製品の可能性もある。石質はチャート。27は、基部が僅かに括れ、一部欠損する。石質はチャート。28は、基部が直線的となり、一部を欠損する。主要剥離面を残し、縁辺からの加工も粗いことから、未製品の可能性もある。29は、基部が大きく括れ、一部を欠損する。石質は黒曜石。30は、基部が僅かに括れる。縦長剥片を使用し、主要剥離面が一部残る。石質はチャート。31は、基部を欠損する。石質は黒曜石。32は、基部が大きく括れる。完形品。石質は黒曜石。33は、基部が大きく括れる。基部と側縁の一部を欠損する。石質は黒曜石。34・35・38・39は基部が括れる。完形品。石質はチャート。36は、基部が僅かに括れる。完形品。石質は黒曜石。37は、基部が直線的で長い。完形品。石質はチャート。40は、基部が大きく括れる。先端部を欠損する。縦長剥片を使用し、主要剥離面が一部残る。石質は頁岩。41・42は、基部が僅かに括れる。完形品。石質は黒曜石。42は、縦長剥片を使用し、主要剥離面が一部残る。43は、基部を欠損する。石質は黒曜石。44は、基部が括れる。完形品。石質は頁岩。45は、基部が括れ、一部欠損する。最大長3.5cmを測り、今回の調査では最大品となる。縁辺部より細かい加工が加えられている。石質は黒曜石。

石鏃未製品 (P L 111-46~52・図版 39・第 15 表)

遺構外からは18点が出土しており、そのうち7点を図示した。いずれも、チャート製の石鏃未製品。46は、縁辺に粗い加工を加え形状を整えている。裏面に、素材段階の主要剥離面を一部残す。47は、基部縁辺より加工が加えられているが、切断様剥離面が残る。裏面に素材段階の主要剥離面を残す。48は、基部に切断様剥離面を未加工のまま残す。基部以外の縁辺からの加工が加えられ、形状が整えられているが、裏面に素材段階の主要剥離面を残している。49は、表裏面に素材段階の主要剥離面を残す。基部及び1側縁に加工を加え形状を整えている。50は、基部に切断様剥離面を未加工のまま残す。縁辺からは一部に加工が加えられ、形状を整えている。51は、両極打法に類似する打撃法で得られた剥片に、

縁辺から加工を加え形状を整えている。縁辺の一部に自然面を残す。52は、縁辺に加工を加え、形状が整えられている。素材段階の主要剥離面が一部残り、厚みも調整されていない。

石鏃素材剥片 (P L 116—86~94・図版 31・第 16 表)

遺構外からは 26 点が出土しており、そのうち 9 点を図示した。石質は、89 のみ黒曜石で、他はチャート。86・87・88・90 は、中央部に最大厚をもつ横長剥片。86・90 は、1 側面に自然面を残す。89・93 は、縦長剥片。打面幅が狭く、一方の端部に最大幅を持つ。91・92 は、打面部に最大厚を持つ横長剥片。1 側縁に自然面を残す。94 は、1 側縁に切断様剥離による急角度剥離面が認められる。

スタンプ形石器 (P L 112~114—53~70・図版 31・35・第 17 表)

遺構外からは 347 点が出土しており、そのうち 18 点を図示している。53 は、1 側縁に加工が加えられ、底面整形が施され、底側剥離と底面磨耗が認められる。石質は砂岩。54 は、1 側縁の中央に加工が加えられ、底面剥離と底面磨耗が認められる。石質は閃緑岩。55 は、1 側縁に加工が加えられ、底面整形が施され、底側剥離と底面磨耗が認められる。上端部は欠損する。石質は閃緑岩。56 は、1 側縁に加工が加えられ、底面整形が施され、底側剥離と底面磨耗が認められる。扁平な 2 側縁に磨痕が認められる。石質は閃緑岩。57 は、底面整形が施され、底面磨耗が認められる。1 側縁後部に一部磨痕が認められる。上端部を一部欠損している。石質は砂岩。58 は、最大長 7.8 cm を測る小形品。底側剥離と底面磨耗が認められる。石質は閃緑岩。59 は、底面整形が施され、底側剥離と底面磨耗が認められる。石質は砂岩。60 は、フォルンフェルス製。61 は、底側剥離と底面磨耗が認められる。石質は閃緑岩。62 は、顕著な底側剥離と、僅かに底面周囲に磨耗が認められる。3 側面に磨痕が認められる。石質は閃緑岩。63 は、底面整形が施され、底面剥離と底面整形が認められる。先端部側面には敲打痕が認められる。石質は閃緑岩。64 は、底側剥離が一部認められ、顕著な底面磨耗が認められる。上端部が斜位に欠損しており、底面同様に磨耗が認められる。石質は閃緑岩。65 は、1 側縁に加工が加えられている。最大長 5.7 cm を測る小形品。側面に砥石として利用されたと判断される研痕が確認される。石質は凝灰岩。66 は、2 側縁に加工が加えられ、底面整形が施されている。被熱を受ける。石質は砂岩。67 は、1 側縁に加工が加えられている。底面整形が一部施されており、底側剥離と底面周囲に磨耗が認められる。石質は閃緑岩。68 は、1 側縁中央に加工を加えている。底側剥離と底面磨耗が認められる。石質は閃緑岩で、扁平な礫を素材としている。69 は、2 側縁に加工を加えている。底側剥離と底面前面に顕著な磨耗が認められる。石質は閃緑岩。70 は、1 側縁に加工を加えている。底面整形が施されており、一部に底側剥離と底面磨耗が認められる。上端部を欠損する。石質は砂岩。

剥片石器 (P L 115—71~73・75~85、図版 31、第 18 表)

遺構外からは 89 点が出土しており、そのうち 14 点を図示している。縦長の剥片を利用しているもの (73・75・83)、横長の剥片を利用しているもの (71・72・77・79・85) がある。石質はフォルンフェルスが多く、チャート、頁岩、凝灰岩のものもある。72・80 は、円形状を呈するラウンドスクレイパー。71・75~77 は、横長剥片を利用した扇状削器。79 は横刃形スクレイパーで、横断面が楔形を呈する。

79 以外は、エッジを未調整のまま使用する。81・82～85 は、片面に自然面を残し、不定型な形状を呈する。73 は偏刃で、エッジを未調整のまま使用する。熱を受け一部赤化している。

石 匙 (P L115-74、図版 31、第 19 表)

遺構外から 1 点出土している。31 は、つまみ部を欠損する。横長剥片を使用し、表面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。石質は粘板岩。

石 錐 (P L116-95・96、図版 31、第 20 表)

遺構外からは 2 点出土している。95・96 は、縦長剥片を使用している。表面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。石質は 95 が砂岩、96 がフォルンフェルス。

石 核 (P L116-97～99、図版 31、第 21 表)

遺構外から 10 点が出土しており、そのうちの 3 点を図示した。97 は、剥離面を打面として、多方向の打面を持つ。石質は、フォルンフェルス。98 は、自然面を剥ぐように剥片を剥離している。石質は頁岩。99 は、片面より打面を移動して剥片を剥離している。石質は頁岩。

礫 器 (P L116～118-100～123、図版 31、第 22 表)

遺構外からは、265 点が出土しており、そのうち 24 点を図示した。102・104 は、裏面の自然面を調整剥離で剥ぎ取っている。石核の可能性もある。石質はフォルンフェルス。103・111・112・114・116～121 は、横長の長軸方向に刃部を作出している。石質は、121 が凝灰岩で、他はフォルンフェルス。113・123 は、縦長の短軸方向に刃部を作出している。123 は、刃部とするには刃角が大きく、スタンプ形石器の可能性もある。石質は、フォルンフェルス。105・108・109 は、周縁部からの調整剥離で石斧状に成形されている。刃角が大きく石斧には分類できないと判断した。石質はフォルンフェルス。110 は、表面に一部自然面が残り、裏面は、調整剥離で、自然面を剥ぎ取っている。石質は、フォルンフェルス。

磨製石斧 (P L119-124～129、図版 31・36、第 23 表)

遺構外から 7 点が出土しており、そのうち 6 点を図示している。124 は、最大長 1.7 cm の局部磨製石斧のミニチュア品。表裏面に自然面を残す。石質は凝灰岩。125 は、両側縁を面取りし、1 端部を打欠いた後磨いている。扁平な局部磨製石斧と判断した。石質は凝灰岩。126 は、刃部を一部欠損する局部磨製石斧。表裏面に自然面を残す。石質は凝灰岩で、熱を受け赤化している。127 は、基部を一部欠損する磨製石斧。最大長 7.6 cm、刃部幅 5.5 cm を測り、長さに対し刃部の幅が広い。石質は蛇紋岩。129 は、最大長 16.1 cm、刃部幅 3.3 cm を測る、乳棒状磨製石斧。石質は緑色岩。

打製石斧 (P L119・120-130～147、図版 31、第 24 表)

遺構外から 53 点が出土しており、そのうち 18 点を図示した。130～132・141 は、刃部のみを加工

している片刃の石斧。石質は130が砂岩、131・141がフォルンフェルス、132が凝灰岩。133～135は、刃部がやや広がる撥形を呈する。小形品。片面に自然面を一部残す。石質はフォルンフェルス。136・137は、短冊形を呈する。石質はフォルンフェルス。136は、1側縁にも刃部を作出しており、礫器の可能性もある。137は表面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。138・139・142は、刃部がやや広がる撥形を呈する。石質はフォルンフェルス。140は、両面に自然面を残す。143は、不定型な形状で、丸刃をもつ。表面に自然面と、裏面に主要剥離面を残す。石質はフォルンフェルス。144は、不定型な形状で、裏面に自然面を残す。表面に自然面を残す。石質はフォルンフェルス。145は、短冊形を呈する。片面に自然面を残し、刃部を欠損する。石質はフォルンフェルス。146・147は、分銅型を呈する。片面に自然面を残す。石質はフォルンフェルス。

石 錘 (P L120-148、図版31、第25表)

遺構外から2点出土しており、そのうち1点を図示した。148は、砂岩製の打欠石錘。最大長5.0 cm、最大幅3.6 cm、重量31 g。自然礫の短軸方向を打ち欠いている。

ヘラ状石器 (P L120-150-152、図版32・36、第26表)

遺構外から、扁平なヘラ状の石器が3点出土している。刃部は無く、磨ってヘラ状に形状を整えていることから、ヘラ状石器として扱う。150は、残存長3.3 cmを測る。上端部のみ残存。石質は頁岩で熱を受け全体的に赤化している。151は、最大長8.2 cm、最大幅2.6 cmを測る。縁辺は光沢が出るほどに磨かれている(図版36参照)。下端部に細かい敲打痕が認められる。石質は、緻密な硬砂岩。152は、最大長8.2 cm、最大幅2.6 cmを測る。裏面が縦方向に10 cm程剥離している。1側面が面取りされており、1端部に擦痕状の細かい使用痕が観察される。石質は頁岩で、熱を受け全体的に赤化している。

有孔礫 (P L120-149、図版31、第27表)

穴の開いた扁平な自然礫が1点出土している。最大長8.1 cm、最大幅6.1 cm、最大厚1.5 cm、重量97 gをはかる。石質は緑色岩。礫の中央斜め上部に2.3 cm×1.4 cm程の穴が開いている。人為的な穿孔ではなく、転石の過程で、異質の岩石組成部が抜け落ちたものと判断される。縄文時代早期撚糸文期の集落跡である東京都府中市武蔵台遺跡(都立府中病院内遺跡調査会：1999)に、同様の出土例があり、意識的に穴の開いた礫を採取したものと判断される。

砥 石 (P L121-153・154、図版32、第28表)

遺構外からは22点が出土しており、そのうち2点を図示した。153は、扁平な礫の表裏面を研面として利用している。石質は砂岩。154は、側面と表面を研面として利用している。石質は安山岩。

磨 石 (P L121・122-155-174、図版32、第29表)

遺構外からは818点が出土しており、本遺跡の石器で最も多い出土数となる。そのうち20点を図示した。やや扁平な円礫をそのまま使用するものが多く、側縁に成形を施すものは無い。石質は、閃緑岩

が多く、花崗岩、砂岩のものも存在する。155・156・158・160・161～163は、側縁の一部に敲打痕が残る。166・168は、1側縁稜部に細かい敲打痕が観察され、特殊磨石との併用。石質は花崗岩。

敲石 (PL123—175～178・183・187、図版32、第30表)

遺構外からは23点が出土しており、そのうち6点を図示した。棒状の長楕円礫を使用しており、端部または側縁に敲打痕が観察される。石質は、187は緑色岩で、その他は砂岩。

棒状礫器 (PL123—179～182・184～186・188、図版32、第31表)

遺構外からは65点が出土しており、そのうち8点を図示した。棒状の長楕円礫で、敲打痕が観察できないものを棒状礫器とした。石質は、砂岩が多く、角閃石安山岩、千枚岩等がある。

凹石 (PL123—189・190、図版32、第32表)

遺構外からは5点が出土しており、そのうち2点を図示した。平坦面に、敲打による使用痕としての窪みを有する。189は、表裏面に磨面と敲打による窪みが観察される。石質は閃緑岩。190は、やや扁平な棒状の礫の表裏面に、敲打による窪みが観察される。石質は砂岩。

石皿 (PL124—191～195、図版32、第33表)

遺構外からは、59点の石皿が出土しており、そのうち5点を図示した。扁平な礫を使用するもので、比較的小形の石皿が多い。石質は、閃緑岩が多く、砂岩、角閃石安山岩のものも存在する。いずれも両面を使用している。193は、側縁の一部に敲打痕が残る。195は、緑色岩性の石皿で、使用面が窪んでおり、最大長33cmを測る。大型品であり、撚糸文期の石皿ではない可能性が高い。

有溝砥石 (PL125—196～211、図版32、第34表)

遺構外からは、18点の有溝砥石が出土しており、そのうち16点を図示した。196は、長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表面に断面カマボコ形を呈する、先細りで複条の溝が確認される。溝の最大幅は5mmを測る。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。197は、不整楕円形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表面に断面カマボコ形を呈する、先細り状で複条の溝が確認される。溝の最大幅は5mmを測る。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。198は、楕円形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表面に断面カマボコ形を呈する、複条の溝が確認される。石質は砂岩。200は、楕円形を呈していたものと推測される。表裏面に断面カマボコ形を呈する、複条の溝が確認される。表裏面は、平らに磨られている。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。202は、不整長方形を呈していたものと推測され、2/3程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する、太さの異なる複条の溝が確認される。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。203は、長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。側面は面取りされており、表裏面は盤状に磨られている。表裏面に断面V字状を呈する、複条の細い溝が確認される。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。204は、長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する、複条の最大

幅7mm程の溝と、幅2mm程の溝が確認される。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。205は、卵形を呈していたものと推測される。完形品。表面に断面皿状を呈する、複条の溝が確認される。石質は結晶片岩。206は、長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する、複条の溝が確認される。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。207は、長方形を呈していたものと推測され、1/3程残存。表裏面に断面皿状を呈する、浅い複条の溝が確認される。表裏面は、平らに磨られている。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。209は、長方形を呈していたものと推測され、1/2程残存。表裏面に断面カマボコ形を呈する、細い複条の溝が確認される。表面下端中央に円形の敲打痕が観察される。石質は砂岩。210は、楕円形を呈する。表面に断面カマボコ形を呈する複条の溝と、細い溝が確認される。石質は砂岩で、熱を受け全体的に赤化している。211は、不整長方形を呈していたものと推測され、2/3程残存。表面に断面カマボコ形を呈する、複条の溝が確認される。溝の最大幅は5mmを測る。石質は砂岩。

原 石 (第35表)

図示していないが、遺構外からチャート原石が2点出土している。最大長10.5cm×最大幅6.3cm×最大厚4.8cmと、最大長6.7cm×最大幅6.2cm×最大厚4.5cmを測る亜円礫である。粒径6.8cmと5.7cmを測り、石鏃製作用に荒川中流域より採取してきたものと推測される。

第IV章 分 析

第 1 節 萩山遺跡出土遺物樹種同定

平成 11 年 12 月 応用地質株式会社

1. はじめに

本報告書は、埼玉県江南町教育委員会からのご依頼により応用地質株式会社が実施した「萩山遺跡出土遺物樹種同定委託業務」について取りまとめたものである。以下にその概要を示す。

1-1. 調査の概要

1) 調査件名：萩山遺跡出土遺物樹種同定業務委託

2) 調査地：埼玉県大里郡江南町大字千代地内 萩山遺跡（縄文時代）

3) 調査目的：

萩山遺跡から出土した炭化材について樹種同定を実施し、使用されていた樹木の種類を同定する。

4) 調査内容：炭化材（樹種同定） 5 試料

第1表 分析試料一覧

試料	遺跡名	数量
炭化材	萩山遺跡第 1 号集石土坑	計 5 試料
	萩山遺跡第 3 号集石土坑	
	萩山遺跡第 9 号集石土坑	
	萩山遺跡第 10 号集石土坑	
	萩山遺跡第 11 号集石土坑	

5) 担当者：瀬戸秀治（応用地質株式会社 関東支社）

小林 恵（応用地質株式会社 技術本部歴史環境部）

1-2. 調査地の概要

1) 萩山遺跡

萩山遺跡は、荒川中流域右岸の江南台地上に位置する。萩山遺跡の南側には開析谷が、北側には埋没谷が東西方向に走っている。この2本の谷に挟まれた、幅約200mで東西方向に伸びる馬の背状の頂部から南斜面が調査地である。

発掘調査により検出された遺構は、縄文時代早期撚糸文土器様式期の竪穴住居跡、集石土坑、後期称名寺土器様式期の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡である。

今回、分析対象となった試料は、集石土坑から出土した炭化粒子・炭化材である。

2. 分析方法

1) 原理

近年、低湿地遺跡の発掘が行なわれるようになり、数千年前に日常生活の道具や住居の柱として使われた木材が腐らずにそのまま残って大量に出土する例が相次いでいる。また、炭化した木材は、炉跡や焼失家屋跡などから、当時の燃料材、建築材として検出されている。

樹木の木材組織は分類群によって特異的である。その特異性を知ることによってこれらの木材化石を同定することが可能となる。木材化石には、自然木と加工木の二つがあり、前者は立木がそのまま埋まってしまったり、流水などによって運搬され埋積したもので、後者は木製品など人為の加わった木材である。それらの木材化石の樹種を明らかにすることで、森林植生の復元や、木材資源の利用形態の把握が可能となる。

2) 方法

木材化石の同定は、一般に光学顕微鏡用のプレパラートを作製し、それを現生樹木の標本と対照して行なう。プレパラート作製は、片刃あるいは両刃カミソリを用いて、木材化石の横断面（木口）と接線断面（板目）、および放射断面（柎目）の切片を素手で作り、それをガムクロラールで封入するものである。自然木では、あまり空気に触れていないところが木材組織の保存がよいため、できるだけ心材部分について、また、加工木では、発掘による破損部分、ないしは未加工の部分から試料切片を採取する。炭化材については、徒手切片の作成が困難なため、破断面を落射顕微鏡や走査型電子顕微鏡によって観察し、同定する。

同定は、道管や放射組織、柔組織などの形態や配置、配列、および壁孔の配列や形などを根拠としておこなう。

3. 炭化材の樹種同定

萩山遺跡の集石土坑5基（1号・3号・9号・10号・11号）から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

1) 炭化材樹種同定の方法

樹種同定は炭化材の3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。横断面（木口）は炭化材を手で割り新鮮な平滑面を出し、接線断面（板目）と放射断面（柎目）は片刃の剃刀を各方向に沿って軽くあて弾くように割り面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子

顕微鏡（日本電子株製 JSM-T100 型）で観察と写真撮影を行った。

2) 同定結果

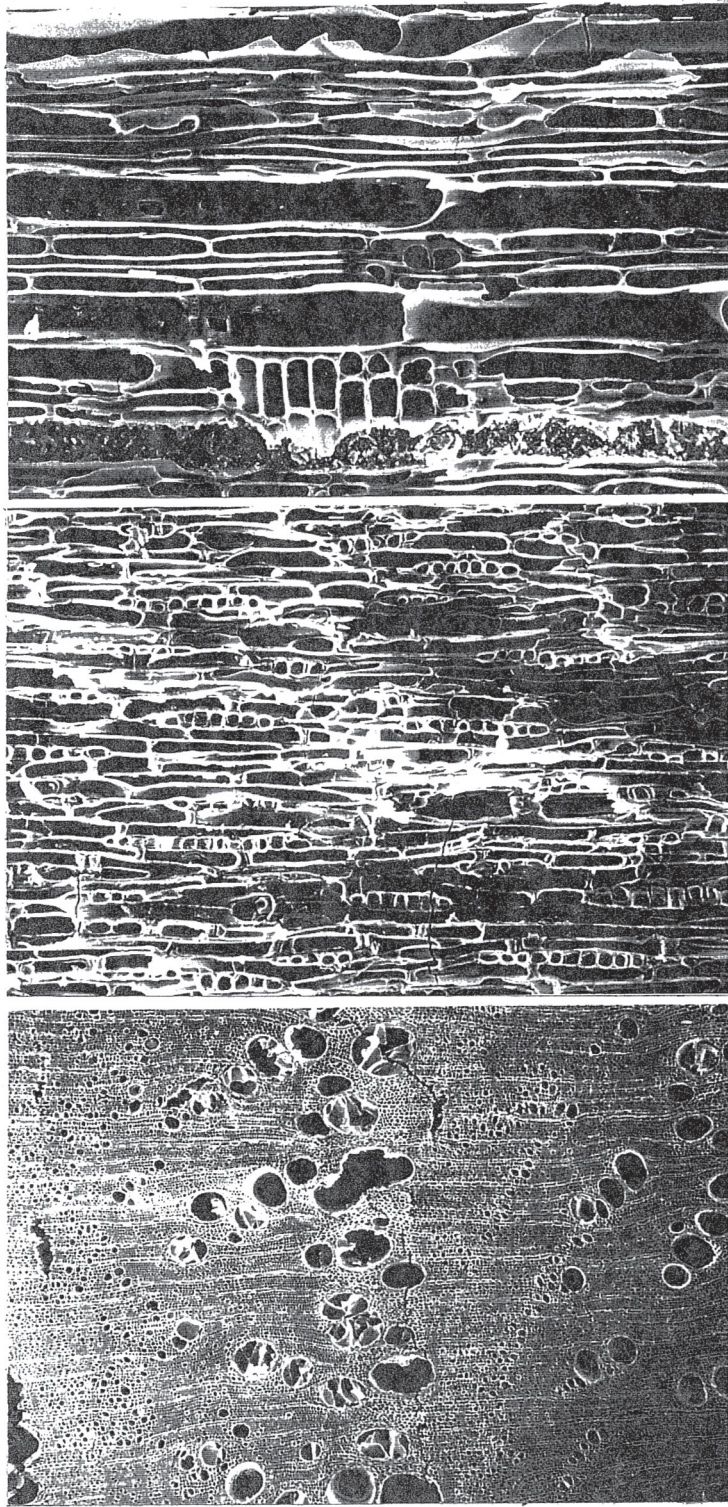
5 基から出土した炭化材は次に記す特徴からすべてクリ (*Castanea crenata* Sieb. st Zucc.) であった (第 2 表)。炭化材の横断面の組織は、年輪の始めに隣接して大型の管孔が配列しており晩材部に向かい斜状に配列しながら徐々に径を減じてゆき、晩材部では薄壁で非常に小型の管孔が火炎状に配列、短接線状や散在状の柔組織が顕著な環孔材であった (第 6 図写真 1a.)。接線断面の観察からは、放射組織は単列同性で集合状の放射組織は認められなかった (同 写真 1b.)。放射断面からは道管の穿孔は単一で、道管と放射組織との壁孔は交互状や柵状でその孔口は大きく開いている特徴が観察された。このような形質から、ブナ科クリ属のクリ (*Castanea crenata* Sieb. st Zucc.) であると同定された。

第2表 萩山遺跡の集石土坑出土炭化材の樹種同定結果

遺 跡・遺 構	樹 種
萩山遺跡第 1 号集石土坑	クリ
萩山遺跡第 3 号集石土坑	クリ
萩山遺跡第 9 号集石土坑	クリ
萩山遺跡第 10 号集石土坑	クリ
萩山遺跡第 11 号集石土坑	クリ

3) まとめ

検討した 5 基の樹種はすべてクリであった。クリは縄文時代の遺構から出土例が多く、この時代はとりわけクリの木が食料源や住居建築材として重要な樹種であったことが知られている。また燃料材としてもクリが多く用いられていたことが、関東地方一帯の集石遺構の炭化材樹種を集計した結果から示されている(千野、1991)。当遺跡においても同様な結果であった事から、集石遺構ではクリが燃料材として選択使用されていたことが検証されたと言える。



1a. クリ (横断面)
9号集石土坑 bar: 1.0 mm

1b. 同 (接線断面) bar: 0.1 mm

1c. 同 (放射断面) bar: 0.1 mm

第6図 萩山遺跡集石土坑出土炭化材の電子顕微鏡写真

第2節 萩山遺跡出土黒曜石製遺物の産地推定

明治大学名誉教授 杉原重夫

明治大学黒曜石研究センター 金成太郎

(2007年1月15日提出)

1. はじめに

考古学研究は、遺物が遺跡へと至るまでの来歴を辿ることによって、個々の時代における人々の行動様式や流通関係に迫ることが可能となる。特に狩猟・採集によって生計を立てていたと考えられている石器時代は、石器に使用する石材の産地分析が、空間的な人の動きに迫るための有効な分析方法となる。なかでも、火山の噴出物として生成された黒曜石は、結晶構造をもたず、斑晶の含有量が少ないことから元素組成が安定している。このようなことから、黒曜石の岩石学的特質に着目して、今日まで様々な理化学的分析方法を用いた産地推定が行われている。特に蛍光 X 線分析装置を用いた分析は、装置の操作や測定の前処理が容易である点や、特に資料を非破壊で測定できるなどといったメリットにより、考古資料の扱いに適している。また、比較的短い時間で測定できるという点からも、分析対象が出土遺物全般におよぶ石器研究においては非常に有効な測定手段といえる。以上のような経緯で、今回も蛍光 X 線分析装置を用いた産地推定を行った。石器石材（黒曜石・サヌカイト等）の元素組成を根拠とした原産地推定のフローチャートを第7図に示す。

2. 測定方法

蛍光 X 線法を用いて黒曜石の正確な元素分析値を得るには、内部が均質で表面形態が一般的な試料を作成し、検量線法などによって定量的に分析を行うのが一般的である。そのためには試料を粉砕してプレスしたブリケットを作成するか、もしくは溶融してガラスビードを作成する必要がある。しかし、遺跡から出土した遺物は、通常、非破壊での測定が要求されるため、上記の方法をとることは困難である。そのため、遺物に直接 X 線を照射する定性（半定量）分析が行われている。このような直接照射によって発生する蛍光 X 線の強度そのものは、試料の状態や装置の経年変化によって変動する可能性が高いが、特定元素の強度同士の比を採った場合はその影響は小さいと考えられている。今回は測定強度比をパラメータとして産地推定を行うこととした。

3. 試料の前処理

比較用の産地採取原石については、必要に応じて新鮮な破断面または研磨面を作成し、超音波洗浄器によるクリーニングを行った。遺跡出土石器は、多くの場合新鮮で平滑な剥離面があるため、試料表面をアルコールで洗浄してから測定を行った。表面に風化皮膜が発達し超音波洗浄器で除去できないものに関しては、測定対象から除外した。

4. 装置・測定条件

蛍光 X 線の測定にはエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 JSX3201（日本電子データム

製)を用いた。X線管球はターゲットがRh(ロジウム)のエンドウインドウ型を使用した。管電圧は30KV、電流は抵抗が一定となるよう自動設定とした。X線検出器はSi(ケイ素)/Li(リチウム)半導体検出器を使用した。試料室内の状態は真空雰囲気下とし、X線照射面径は20mmとした。測定時間は、産地採取原石が600sec、遺跡出土試料が300secである。測定元素は、主成分元素はケイ素(Si)、チタン(Ti)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)、マンガン(Mn)、マグネシウム(Mg)、カルシウム(Ca)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)の計9元素、微量元素はルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の計4元素の合計13元素とした。また、X線データ解析ソフトには、明治大学文化財研究施設製；X-JSN-1.03を使用した。

5. 石器の産地推定

黒曜石はケイ酸、アルミナ等を主成分とするガラス質火山岩であるが、その構成成分は産出地による差異が認められる。とりわけ微量元素のRb、Sr、Y、Zrでは産出地ごとの組成差がより顕著となる。望月は、この産地間の組成差から黒曜石の産地推定が可能であると考へ、上記の4元素にK、Fe、Mnの3元素を加えた計7元素の強度比を組み合わせることで産地分析を行っている(望月ほか 1994、望月 1997)。これら7元素による産地分析の有効性は、ガラスビードを用いた定量分析によっても裏付けられている(嶋野ほか 2004)。ここでも、上記の判別方法に準拠することとし、産地同定のパラメータにRb分率 $\{Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})\}$ 、Sr分率 $\{Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})\}$ 、 $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$ 、 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ を用い、判別図の作成、および判別分析を行った。

6. 黒曜石原産地の判別

6-1. 判別図

判別図は、視覚的に分類基準が捉えられる点、および判定基準が分かりやすいというメリットがある。また、測定結果の提示に際し、読者に理解しやすいという点もまた有効であろう。まず、各産地採取試料(基準試料)の測定データを基に二種類の散布図グラフ(Rb分率 vs $Mn \times 100 / Fe$ と Sr分率 vs $\log (Fe/K)$)を作成し、各産地を同定するための判別域を決定した。次に遺跡出土資料の測定結果を重ね合わせて大まかな判別を行った。基準試料の測定強度比の平均値を第4表に示す。

6-2. 判別分析

判別図や測定値の比較による産地の推定は、測定者ごとの恣意的な判断を完全に排除することは難しい。そこで、多変量解析の一つである判別分析を行った。判別分析では、判別図作成に用いたパラメータを基にマハラノビス距離を割り出し、各産地に帰属する確率を求めた。距離と確率とは反比例の関係にあり、資料と各産地の重点間の距離が最も短い産地(群)が第一の候補となる。なお、分析用ソフトには明治大学文化財研究施設製；MDR1.02を使用した。また、判別結果の参考資料として、各産地群(重点)間のマハラノビス距離を提示した(第5表)。

7. 黒曜石原産地の名称と地理的な位置づけ

今回の黒曜石の原産地推定にあたっては、日本の黒曜石産出地データベース（杉原・小林 2004・2006）を使用し、この中から、既存の文献・資料を参考にして現地調査を行い、石器石材に利用可能と思われる黒曜石の産地を選択した。ただし、ここでは黒曜石の原産地候補を関東・中部地方に限定して考察しており、北海道、東北、北陸、九州地方の各産出地については、検討していない。

黒曜石原産地（obsidian source）の判別にあたっては、各産地を火山体、島嶼、河川流域、岩石区等の地形・地質的条件によって枠組みを行い、これを「地区」（area）と名づけ、現在、黒曜石を産出する地点（露頭・散布地など）を「産地」（単に産地とよぶ）（district）とした。今回の原産地分析に使用した「系」（series）は、「地区」内の「産地」のうち、蛍光 X 線分析の結果に地形・地質情報を参考にして判別された地理的に隣接する「産地」群で、岩石化学的原産地を指す。それぞれの「系」内の黒曜石産地については、火道や貫入岩の位置、噴出物の産状や分布状態、黒曜石の岩石学的特徴（含有する斑晶鉱物、球顆の有無、色調、透明度など）についても検討を行い、この原産地設定が火山地質学的に有意義であることを確認している。ただし、同一の「系」内の産地でも、複数の判別域が存在する場合や、異なる「系」どうしで判別が困難な例も存在する。また、黒曜石産出地には、噴出源に近い 1 次産地のほか、河川や海流によって遠方に運ばれた 2 次産地があり、ここでの判別域は、必ずしも考古学的原産地（石器時代における採取地）を示すのではないことは言うまでもない。

「霧ヶ峰地区」：霧ヶ峰火山からは複数火口からの黒曜石が岩脈、溶岩、火砕流など多様性ある産状を示す。これらの黒曜石は噴出源や噴出年代によって元素組成に地域性が認められる（杉原・小林：2004、杉原ほか：2004、長井ほか：2006）。ここでは西霧ヶ峰系、男女倉系、和田峠系、鷹山系に分類したが、和田峠系と鷹山系は産出地域が離れているにも拘らず、判別図では明瞭な識別が不可能であるので、この 2 つの原産地を和田峠・鷹山系

第 3 表 関東・中部地方における黒曜石原産地の区分

地区(area)	系(series)	産地(district)
霧ヶ峰地区	西霧ヶ峰系	星ヶ塔、星ヶ台
	男女倉系	ブドウ沢、牧ヶ沢、高松沢
	和田峠系	小深沢、東餅屋、東俣採掘場、丁字御領、ツチャ沢
	鷹山系	星糞峠、鷹山川河床
北八ヶ岳地区	冷山系	冷山
	麦草峠系	麦草峠
	横岳系	大岳林道
箱根地区	芦之湯系	芦之湯
	畑宿系	畑宿
	鍛冶屋系	鍛冶屋
	上多賀系	上多賀
天城地区	柏峠系	柏峠
高原山地区	高原山系	八方ヶ原(桜沢)、甘湯沢
神津島地区	恩馳島系	恩馳島、観音浦海蝕崖、[長浜海岸、沢尻湾、観音浦]
	砂糠崎系	砂糠崎、[長浜海岸、沢尻湾、観音浦]

注)「地区」内には、黒曜石の産出する地域が 1 つの「系」しか存在しない場合もある。また 1 つの「系」内に複数の種類の黒曜石が産出することがある。「系」内における原産地が岩石学的にさらに地域的に判別区分が出来る場合は「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲグループ」とよぶ。

として一括した扱いをする。なお判別図において和田峠系は小深沢、東俣採掘場、ツチャ沢の和田峠Ⅰグループ、東餅屋の和田峠Ⅱグループ、丁字御領の和田峠Ⅲグループを識別することも可能である。この分類では和田峠系Ⅱと鷹山系がほぼ同じ領域に入ることになる。また男女倉系はブドウ沢、高松沢の男女倉系Ⅰグループ、牧ヶ沢の男女倉系Ⅱグループ、高松沢の男女倉系Ⅲグループについても識別が可能である。しかし、これらの黒曜石原産地は判別域が一部重複し、しかも黒曜石遺物の分析では、形状、水和作用、付着物の存在によって、測定値にバラツキが生じることから過度に詳細な区分は遺物の原産地を推定するうえで混乱を招く。この報告書では、通常は原産地名称「系」で示し、必要に応じて細分名称「グループ」を使用するに止める。

「北八ヶ岳地区」: 八ヶ岳火山列では、比較的活動年代が新しい北八ヶ岳において黒曜石が産出する。このうち冷山系と麦草峠系が代表的な原産地である。ただし、この2つの黒曜石は、主要元素の組成が酷似していて、判別図・判別分析による産地識別が不可能であることから、ここでは冷山・麦草峠系として一括して扱う。横岳の山頂付近では大岳林道沿いで比較的良質な黒曜石の礫が産出し、このほか双子池付近や滝ノ湯川上流などでも黒曜石の礫が認められ、転石として山麓斜面や河床でも散見できる。ここでは、横岳山頂の大岳林道沿いに産出する黒曜石を横岳系とよぶ。

「箱根地区」: 箱根火山の噴出物中からは芦之湯、畑宿、鍛冶屋、上多賀で黒曜石が産出する。これらは判別図によって、それぞれの産地推定が可能である。須雲川沿いの畑宿付近では、火砕流堆積物中から石器石材として利用可能な黒曜石が産出する。しかし、その他の地域から産出する黒曜石は石器石材としては良質とは言えず、遺跡からの出土も少ない。

「天城地区」: 天城火山に近い柏峠から産出する黒曜石である。柏峠では黒曜石が岩脈または転石として認められる。黒曜石原産地としての規模は大きくないが、周辺地域の遺跡からはしばしば、ここを原産地とする石製遺物が出土する。

「高原山地区」: 高原山火山では八方ヶ原、甘湯沢に黒曜石の産出地がある（栃木県教育委員会（編）：2006）。とくに剣ヶ峰から八方ヶ原に至る尾根筋近くには溶岩ドームの一部を形成していたと考えられる黒曜石岩塊が認められ、その周辺には黒曜石礫が産出する。また山体を刻んだ桜沢の北支谷沿いには火砕流堆積物中に比較的良質な黒曜石が多く認められる。さらに桜沢の北支谷沿いには黒曜石の河床礫や転石が分布する。また塩原付近で箒川に合流する甘湯沢でも黒曜石の河床礫が認められる。これらの黒曜石は、すべて同じ判別域に入る。このほか南麓斜面の湯沢、枝持沢、七尋沢の河床にも黒曜石の産出が知られているが、石器石材としては不向きである。ここでは八方ヶ原（桜沢）産、甘湯沢産の黒曜石に限り高原山系とする。

「神津島地区」: 神津島は複数の流紋岩質単成火山から構成されていて、黒曜石の産出が各地で認められる。このうち神津島の沖約6kmにある恩馳島とその周囲海底および多幸湾に臨む砂糠崎からは、黒曜石が豊富に産出する。産地判別図では、両地域の黒曜石を識別することが可能であることから、それぞれ恩馳島系と砂糠崎系として扱う（杉原ほか：2006）。神津島ではこのほか各地で黒曜石を産出する。このうち観音浦海蝕崖に露出する黒曜石は判別図では恩馳島系に含まれる（古谷：2002）。神津島西海岸の長浜海岸や沢尻湾、および同東海岸の観音浦では黒曜石の海浜礫が産出するが、これらも恩馳島や砂糠崎

から産出する黒曜石の判別域に入るが、地理的な位置関係や沿岸流（とくに海浜流）による漂礫の状況からみて、海浜礫のすべてをこれらの産出地からの二次的産地とすることはできない。海底に露出している噴出物（火砕流や泥流）中の黒曜石が海浜に打ち上げられた可能性もあり、今後は未知の産出地に関する海底地質の調査が必要になると考えられる。

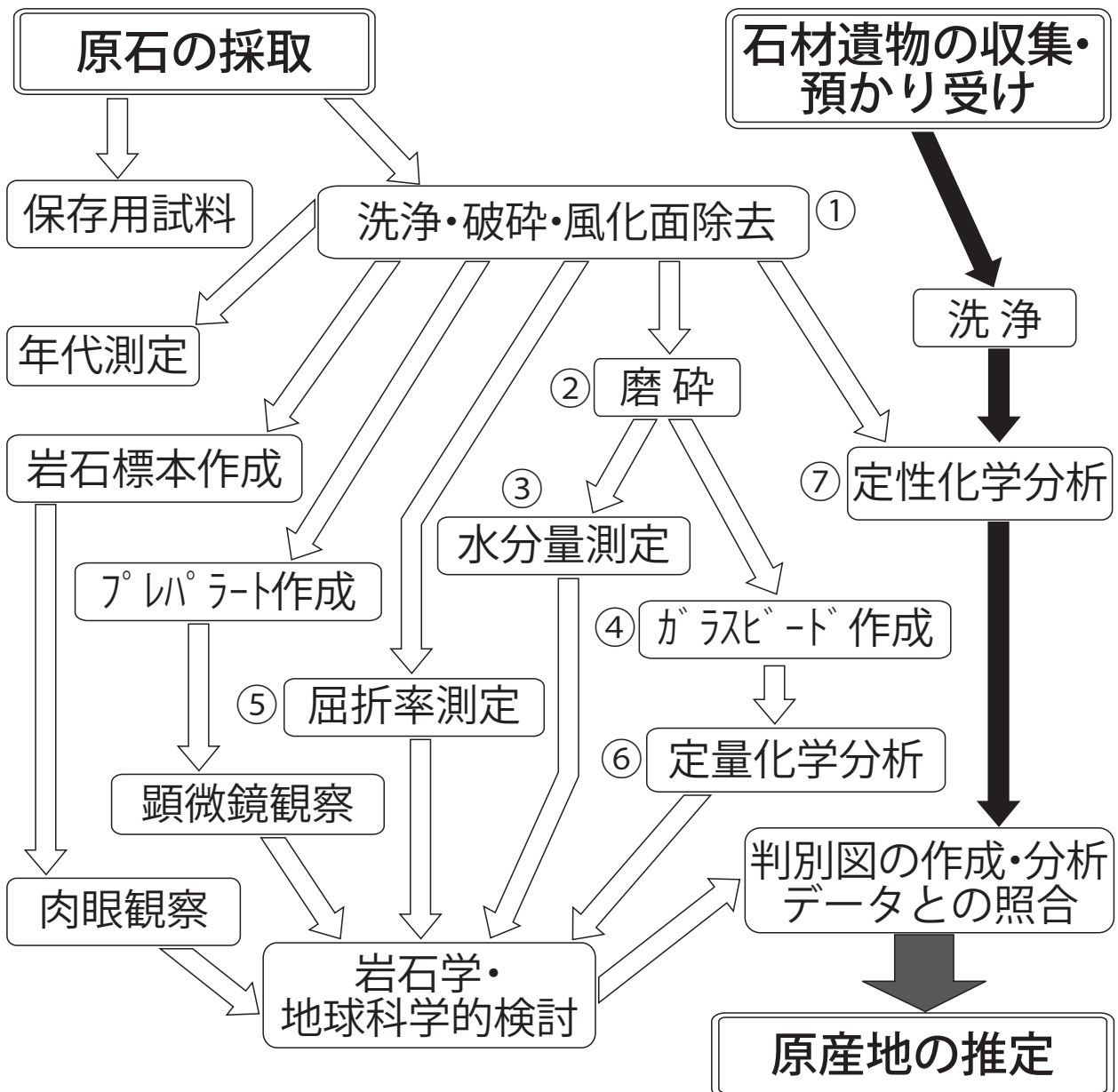
8. 石器の産地推定結果

今回測定を行ったのは、埼玉県熊谷市萩山遺跡（縄文時代早期：撚糸文期）から出土した黒曜石製遺物である。測定点数は 156 点であり、判別点数は 147 点であった。

産地推定の結果は、霧ヶ峰地区和田峠・鷹山系が 131 点（87%）であり、続いて同地区西霧ヶ峰系が 10 点（7%）であった。その他、同地区男女倉系、北八ヶ岳系冷山・麦草峠系、神津島地区恩馳島系がみられた。以上のように、信州産の利用が盛んな中で恩馳島系がほんの僅かではあるが含まれているようである。この点に関しては、今後のデータの蓄積を待ちたい。

9. おわりに

黒曜石製遺物の産地推定は、明治大学文化財研究施設に設置されている蛍光 X 線分析装置による黒曜石の原産地推定システムで行ったものである。なお、この報告書を参考に論文を作成する場合は、産地推定の結果を遺物の産出状況からも検討していただきたい。



- ① 洗浄・破碎・風化面除去: 試料の洗浄, およびトリミングによって, 風化・酸化部位を除去する. 使用機器: 超音波洗浄機, Renfert basic master.
- ② 磨碎: 試料がパウダー状になるまで鉄乳鉢, およびメノウ製自動乳鉢を用いて磨碎する. 使用機器: フリッチュ遊星型ボールミルP-6.
- ③ 水分量測定: 試料を燃焼して原石に含まれる水分量を測定する. 測定機器: カールフィッシャー水分計MKC-610, および水分気化装置ADP-512.
- ④ 溶融ビード試料の作成: 粉末試料をフラックス(触剤: 四ホウ酸リチウム)とともに1100°C, 8分で溶融させ, ガラスビード(おはじき状のガラス板)を作成する. 使用機器: 日本サーモニクスNT2100
- ⑤ 屈折率測定: 既知の屈折率をもった浸液を用い, 透明~半透明試料の屈折率を測定する. 屈折率は化学組成を反映しており, また少量かつ簡便な測定が可能. 測定機器: 京都フィッシュントラック温度変化屈折率測定システム RIMS2000
- ⑥ 定量化学分析: 波長分散型蛍光X線分析装置を使用. Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Co, Ni, Rb, Y, Zr等の元素を定量する. 6試料の連続測定が可能. 測定機器: リガクRIX1000
- ⑦ 定性化学分析: エネルギー分散型蛍光X線分析装置を使用. 化学成分の存在比を非破壊, 非接触で測定している. 16試料の連続測定が可能. 測定機器: 日本電子JSX-3201

第7図 石材遺物(黒曜石・サヌカイト)の原産地推定

第4表 関東・中部地方における黒曜石の測定値(強度比)

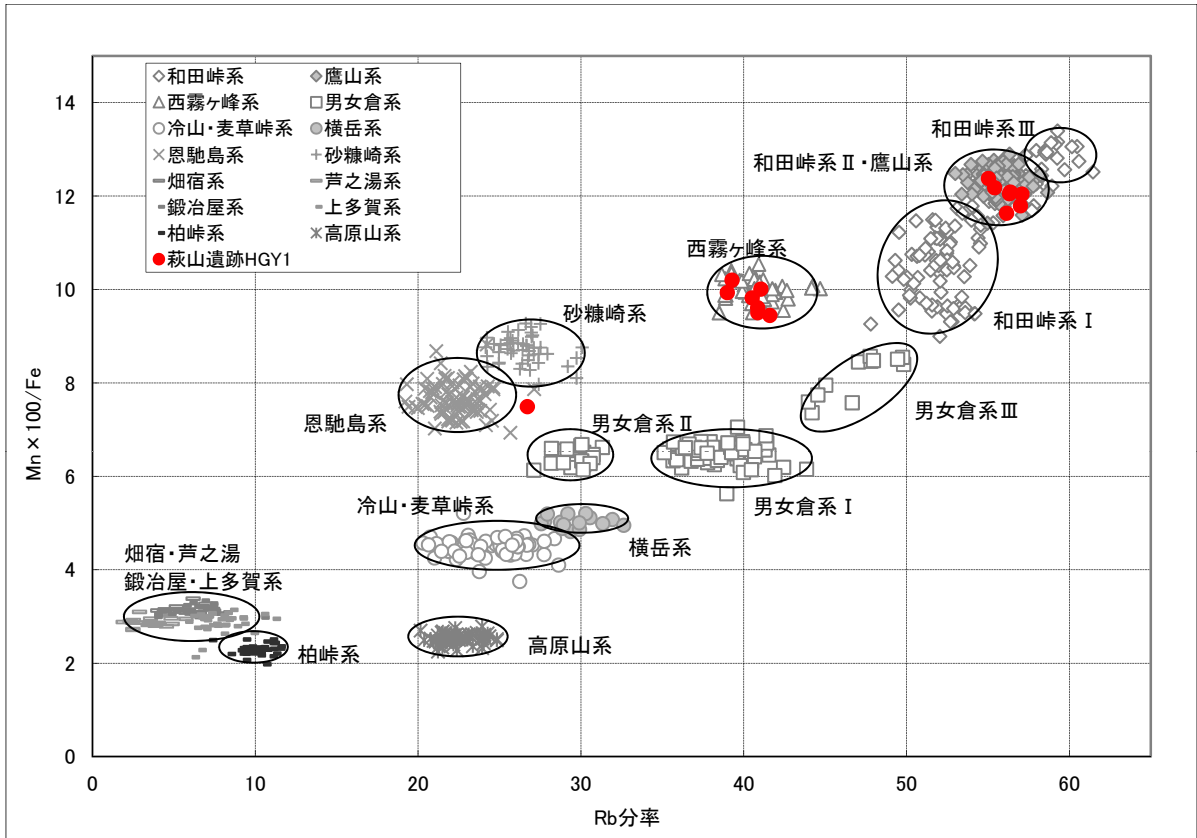
産地		Rb分率	Sr分率	Mn × 100/Fe	Log(Fe/K)
和田峠・鷹山系	平均値:	54.7690	3.0815	11.6711	-0.0031
	標準偏差:	2.5946	2.1097	1.0493	0.0353
西霧ヶ峰系	平均値:	40.8156	13.2437	10.0207	-0.0620
	標準偏差:	1.4427	1.1886	0.2266	0.0186
男女倉系 I (ブドウ沢・高松沢)	平均値:	38.4777	14.4707	6.4756	0.0784
	標準偏差:	2.0225	1.5259	0.2328	0.0390
男女倉系 II (牧ヶ沢)	平均値:	29.6839	22.0209	6.4010	0.0998
	標準偏差:	0.9876	1.7894	0.1631	0.0154
男女倉系 III (高松沢)	平均値:	46.9960	8.2283	8.1375	0.0279
	標準偏差:	2.0558	1.7470	0.4366	0.0291
冷山・麦草峠系	平均値:	24.5701	30.4887	4.4946	0.1945
	標準偏差:	2.0462	1.7663	0.1899	0.0286
横岳系	平均値:	29.4723	27.2270	4.9746	0.0962
	標準偏差:	1.4146	1.1045	0.1572	0.0201
恩馳島系	平均値:	22.5484	27.9753	7.6801	0.2004
	標準偏差:	1.7204	2.5311	0.3510	0.0252
砂糠崎系	平均値:	26.2025	24.8873	8.6546	0.1269
	標準偏差:	1.4433	2.0079	0.3444	0.0157
畑宿系	平均値:	5.7341	36.3115	3.1356	1.1342
	標準偏差:	0.9929	1.1798	0.0918	0.0231
芦之湯系	平均値:	3.4910	53.3066	2.8761	1.6603
	標準偏差:	0.9726	1.1167	0.0827	0.0378
鍛冶屋系	平均値:	6.3780	35.1359	3.1328	0.9563
	標準偏差:	1.2817	1.6319	0.0835	0.0177
上多賀系	平均値:	7.6429	33.1369	2.8781	0.7891
	標準偏差:	1.1792	2.0844	0.1944	0.0221
柏峠系	平均値:	9.9618	26.1282	2.2911	0.7197
	標準偏差:	0.9030	1.5549	0.1165	0.0363
高原山系	平均値:	22.3885	24.5422	2.5152	0.5821
	標準偏差:	1.0847	1.1636	0.1150	0.0365

産地細分		Rb分率	Sr分率	Mn × 100/Fe	Log(Fe/K)
和田峠系 I (小深沢・ツチヤ沢・東俣採掘場)	平均値:	52.3775	4.9266	10.5719	0.0196
	標準偏差:	1.8360	2.0296	0.7724	0.0262
和田峠系 II・鷹山系 (東餅屋)	平均値:	55.7722	2.0170	12.3108	-0.0302
	標準偏差:	1.1396	0.9358	0.2593	0.0219
和田峠系 III (丁字御領)	平均値:	58.8500	1.2037	12.7655	0.0352
	標準偏差:	1.0460	0.8530	0.3793	0.0087

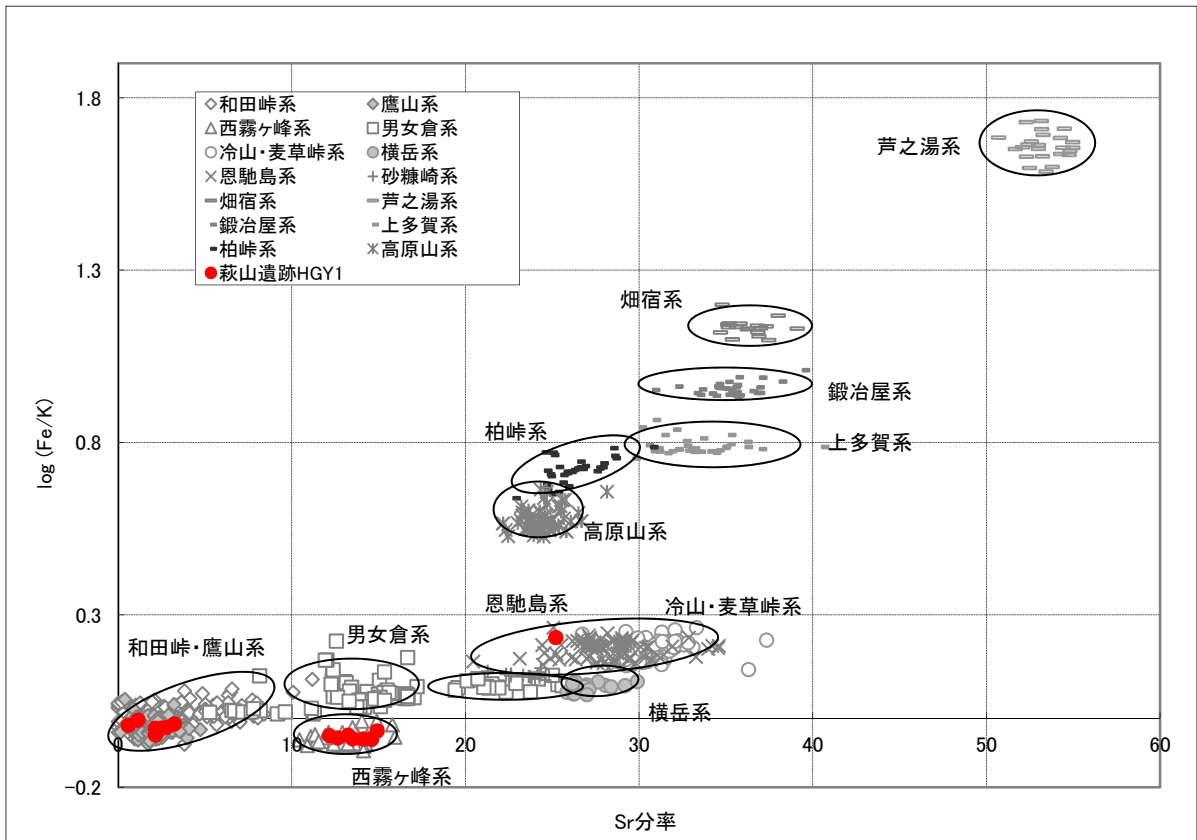
第5表 判別分析における群間距離(マハラノビス距離の2乗)

	和峠・鷹山系	西霧ヶ峰系	男女倉系 I	男女倉系 II	男女倉系 III	冷山・麦草峠系	横岳系	恩馳島系	砂糠崎系	畑宿系	芦之湯系	鍛冶屋系	上多賀系	柏峠系	高原山系
和峠・鷹山系	0.0000	270.8152	838.7062	1960.2724	178.1266	2068.5190	4195.2616	445.9605	452.6008	18100.8935	12660.6744	12429.5598	3840.7760	13849.9968	9426.2759
西霧ヶ峰系	270.8152	0.0000	307.5238	578.5130	264.3048	998.7031	1721.1881	202.9212	292.3899	13004.7535	8208.0988	8969.9709	2847.3602	8018.6659	5512.6363
男女倉系 I	838.7062	307.5238	0.0000	92.9334	21.5239	204.2551	375.9460	218.5051	260.2907	6102.2693	4384.4914	3626.4163	1754.0610	3146.5467	1496.7765
男女倉系 II	1960.2724	578.5130	92.9334	0.0000	209.2318	126.6065	204.1245	130.6179	151.1826	5281.6263	3468.1448	3437.3613	1381.6897	2430.1029	1317.0031
男女倉系 III	178.1266	264.3048	21.5239	209.2318	0.0000	609.7344	1183.9288	266.6970	336.4315	9453.1502	6186.3191	5651.1862	2470.4189	6045.3611	3354.6049
冷山・麦草峠系	2068.5190	998.7031	204.2551	126.6065	609.7344	0.0000	27.6190	193.6236	198.8743	3108.9101	2890.3817	2268.3562	926.6565	1089.4071	408.3902
横岳系	4195.2616	1721.1881	375.9460	204.1245	1183.9288	27.6190	0.0000	293.3813	349.8587	4201.0278	3409.3380	2909.7395	1319.5641	1564.9735	580.6621
恩馳島系	445.9605	202.9212	218.5051	130.6179	266.6970	193.6236	293.3813	0.0000	27.8012	6094.1426	3720.5916	4239.2866	1184.4155	3457.3248	2607.5287
砂糠崎系	452.6008	292.3899	260.2907	151.1826	336.4315	198.8743	349.8587	27.8012	0.0000	8214.2509	5145.4686	5835.3107	1610.2163	4832.1264	3659.9037
畑宿系	18100.8935	13004.7535	6102.2693	5281.6263	9453.1502	3108.9101	4201.0278	6094.1426	8214.2509	0.0000	588.5292	122.7413	291.9094	426.0964	655.8184
芦之湯系	12660.6744	8208.0988	4384.4914	3468.1448	6186.3191	2890.3817	3409.3380	3720.5916	5145.4686	588.5292	0.0000	1809.8736	1941.8091	1440.8281	1904.1092
鍛冶屋系	12429.5598	8969.9709	3626.4163	3437.3613	5651.1862	2268.3562	2909.7395	4239.2866	5835.3107	122.7413	1809.8736	0.0000	74.9860	232.0470	435.3548
上多賀系	3840.7760	2847.3602	1754.0610	1381.6897	2470.4189	926.6565	1319.5641	1184.4155	1610.2163	291.9094	1941.8091	74.9860	0.0000	81.2163	237.4478
柏峠系	13849.9968	8018.6659	3146.5467	2430.1029	6045.3611	1089.4071	1564.9735	3457.3248	4832.1264	426.0964	1440.8281	232.0470	81.2163	0.0000	152.8569
高原山系	9426.2759	5512.6363	1496.7765	1317.0031	3354.6049	408.3902	580.6621	2607.5287	3659.9037	655.8184	1904.1092	435.3548	237.4478	152.8569	0.0000

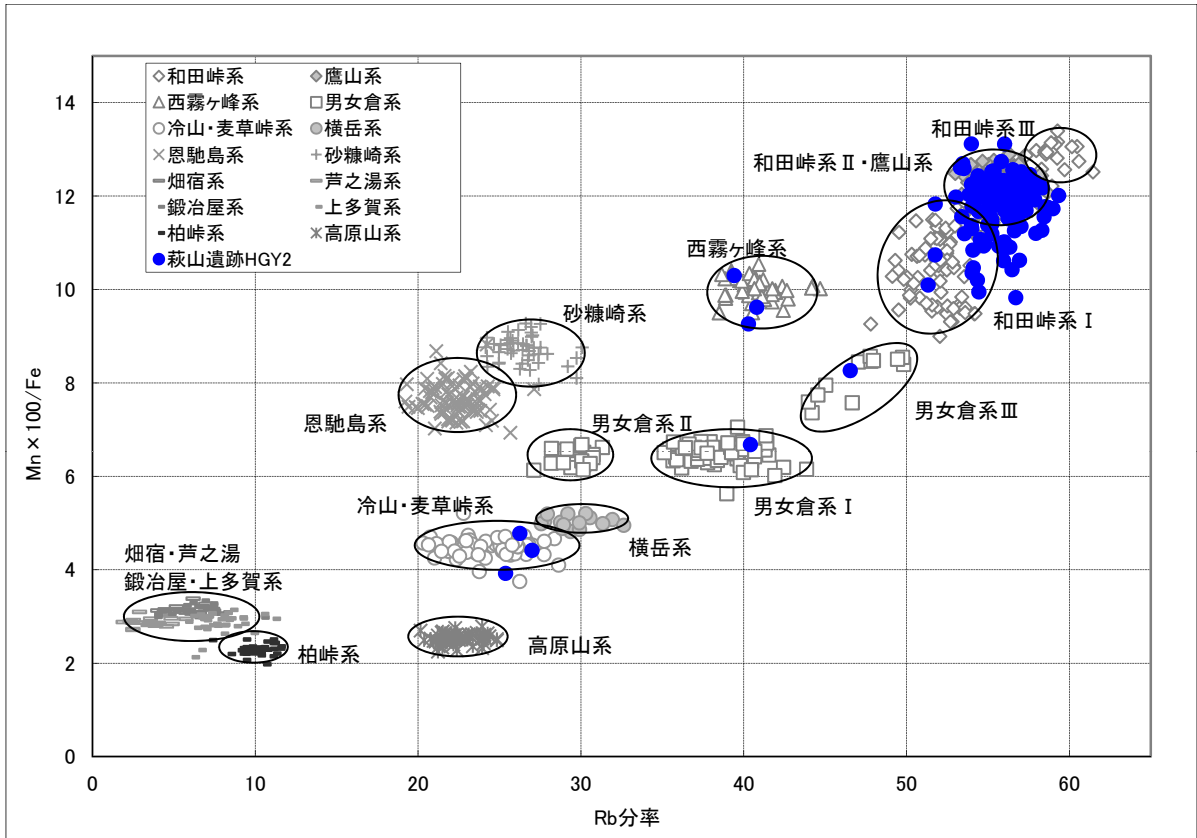
	和峠系 I	和峠系 II・鷹山系	和峠系 III
和峠系 I	0.0000	62.9164	72.6699
和峠系 II・鷹山系	62.9164	0.0000	68.1022
和峠系 III	72.6699	68.1022	0.0000



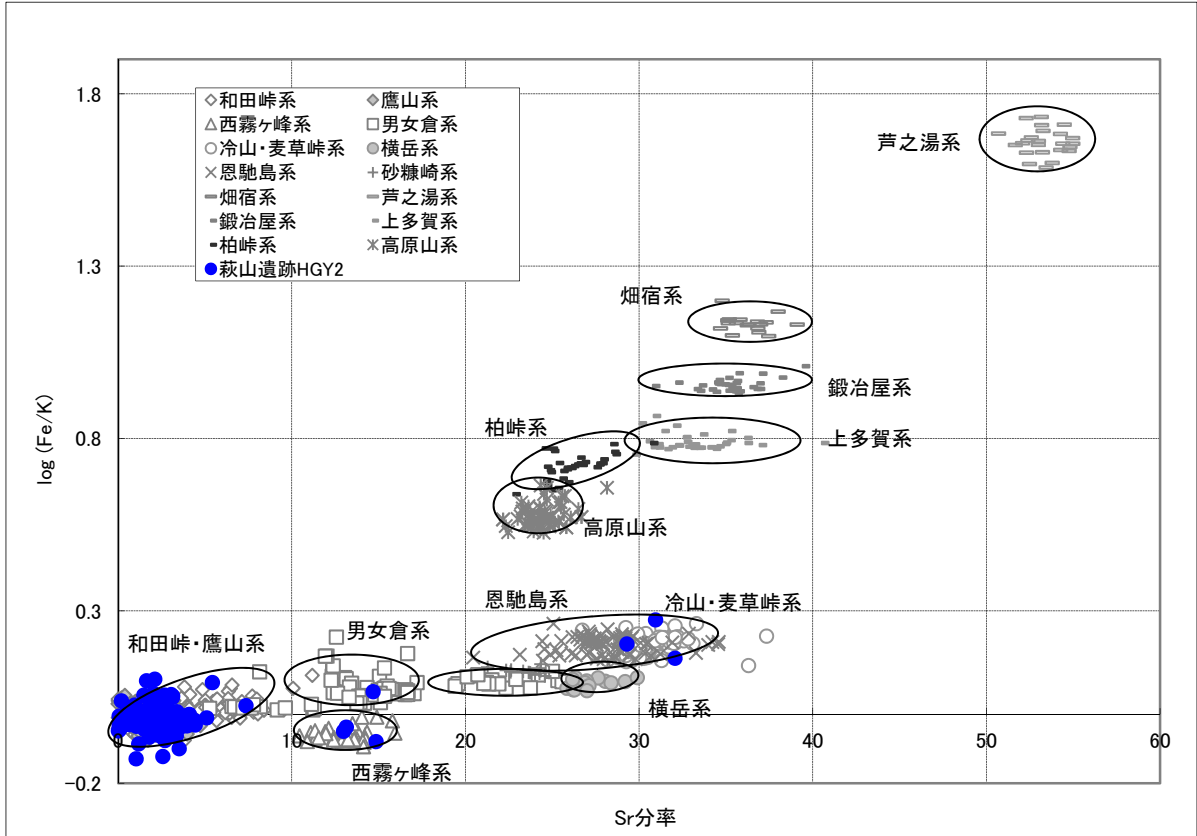
第8図 萩山遺跡の判別図1 (Rb分率)



第9図 萩山遺跡の判別図2 (Sr分率)



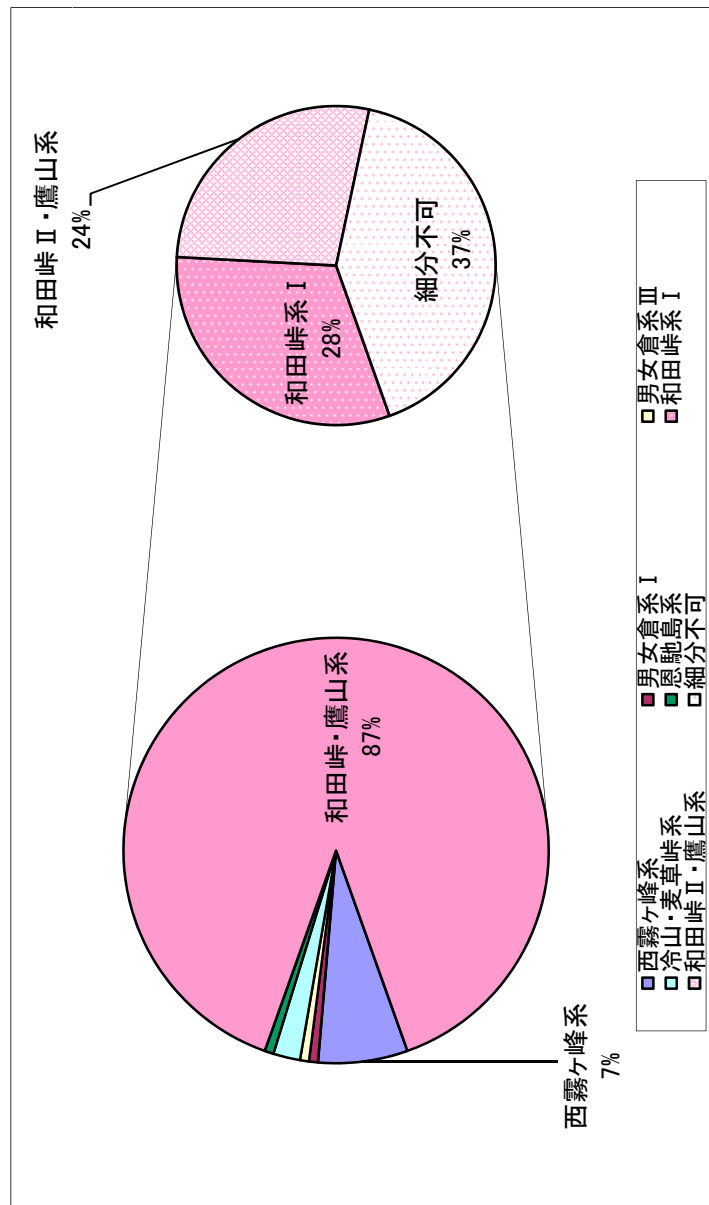
第10図 萩山遺跡の判別図3(Rb分率)



第11図 萩山遺跡の判別図4(Rb分率)

第6表 萩山遺跡における産地推定の集計結果

遺跡名	測定点数	判別点数	和田峠系・鷹山系	西霧ヶ峰系	男女倉系Ⅰ	男女倉系Ⅲ	冷山・麦草峠系	恩馳島系	判別不可
萩山遺跡	156	147	131	10	1	1	3	1	9
			和田峠系Ⅰ	和と峠Ⅱ・鷹山系	細分不可				
			41	36	54				



第12図 萩山遺跡における黒曜石利用構成

第7表 萩山遺跡出土黒曜石製遺物の産地推定結果

試料No.	Rb分率	Sr分率	Mn×100/Fe	Log(Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	図版	器種	遺構名
HGY1-001	56.1326	2.7699	11.6339	-0.0266	和田峠系 I	0.9184	5.7974	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.08	10.64	PL6-14	石 鏃	
HGY1-002	40.8495	13.2454	9.6110	-0.0489	西霧ヶ峰系	1.0000	3.3268	和田峠・鷹山系	0.00	44.67	PL26-36	石 鏃	
HGY1-003	56.3662	3.2267	12.0861	-0.0164	和田峠・鷹山系	1.0000	2.0761	男女倉系Ⅲ	0.00	230.74	PL64-17	石 鏃	
HGY1-004	41.5960	12.1665	9.4462	-0.0504	西霧ヶ峰系	1.0000	7.1052	和田峠・鷹山系	0.00	37.71	PL111-43	石 鏃	
HGY1-005	26.7058	25.1984	7.4929	0.2344	恩馳島系	1.0000	8.9405	砂糠崎系	0.00	54.99	PL110-19	石 鏃	
HGY1-006	40.5125	13.5015	9.8219	-0.0596	西霧ヶ峰系	1.0000	0.9811	和田峠・鷹山系	0.00	50.28	PL111-45	石 鏃	
HGY1-007	41.0440	14.1114	10.0094	-0.0599	西霧ヶ峰系	1.0000	1.2177	和田峠・鷹山系	0.00	51.78	PL110-24	石 鏃	
HGY1-008	40.8549	14.9078	9.5054	-0.0366	西霧ヶ峰系	1.0000	8.7287	和田峠・鷹山系	0.00	49.14	PL110-21	石 鏃	
HGY1-009	55.4012	2.1411	12.1797	-0.0482	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9108	2.4605	和田峠系 I	0.09	7.11	PL110-23	石 鏃	
HGY1-010	38.9854	12.6390	9.9345	-0.0569	西霧ヶ峰系	1.0000	5.0022	和田峠・鷹山系	0.00	60.92	PL111-42	石 鏃	
HGY1-011	55.0216	2.4620	12.3779	-0.0284	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9349	0.6289	和田峠系 I	0.07	5.96	PL110-29	石 鏃	
HGY1-012	39.2728	14.5880	10.2006	-0.0610	西霧ヶ峰系	1.0000	1.9167	和田峠・鷹山系	0.00	65.38	PL111-36	石 鏃	
HGY1-013	56.3130	0.5745	12.0519	-0.0204	和田峠Ⅱ・鷹山系	1.0000	2.0399	男女倉系Ⅲ	0.00	162.39	PL111-41	石 鏃	
HGY1-014	57.0802	2.1387	12.0435	-0.0288	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9267	3.1829	和田峠系 I	0.07	8.26	PL111-32	石 鏃	
HGY1-015	57.8542	0.4224	12.2350	-0.1337	判別不可	-	-	-	-	-	PL111-33	石 鏃	
HGY1-016	56.9850	1.1395	11.7926	-0.0051	和田峠・鷹山系	1.0000	1.7127	男女倉系Ⅲ	0.00	140.95	PL110-15	石 鏃	
HGY2-001	51.3164	5.4224	10.0976	0.0922	和田峠系 I	1.0000	11.6733	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	94.41			
HGY2-002	56.2478	1.0296	12.0310	-0.1289	和田峠・鷹山系	1.0000	19.5572	男女倉系Ⅲ	0.00	122.09			
HGY2-004	57.0789	0.0000	12.3189	-0.2050	和田峠・鷹山系	1.0000	49.4527	男女倉系Ⅲ	0.00	134.79			
HGY2-005	46.5346	7.3551	8.2655	0.0252	男女倉系Ⅲ	0.9945	3.2416	和田峠・鷹山系	0.01	13.65			
HGY2-006	39.4072	14.8465	10.2995	-0.0790	西霧ヶ峰系	1.0000	3.8067	和田峠・鷹山系	0.00	69.28			
HGY2-007	54.0206	3.3432	11.7841	-0.0624	和田峠系 I	0.9800	10.8159	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.02	18.59			
HGY2-008	57.0329	1.6468	12.5199	-0.0205	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9533	3.4759	和田峠系 I	0.05	9.51			
HGY2-009	55.2856	1.1803	11.7950	0.0114	和田峠・鷹山系	1.0000	3.0740	男女倉系Ⅲ	0.00	167.12			SI2
HGY2-011	42.6174	13.6308	10.0134	-0.2056	判別不可	-	-	-	-	-			
HGY2-012	55.4300	2.5292	12.1081	-0.0491	和田峠・鷹山系	1.0000	2.0778	男女倉系Ⅲ	0.00	196.73			
HGY2-013	53.5499	3.0504	11.1957	0.0574	和田峠系 I	0.9995	11.1141	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	26.21			SI13
HGY2-014	55.9130	1.1776	11.0085	-0.0857	和田峠・鷹山系	1.0000	16.6642	男女倉系Ⅲ	0.00	50.52			
HGY2-015	54.0217	2.0200	10.3567	0.0616	和田峠系 I	1.0000	9.8762	和田峠系Ⅲ	0.00	54.96			
HGY2-016	56.3679	1.5559	11.6408	0.0515	和田峠・鷹山系	1.0000	4.9018	男女倉系Ⅲ	0.00	173.59			
HGY2-017	57.0703	2.6242	12.0669	-0.1328	判別不可	-	-	-	-	-			
HGY2-018	55.6521	3.0350	10.9311	-0.0201	和田峠系 I	1.0000	5.5553	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	41.05			SI1
HGY2-019	54.6853	1.1237	12.3093	-0.0188	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9169	3.7347	和田峠系 I	0.08	8.54			
HGY2-020	55.2537	2.2217	12.5225	-0.0329	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9508	1.0716	和田峠系 I	0.05	7.00			
HGY2-021	55.1431	3.9600	11.8111	-0.0334	和田峠・鷹山系	1.0000	3.0564	男女倉系Ⅲ	0.00	197.30			
HGY2-022	56.2174	2.3231	12.0509	0.0081	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9088	3.6408	和田峠系 I	0.09	8.24			
HGY2-023	55.9819	2.0108	12.3312	-0.0353	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9633	0.1005	和田峠系 I	0.04	6.63			
HGY2-024	55.2008	2.7379	11.4137	0.0278	和田峠系 I	0.9708	6.0802	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.03	13.11			
HGY2-025	54.3422	3.6836	10.2043	-0.0120	和田峠系 I	1.0000	5.5826	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	95.97			
HGY2-026	59.3306	2.8366	12.0132	-0.0023	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9525	18.6847	和田峠系 I	0.05	24.68			SI11
HGY2-027	55.9504	1.8402	10.6171	0.0259	和田峠系 I	1.0000	5.8615	和田峠系Ⅲ	0.00	39.04			SI11
HGY2-028	51.7462	3.1362	10.7413	0.0525	和田峠系 I	1.0000	9.2413	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	52.33			SI23
HGY2-029	53.9690	2.2218	11.3714	-0.0249	和田峠系 I	1.0000	3.7038	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	23.66			SI23
HGY2-030	57.3308	1.5887	11.6930	-0.0441	和田峠・鷹山系	1.0000	6.3635	男女倉系Ⅲ	0.00	115.76			SI23
HGY2-031	53.0195	2.3462	11.9803	-0.0163	和田峠・鷹山系	1.0000	4.9586	男女倉系Ⅲ	0.00	226.06			SI23
HGY2-032	53.3022	2.6031	12.6080	-0.0356	和田峠・鷹山系	1.0000	5.9687	男女倉系Ⅲ	0.00	333.31			SI23
HGY2-037	57.1833	2.4413	11.8149	-0.0229	和田峠・鷹山系	1.0000	4.0179	男女倉系Ⅲ	0.00	160.46			SI5
HGY2-038	56.2841	2.5806	11.5115	0.0025	和田峠系 I	0.9117	5.6443	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.09	10.31			SI7
HGY2-039	57.0210	1.6042	11.3511	-0.0101	和田峠系 I	0.9955	6.7011	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	17.49			
HGY2-040	56.7159	1.9817	11.6459	0.0091	和田峠・鷹山系	1.0000	1.4756	男女倉系Ⅲ	0.00	148.69			
HGY2-041	55.3409	1.0197	12.0855	-0.0086	和田峠・鷹山系	1.0000	2.6113	男女倉系Ⅲ	0.00	194.01			SI9
HGY2-043	40.2833	13.1330	9.2638	-0.0371	西霧ヶ峰系	1.0000	12.1389	和田峠・鷹山系	0.00	43.55			SI5
HGY2-044	56.3314	0.0810	10.9075	-0.0443	和田峠系 I	1.0000	10.0607	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	62.92			
HGY2-045	54.7266	3.1195	10.9331	0.0489	和田峠系 I	1.0000	7.5769	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	30.19			
HGY2-046	54.8076	3.4902	10.9863	-0.0346	和田峠系 I	1.0000	6.6270	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	45.16			
HGY2-047	55.2032	1.9240	12.4417	-0.0296	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9532	0.7562	和田峠系 I	0.05	6.78			
HGY2-048	26.2452	32.0629	4.7802	0.1627	冷山・麦草峠系	0.9995	8.0996	横岳系	0.00	23.47			
HGY2-049	56.6190	1.4749	11.2584	0.0558	和田峠・鷹山系	1.0000	5.6091	男女倉系Ⅲ	0.00	121.80			
HGY2-050	26.9917	29.2896	4.4169	0.2041	冷山・麦草峠系	1.0000	2.8431	横岳系	0.00	28.95			
HGY2-051	58.5021	0.7458	11.7742	-0.0237	和田峠・鷹山系	1.0000	6.3717	男女倉系Ⅲ	0.00	117.67			
HGY2-052	55.2148	1.1652	11.4818	0.0006	和田峠系 I	0.9892	4.6096	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.01	13.64			
HGY2-053	58.4391	2.6548	11.5561	-0.0445	和田峠系 I	0.9371	19.6834	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.06	25.09			SI8
HGY2-054	54.3283	4.4075	12.3580	-0.0177	和田峠・鷹山系	1.0000	2.6484	西霧ヶ峰系	0.00	326.12			SI8
HGY2-055	55.3818	2.7343	12.0509	-0.0411	和田峠・鷹山系	1.0000	1.5303	男女倉系Ⅲ	0.00	198.11			
HGY2-056	56.2318	1.8357	12.1736	-0.0235	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9453	0.4237	和田峠系 I	0.05	6.12			
HGY2-057	57.5946	2.7182	12.3771	-0.0362	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9679	5.7114	和田峠系 I	0.03	12.52			
HGY2-058	55.7543	0.8731	12.2495	-0.0212	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9307	2.0960	和田峠系 I	0.07	7.29			
HGY2-059	56.6988	2.1062	9.8269	0.1020	和田峠・鷹山系	1.0000	17.0544	男女倉系Ⅲ	0.00	42.22			
HGY2-060	56.4698	2.6669	10.4246	0.0559	和田峠系 I	1.0000	14.0331	和田峠系Ⅲ	0.00	46.11			
HGY2-061	54.0642	5.0915	10.8439	-0.0102	和田峠系 I	1.0000	4.2273	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	50.51			
HGY2-062	55.3992	1.0337	12.0683	-0.0262	和田峠・鷹山系	1.0000	2.0579	男女倉系Ⅲ	0.00	178.02			SI9
HGY2-063	57.0077	1.8729	12.1442	-0.0234	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9560	1.6674	和田峠系 I	0.04	7.82			SI9
HGY2-064	55.5806	2.9748	12.2329	-0.3057	判別不可	-	-	-	-	-			SI9
HGY2-065	54.9174	2.6466	12.3664	-0.0445	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9492	1.1174	和田峠系 I	0.05	6.97			
HGY2-066	54.4499	2.7987	11.9700	-0.0351	和田峠・鷹山系	1.0000	1.0035	男女倉系Ⅲ	0.00	198.73			
HGY2-067	57.5476	0.0076	12.4614	-0.0480	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9114	5.8564	和田峠系 I	0.09	10.52			
HGY2-068	54.9586	2.1486	11.7229	0.0111	和田峠・鷹山系	1.0000	1.1650	男女倉系Ⅲ	0.00	176.23			

試料No.	Rb分率	Sr分率	Mn × 100/Fe	Log (Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	図版	器種	遺構名
HGY2-069	58.9828	2.6870	11.7315	-0.0199	和田峠・鷹山系	1.0000	14.1211	男女倉系Ⅲ	0.00	163.33			
HGY2-070	56.0127	3.6038	13.1162	-0.0364	和田峠系Ⅰ	0.9798	12.2531	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.02	20.02			
HGY2-071	56.8304	0.7074	11.5029	-0.0275	和田峠系Ⅰ	0.9965	6.3819	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	17.66			
HGY2-072	56.5889	2.2855	12.0532	-0.0228	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9167	1.9378	和田峠系Ⅰ	0.08	6.73			
HGY2-073	55.2259	2.8762	11.4832	-0.0298	和田峠系Ⅰ	0.9979	4.3164	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	16.62			
HGY2-074	55.0807	3.6702	11.7180	-0.0233	和田峠系Ⅰ	0.9362	4.2107	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.06	9.58			
HGY2-075	56.2105	2.8289	11.7113	-0.0221	和田峠・鷹山系	1.0000	2.3048	男女倉系Ⅲ	0.00	157.71			
HGY2-076	55.3643	1.8304	11.9956	-0.0305	和田峠・鷹山系	1.0000	0.8953	男女倉系Ⅲ	0.00	177.89			
HGY2-077	55.4732	0.1717	12.3314	-0.0276	和田峠・鷹山系	1.0000	4.8653	男女倉系Ⅲ	0.00	205.35			
HGY2-078	55.8104	0.1350	12.7403	-0.0265	和田峠・鷹山系	1.0000	5.2719	男女倉系Ⅲ	0.00	273.40			SI10
HGY2-079	55.2080	1.8819	11.3905	-0.0158	和田峠系Ⅰ	0.9993	3.0256	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	17.42			SI10
HGY2-080	55.9989	2.3271	11.0211	0.0026	和田峠系Ⅰ	1.0000	4.2187	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	28.52			
HGY2-081	54.3832	2.7388	12.4360	-0.0429	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9398	1.8340	和田峠系Ⅰ	0.06	7.33			SI5
HGY2-082	56.0627	1.3145	11.9942	-0.0058	和田峠・鷹山系	1.0000	0.9703	男女倉系Ⅲ	0.00	179.04			SI5
HGY2-083	54.1079	2.5682	12.1577	-0.1223	和田峠・鷹山系	1.0000	14.6320	男女倉系Ⅲ	0.00	177.33			
HGY2-084	58.2982	0.0561	11.2686	-0.0049	和田峠系Ⅰ	0.9993	11.0901	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	25.49			
HGY2-085	54.5202	1.6463	11.0714	-0.0119	和田峠系Ⅰ	1.0000	2.9741	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	34.24			
HGY2-086	56.6597	0.0923	11.9859	-0.0250	和田峠・鷹山系	1.0000	3.1214	男女倉系Ⅲ	0.00	140.39			
HGY2-087	54.1864	0.2503	12.1751	-0.0274	和田峠・鷹山系	1.0000	8.9249	男女倉系Ⅲ	0.00	202.62			
HGY2-088	57.6191	0.4603	12.3083	-0.0279	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9507	3.6546	和田峠系Ⅰ	0.05	9.57			
HGY2-089	55.5240	3.9231	12.2428	-0.0035	和田峠・鷹山系	1.0000	1.8794	男女倉系Ⅲ	0.00	298.69			
HGY2-090	53.9776	4.0946	12.2502	0.0001	和田峠・鷹山系	1.0000	2.3635	男女倉系Ⅲ	0.00	323.66			
HGY2-091	56.0302	1.0259	12.2951	-0.0269	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9484	1.2359	和田峠系Ⅰ	0.05	7.06			
HGY2-092	53.9711	4.1172	13.1182	-0.0227	和田峠系Ⅰ	0.9986	11.4746	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	24.55			SI6
HGY2-093	55.1973	1.8003	11.7656	-0.0211	和田峠・鷹山系	1.0000	0.9005	男女倉系Ⅲ	0.00	151.13			SI6
HGY2-094	53.8368	1.6584	12.0317	0.0086	和田峠・鷹山系	1.0000	6.4987	男女倉系Ⅲ	0.00	231.97			SI6
HGY2-095	55.3689	2.0022	12.5426	-0.0266	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9426	1.6938	和田峠系Ⅰ	0.06	7.29			
HGY2-096	57.1379	2.7773	12.3653	-0.0137	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9242	5.7159	和田峠系Ⅰ	0.08	10.72			
HGY2-097	58.6634	1.5277	11.7608	-0.0442	和田峠・鷹山系	1.0000	11.5882	男女倉系Ⅲ	0.00	123.39			
HGY2-098	57.8985	0.9144	12.3028	-0.0101	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9697	4.8160	和田峠系Ⅰ	0.03	11.74			
HGY2-099	57.9310	0.1821	11.2032	0.0391	和田峠・鷹山系	1.0000	7.8158	男女倉系Ⅲ	0.00	82.48			
HGY2-100	57.0703	2.6914	11.9669	-0.0760	和田峠・鷹山系	1.0000	12.3312	男女倉系Ⅲ	0.00	158.07			
HGY2-101	53.9983	4.4318	11.3081	-0.0308	和田峠系Ⅰ	1.0000	4.9176	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	29.46			
HGY2-102	54.4154	3.6385	11.6746	-0.0280	和田峠系Ⅰ	0.9835	3.6671	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.02	11.84			
HGY2-103	55.1568	3.3787	11.5472	0.0076	和田峠系Ⅰ	0.9691	3.6590	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.03	10.55			
HGY2-104	57.3187	0.6492	12.3706	-0.0301	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9586	2.7676	和田峠系Ⅰ	0.04	9.05			
HGY2-105	56.5987	2.2477	12.0394	-0.0165	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9172	1.9259	和田峠系Ⅰ	0.08	6.74			
HGY2-106	55.4615	2.4920	11.9481	-0.0044	和田峠・鷹山系	1.0000	0.1109	男女倉系Ⅲ	0.00	202.96			
HGY2-107	56.8593	1.8204	10.7768	-0.2256	判別不可	-	-	-	-	-			
HGY2-108	57.0517	1.0476	12.0549	-0.0346	和田峠・鷹山系	1.0000	2.2740	男女倉系Ⅲ	0.00	156.41			
HGY2-109	58.0871	1.2674	12.1439	-0.1815	判別不可	-	-	-	-	-			
HGY2-110	56.7629	1.1797	11.7716	-0.0141	和田峠・鷹山系	1.0000	1.7265	男女倉系Ⅲ	0.00	134.60			
HGY2-111	54.7833	1.6542	12.0908	-0.0267	和田峠・鷹山系	1.0000	1.7537	男女倉系Ⅲ	0.00	199.06			
HGY2-112	54.7643	2.4709	10.9628	0.0444	和田峠系Ⅰ	1.0000	7.2736	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	28.49			
HGY2-113	56.2235	3.0259	11.5326	-0.0086	和田峠系Ⅰ	0.9498	5.6568	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.05	11.54			
HGY2-114	56.7708	2.2571	11.6282	0.0160	和田峠・鷹山系	1.0000	1.7620	男女倉系Ⅲ	0.00	157.19			
HGY2-115	56.9273	1.6307	10.6261	0.0975	和田峠・鷹山系	1.0000	13.2640	男女倉系Ⅲ	0.00	85.42			
HGY2-116	55.2708	2.8139	12.5207	-0.0053	和田峠・鷹山系	1.0000	1.5680	男女倉系Ⅲ	0.00	321.64			
HGY2-117	53.3788	3.5083	11.5602	-0.0996	和田峠・鷹山系	1.0000	11.9579	男女倉系Ⅲ	0.00	127.33			
HGY2-118	56.5176	1.7027	12.5668	-0.0287	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9560	2.2004	和田峠系Ⅰ	0.04	8.36			
HGY2-119	58.1091	0.0497	12.2414	-0.0331	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9025	6.1658	和田峠系Ⅰ	0.10	10.62			
HGY2-120	55.2366	0.7508	12.5260	-0.0201	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9305	5.0016	和田峠系Ⅰ	0.07	10.19			
HGY2-121	58.3362	1.0432	12.1788	-0.0211	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9683	5.2359	和田峠系Ⅰ	0.03	12.08			
HGY2-122	57.6336	2.6265	12.0804	-0.0267	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9456	5.9143	和田峠系Ⅰ	0.05	11.63			
HGY2-123	55.8654	0.0000	12.0441	-0.1356	判別不可	-	-	-	-	-			
HGY2-124	54.9733	1.7865	11.7187	-0.0662	和田峠系Ⅰ	0.9950	11.4433	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	22.04			
HGY2-125	55.2238	0.9381	11.8839	0.0268	和田峠・鷹山系	1.0000	6.0005	男女倉系Ⅲ	0.00	190.18			
HGY2-126	40.4026	14.6778	6.6807	0.0658	男女倉系Ⅰ	0.9987	3.7823	男女倉系Ⅲ	0.00	17.02			
HGY2-127	40.7916	12.9739	9.6208	-0.0491	西霧ヶ峰系	1.0000	3.3108	和田峠・鷹山系	0.00	44.37			
HGY2-128	58.1647	1.7757	12.1906	-0.0317	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9722	5.3407	和田峠系Ⅰ	0.03	12.45			
HGY2-129	25.3683	30.9421	3.9241	0.2740	冷山・麦草峠系	1.0000	16.1346	横岳系	0.00	80.04			
HGY2-130	56.3867	1.9208	12.2268	-0.0248	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9566	0.4099	和田峠系Ⅰ	0.04	6.59			
HGY2-132	56.1491	1.9382	11.8782	-0.0318	和田峠・鷹山系	1.0000	1.4988	男女倉系Ⅲ	0.00	155.90			SI8
HGY2-133	58.0244	2.7728	12.3320	-0.2770	判別不可	-	-	-	-	-			
HGY2-134	55.2350	2.9417	11.1938	-0.0342	和田峠系Ⅰ	1.0000	5.7518	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	31.66			
HGY2-135	53.4422	2.8098	12.6963	-0.0267	和田峠・鷹山系	1.0000	6.0245	西霧ヶ峰系	0.00	363.90			
HGY2-136	56.4751	2.4040	12.3830	-0.0626	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9811	3.6151	和田峠系Ⅰ	0.02	11.51			
HGY2-137	57.2577	0.5101	11.7831	0.0129	和田峠・鷹山系	1.0000	3.0490	男女倉系Ⅲ	0.00	138.69			
HGY2-138	57.8641	0.7952	11.9192	-0.0009	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9290	5.9319	和田峠系Ⅰ	0.07	11.08			
HGY2-139	53.5183	2.3404	12.5923	-0.0409	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9309	5.2912	和田峠系Ⅰ	0.07	10.49			
HGY2-140	56.4622	1.7013	11.9356	-0.0320	和田峠・鷹山系	1.0000	1.6877	男女倉系Ⅲ	0.00	157.33			SI6
HGY2-141	55.7015	2.3403	12.3484	-0.0386	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.9604	0.2704	和田峠系Ⅰ	0.04	6.65			SI6
HGY2-142	54.4329	2.4631	9.9489	0.0358	和田峠系Ⅰ	1.0000	4.0461	和田峠系Ⅲ	0.00	64.25			
HGY2-143	51.7538	2.0425	11.8307	-0.0196	和田峠系Ⅰ	0.9852	13.2858	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.01	21.69			
HGY2-144	54.9713	2.1766	11.3823	0.0035	和田峠系Ⅰ	0.9971	2.8565	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	14.53			
HGY2-145	55.9984	1.6492	11.6989	-0.0012	和田峠・鷹山系	1.0000	0.8550	男女倉系Ⅲ	0.00	145.91			
HGY2-146	54.0918	3.1974	10.4650	-0.0203	和田峠系Ⅰ	1.0000	4.7120	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	78.27			SI2
HGY2-147	56.3771	3.6979	12.2969	-0.0241	和田峠・鷹山系	1.0000	3.6833	男女倉系Ⅲ	0.00	277.26			SI2
HGY2-148	55.9499	2.1847	10.8701	0.0229	和田峠系Ⅰ	1.0000	5.5357	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	32.42			SI2

第3節 萩山遺跡出土人骨

国立科学博物館人類研究部

梶ヶ山 真里

1. 緒言

当遺跡は、熊谷市千代に所在する遺跡である。火葬施設に短頸壺の蔵骨器に埋納された火葬骨が検出され、人骨は総重量 670 g である。通常、白人男性 1 体分の火葬骨の重量はほぼ 3kg であることを考慮すると、今回検出された分量は少ない。保存されている骨は大きくても 5 cm 以内四方の骨片、あるいはそれより細かい骨小片である。大きな骨片の表面には細かい亀裂が認められ、歪み、収縮が大きい。細かい破片、亀裂部によって裂けている状態である。骨片のほとんどは、灰白色を呈している。通常、江戸時代以前の焼骨は、部分的に黒色や炭化した部分があるが、当遺跡出土焼骨は、残っている全部が白色を呈する。骨質は緻密で、非常に絞まった骨質である。

焼骨については、イギリスやアメリカにおいて人類学や法医学の分野から研究がおこなわれている <Brothwell(1981), Buikstra & Ubelaker (1994), Krogman & Iscan(1986)>。それらを要約すると、火葬骨の色は火葬の際の焼成温度に左右され、焼成温度があがるにつれて、黒色から灰色、灰色から白色へと変化するという。熱を受ける前は有機物を含んだ白骨であるが、焼成温度が 500 度前後は黒色、600 度から 900 度は灰色から白色、900 度以上では白色や淡黄色となり、また、700 度以上では亀裂や収縮が起きる。また、灰白色や白色の細かい焼骨が残存場合、15%～30%の収縮を考慮しなければならぬと報告されている (Ubelaker 1989)。さらに、人骨の状態と火葬方法は、遺体をそのまま火葬する方法と、再葬墓のように白骨化したものを火葬する 2 つの方法がある。遺体をそのまま火葬した場合、焼かれて残った骨は縦や横方向への亀裂が多く、その亀裂にそって割れて細くなる。ねじれや歪み、変形、収縮が著しい骨片となる。一方、一度白骨化 (晒) した人骨を火葬 (焼く) する再葬の場合は、亀裂が少なく、収縮やねじれ、変形もほとんどない。

以上のことから当遺跡より検出された焼骨の状態から判断すると、軟部がついた状態で焼成温度は 700 度～1000 度という高温で焼かれたと判断してよい。

2. 人骨所見

総重量：670g

頭蓋骨、四肢骨、椎骨、肋骨、寛骨などの全身の部位を確認できる。いずれかに偏った部位だけを選択して埋葬している痕跡はない。頭蓋骨 (写真 1) には冠状縫合が確認できる。縫合には骨増殖の痕跡は確認できない。頭蓋骨の内外板には亀裂が見られるものの、生前のクモ膜課粒小窩や静脈溝の圧痕という加齢傾向の痕跡はまったくない。右上顎骨および歯槽部 (写真 1) が保存されている。歯槽部はほとんど開放状態であるが、右上顎犬歯の歯根が埋まったままである。歯槽の開放状態は以下の歯式のとおりである。

= ○ ○ ○ ○ 3 ○ ○ |

上顎の内側は切歯縫合部分で破損しており、癒合していない縫合が顕著に認められる。癒合消失していないことから、比較的若い個体、30才以前のもので判断できる。また、遊離した歯根片と、大臼歯歯冠半分ほどが保存されている（写真4）。右下顎枝部分の下顎枝頭は破損している、下顎角の内側には顕著な隆起が確認でき、男性の可能性を伺える。

四肢骨では、大腿骨片や脛骨片の破片と思われるものが比較的多く残っている。それ以外に、上腕骨骨体破片とおもわれるものが7cm程度保存されている。三角筋粗面の箇所であり、わずかに熱による膨張の可能性が疑われるが、筋付着面の明瞭な隆起として判断して妥当であろう。しかし、断面は高温で長時間焼かれていたことを予測させるほど、緻密な断面である。寛骨部分の破片や、椎骨の海面質部分も頑丈に残っている。椎骨の椎体部分は粗造ではなく、骨粗鬆症の可能性は低い。

以上の特徴を総合的に考えると、当遺跡の出土人骨の性別は男性である。年齢は頭蓋縫合の開離状態や、切歯縫合の状態から、30才前の比較的若い個体の可能性が高い。

3. まとめ・結語

検出人骨は、人骨の特徴から30才前後の若い男性個体であると推測される。保存されている人骨に加齢による経年変化や、さらには疾病による変化もない。

なお、特質すべきこととして、人骨とともに獣骨（鳥類）の長管骨と思われる破片が3・4点検出されている（写真5）。その長さは約3cm～4cm、径は3mm以下である。鳥類特有の中空状態の形態であり、わずかに骨体の一部に溝状のもの確認できる。さらに骨表面が他の人骨片と異なり、人工的に磨かれたような光沢と滑らかさがある。もともと1本の長いものであった可能性も考えられるが、現状では接合はできない。たとえば、長い簪や短い状態では首飾り等、装飾品として被葬者が生前装着していた可能性が高い。人骨と共に検出されるのは非常に珍しい検出例である。

謝 辞

通常、焼骨が取り上げられ、年齢性別など詳細なことがわかりにくく、「焼骨一括」として取り扱われる状態がほとんどである。しかし、当遺跡出土の焼骨は、幸いにも非常に細かく丁寧に取り上げられ、クリーニング、分類された上での分析依頼であった。そのため、人骨鑑定が迅速かつ詳細に観察できただけでなく、「骨製品」「鳥類？」と思われる遺物を確認することができた（当研究部坂上和弘研究主幹による指摘）。このような貴重な機会を与えていただき、熊谷市森田氏をはじめとした関係者の皆様に心から感謝申し上げる次第である。今回の事例から鑑み、焼骨一括として取り扱われたものを再度精査することで、人骨以外のものが検出される可能性は高いのではないかとと思われる。今後、同様の類例の増加を期待したい。

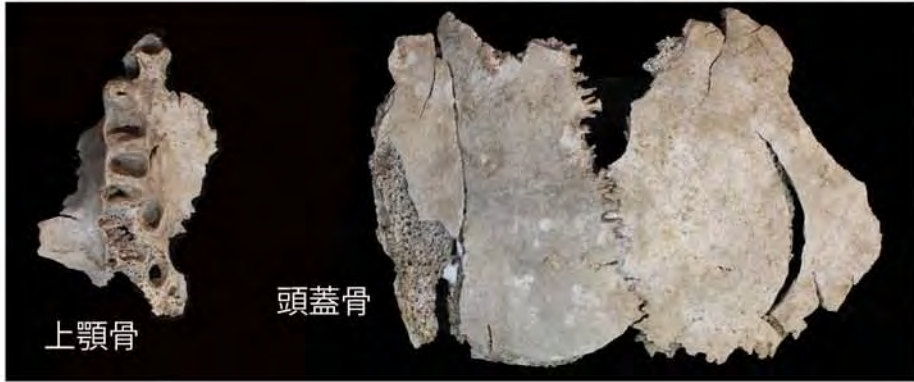


写真 1



写真 2



写真 3

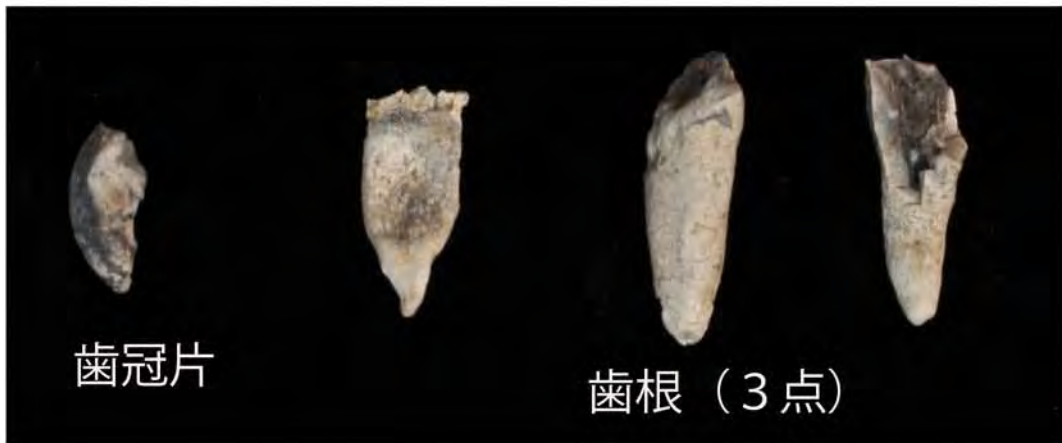


写真 4



写真 5

第V章 考 察

第1節 縄文時代早期出土遺物の検討

1. 土 器

本遺跡からは、早期撚糸文系土器、押型文系土器、貝殻沈線文系土器、条痕文系土器、判ノ木山西式類似土器、後期称名寺式土器が出土している。ここでは、県内でも比較的まとまった資料となる、撚糸文系土器と、条痕文系土器・判ノ木山西式類似土器について、若干の検討を行うこととする。

第1群土器：撚糸文土器に比定される土器群で、井草Ⅰ式土器～東山式土器が出土しており、主体は夏島式土器である。文様構成により、大きく10類に分類した。第1類土器：表裏面に撚糸文が施文されるもの。第2類土器：口唇部文様帯＋口縁部文様帯＋胴部文様帯の3文様帯構成をとるもの。第3類土器：口唇部文様帯＋胴部文様帯の2文様帯構成をとるもの。第4類土器：口唇部成形後、口端部から文様施文が行われるもの。第5類土器：口端部から文様を施文した後に口端部を成形するもの。第6類土器：口縁部に無文部を設けるもの。第7類土器：口唇部下に若干の無文部を設け、粗く縄文・撚糸文を施文するもの。第8類土器：条線文が施文されるもの。第9類土器：口唇部下に爪形文を施文するもの。第10類土器：無文土器。

これらの分類したものを、縄文、撚糸文、条線文・爪形文・無文の文様別に、Ⅶ段階の変遷を示したのが、第13～15図である。

I期は、縄文施文土器のみで、撚糸文を施文した土器は確認されていない。口唇部が外反し肥厚する器形で、3文様帯で構成される。口唇部上端と外端に、単節縄文を2段施文するもの(1・3)、3段施文するもの(2)、2段施文の重複部に撚糸側面圧痕文を施文するもの(PL92-6)などがある。口縁部には斜位(3)、横位(2)、縦横位(PL92-3)に単節縄文が施文され、指頭圧痕(1)や爪形文(2)、鋸歯状に撚糸圧痕文(3)が重複施文される。胴部は、単節縄文が縦位施文される。口縁部文様帯の幅は、3cm前後で、典型的な井草Ⅰ式に比定される段階である。鋸歯状に撚糸圧痕文が施文される土器は、千葉県新東京国際空港 No.2 遺跡(新東京国際空港公団：1971)・No.7 遺跡(新東京国際空港公団：1984)、No.60 遺跡(新東京国際空港：1994)、木の根 No.3 遺跡(財団法人千葉県文化財センター：1981)、西之城貝塚(芹沢：1955)、高根北遺跡(房総考古資料刊行会：1974)等で出土しているもので、井草Ⅰ式土器に併行する新潟県室谷洞窟出土の室谷上層式土器(長岡市立科学博物館：1964)にもみられるモチーフである。

Ⅱ期は、縄文施文土器と撚糸文施文の土器で構成される。口唇部が外反しやや肥厚する器形で、3文様帯で構成される。口縁部文様帯が狭いのが特徴で、縄文施文の土器は、無文部の口唇下に指圧痕を連続して加えるもの(4・8)、爪形文を連続して加えるもの(7)、撚糸圧痕文を施文するもの(5・6)がある。口唇上端と外端に、単節縄文を2段施文する(4～8)。胴部は、単節縄文が縦位施文される。撚糸施文の土器は、無文部の口唇下に爪形文を連続して加えるもの(16)、

		繩文	
I期	井草I古		
II期	井草I新		
III期	井草II		
IV期	夏島古		
V期	夏島新		
VI期	稻荷台		
VII期	東山		

第13図 萩山遺跡撚糸文土器変遷図(1)

撚糸文	
I期	
II期	
III期	
IV期	
V期	
VI期	
VII期	

第14図 萩山遺跡撚糸文土器変遷図(2)

条痕文・爪形文・無文	
I期	
II期	
III期	
IV期	<p>Figure 15 shows the evolution of cord-patterned pottery from the Aishan site. The drawings are organized into seven periods (I to VII). Period I and II are empty. Period III shows a large fragment (28) and two smaller ones (29, 30). Period IV shows four fragments (28, 30, 31, 32). Period V shows two fragments (33, 34). Period VI shows one fragment (35). Period VII shows one fragment (36). The patterns transition from vertical cord marks to horizontal and diagonal ones.</p>
V期	
VI期	
VII期	

第15図 萩山遺跡撚糸文土器変遷図(3)

絡条体圧痕文が施文されるもの(17)、無文帯となるもの(18)がある。口縁部文様帯の幅は1～2cm程で、井草Ⅰ式の新段階に比定される。千葉県笠木山遺跡(富里村教育委員会：1980)や栃木県宇都宮青陵高校地内遺跡(栃木県教育委員会：1986)で口縁部に無文帯を有する土器や、東京都多門寺前遺跡(多門寺前遺跡調査会：1982)で押圧縄文を施文する土器の文様帯に注目して細分されている段階に該当する。

Ⅲ期は、縄文施文土器と撚糸施文の土器で構成される。口唇部がやや外反し肥厚する器形で、口唇部と胴部文様帯の2文様帯で構成される。撚糸文は細密なものが多く、胴部に縦位施文されるもの(20)、斜位に不規則施文されるもの(21)がある。井草Ⅱ式に比定される段階である。

Ⅳ期は、縄文施文土器と撚糸文施文土器に加え、条痕施文土器、爪形施文土器、無文土器が構成に加わる。口唇部への施文が無くなる段階で、口唇部成形後に口端部から施文を行っている。口唇部は、ほぼ直立しやや肥厚丸頭状を呈するもの(13)、やや外反角頭状を呈するもの(11・12)がある。縄文施文土器は、口端部より縦位に縄文施文が行われるが、口唇下に撚糸圧痕状に縄文を短く施文する土器(12)が認められる。撚糸文土器は細密なものが多く、口端部より縦位に撚糸文施文が行われるが、口唇下に絡条体圧痕状に器面に施文する土器も認められる(22)。条痕文の施文される土器は、口唇部が外反する(28)。口端部より条痕が施文されることから本段階と判断した。また、口唇下に爪形文を施文する土器(29・30)、無文土器(31・32)も本段階からⅤ期に比定されるものと推測される。本遺跡で最も出土量が多く、夏島式の古段階に比定される。

Ⅴ期は、縄文施文土器と撚糸文施文土器、条痕施文土器、無文土器によって構成される。口端部からの文様施文後に口唇部を成形する。口唇部の肥厚はほとんど見られず、ほぼ直線的に開くもの(14)、やや外反するもの(25)、やや内湾気味に立ち上がるもの(33)がある。口唇下に絡条体圧痕状に撚糸原体を押し付け、連続して胴部に回転させずに条線となるように施文する、いわゆる絡条体条線文土器をこの段階とした(34)。夏島式の新段階とした。

Ⅵ期は、縄文施文土器と撚糸文施文土器、無文土器によって構成される。縄文は浅い施文となり(15)、撚糸文は、撚糸がやや太く条間隔の開くものが施文される(26・27)。無文土器は、前段階との区別が難しいが、口唇部が直立し、口唇内側がやや膨らむ器形のものの本段階とした(35)。稻荷台式に比定される。

Ⅶ期は、無文土器のみで、1点のみ確認している(36)。口縁部が折り返し状を呈し肥厚する。東山式に比定される。

第4・5群土器：第4群土器は、子母口式土器に比定した。角棒状・丸棒状・半裁竹管工具による押引状の刺突文を口唇部上や口縁部に施文するもの(PL102-2・3・5～13・15・29・31)、沈線により文様を描出するもの(PL102-16～18・23・30、PL103-38)、絡条体圧痕文が施文されるもの(PL104-19～22・24～28・37～39)、条痕のみ観察されるもの(PL102-4・14・32～34)が存在する。絡条体圧痕文は、口縁部の肥厚帯に施文されるもの(PL102-19～22・25・26・28・39)、口縁部の低隆帯上に施文するもの(PL102-22・27)、頸部の隆帯上に施文するもの(PL103-37)がある。

これらの土器群は、文様要素に微隆起線が存在しないこと、絡条体圧痕文の施文が口唇部肥厚帯

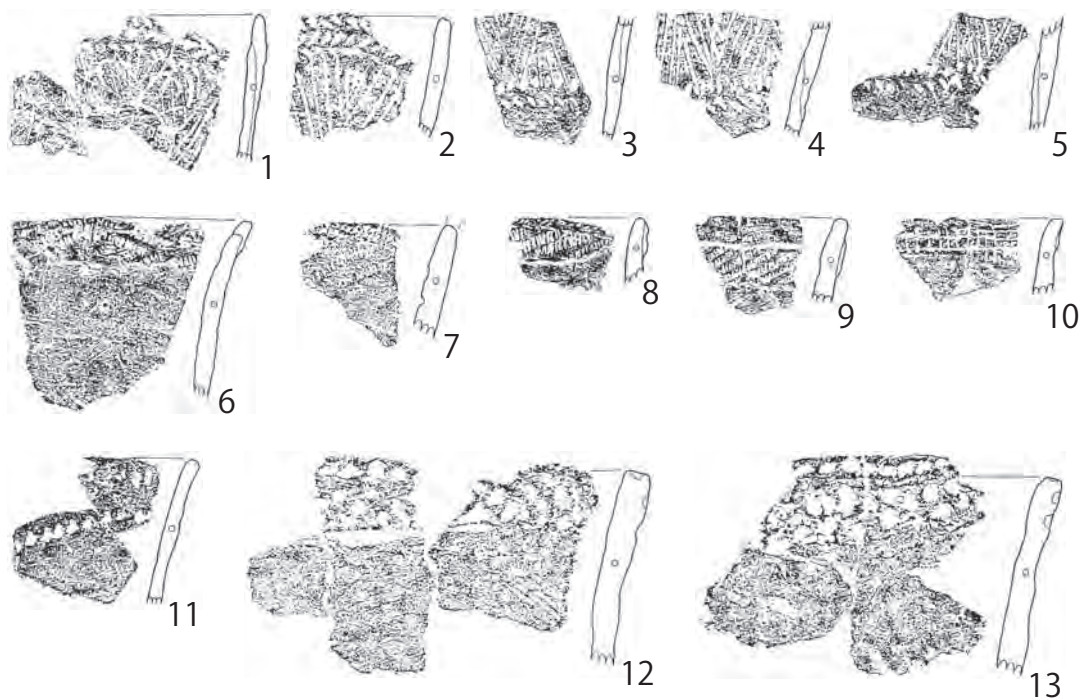
および隆帯上に限られていることから、子母口式期でも古い段階に比定される。

第5群土器は、判ノ木山西式土器に類似する一群である。判ノ木山西式土器は、長野県茅野市判ノ木山西遺跡出土土器群（長野県教育委員会：1981）を基に阿部芳郎氏によって設定された、中南信地域、山梨県、神奈川県北西部地域に主体的に分布する早期後半の土器型式である（阿部：1997・2010）。その型式的特徴は、a類：口縁部に刺突列を巡らせて、その下に幅の広い文様帯を設けるもの。b類：口縁部に刺突列を巡らせて、以下を無文とするもの。c類：縦位の刺突のみのもの。d類：無文で横位の条痕または擦痕などの調整痕を施すもの。とされ、時期的には、田戸上層式の新しい段階から子母口式に併行する考えが示されている。

本遺跡で第5群土器として分類した土器群を見ると、第1類とした、口唇部に幅広い文様帯をもつ土器には、口唇部に半裁竹管や棒状工具による刺突列を加え、口縁部に波状沈線を施文しているもの（P L 103-40~43・63）、口縁部に沈線で綾杉状モチーフを描くもの（P L 103-44~46）、多裁原体による擦痕状の調整痕が認められるもの（P L 103-47・50~62）が存在する。文様構成、文様描出方法、調整方法等から判断して、判ノ木山西式土器に近い一群と判断される。

この第5類とした土器群は、本地域周辺では初見の土器であり、主体的に存在する土器ではない。第4類土器とした子母口式土器に判出していると判断するのが合理的であるが、時期的な判断は、本土器群が判ノ木山西式に比定されるのかも含め、今後の課題である。

静岡県沼田市西洞遺跡では、本遺跡とほぼ同様の内容の子母口式土器が出土している（第16図：沼津市教育委員会 2002）。絡条体圧痕文を、口縁部の肥厚帯に施文するもの（6・7）、口縁部の低隆帯上に施文するもの（8・9）、角棒状工具による押引文を口縁部に施すもの（26）、円形状工具による刺突文を口縁部に施すもの（12・13）、短沈線を刻み状に施文するもの（10）が出土している。この土器群に伴って、口縁部文様帯の上下端を矢羽根状の刻みを施し、鋸歯状の集合沈線を施文する土器群が出土している（1~5）。



第16図 西洞遺跡出土土器

この土器群については、金子直行氏は判ノ木山西式に比定し、判ノ木山西式→平石式への変遷を指摘しており（金子：2004・2005）、橋本 淳氏はこれらの土器群を平石式に比定し、平石式→判ノ木山西式への変遷を指摘している。一方、判ノ木山式の型式設定者である阿部芳郎氏は、これらの特徴を持つ土器を平石式と認識しているようであり、平石式→判ノ木山西式の変遷を指摘している（阿部：2010）。

平石式は、長野県佐久市平石遺跡（望月町教育委員会：1989）出土土器をもとに阿部芳郎氏が型式設定したもので、口縁下に矢羽根状短沈線を施し、横位多段に角押状押引文を施すものや、幅狭の口縁部文様帯内に鋸歯状沈線を施文する土器（橋本：2010）と理解されている。平石式・判ノ木山西式の各型式内容・編年的位置を含め、中部地方における早期中～後半期の土器編年は、見解の統一は図られていないのが現状である。

本遺跡と西洞遺跡出土の子母口式土器が、同段階のものとするれば、伴出した土器群も同一時期に属するものと考えられる。本遺跡の第5群土器は、その内容は判ノ木山西式土器に近く、西洞遺跡出土の集合沈線文系土器は、平石式に近い内容であると判断される。すると、両遺跡における伴出土器群の違いは、時期的なものではなく地域差によるものであり、子母口式土器（古）—判ノ木山西式土器—平石式土器が併行関係に置かれることになる。子母口式土器に併行する中部地方の土器型式についての検討は今後の課題である。

2. 石 器

本遺跡からは、総数 2,472 点の石器が出土している（第 11 表）。撚糸文期の遺構からは、磨石、スタンプ形石器、石皿、礫器、棒状礫器、剥片石器、石核、敲石、凹石、石錐、石錘、石槍、磨製石斧、打製石斧、砥石、有溝砥石、石鏃、石鏃未製品、石鏃素材剥片等 583 点が出土しており、該期の石器とすることが出来る。遺構外からも同様の石器が出土しているが、早期条痕文系土器群と後期称名寺式期の石器が混じっていると判断され、特に磨石、礫器、小形の石皿については、条痕文期にも存在することからその区別は難しい。スタンプ形石器・特殊磨石・有溝砥石・横長剥片を利用した翼状削器・局部磨製石斧等の石器は撚糸文期特有の石器と判断される。磨石 1,070 点、スタンプ形石器 437 点、石皿 97 点の 3 器種で全体の 64.8% を占め、食物加工具の割合が高いことが指摘される。

石鏃製作関連資料：本遺跡からは、石鏃 65 点（チャート 38 点、黒曜石 24 点、頁岩 3 点）とその製作に関連する資料として、石鏃素材剥片 32 点（チャート 30 点、黒曜石 2 点）、石鏃未製品 24 点（チャート 23 点、フォルンフェルス 1 点）、チャート原石 3 点の他、黒曜石チップ 45 点（9.17 g）・剥片 111 点（162.97 g）、チャートチップ 96 点（15.55 g）・剥片 900 点（2916.13 g）が出土している。黒曜石・チャート製の石鏃製作を、集落内で行っていたことが推測される。

黒曜石は、石核・石鏃未製品・原石は確認されていないが、素材剥片と剥片・チップ・製品が確認されている。素材剥片には、打面部に最大厚を持つ縦長剥片である素材剥片 A（P L 116-89）と横長剥片 B が遺構外より確認されている。剥片・チップ類は、第 2・3・5・6・7・9・13 号住居跡、遺構外より出土しているが、石鏃製作の場として認識する程集中して出土する傾向は認めら

れない。本遺跡より出土した黒曜石の総重量は、191.44 g を量る。黒曜石剥片には、自然面を残す個体が多く確認されることから、遺跡への搬入形態は、小型の礫状態で持ち込まれ、石鏃製作を行ったものと推測される。黒曜石製石鏃完形品 20 点の平均長は 20.0 mm、平均幅 13.6mm、平均重量 0.8 g となる。

チャートは、石核は確認されていないが、原石・素材剥片・石鏃未製品・剥片・チップ・製品が確認されている。素材剥片には、打面部に最大厚を持つ縦長剥片である素材剥片 A : 5 点 (P L 116-93) と横長剥片 B : 13 点 (P L 32-39、P L 118-86・87・90・92)、素材の縁辺に切断様剥離による急角度剥離面が認められる素材剥片 C : 10 点 (P L 116-94) が遺構外より確認されている。剥片・チップ類は、各住居跡および遺構外より出土しているが、特に、第 2・3・6・7 号住居跡より集中して出土しており、石鏃製作の場として機能していたことが推測される。チャートは、荒川で容易に採取できる石材である。2 点の原石が遺構外より出土しているが、粒径は、6.8 cm と 5.7 cm を測る。荒川堆積物の調査を行った『荒川 自然』(埼玉県 : 1987) によると、萩山遺跡付近の荒川の川原で採取されるチャート礫の平均粒径は、熊谷大橋上流 450m で 6.8 cm、荒川大橋上流 800m で 7.8 cm となっており、概ねこの範囲内で採取されたものと推測される。

チャート製石鏃未製品は、素材剥片の縁辺の一部に加工を加え形状を整える未製品 A : 19 点 (P L 32-41、P L 111-46~52)、各縁辺からの加工が加えられ形状が整えられる未製品 B : 3 点 (P L 32-40)、切断様剥離面の除去が終了し基部が整えられる未製品 C : 1 点が遺構内外より出土している。未製品 A の平均長は 3.5 cm、平均幅 2.5 cm、平均重量 9.5 g となる。未製品 B は、平均長 2.5 cm、平均幅 2.1 cm、平均重量 4.0 g、未製品 C は、長さ 2.5 cm、幅 1.7 cm、重量 5.0 g となる。未製品 C は、1 点のみの出土であり、比較するにはデータ不足であるが、未製品 A から未製品 B へ平均長 -17.1% (-0.6 mm)、平均幅 -16.0% (0.4 mm)、平均重量 -57.9% (-5.5 g) の減少が認められる。チャート製石鏃完形品 22 点の平均長は 15.2 mm、平均幅 12.8 mm、平均重量 0.6 g となる。本遺跡出土チャートの総重量は、2922.9 g を測る。

これらの資料から、荒川川原でチャート原石を採取して集落内に持ち込み、石鏃を製作していたことが推測される。

本遺跡から 2km の距離に、縄文時代中期加曾利 E 式期の集落遺跡である西原遺跡が位置しており、石鏃 301 点、石鏃未製品 446 点、素材剥片 412 点、石核 117 点、原石 88 点、剥片・チップ類 3,500 点の石鏃製作関連資料が出土している (江南町教育委員会 : 1996)。

第8表 チャート製石鏃関連資料法量比較

遺跡名		未製品A	未製品B	未製品C	未製品D	完製品	原石
萩山遺跡	平均長(cm)	3.5	2.9	2.5	—	1.5	8.4
	平均幅(cm)	2.5	2.1	1.7	—	1.3	6.3
	平均重量(g)	9.5	4.0	5.0	—	0.6	378.3
西原遺跡	平均長(cm)	4.0	3.4	2.7	3.0	2.2	9.3
	平均幅(cm)	3.1	2.6	2.3	2.1	1.7	7.8
	平均重量(g)	16.2	8.4	4.0	2.5	1.3	785.7

石質構成は、チャート 219 点 (72.8%)、黒曜石 60 点 (20.0%)、頁岩 16 点 (5.3%)、フォルンフェルス 4 点 (1.3%)、粘板岩 1 点、安山岩 1 点となっている。本遺跡の構成比が、チャート 58.4%、黒曜石 36.9%、頁岩 4.6%であり、荒川で採取可能な地元石材のチャートと、広域流通する黒曜石で構成される石鏃の主要石材構成に有意な違いは認められない。

採取されたチャート原石は、西原遺跡が平均長 9.3 cm、平均幅 7.8 cm、平均重量 785.7 g、平均粒径 7.5 cmあるのに対し、本遺跡のチャート原石は、平均長 8.4 cm、平均幅 6.3 cm、平均粒径 6.3 cmとなっており、やや小型のチャート礫が採取されている。

石鏃未製品では、未製品 A が平均長 4.0 cm、平均幅 3.1 cm、平均重量 16.2g、未製品 B が平均長 3.4 cm、平均幅 2.6 cm、平均重量 8.4 g、未製品 C が、平均長 2.7 cm、平均幅 2.3 cm、平均重量 4.0 gとなっており、本遺跡出土未製品より大きくなっていることが指摘される。この他、本遺跡からは確認されていないが、側縁の微細な調整剥離が行われていない未製品 D 段階の資料も出土しており、平均長 3.0 cm、平均幅 2.1 cm、平均重量 2.5 gとなっている。

小形品を志向する傾向は完成品においても同様で、西原遺跡の石鏃の平均長 2.2 cm、平均幅 7.8 cm、平均重量 1.3 gであるのに対し、本遺跡の石鏃の平均長 1.5 cm、平均幅 1.3 cm、平均重量 0.6 gとなっている。縄文時代早期の石鏃は、中期のものに比べ、石質構成は変化しないが、製品としての小形品を志向していることが指摘される。

スタンプ形石器：スタンプ形石器は、早期燃糸文期に特徴的な石器であり、合計 437 点が出土している。埼玉県内では、最も多い出土量であり、稻荷台式期の集落跡である群馬県楡木Ⅱ遺跡(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団：2009)の 1,089 点、夏島式期を中心とする集落跡である東京都武蔵台遺跡(都立府中病院内遺跡調査会：1999)の 619 点に次ぐ出土量となっている。本遺跡から 3km の距離にある、同じ江南台地上に立地する深谷市四反歩遺跡(財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団：1993)からは、306 点のスタンプ形石器が出土している。

本書では、四反歩遺跡との比較を容易にするため、同報告書の分類項目に準じて属性の分類を行った。

・側面加工の種類—a 種：側面の全周に加工を施すもの(梵字形石器)。b 種：2 側縁に加工を施すもの。c 種：1 側縁のみ加工を施すもの。d 種：側縁に加工を施さないもの。

・属性の種類—1. 底面整形：1 度の打割で形成された底面に、調整剥離を施して平坦面を作出するもの。2. 底側剥離：底面から側縁部に延びる垂直方向の小剥離痕。3. 底面磨耗：使用によると推測される底面の磨耗痕。4. 被熱：熱を受けて赤化しているもの。

スタンプ形石器の石材組成は、閃緑岩 247 点 (56.5%)、砂岩 157 点 (35.9%)、花崗岩 11 点 (2.5%)、フォルンフェルス 8 点 (1.8%)、礫岩 4 点、千枚岩 3 点、チャート 2 点、凝灰岩 2 点、頁岩 1 点、緑色岩 1 点、石英班岩 1 点となっており、閃緑岩と砂岩で全石材の 92.4%を占めている。四反歩遺跡においても、閃緑岩 165 点 (53.9%)、砂岩 128 点 (41.8%) で全石材の 95.8%を占めており、江南台地におけるスタンプ形石器の主要石材となっている。

一方、楡木Ⅱ遺跡での石材組成は、安山岩 751 点 (69.0%)、ひん岩 163 点 (15.0%)、閃緑岩 118 点 (10.8%)、溶結凝灰岩 18 点 (1.7%)、砂岩 2 点、輝緑岩 1 点、頁岩 1 点、玄武岩 1 点、デ

イサイト 1 点となっており、安山岩・ひん岩、閃緑岩で全石材の 94.8%を占めている。武蔵台遺跡での石材組成は、報告書に記載されているものは砂岩 90 点 (75%)、閃緑岩 23 点 (19.2%)、斑れい岩 5 点、フォルンフェルス 2 点となっており、砂岩・閃緑岩で全石材の 94.2%を占めている。

萩山遺跡・四反歩遺跡では荒川、楡木Ⅱ遺跡では吾妻川、武蔵台遺跡では多摩川において、スタンプ形石器の用途に適したそれぞれの採取可能な石材を選択していたことがうかがえる。

底面整形は、437 点中 141 点の 32.3%に認められた。側面加工別に見ると、a 種：1 点、b 種：4 点、c 種：17 点、d 種：119 点となる。石材別に見ると、閃緑岩 72 点 (51.1%)、砂岩 63 点 (44.7%)、花崗岩 1 点 (0.7%)、フォルンフェルス 3 点 (2.1%)、凝灰岩 1 点 (0.7%)、緑色岩 1 点 (0.7%) となっている。底面整形と、側面加工・石質についての有意な関係は認められず、底面に平坦面を作出するために施される調整剥離である。

底側剥離は、底面から垂直に延びる剥離痕。437 点中 212 点に認められた。側面加工別に見ると、a 種：0 点、b 種：7 点、c 種：13 点、d 種：191 点となる。石材別に見ると、閃緑岩 136 点 (64.2%)、砂岩 64 点 (30.2%)、花崗岩 6 点 (2.8%)、フォルンフェルス 3 点 (1.4%)、礫岩 1 点 (0.5%)、チャート 1 点 (0.5%)、緑色岩 1 点 (0.5%)、となっている。

底面磨耗は、437 点中 258 点 (59.0%) に認められた。側面加工別に見ると、a 種：0 点、b 種：7 点、c 種：18 点、d 種：233 点となる。石材別に見ると、閃緑岩 172 点 (66.7%)、砂岩 74 点 (16.9%)、花崗岩 7 点 (2.7%)、フォルンフェルス 2 点 (0.8%)、礫岩 1 点 (0.4%)、緑色岩 1 点 (0.4%)、石英班岩 1 点 (0.4%) となっている。底面磨耗が認められるもの 258 点の内、底側剥離が認められるものは 197 点 (76.4%) を数え、一方、底面磨耗が認められないもの 179 点の内、底側剥離が認められるものは 14 点 (7.8%) となっている。底面磨耗と底側剥離に有意の関係があることが指摘でき、使用の過程で底側剥離が生じているものと推測される。

被熱は、437 点中 44 点 (10.1%) に認められた。側面加工別に見ると、a 種：1 点、b 種：0 点、c 種：5 点、d 種：37 点となる。石材別に見ると、閃緑岩 8 点 (18.1%)、砂岩 35 点 (79.5%)、千枚岩 1 点 (2.3%) となっている。閃緑岩は、247 点中 8 点 (3.2%) が焼けており、砂岩は 157 点中 35 点 (22.3%) が焼けている。砂岩石材に被熱の痕跡が多く確認されることが指摘できる。四反歩遺跡では、逆に閃緑岩に被熱の痕跡が多く確認されており、未製品についても被熱が見られることから、分割の際に何らかの儀礼が行われた可能性を指摘している。

第9表 スタンプ形石器属性分類表

底面整形	×	×	×	×	○	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	計
底側剥離	×	×	×	○	×	○	○	×	×	×	○	○	×	○	○	○	
底面磨耗	×	×	○	×	×	×	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	
被熱	×	○	×	×	×	○	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	
側面加工a種	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
側面加工b種	4	0	0	0	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	13
側面加工c種	4	2	3	0	6	0	5	0	1	3	1	1	0	0	5	1	32
側面加工d種	86	12	24	5	42	1	126	4	3	24	6	12	3	1	39	1	389
合計	95	14	27	5	50	1	136	4	5	27	7	13	3	1	46	2	436

また、側面稜部に細かい敲打痕の観察される特殊磨石の転用または併用と推測されるものが第3号住居跡より2点（P L 10-33・36）、遺構外から1点出土しており、中部高地に主体的に分布する特殊磨石との関係が注目される。この他、上面・側面に磨耗（P L 40-16、P L 113-64）、敲打（P L 31-24、P L 36-17・18、P L 40-16、P L 53-24、P L 66-13、P L 91-45、P L 113-63）、研磨痕（P L 40-16、P L 54-27、P L 76-3、P L 112-56、P L 113-62、P L 114-65）の観察される個体も確認され、多機能的な石器として用いられたことがうかがえる。

本遺跡のスタンプ形石器は、遺構からは第1・3～16・23号住居跡、第3・4・8・13・14号集石土坑から出土している。住居跡出土土器は、井草式から夏島式土器と幅があるが、主体となるのは、夏島式土器である。スタンプ形石器は、夏島式期には確実に存在し、時期的には遡る可能性も高いと推測される。

また、本遺跡や四反歩遺跡、群馬県楡木Ⅱ遺跡でのスタンプ形石器の石器組成に占める割合は、南関東よりも高いことが指摘され、時期的にも早い段階での存在が推測される。

有孔礫：遺構外より、自然石に穴のあいている礫が1点出土している（P L 120-149）。孔は、人為的にあけられたものではなく、石の生成過程で異質の成分が混じり、転石過程でその部分が自然に抜け落ちたものと推測される。重量 97 g を量ることから、垂飾としては重過ぎると思われ、用途は不明である。

東京都武蔵台遺跡でも、この穴のあいた砂岩と頁岩製の礫が4点出土している。撚糸文期の集落内より出土しており、当該期の石器として報告されている。

近世の民俗事例であるが、市内樋春地区には、「穴の薬師」と呼ばれる石仏があり、目の病気が治るように願を掛け、治るとそのお礼として穴のあいた石を奉納したと伝えられており、石仏の周りには穴のあいた石が多数奉納されている。中々見つからない穴のあいた石を見つけ奉納する行為が、病気を治してもらったことへの代価になっていると推測され、当時の人々も、何らかの意図をもって、川原より採取してきたものと推測される。

第2節 萩山遺跡の古代火葬墓について

江南台地域での古代火葬墓の検出例は少なく、県全域の発見例(表1)を見ても極めて偏在しており、各地域の歴史的背景を抜きにしては理解が難しい状況がある。小文では熊谷市域とその周辺部になる古代武蔵国北半を占める男衾・大里・幡羅・榛沢・埼玉・比企・横見郡の発見例も含めて火葬墓を含む古代墳墓について考える。

萩山遺跡周辺の古代 熊谷市域では蔵骨器を伴う火葬墓と副葬品を伴う土葬墓が発掘されており、萩山遺跡の他に東山遺跡(横見郡か)、光屋敷遺跡(埼玉郡)で蔵骨器に埋納された火葬骨の出土があり、土葬墓では木棺墓との可能性も含めて、西別府館跡例をはじめ6遺跡がある。県内では両者の検出された遺跡もあるが、単独での検出例とともに複数基の火葬墓群として蔵骨器がともなう遺跡が知られる(表1)。

萩山遺跡は、茶毘跡に設置された蔵骨器を伴う火葬墓と、蔵骨器のみを埋納した火葬墓と竪穴住居跡から構成される。状況的には集落の周縁に設置された墓地とみられるが、近接する伽藍と寺域を備えた古代寺院「寺内廃寺」など重要遺跡の影響を抜きには考えられないので、以下に歴史的環境を再確認してみる。

荒川に面した江南台地域から都幾川の右岸地域の一部までを古代男衾郡域に想定しているが、7世紀前半に男衾郡域に渡来した渡来系氏族は郡域での山野の開墾に当たり、製糸・織物・製紙・畑作・木材・製鉄など産業面の発展に貢献したとされる。彼らの墓域は後期～終末期の古墳と想定されており、その一つは立野古墳群で後に寺内廃寺を造営する有力氏族に成長したと考えている。立野古墳群は寺内廃寺の西南に位置し、金銅製毛彫杏葉・須恵器長頸瓶などを副葬した立野12号墳を発掘している。古墳群自体は7世紀前半頃から8世紀前半まで造墓と祭祀が継続され、8世紀前半の寺内廃寺創建までに古墳造営は停止する。最終末の墳墓は小型の16号墳と1号小石室で、1号小石室は八角形とみられる1号古墳の西側に位置する。16号墳と1号小石室には火葬骨を納めるか、蔵骨器を埋納した施設ではないかと想定する。同古墳群は盗掘に遭っていることから蔵骨器の出土は確認されていないが火葬墓として営まれた可能性が高いと考えている。長頸瓶は蔵骨器として利用された場合もあり注意される。当時の政治状況から男衾郡地域の郡領氏族であり、寺内廃寺の造営者ともなった壬生吉志氏の累代の墓域であったと想定している。

「類聚三代格」「続日本後紀」にも現れる壬生吉志氏は、9世紀前半段階に武蔵国中郡であった男衾郡大領となっている。おそらく、一族間での郡領の交替があったとみられ先の史料では「前男衾郡大領外従八位上壬生吉志福正」ともみえるが、武蔵国分寺七重塔再建の発願者に名を挙げることから武蔵国各郡領間でも大きな発言力を有していたと想定され、武蔵国総力での再建事業に繋がっていったと思われる。寺内廃寺は壬生吉志氏の氏寺と考えるが郡寺となった可能性も高く、彼の勢力の背景となった経済的・思想的影響力は多大で、寺内廃寺の果たした宗教的・精神的役割は地元里人にも無縁ではありえない。正式僧侶の存在や集辺集落での私度僧等の寺院内外活動も想定でき、例えば寺院参道で行われた万灯会などを介して寺外村里の人々へも仏教信仰の一端を見聞させる機会を提供し、布教の素地を作っていたと想定される。寺内廃寺の参道脇から出土した大量の灯明

第10表 埼玉県内の火葬墓

No.	遺跡名等	所在地	立地	基数	蔵器	年代	備考
1	萩山南遺跡	熊谷市(旧江南町)千代	台地上	2	須惠器有蓋短頸壺 土師器甕須惠器蓋	8世紀第3四半期	骨
2	栗山遺跡	熊谷市(旧大里町)曹山	台地上南斜面	4	土師器甕 須惠器甕 須惠器蓋	9世紀第1四半期～第3四半期	骨
3	光屋敷遺跡	熊谷市上中条光屋敷	低地	1	灰釉長頸壺 須惠器蓋	9世紀後半	骨
4	宮林遺跡	深谷市(旧花園町)	台地上	1	須惠器甕 坏 高盤	8世紀後半	覆土中に鉄板2枚伴出
5	慈光寺崩山塔	ときがわ町慈光寺	丘陵上	1	須惠器蓋	9世紀前半	中世に改葬か
6	越畑城跡	嵐山町越畑	丘陵東斜面	1	須惠器甕 須惠器蓋	9世紀代	
7	見沢北遺跡	東松山市岩殿児沢	丘陵南東尾根	1	須惠器甕・蓋・坏	9世紀前半	
8	西大岡	東松山市西大岡	台地南辺	1	須惠器甕	9世紀中ごろ	骨 不時発見
9	畑中	東松山市畑中	台地	1	須惠器短頸壺	8世紀中ごろ	不時発見
10	大谷	東松山市大谷	台地	1	須惠器甕	8世紀後半	不時発見
11	大正寺遺跡	東松山市宮鼻代正寺	台地	1	須惠器甕・蓋・坏	9世紀中小	
12	物見山遺跡	東松山市岩殿	丘陵東尾根	1	須惠器甕須惠器蓋	8世紀後半	
13	大平遺跡	鳩山町石坂大平	丘陵南尾根	1	須惠器甕 坏 蓋	9世紀中ごろ	
14	鬼山	鳩山町赤沼鬼山	丘陵裾	1	須惠器有蓋短頸壺	9世紀中ごろ	骨粉状
15	鯨井新田	川越市吉田鯨井新田	台地南縁	1	須惠器短頸壺	9世紀代	
16	半沢	川越市笠幡半沢	台地	1	有蓋短頸壺	8世紀中ごろ	
17	鶴ヶ舞遺跡	ふじみ野市(旧大井町)	台地縁辺	1	有蓋短頸壺	9世紀中頃	
18	松山遺跡	ふじみ野市(旧富士見市)	台地縁辺	1	須惠器短頸壺・蓋	9世紀代	骨 蓋に「伯子」墨書
19	山口新田	所沢市山口新田	丘陵	1	須惠器獸脚付有蓋短頸壺	8世紀中ごろ	
20	大久保頭家	さいたま市(旧浦和市)	台地東縁	1	須惠器長頸瓶	9世紀代	
21	八王子遺跡	さいたま市(旧与野市)	台地上	1	灰釉短頸壺 須惠器蓋	9世紀中ごろ	女 木炭槌か、K-78
22	浜川戸遺跡	春日部市粕壁	自然堤防上	5	土師器甕 土師器坏 須惠器甕 蓋 坏	8世紀前半～9世紀代	
23	西立野道上遺跡	川口市西立野	台地北縁	1	土師器甕	9世紀代	
24	天沼遺跡	川口市安行	台地縁辺	1	須惠器甕 須惠器蓋	8世紀後半	刀子
25	宝泉寺遺跡	川口市大竹	台地縁辺	7	土師器甕	9世紀代	
26	大竹後遺跡	川口市大竹	台地縁辺	3	土師器甕 須惠器蓋 須惠器短頸壺 坏	9世紀代	甕「万」墨書
27	吹原遺跡	川口市大神	台地上	21	土師器甕 須惠器蓋	9世紀前半～中ごろ	骨 蓋「小淵福」墨書
28	大竹水天脇	川口市大竹水天脇	台地上	1	須惠器手付瓶 土師器甕	9世紀中ごろ	不時発見
29	東本郷	川口市東本郷	台地上	2	須惠器短頸壺 須惠器長頸瓶 土師器甕	8世紀後半～9世紀中ごろ	不時発見
30	新郷	川口市新郷	台地上	1	灰釉長頸壺	8世紀後半	
31	安行吉岡遺跡	川口市	台地上	1	土師器甕	9世紀前半	
32	赤山陣屋跡	川口市赤芝新田	台地上	1	土師器甕	9世紀前半	
33	三ツ和遺跡	川口市三ツ和(旧鳩ヶ谷市)	台地上	1	土師器甕 須惠器蓋	9世紀前半～中頃	散骨タイプの火葬墓
34	旭・小島古墳群	本庄市下野堂	台地上	1	須惠器短頸壺	8世紀中ごろ	蔵骨器の可能性あり

熊谷市内の古代土坑墓

1	西別府館跡	西別府天神	台地北縁	1	灰釉陶器碗 須惠器碗	9世紀後半(K90)	「得か」須惠器墨書
2	大塚遺跡	曹山大塚	台地	1	須惠器碗 坏	10世紀第1四半期	墨書あり 木棺釘?
3	上前原遺跡	千代上前原	台地北縁	1	土師質須惠器碗	10世紀後半	「而」墨書
4	飯塚北遺跡	飯塚	台地上	1	緑釉陶器 多数	10世紀前半	「木」墨書土器
5	下新田	野原	台地上	12	ほとんど遺物なし 長方形土坑	9～10世紀代	竪穴1軒
6	鹿島遺跡	野原	台地上	100以上	ほとんど遺物なし 円形土坑 土師器	8～10世紀代	集落墓?

皿みると、これら灯明皿の一部は集落へ持ち込まれたと予想している。萩山遺跡第 19 号住居から出土した土師器坏は寺内廃寺参道脇出土灯明皿と同型式で、おそらく同一場所からの生産供給と思われ、同寺の付属機関であった「東院」工房などからもたらされたものだろう。

萩山遺跡の東方から回り込む谷奥部には寺内廃寺が南面し、その南西部に湧水点がある。この間約 1km 内に同時代の集落は寺域に接して西遺跡、中島遺跡、鹿嶋遺跡、伊勢遺跡、百済木遺跡などが取り巻き、やや空閑地を置いて桜山遺跡、萩山遺跡、宮下遺跡、谷開口部付近を占める上前原遺跡が位置する。現在までの調査では、萩山遺跡では他に堅穴住居跡など集落の存在を窺わせる遺構の発見はないことから、集落以外の土地利用として台地部分一帯を占める墓域が想定される。寺内廃寺周辺での墓地は、円阿弥遺跡・上前原遺跡で 1～2 基の土葬墓の発見がある。やや離れるが下新田遺跡・鹿島遺跡でも 10 数基からなる土坑群が発見されており、家族墓などと考えている。両遺跡には、小型の堅穴住居跡が近辺に検出されるなど葬送に係る施設を備えていたとみることができる。

武蔵北半地域の火葬墓 古墳群中に火葬墓が作られた冚山の東山遺跡では、4 基の火葬墓に土師器甕、須恵器甕を転用した蔵骨器が確認されている。当時墳丘が明らかであったろう東山 1 号前方後円墳(6 世紀末 7 世紀初頭の造営)とこの古墳裾に位置する火葬墓群(9 世紀前半)とは、やや時期が開くものの系譜関係を想定する余地はあろう。もう少し広範な目で見れば、冚山は雷電山丘陵の東端に当たるが、この雷電山丘陵は尾根とその支丘陵に分布する三千塚古墳群の展開する広大な墓域を構成しており、一帯を対象とする聖地の観念は引き続き古代にあっても、同族観、祖先観を共通あるいは一体できるものとして、広範な地域や集団に抱かれていたと思われる。この雷電山丘陵でも西大岡、畑中、大谷地点で古代の蔵骨器発見が知られている。また、東松山市から鳩山町の岩殿丘陵でも、児沢北、物見山、大平、兎山遺跡などで火葬墓や土葬墓の発見があり、岩殿山を聖地とする墓域の設定があつて造墓がなされたと考えられる。後に岩殿山が霊場化する淵源となるのではないかとさえ思う。

このようないわば「山の墓」を考える際に重要な拠点として、寺内廃寺からも遠望できる都幾山系には、さらに高みに位置する都幾山慈光寺がある。慈光寺は、鑑真和上の高弟とされる道忠(生没年不詳、8 世紀後半を主として活動か)によって開かれ、後に天台宗関東布教の拠点となり最澄、円澄、円仁らの遺蹟とも伝承される。この都幾山は男衾・比企・入間など県中・北部地域からも望むことができるが、この視認性は遠方より拝礼できることを示すもので、古代にあつては聖地観を生む場所として近辺の郡・郷地域から意識されていたのではないかと考えている。集落・平地・人間地(塵埃地)・卑俗⇔寺社・高地・空閑地(清浄地)・聖地に対応するような精神世界が窺われる。雷電山や岩殿山、越畑城跡例にも見るような集落から離れた丘陵に造営された文字通りの「山の墓」だけでなく、萩山遺跡のように集落に連続する人煙のない清浄と考えられた山林中の「山の墓」も、「身近にある聖地」とする重層的な観念が墳墓の造営にあつたと考えている。

萩山遺跡の被葬者像 古代の火葬習慣は仏教思想に根ざしたもので、受容者は天皇・貴族・僧尼ら高位の身分にある者が、薄葬の徹底とともに広めたとされ、地方においては律令支配体制に連なる地方官人や末端に位置する郡領氏族までもが受容したと考えられ、彼らの拠地とした村里にも火葬

墓が営まれた。同時期に浸透していった仏教信仰の影響も欠かせず、山野の開墾進展と村里の仏堂造営が並行する状況も東国では見られ、精神的支柱として仏教信仰にかかる造寺・造塔の行為とともに新来の葬送儀礼が取り入れられたものとされる。東国の集落では渡来人も含めて庶民層を出自とする私度僧らによる活動も大きく、市域においても西別府廃寺や女塚遺跡で確認された仏堂（大倉寺）での活動も加わるだろう。男衾郡では壬生吉志氏の動向が追えるものの、幡羅・横見・比企・入間・高麗など渡来人帰着伝承地での様相は未解明であり、その実像を確かめることは難しい。しかし、先の道忠の活動から、壬生氏出身の円澄、円仁ら高位の宗教者出現の素地は、先の地域での渡来系の人々の存在と影響を抜きには考えられないだろう。

既に、8世紀後半より9世紀代の東国では広汎な山野の開墾事例とあわせて、新たに火葬墓が出現する各地の実態が知られ、開墾にあたった人たちの中には新興の富豪層ともなった在地の人々や渡来の人々が含まれていたとされ、川崎市域では具体的氏族名として壬生吉志氏の動向も想定されている。

萩山遺跡の火葬墓は寺内廃寺の近傍ではあるが、造営氏族である壬生吉志氏の伝統的墓域と考える立野古墳群から外れるいわば新たに設けられた墓地であり、他遺跡の例を参考にすると山野の新開墾地での造墓の在り方に近い。しかし、火葬墓が継続して作られていないことは、一集団の成員とも言いがたく、一個人のための造墓とも思える。第19号竪穴住居跡を葬送儀礼のための施設（喪屋）との性格を想定しているので、短頸壺という選ばれた蔵骨器を使用し、手厚い葬送が行われていたことから、仏教的な葬送儀礼が執行されるにふさわしい人物なのであろう。この時期の火葬墓の多くは、郡領氏族や新興富豪層、僧侶たちと想定される状況を踏まえると、帰属集団の中では独自の生涯を送った人物であろうか。

ここで、萩山遺跡第1・2号火葬墓の示す火葬から埋葬までの工程案を示すと、被葬者の成人男性は死後、第19号竪穴住居跡の設置と共に移され(あるいは死期を予知して来たか)、一定の期間祭祀が行われた後に1号火葬墓で茶毘に付された。主な遺骨は収骨し、粉碎され須恵器有蓋短頸壺に収められ、山砂を蔵骨器に入れ、2号火葬墓に埋められた。地表には標識となる盛土がなされ、標木や献花の設えがあったと思われる。残余の遺骨片は土師器甕に収骨して、茶毘跡を整え墓坑を掘り1号火葬墓へ埋納した。上部構造は不明だがある程度の盛土はなされたと思われる。

上記のように萩山遺跡の火葬墓は茶毘と埋葬が区別されているが、これは1回の火葬から埋葬の行程を示していると思われる。山砂の納入は土砂加持を思わせる葬法を反映していると考えられることから、葬送における僧職者の関与を窺わせる。被葬者は、寺内廃寺にも関わる僧尼等の僧侶で壬生氏に連なる人物か、高德の私度僧や遊行僧などであった可能性もあろう。また、遺存骨量から茶毘後の収骨に際し分骨も意識していたと考えている。

寺内廃寺に属した僧尼の実態は全く不明で、寺域近辺での発掘調査でも火葬墓は今のところ検出されていない。萩山遺跡例とはやや異なるが、寺院跡近傍と想定される東松市代正寺遺跡では廃寺想定地に近接する古墳に火葬墓が造営されており、同古墳群の系譜をひく僧尼の火葬墓である可能性も想定できる。この場合、出身集団（氏族）への回帰として造墓されていると考えられる。

なお、墓地に関わる竪穴住居跡では各遺跡に共通する属性がみられ、一般集落から離れ単独で所

在し、継続的な使用が希薄で、出土遺物も少ないが、墨書土器・灯明皿などがみられた。今回の萩山遺跡をはじめ川崎市の遺跡、川口市叭原遺跡、熊谷市下新田遺跡、鹿嶋遺跡などは単独住居と火葬跡や土坑墓が共存していることから、喪屋などの葬送に関わる施設であった可能性が高いと想定している。

理解を深めるため当時、民間での仏教活動の在り様を活写する『日本霊異記』に見える火葬に関する部分をいくつか取り上げ参考とする。①「摂津国東成郡撫田村の富める家公」(中巻5話)は19日間火葬にするなどと言い残す。②「河内国安宿郡鋤田寺僧智光」(中巻7話)は7日間火葬にするなど戒めた。③「讃岐国香川郡坂田里の富める人」(中巻16話)では、死後に卜者に7日間火葬するなどと云わせた。④「讃岐国山田郡の布敷臣衣女」(中巻25話)は3日のうちに火葬されたため他人の体で蘇生した。⑤「讃岐国美貴郡大領の妻」(下巻26話)では7日間は火葬しなかった。などのように火葬までに「殯」などの葬送儀礼をおこない、その間の日数について7日～19日開けていたことが窺える。また、⑥「信濃國小県郡跡目里の他田舎人蝦夷」(下巻22話)の場合は火葬にはしなかったが、妻子は埋葬の場所を決め墓を作り、遺体を祀っておいた(「地を点メテ冢ヲ作り、殯して置きき」)。同様な説話は⑦「信濃國小県郡嬢里の大伴連忍勝」(下巻第23話)にもみえる。これらの説話にみる「冢」は這い入る屋とか灰家の意味とされ、遺灰を埋めた場所の意味とされる。這い入るほどの(小さな)家屋と理解すれば、葬送のための施設として造られた小竪穴住居などがそれであろうか。

これらの説話から、古代においても埋葬までに一定期間の殯が営まれたことや、墓地の選定、葬送の施設が作られていたことが知られる。考古学的に実証することが難しいが、萩山遺跡の19号竪穴住居跡の性格を推定する一助にはなるだろう。『日本霊異記』記された世界には、人々の宗教観や多様な活動が数多く記されるように、渡来人の僧を含め村里での私度僧たちの活動があった、当市域の状況についてもそう遠くないであろう。(新井)

註 中田祝夫 編『日本霊異記』日本古典文学全集6 小学館 1989 16版

- ①中巻第5話「漢神の崇ニ依り牛を殺して祭り、又放生の善を修して、以て現に善悪の報いを得し縁」
- ②中巻第7話「智者の変化の聖人を誹り妬みて、現に閻羅の闕に至り、地獄の苦を受けし縁」
- ③中巻第16話「布施せぬと放生するとに依りて、現に善悪の報を得し縁」
- ④中巻第25話「閻羅王の使の鬼の、召さるるを人の饗を受けて、恩を報いし縁」
- ⑤下巻第26話「非理を強いて債ヲ徴り、多く倍を取りて、現に悪死の報いを得し縁」
- ⑥下巻第22話「重き斤もて人の物を取り、又法花経を写して、現に善悪の報を得し縁」
- ⑦下巻第23話「寺の物を用ゐ、復大般若を写さむとして、願を建て、以て現に善悪の報いを得し縁」

引用・参考文献

- 阿部芳郎 1997 「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会
- 阿部芳郎 2010 「判ノ木山西式土器の研究」『考古学集刊』第6号 明治大学文学部考古学研究室編
- 石坂茂・岩崎泰一 1989 「撚糸紋土器文化における石器群の一致相—スタンプ形石器と三角錐形石器を中心として—」『研究紀要』5 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岩比田遺跡調査会 1983 『岩比田—埼玉県大里郡江南村岩比田遺跡発掘調査報告書—』
- 門田誠一 2010 「好酒」『墨書土器の史的環境』 佛教大学文学部論集
- 金井塚良一編 1976 『北武蔵考古学資料図鑑』 校倉書房
- 金子直行 2004 「押型文系土器群と沈線文系土器群最終末期の関係性」『研究紀要』第19号 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 金子直行 2005 「沈線文系土器群から条痕文系土器群への構造的変換と系統性—V字状文と入組状菱形文の系譜—」『縄文時代』16 縄文時代文化研究会
- 川本町遺跡調査会 2000 『百済木』
- 川本町教育委員会 1991 『焼谷・権現堂・権現堂北・山ノ腰遺跡』 川本町発掘調査報告書第5集
- 川本町遺跡調査会 2000 『上本田遺跡Ⅰ』 川本町遺跡調査会報告書第5集
- 川本町遺跡調査会 2003 『本田城・上本田遺跡（第7次調査）』 川本町遺跡調査会報告第9集
- 熊谷市原谷遺跡調査会 2010 『原谷遺跡、寺内遺跡10次、中島遺跡2次、西遺跡3次、一本木前遺跡6次』
- 熊谷市宮下遺跡調査会 2010 『宮下遺跡Ⅱ』 熊谷市宮下遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第1集
- 江南町 1995 『江南町史』資料編1 考古
- 江南村教育委員会 1982 『塩前遺跡発掘調査報告書』
- 江南町教育委員会 1988 『本田・東台 上前原』江南町文化財調査報告書第8集
- 江南町教育委員会 1996 『丸山遺跡』江南町文化財調査報告第11集
- 江南町教育委員会 江南町千代遺跡群発掘調査会 1996 『千代遺跡群—縄文時代編—』江南町千代遺跡群発掘調査報告書1
- 江南町教育委員会 2002 『寺内遺跡範囲確認調査関連報告書』 江南町埋蔵文化財発掘調査報告書第13集
- 小林義孝 他 2004 「古墳から奈良時代墳墓へ」『大阪府立近つ飛鳥博物館 平成16年度春季特別展』大阪府立近つ飛鳥博物館
- 埼玉県 1987 「荒川本流の堆積物」『荒川 自然』
- 埼玉県遺跡調査会 1974 『下新田遺跡・荒神脇遺跡・熊野遺跡発掘調査報告書』
- 埼玉県遺跡調査会 1987 『甘粕原・ゴシン・露梨子遺跡』 埼玉県遺跡調査会報告書第35集
- 財団法人千葉県文化財センター 1981 『木の根』
- 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1993 『白草遺跡Ⅰ・北篠場遺跡』 川本工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告—Ⅲ—』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第129集
- 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1993 『四反歩遺跡 川本工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告—Ⅳ—』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第130集
- 狭川真一 1998 「古代火葬墓の造営とその背景」『古文化談叢』第41集 九州古代文化研究会
- 嶋野岳人・石原園子・長井雅史・鈴木尚史・杉原重夫 2004 「波長分散型蛍光X線分析装置による日本全国の黒耀石全岩定量分析」『日本文化財科学会第21回大会研究発表要旨集』140—141
- 新東京国際空港公団 1971 『三里塚—新東京国際空港用地内の考古学的調査—』
- 新東京国際空港公団 1984 『新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ—No. 7 遺跡—』
- 新東京国際空港公団 1994 『新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 取香和田戸遺跡（空港No. 60 遺跡）』
- 菅原祥夫 2009 「居宅と火葬墓」『福島県埋蔵文化財センター研究紀要 2009年度』 福島県埋蔵文化財センター
- 杉原重夫・小林三郎 2004 「考古遺物の自然科学的分析に関する研究—黒耀石産出地データベース—」『明治大学人文科学研究紀要55』1—83.
- 杉原重夫・小林三郎 2006 「文化財の自然科学的分析による文化圏の研究」『明治大学人文科学研究紀要59』43—94
- 杉原重夫・檀原徹・山下透 2004 「霧ヶ峰火山における黒耀石の産出状況とフィッシュン・トラック年代」『日本第四紀学会発表要旨集34』20—21.
- 杉原重夫・長井雅史・鈴木尚史・柴田徹・小森次郎・太田陽介・金成太郎 2006 「神津島産黒耀石の産地推定に関する基礎的研究—蛍光X線分析による定量・定性分析から—」『日本文化財科学会第23回大会発表要旨集』200—201.

- 芹沢長介 1955 「千葉県西ノ城貝塚—関東縄文式早期文化の研究—」『石器時代』第2号
- 千野裕道 1991 「縄文時代に二次林はあったか—遺跡出土の植物性遺物からの検討—」『東京都埋蔵文化財センター研究論集X』P214-249 東京都埋蔵文化財センター
- 鈴木啓介 2014 「南関東における縄文時代早期前葉の石器群の変遷」『法政考古学』第40集記念論文集 法政考古学会
- 多門寺前遺跡調査会 1982『多門寺前遺跡I』
- 鶴川第二地区遺跡調査会 1989『新光寺・広袴遺跡群IV』
- 栃木県教育委員会 1986『宇都宮青陵高校地内遺跡調査報告』 栃木県埋蔵文化財調査報告第77集
- 都立府中病院内遺跡調査会 1999『武蔵台遺跡IV』
- 富里村教育委員会 笠木山遺跡調査会 1980『笠木山遺跡』
- 長井雅史・杉原重夫・檀原徹・岩野英樹・小森次郎・柴田徹・平野公平 2006 「塩嶺累層, 和田峠-霧ヶ峰地域の火山層序と
榑崎修一郎 2007 「火葬人骨と考古学」『墓と葬送の中世』狭川真一編
- フィッショントラック年代』『日本第四紀学会発表要旨集36』96-97
- 長岡県立科学博物館 1964『室谷洞窟』長岡市立科学博物館研究調査報告第6冊
- 長野県教育委員会 1981「判ノ木山西遺跡」『長野県中央道埋蔵文化財発掘調査報告書—茅野市・原村その3—』
- 日本第四紀学会 1993「2、研究対象別分析法、木材」『第四紀試料分析法』P267-276 東京大学出版会
- 沼津市教育委員会 2002『西洞遺跡(c・d区)発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書第78集
- 橋本 淳 2010「中部地方における縄文早期沈線紋土器の編年」『研究紀要』28 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 馬場悠男・梶ヶ山真里 2006「被葬者の人類学的所見」『近世大名墓所の調査』坂詰秀一編 池上本門寺
- 古谷昭彦 2002『神津島の黒曜石, 東京都神津島村フォークロア』 東京都神津島村教育委員会, 2-17
- 房総考古資料刊行会 1974「高根北遺跡(CN406)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書IV』
- 明治大学古文化財研究所 2009『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定—基礎データ集<1>—』
- 宮崎朝雄・金子直行 1989「井草式土器及び周辺の土器群について」『研究紀要』第5号 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 村田文夫・増子章二 1989「南武蔵における古代火葬骨蔵器の基礎的研究(上)」『川崎市市民ミュージアム紀要』第2集
川崎市市民ミュージアム
- 村田文夫・増子章二 1990「南武蔵における古代火葬骨蔵器の基礎的研究(下)」『川崎市市民ミュージアム紀要』第3集 川崎市市民ミュージアム
- 本橋恵美子 1989「縄文時代の有溝砥石の研究—軽石素材を中心として—」『東国史論』第4号 群馬考古学研究会
- 望月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里 1994「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について—沼津市土手上遺跡BBV層の原産地推定から—」『静岡県考古学研究26』1-24.
- 望月明彦 1997「蛍光X線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X線分析の進歩28』157-168.
- 望月町教育委員会 1989『平石遺跡』
- 森本 徹 1999「群集墳の変質から見た古代墳墓の成立過程」『古代文化』51 財団法人古代学協会
- 安村俊史 1999「火葬墓を内包する終末期古墳群」『古代文化』51 財団法人古代学協会
- 吉澤 悟 1996「煙の末々」『東国火葬事始』 栃木県立博物館特別展図録
- 吉澤 悟 2002「穿孔骨蔵器にみる古代火葬墓の造営理念」『日本考古学 第12号』 日本考古学協会
- 吉澤 悟 他 2006『火葬と古代社会』 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 第11回特別展上高津貝塚ふるさと歴史の広場
- 寄居町遺跡調査会 1990『むじな塚遺跡群』 寄居町文化財調査報告第8集
- 寄居町遺跡調査会 1996『甘粕原遺跡』 寄居町遺跡調査会報告第7集
- 寄居町遺跡調査会 1996『むじな塚遺跡(第4次調査)』 寄居町遺跡調査会報告第10集
- 寄居町遺跡調査会 1997『露梨子(第2次調査)』 寄居町遺跡調査会報告第12集
- 寄居町遺跡調査会 1998『むじな塚(第5次)』 寄居町遺跡調査会報告第16集
- 寄居町遺跡調査会 2001『南大塚遺跡(第3次)』 寄居町遺跡調査会報告第21集
- 寄居町遺跡調査会 2004『東原遺跡』 寄居町遺跡調査会報告第27集
- 寄居町遺跡調査会 2006『赤浜牛無具利遺跡』 寄居町遺跡調査会報告第29集
- 寄居町教育委員会 1982『東国寺東・平倉遺跡』 寄居町文化財調査報告書第7集
- 寄居町教育委員会 1993『東国寺東・増善寺遺跡』 寄居町文化財調査報告書第11集
- 寄居町教育委員会 1998『町内遺跡6』 寄居町文化財調査報告第20集
- 寄居町教育委員会 2002『露梨子(第4次調査) 赤浜(第2次調査)』 寄居町文化財調査報告第26集

- 立正大学考古学研究室 1988 『熊谷校地内遺跡調査概要—昭和63年度・R地点』
- 立正大学博物館 2010 『古代・中世の武蔵国の骨蔵器』 立正大学博物館 第7回企画展
- 立正大学古代文化研究会 1978 『いゝこしえ』 第2号「埼玉県大里郡江南村採集の先土器時代資料」
- 渡邊 一 1987 『叭原遺跡』 考察編 埼玉県川口市教育委員会
- 渡邊 一 他 1995 『東日本における奈良・平安時代の墓制—埼玉県』 東日本埋蔵文化財研究会
- Bothwell,D.R.1981 『Dingging up Bones』 British Museum of Natural History
- Buikstras, J.E. & Ubelaker, D.H. 1994 『Standards for Data Collection from Human Skeletal Remains 』 Arkansas Archeological Survey Research
- Krgman, W.M. & Iscan,M.Y. 1986 『The Human Skeleton in Forensic Medicine』 C.C. Thoms

第11表 土製円盤観察表

番号	出土地点	長軸(cm)	短軸(cm)	重量(g)	側面調整	図版番号	備 考	
1	SI1	18	2.7	(1.7)	2.4	C	PL106-2	2/3欠
2		201	3.3		7.8	C	PL106-1	
3	SI2	131	3.0	(2.6)	9.6	C	PL106-3	
4		204	2.4	2.4	6.2	A	PL106-4	
5	SI3	247	4.9	4.0	17.7	C	PL106-5	
6		261	2.7	2.1	4.9	C	PL106-6	
7		400	3.2	2.7	7.1	C	PL106-7	
8	SI4	669	3.2	3.1	8.0	C	PL107-40	
9	SI5	264	3.4	(3.4)	9.4	C	PL106-8	一部欠
10		277	3.4	3.2	9.6	B	PL106-9	
11	SI6	94	2.8	2.7	4.7	C	PL107-41	
12		146	4.3	(3.9)	19.0	A	PL106-10	一部欠
13		210	4.2	(3.6)	9.7	C	PL106-11	1/3欠
14		225	2.7	2.3	4.2	C	PL107-42	
15		239	2.9	2.9	8.4	B	PL107-43	
16	SI7	97	3.1	2.7	7.1	A	PL106-12	一部欠
17		132	3.0	3.0	5.8	C	PL106-13	
18		142	4.0	(2.8)	7.5	C	PL107-44	1/2欠
19		286	3.4	3.0	11.3	B	PL106-14	
20		385	3.8	3.8	12.3	C	PL106-15	
21	SI8	28	4.7	3.6	17.1	A	PL107-46	
22		36	4.8	2.8	12.7	A	PL107-47	
23	SI10	6	3.8	3.3	9.6	A	PL106-16	
24		83	5.0	4.5	21.2	C	PL106-17	
25	SI11	4	4.1	4.0	15.6	A	PL106-18	
26		20	3.4	3.1	9.3	A	PL106-19	中央裏面に未穿孔
27	SI12	2	4.5	4.4	16.2	B	PL107-48	
28	SI14	92	3.2	3.2	9.0	C	PL106-20	
29	SI16	7	4.1	3.7	12.3	C	PL107-33	
30	SI23	一括	3.7	3.3	8.6	C	PL106-24	中央表面に未穿孔
31		290	3.4	(3.2)	7.0	A	PL106-23	一部欠
32	SK6	一括	3.3	2.9	8.7	C	PL107-36	
33	SS2	4	5.5	5.2	26.4	B	PL108-61	
34	SS3	10	4.5	3.9	22.1	C	PL107-37	称名寺式土器
35	SS4	一括	3.6	3.5	8.3	C	PL107-38	
36	遺構外	A-11	4.3	4.0	14.3	A	PL108-62	
37		B-7	2.6	2.5	5.2	B	PL107-50	
38		B-12	3.0	(2.3)	5.4	C	PL108-63	1/3欠
39		B-16	2.8	(2.3)	3.6	C	PL108-64	一部欠
40		D-7	(4.4)	4.1	15.6	B	PL107-34	一部欠
41		D-8	5.1	4.6	18.2	B	PL107-51	
42		D-18	4.1	(2.5)	10.2	C	PL107-52	1/2欠
43		F-8	3.0	2.7	4.6	B	PL108-66	
44		G-2	4.2	3.8	16.4	B	PL108-67	
45		G-2	4.9	4.5	23.4	B	PL108-68	
46		G-13	3.1	2.9	8.0	B	PL108-69	
47		G-13	3.1	2.9	11.1	A	PL108-70	両側縁に半円状の挟り。土器片錘？
48		H-4	6.2	5.8	37.7	C	PL108-71	
49		H-4	3.4	(3.0)	9.8	C	PL108-87	一部欠
50		H-12	2.8	2.5	6.4	B	PL108-86	
51		H-14	4.0	3.4	12.0	C	PL108-72	
52		H-17	3.1	2.4	7.3	C	PL107-35	
53		I-5	3.3	2.9	7.8	B	PL107-53	
54		I-5	3.6	3.5	10.7	C	PL108-74	
55		I-8	(3.3)	3.0	7.7	C	PL108-73	
56		I-10	4.0	3.9	12.8	A	PL107-54	
57		J-10	4.2	3.3	12.0	B	PL108-84	
58		J-11	4.1	4.1	16.2	C	PL108-81	
59	J-13	3.2	3.1	6.0	C	PL108-85		
60	J-14	3.2	3.0	9.8	A	PL108-79		
61	K-6	3.5	3.2	7.2	C	PL108-80		
62	K-8	4.1	4.0	17.6	A	PL108-83	表裏面中央に未穿孔	
63	L-8	4.1	4.1	14.1	B	PL108-82		
64	L-17	2.6	2.6	4.6	C	PL108-77		
65	L-17	1.9	1.8	2.0	C	PL108-78		
66	L-19	2.8	2.5	5.8	C	PL108-76		
67	M-6	3.2	2.8	7.2	B	PL107-57		
68	M-9	3.8	3.6	15.1	B	PL108-75		

番号	出土地点	長軸(cm)	短軸(cm)	重量(g)	側面調整	図版番号	備 考	
69	遺構外	M-10	4.7	4.7	15.9	C	PL109-98	
70		M-11	4.0	(2.9)	8.8	C	PL109-97	
71		M-16	4.8	4.4	24.8	B	PL107-58	称名寺式土器
72		M-17	5.7	(3.3)	15.0	A	PL107-59	1/2欠 中央裏面に未穿孔
73		N-3	3.2	3.2	8.2	A	PL109-92	
74		N-8	3.2	2.8	6.5	B	PL109-93	
75		N-9	3.8	3.7	16.3	A	PL109-90	一部欠 表面中央に未穿孔
76		N-9	4.4	(2.6)	7.5	B	PL109-91	2/3欠
77		O-9	4.8	4.6	17.8	A	PL108-60	
78		O-10	3.0	2.5	5.9	C	PL109-95	
79		O-16	2.2	2.2	4.6	A	PL109-96	
80		O-17	2.9	2.8	10.1	C	PL109-94	称名寺式土器
81		Q-2	3.3	2.7	6.4	B	PL109-89	
82		Q-14	4.1	4.1	13.6	A	PL109-88	
83		R-5	3.2	3.0	8.3	B	PL109-106	
84		R-7	3.4	3.0	7.2	C	PL107-56	
85		R-10	2.4	2.2	3.9	B	PL107-55	
86		R-10	3.5	2.7	7.9	A	PL109-105	
87		T-2	3.4	3.4	11.4	B	PL109-104	
88		U-6	4.4	4.1	24.5	B	PL109-107	
89		V-5	5.1	4.5	25.0	C	PL109-101	
90		V-5	2.4	2.2	4.7	C	PL109-102	
91		V-5	2.3	2.2	3.8	C	PL109-103	
92		V-13	4.2	2.7	12.3	C	PL109-100	
93		W-10	3.3	3.2	8.2	B	PL109-99	
94		Z-5	3.2	2.7	7.7	A	PL107-49	
95		一括	4.6	4.4	15.1	C	PL106-22	
96		一括	3.0	2.9	5.5	C	PL106-25	
97		一括	3.0	2.5	6.7	A	PL106-26	
98		一括	4.5	4.5	25.9	C	PL106-27	
99	一括	4.2	(3.8)	15.0	C	PL106-28	1/3欠	
100	一括	2.5	2.3	4.4	C	PL106-29		
101	一括	3.7	(3.2)	10.7	C	PL106-30		
102	一括	4.0	3.3	12.6	C	PL107-31		
103	一括	4.0	3.5	10.1	C	PL107-32		
104	一括	3.0	3.0	7.6	C	PL107-39		
105	一括	5.6	5.2	26.6	C	PL107-45		
106	一括	4.3	4.2	18.6	C	PL108-65		
107	一括	3.5	3.2	9.4	C	PL106-21		

第12表 遺構別出土石器表

器種 遺構	磨	スタンプ	石	礫	棒状	剥片	石	へら状	敲	凹	石	石	有	石	石	ナイフ形	素材	磨製	打製	砥	有溝	石	石	石	チャート	合計
	石	石	皿	器	器	器	核	器	石	石	錐	錘	礫	槍	匙	石器	剥片	石斧	石斧	石	砥石	礫	礫	礫	原石	
SI1	6	2	0	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	17
SI2	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
SI3	13	5	1	4	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	32
SI4	13	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19	0	0	0	0	0	41
SI5	31	8	3	9	0	5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	61
SI6	13	7	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	30
SI7	25	8	5	2	2	4	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	2	5	0	0	60
SI8	11	3	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
SI9	14	8	2	7	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	37
SI10	5	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
SI11	12	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	19
SI12	22	10	5	9	3	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	57
SI13	10	8	1	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
SI14	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	11
SI15	2	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9
SI16	11	3	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	22
SI18	6	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10
SI19	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
SI23	15	4	3	6	1	5	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	40
SS	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
SS1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SS2	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9
SS3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
SS4	3	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	11
SS5	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
SS6	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
SS7	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
SS8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SS10	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SS11	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SS13	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
SS14	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
SK2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
SK7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SK8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK19	2	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10
遺構合計	252	90	38	69	10	35	9	0	9	1	3	1	0	1	0	0	6	1	6	24	8	14	6	1	0	584
包含層	818	347	59	265	65	89	10	3	23	5	2	2	1	0	1	1	26	7	53	22	18	51	18	2	0	1,888
総合計	1,070	437	97	334	75	124	19	3	32	6	5	3	1	1	1	32	8	59	46	26	65	24	3	0	0	2,472

第13表 ナイフ形石器計測表

番号	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	H-4	(3.8)	1.7	0.5	2.9	Ke	PL110-1	

第14表 石鏝計測表

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	基部長(cm)	先端角	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI1	3	1	1.2	0.9	0.3	-0.2	67	0.3	C	PL3-19	
2	SI1	4	3	2.2	(1.9)	0.4	-0.5	55	1.0	C	PL3-20	
3	SI2-178	3	6	(1.6)	(1.4)	0.4	-0.1	66	0.7	K	PL6-14	和田峠系 I
4	SI3-246	3	6	(0.8)	(1.5)	0.3	(-0.1)	-	0.3	C	PL11-42	
5	SI3-355	1	1	1.9	1.4	0.4	0.2	50	0.9	C	PL11-43	
6	SI5-487	3	1	1.8	1.7	0.4	-0.2	52	0.9	Ke	PL21-55	
7	SI6-1	4	2	3.0	(1.5)	0.5	-0.5	37	1.3	K	PL26-36	西霧ヶ峰系
8	SI7-5	4	1	2.2	1.5	0.5	-0.3	43	0.9	C	PL32-37	
9	SI7-168	3	1	1.4	1.1	0.4	-0.2	65	0.5	C	PL32-36	
10	SI11-1	3	1	1.3	1.1	0.3	-0.1	36	0.4	C	PL48-10	
11	SI14-2	4	2	2.1	(1.7)	0.4	-0.4	50	0.8	K	PL64-17	和田峠・鷹山系
12	SI23-23	4	2	1.6	(1.3)	0.3	-0.4	67	0.4	C	PL57-18	
13	SK6	3	1	1.4	1.4	0.2	-0.2	50	0.3	C	PL76-7	
14	SS2	3	2	1.3	(1.0)	0.3	-0.2	63	0.4	C	PL87-6	
15	C-9	3	2	1.2	(0.9)	0.3	(-0.1)	49	0.3	C	PL110-8	
16	C-9	4	6	(1.4)	(1.4)	0.4	(-0.2)	42	0.6	C	PL110-17	
17	E-11	3	1	1.4	1.2	0.3	-0.2	63	0.5	C	PL110-6	
18	F-9	2	2	1.6	(1.4)	0.3	0	56	0.6	C	PL110-14	
19	F-10	2	2	1.8	(1.4)	0.4	0	70	0.8	C	PL110-28	
20	H-12	-	3	2.6	(1.6)	0.5	-	44	1.2	K	PL111-43	
21	H-14	2	1	1.8	1.2	0.4	0	65	0.7	C	PL110-25	
22	I-5	3	1	1.6	1.6	0.5	-0.2	55	0.8	K	PL110-19	
23	I-7	3	6	(1.5)	(1.7)	0.5	(-0.2)	40	0.9	C	PL110-16	
24	I-13	3	4	(1.1)	1.4	0.3	-0.2	-	0.3	C	PL110-20	
25	I-13	4	2	3.5	(1.8)	0.4	(-0.4)	50	1.8	K	PL111-45	
26	I-17	3	2	1.9	(1.5)	0.3	(-0.2)	68	0.6	C	PL110-27	
27	J-5	1	1	1.9	1.4	0.4	0.5	52	0.8	K	PL110-24	
28	J-8	3	1	1.3	1.2	0.3	-0.1	67	0.3	C	PL110-7	
29	J-8	4	2	1.6	(1.3)	0.3	-0.2	54	0.4	C	PL110-18	
30	J-17	4	1	1.3	1.2	0.3	-0.2	45	0.3	C	PL110-13	
31	K-7	3	2	1.6	(1.1)	0.3	(-0.2)	53	0.6	C	PL110-11	
32	K-10	4	1	1.0	1.0	0.2	-0.2	72	0.3	C	PL110-12	
33	K-12	3	1	1.2	1.1	0.3	-0.1	68	0.4	C	PL110-5	
34	K-14	6	2	1.8	(1.2)	0.3	0.4	64	0.6	K	PL110-21	
35	L-4	3	2	1.7	(1.4)	0.3	(-0.1)	51	0.7	K	PL110-23	
36	L-12	-	3	2.0	1.4	0.4	-	65	1.1	K	PL111-31	
37	M-10	4	1	1.3	1.2	0.2	-0.3	90	0.2	C	PL110-9	
38	M-11	2	5	2.1	(1.0)	0.3	0	37	0.6	C	PL110-26	
39	M-13	1	1	0.9	0.7	0.2	0.2	52	0.3	C	PL110-2	
40	N-6	3	1	2.1	1.3	0.4	-0.1	64	1.0	K	PL111-42	
41	N-7	4	1	2.2	1.9	0.5	-0.3	71	1.4	C	PL111-35	
42	N-13	3	1	1.3	1.2	0.2	-0.2	66	0.4	C	PL110-4	
43	O-15	3	1	1.7	1.1	0.4	-0.2	38	0.6	C	PL110-30	
44	P-2	4	1	1.7	1.7	0.4	-0.3	61	0.7	C	PL111-38	
45	P-9	4	4	(2.1)	1.6	0.5	-0.6	(40)	1.4	Ke	PL111-40	
46	Q-4	4	2	1.6	(1.3)	0.3	(-0.3)	52	0.5	K	PL110-29	
47	Q-5	3	2	2.2	1.6	0.4	-0.2	44	1.0	K	PL111-36	
48	Q-5	3	1	2.3	1.3	0.4	-0.2	45	0.9	K	PL111-41	
49	Q-8	4	1	1.7	1.5	0.3	-0.3	54	0.4	K	PL111-32	
50	S-7	4	2	1.4	(1.3)	0.3	(-0.3)	60	0.5	K	PL111-33	
51	U-2	4	1	1.9	1.6	0.4	-0.4	25	0.8	C	PL111-34	
52	U-11	2	1	0.9	1.6	0.4	±	90	0.4	C	PL111-37	
53	V-6	4	1	2.2	1.4	0.3	-0.5	37	0.7	C	PL111-39	
54	W-10	3	1	1.6	1.2	0.3	-0.2	59	0.5	K	PL110-15	
55	z-4	4	2	1.4	(1.0)	0.4	-0.2	39	0.3	C	PL110-10	
56	一括	1	5	1.1	(0.8)	0.3	0.3	-	0.1	K	PL110-3	
57	一括	3	1	1.7	1.0	0.2	-0.2	45	0.2	K	PL110-22	
58	一括	4	1	3.1	1.6	0.4	-0.4	44	1.3	Ke	PL111-44	
59	一括	4	2	1.6	1.4	0.3	-0.2	55	0.4	K		
60	一括	3	2	1.8	1.3	0.2	-0.1	60	0.6	K		
61	一括	4	2	2.2	1.5	0.4	-0.2	40	1.1	C		
62	一括	4	1	2.1	1.4	0.4	-0.2	45	0.9	K		
63	一括	4	1	2.9	1.3	0.6	-0.3	45	1.6	K		
64	一括	4	1	2.1	1.6	0.3	-0.5	50	0.9	K		
65	一括	3	1	1.9	1.5	0.3	-0.1	50	0.9	C		

第15表 石鏃未製品計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI7	1	3.9	2.3	1.3	10.8	C		未製品A
2	SI7-77	1	3.2	2.3	0.8	5.5	C	PL32-40	未製品B
3	SI7-162	1	4.8	2.8	1.6	19.4	C		未製品A
4	SI7-170	1	3.6	2.9	1.2	10.0	C	PL32-41	未製品A
5	SI7-192	1	2.9	1.9	0.7	4.4	C		未製品A
6	SI18-13	1	2.3	1.9	0.5	2.4	C		未製品A
7	C-8	1	2.4	1.8	0.5	1.5	C		未製品A
8	D-11	1	3.8	2.2	1.6	15.4	C		未製品A
9	K-14	1	3.2	2.4	1.0	7.5	C		未製品A
10	M-4	1	3.0	2.8	0.9	9.0	C	PL111-47	未製品A
11	O-13	1	2.4	1.9	0.5	2.0	C		未製品A
12	O-14	1	3.4	2.9	1.4	11.8	C	PL111-51	未製品A
13	O-16	1	2.4	2.1	0.7	4.0	C		未製品B
14	P-2	1	4.2	2.7	0.8	6.5	C	PL111-49	未製品A
15	P-5	1	2.7	2.3	0.9	5.0	C	PL111-46	未製品A
16	P-10	1	4.6	3.8	2.2	33.8	C	PL111-52	未製品A
17	P-11	1	3.5	2.5	0.9	6.9	C	PL111-50	未製品A
18	Q-10	1	6.3	3.2	1.2	21.8	C		未製品A
19	S-11	1	3.3	2.0	0.5	2.6	C		未製品B
20	U-10	1	3.1	2.1	0.7	5.1	C	PL111-48	未製品A
21	V-9	1	2.8	2.2	0.4	2.3	C		未製品A
22	一括	1	2.5	1.7	0.6	1.5	C		未製品C
23	一括	1	2.5	3.8	1.1	9.1	F		未製品A
24	一括	1	3.0	2.0	0.8	5.0	C		未製品A

第16表 石鏃素材剥片計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI3-374	1	4.4	3.6	1.0	12.2	C		素材剥片C
2	SI6-55	1	3.3	3.3	0.8	7.9	C		素材剥片C
3	SI7-42	1	4.0	5.8	1.1	22.2	C	PL32-38	素材剥片C
4	SI7-66	1	3.5	4.5	0.7	12.0	C	PL32-39	素材剥片B
5	SI12-96	1	3.8	3.8	1.1	15.2	C		素材剥片B
6	SS4	1	3.9	2.7	1.2	11.6	C		素材剥片C
7	B-8	1	2.3	3.5	0.9	6.1	C	PL116-87	素材剥片B
8	C-8	1	5.1	3.9	1.3	22.4	C		素材剥片B
9	E-9	1	3.1	4.6	1.6	27.0	C	PL116-90	素材剥片B
10	F-9	1	3.9	5.2	1.1	20.0	C	PL116-92	素材剥片B
11	G-11	1	2.8	3.7	0.9	9.0	C	PL116-86	素材剥片B
12	H-7	1	3.4	4.0	1.3	14.6	C		素材剥片C
13	H-17	1	4.4	3.8	1.0	12.4	C	PL116-94	素材剥片C
14	I-10	1	2.7	3.2	0.8	6.9	C		素材剥片A
15	I-11	1	2.5	3.6	0.9	11.2	C		素材剥片C
16	J-11	1	5.6	3.4	0.7	11.4	C		素材剥片A
17	J-15	1	5.4	4.7	1.8	45.8	C	PL116-93	素材剥片A
18	L-15	1	3.6	5.2	0.9	14.2	C		素材剥片B
19	L-15	1	3.2	3.5	1.7	22.6	C		素材剥片D
20	L-19	1	3.8	2.5	0.7	5.8	C		素材剥片A
21	M-10	1	3.3	1.8	0.6	3.0	K	PL116-89	素材剥片A
22	M-10	1	1.2	1.3	0.2	0.4	K		素材剥片B
23	M-12	1	2.3	3.3	0.6	4.0	C		素材剥片C
24	N-4	1	1.9	2.8	0.6	2.9	C		素材剥片C
25	N-15	1	3.2	5.0	0.8	10.0	C	PL116-91	素材剥片B
26	O-11	1	2.7	3.5	0.8	6.2	C	PL116-88	素材剥片B
27	P-6	1	4.4	3.9	1.0	10.4	C		素材剥片B
28	P-7	1	6.2	3.7	1.0	23.4	C		素材剥片B
29	Q-10	1	3.5	5.5	1.0	19.2	C		素材剥片A
30	R-8	1	3.0	4.6	1.2	16.2	C		素材剥片C
31	V-10	1	2.9	2.7	0.9	6.5	C		素材剥片C
32	一括	1	3.4	4.3	0.9	10.4	C		素材剥片B

第17表 スタンプ形石器計測表

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
1	SI1-27	d	11.3	7.0	5.7	500	○		○		Se	PL2-8	底面欠損
2	SI1-129	d	10.0	6.3	4.2	445	○	○			Se	PL2-9	
3	SI3-2	d	8.5	7.3	4.4	360					S		
4	SI3-127	d	(9.2)	5.6	5.2	420	○		○		Se	PL10-33	敲打有・特殊摩石
5	SI3-150	d	(9.2)	7.0	4.2	390	○				Se	PL10-35	上部欠損
6	SI3-152	d	11.3	8.0	5.0	560	○				S	PL10-34	
7	SI3-223	d	10.1	6.1	8.0	780	○		○		Se	PL10-36	敲打有・特殊摩石
8	SI4-264	d	9.4	6.4	4.2	350		○	○		Se	PL14-12	
9	SI5	d	12.9	9.3	5.3	780	○	○		○	S	PL20-43	
10	SI5	d	(10.3)	9.1	3.8	480	○	○	○	○	Se	PL19-36	上面欠損
11	SI5-74	d	11.2	6.9	6.1	570				○	S	PL19-33	
12	SI5-128	d	10.6	7.2	6.6	530	○	○			F	PL19-35	
13	SI5-363	d	6.6	4.6	3.9	170		○			S	PL19-31	
14	SI5-385	d	9.6	8.3	5.6	540	○	○	○		Se	PL19-34	
15	SI5-467	c	13.0	9.1	5.4	985			○		Se	PL19-32	
16	SI5-599	c	11.4	9.2	5.1	670			○		Se	PL20-41	
17	SI6-46	d	10.5	7.4	4.1	500					Se	PL25-26	
18	SI6-92	d	9.7	7.3	6.4	610		○	○		Se	PL25-31	上面欠損
19	SI6-120	c	12.5	7.5	3.8	555	○				Se	PL25-30	
20	SI6-202	d	8.7	7.5	4.6	405			○	○	Se	PL25-28	上面欠損
21	SI6-281	d	9.7	7.1	4.0	435	○	○	○		S	PL25-29	
22	SI6-320	c	8.9	7.7	5.2	520	○		○		Se	PL25-27	側面稜部調整
23	SI6-396	d	8.3	5.2	3.7	250		○	○		F	PL25-25	
24	SI7-13	d	11.3	6.7	4.7	530					S	PL31-24	2側面稜部敲打
25	SI7-25	d	10.5	5.9	4.2	310	○				S	PL31-25	
26	SI7-51	d	11.3	6.8	5.4	565					S	PL31-27	
27	SI7-76	d	10.3	6.7	5.7	730					S	PL31-23	
28	SI7-103	d	9.5	6.9	4.3	430	○	○	○		S	PL31-26	
29	SI7-197	d	7.4	6.0	3.9	248			○		Se	PL31-28	
30	SI7-204	d	9.1	7.7	5.0	470	○		○		Se	PL31-22	
31	SI7-268	b	4.5	3.9	2.6	70					S		
32	SI8-37	d	11.5	8.2	6.3	560		○	○		Se	PL36-17	敲打有
33	SI8-64	d	8.9	7.4	4.5	410		○	○		S	PL37-18	敲打有
34	SI8-126	d	9.2	6.9	5.0	365	○	○	○		S	PL36-16	
35	SI9-32	d	9.8	6.8	5.0	440	○		○		S	PL41-20	
36	SI9-41	d	9.0	6.6	5.4	540	○		○		S	PL41-21	
37	SI9-43	d	9.3	5.5	4.5	307	○				Se	PL41-18	
38	SI9-74	d	7.3	7.6	5.6	400	○		○		Se	PL40-16	敲打有・研磨有
39	SI9-78	d	8.0	5.1	4.1	240	○	○	○		S	PL40-14	
40	SI9-83	d	11.3	7.6	6.4	700	○	○	○		Se	PL41-19	
41	SI9-94	d	11.5	6.8	5.6	500	○	○			S	PL41-22	
42	SI9-99	d	9.3	5.1	3.5	270			○		Se	PL40-17	
43	SI10-54	d	10.8	7.1	4.7	580	○		○		S	PL44-8	
44	SI11-32	d	7.6	6.4	2.8	250			○		S	PL47-7	
45	SI11-65	d	10.0	6.3	5.8	590	○				S	PL47-8	
46	SI12-15	d	(6.6)	7.0	4.7	410					Se		上面欠損
47	SI12-60	d	13.3	7.6	5.2	890	○	○	○		S	PL53-23	
48	SI12-67	d	10.2	6.7	4.2	290	○		○		S	PL54-27	上面欠損・研磨有
49	SI12-102	d	10.3	8.3	4.8	600	○	○			Se	PL53-20	
50	SI12-124	d	(7.5)	7.1	5.1	400		○	○		Se		上面欠損
51	SI12-134	d	10.0	8.0	4.7	490	○				S	PL53-21	
52	SI12-150	d	11.8	7.4	5.3	500	○	○	○		S	PL53-19	
53	SI12-162	d	11.4	7.5	5.9	770	○	○			Se	PL53-24	側面敲打
54	SI12-168	d	10.5	9.2	4.6	560	○	○			Se	PL54-26	
55	SI12-192	d	11.3	7.2	5.8	660					Se	PL53-22	
56	SI13-18	d	10.1	8.4	5.8	720		○	○		S	PL60-17	
57	SI13-24	d	12.0	7.0	5.0	555		○	○		Se	PL61-21	
58	SI13-95	d	11.7	8.6	5.0	600	○				Se	PL61-24	
59	SI13-107	d	10.8	5.3	4.6	415		○	○		Se	PL60-16	
60	SI13-115	d	11.3	7.5	5.1	610	○	○	○		Se	PL61-22	
61	SI13-121	c	6.0	5.5	3.5	150	○				Se	PL61-19	
62	SI13-125	d	13.5	5.2	5.6	687	○	○	○		Se	PL61-23	
63	SI13-146	d	12.8	8.7	4.3	800		○	○		Se	PL61-20	
64	SI14-11	d	11.2	7.0	3.3	450	○		○		Se	PL64-11	
65	SI14-43	d	10.6	7.0	3.6	500		○	○		Se	PL64-12	
66	SI14-78	d	8.6	5.8	4.3	320	○		○		Se	PL64-10	
67	SI15-15	d	8.4	6.3	4.4	300	○	○	○		Se	PL66-14	
68	SI15-18	d	7.7	6.1	4.5	360	○	○	○		Se	PL66-15	
69	SI15-97	d	12.3	7.0	3.9	540		○	○	○	S	PL66-16	
70	SI15-110	d	7.9	4.8	3.9	190			○		Se	PL66-13	敲打有

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
71	SI16-2	c	9.3	5.9	3.7	220	○	○	○		S	PL70-12	
72	SI16-46	d	10.1	7.3	4.5	490	○	○	○		Se	PL70-14	
73	SI16-60	c	10.1	7.3	4.5	460	○	○			Se	PL70-13	
74	SI23-25	c	10.5	8.3	5.1	710	○				S	PL56-16	
75	SI23-238	d	8.1	5.9	3.6	220		○	○		S	PL56-13	
76	SI23-271	d	12.0	6.1	5.4	532		○	○		R	PL56-14	
77	SI23-332	d	10.7	7.0	3.5	365		○	○		S	PL56-15	
78	SK2-1	d	9.4	4.5	5.0	330					S	PL76-3	研磨有
79	SK8	a	8.1	6.0	4.4	220					Ke	PL77-16	
80	SK19	d	10.9	7.2	3.8	340					Se	PL77-19	
81	SK19	d	10.0	5.8	4.2	420	○		○	○	Se	PL77-20	
82	SK19	d	8.9	6.7	5.1	460	○		○		Se	PL77-21	
83	SS	d	12.5	7.3	5.5	540	○		○		Se		
84	SS3	d	(6.3)	7.5	4.6	420					Ka		上面欠損
85	SS4-3	d	9.1	7.4	4.8	440	○		○		Se	PL88-16	上面欠損
86	SS4-6	d	12.2	6.1	3.6	400		○	○		Se	PL88-18	
87	SS8	d	12.0	7.8	6.5	800			○		Ka	PL90-38	
88	SS13-1	d	11.7	9.0	3.6	650	○		○	○	S	PL91-45	敲打有・タール付着
89	SS13-2	b	13.3	9.3	5.4	690	○	○	○		S	PL90-43	
90	SS14-15	d	7.3	6.9	5.5	383					S	PL91-47	
91	A-6	b	10.6	7.1	6.7	550		○	○		Se		
92	A-12	d	11.7	7.5	5.4	700			○		Se		
93	A-13	d	10.7	6.2	4.8	450					Se		
94	A-14	d	10.9	8.2	5.5	670		○	○		S		
95	A-14	d	12.2	9.8	4.6	710	○	○	○		Se		
96	A-14	d	9.7	7.7	5.4	520					Se		
97	A-16	c	10.0	6.1	4.8	500	○		○		S		
98	A-16	d	11.8	5.8	5.0	460			○		Se		
99	B-7	d	(7.7)	7.3	6.7	540	○				S		上面欠損
100	B-12	d	(8.9)	7.8	5.1	510		○	○		Se		上面欠損
101	B-15	b	9.7	6.6	4.6	410					F		
102	B-16	c	5.2	5.5	3.8	120					Se		
103	C-7	b	8.5	6.6	5.0	520	○				Se		SI26-320
104	C-9	d	10.5	6.2	4.2	390		○	○		Se		
105	C-9	d	10.0	6.0	5.8	550			○		Se		
106	C-12	d	12.2	7.0	5.4	770			○		Se		
107	C-14	d	10.8	8.5	4.5	610					Se		
108	D-7	b	9.7	5.2	4.4	390		○	○		Se		
109	D-7	d	11.3	7.2	4.6	510		○	○		S		
110	D-7	b	(8.2)	6.0	3.6	310	○				S		上面欠損
111	D-9	d	(6.5)	6.0	3.3	260		○	○		Se		上面欠損
112	D-9	d	8.3	7.3	4.9	430		○	○		Se		
113	D-12	d	(9.8)	5.2	5.1	370		○	○	○	S		上面欠損
114	D-13	d	11.9	5.8	6.5	560		○	○		Se		
115	D-13	d	10.9	6.7	4.9	600		○	○		Se		
116	D-18	d	6.2	5.2	3.2	160					Se		
117	D-21	d	10.9	7.5	3.6	460					Se		
118	E-8	d	10.5	6.5	6.2	510		○	○		Se		
119	E-9	d	10.0	8.0	4.6	500		○	○		Se		
120	E-10	d	(10.1)	8.2	3.5	450	○	○	○		Se		上面欠損
121	E-11	d	11.2	6.6	4.3	550		○	○	○	S		
122	F-9	d	8.5	6.6	4.4	440					Se		
123	F-9	d	11.4	5.5	4.0	420					Se		
124	F-10	c	13.1	10.8	4.2	560		○	○		Se	PL114-68	
125	F-10	d	(8.5)	7.0	4.1	340					S		上面欠損
126	F-11	d	10.8	9.0	4.2	670			○		Se		
127	F-12	d	10.0	8.0	5.5	550		○	○		Se		
128	F-12	d	11.2	7.1	5.6	580		○	○		Se		
129	F-13	d	9.4	5.3	3.0	260		○	○		Se	PL113-61	
130	F-16	d	6.4	6.4	3.2	210					Se		
131	G-2	d	(8.8)	5.9	5.6	500		○	○		Se	PL113-64	上面磨耗
132	G-2	d	10.7	6.3	4.5	420					S		
133	G-3	d	10.0	5.2	3.7	310		○	○		Se		
134	G-5	d	10.2	5.6	5.3	500		○	○	○	S		
135	G-5	d	11.8	8.9	6.0	720		○	○		S		
136	G-6	d	9.0	8.1	4.6	460	○				Se		
137	G-7	d	11.0	6.5	4.7	530		○	○		Se		上面敲打
138	G-9	d	10.9	7.9	3.8	470	○				Se		
139	G-11	d	12.0	8.2	4.6	600					Se		
140	G-13	d	12.8	6.3	4.4	490					Se		
141	G-13	d	10.9	6.5	3.8	450					Se		
142	H-2	d	11.0	6.8	4.8	560		○	○		Se		特殊磨石

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
143	H-3	d	(10.2)	7.5	3.9	330					S		上面欠損
144	H-4	d	8.4	5.6	3.7	260					Se		
145	H-4	d	8.2	4.5	3.3	220					S		
146	H-4	d	11.3	5.7	3.3	390					S		
147	H-4	d	11.5	8.7	4.1	530	○				S		
148	H-6	d	8.7	5.5	4.7	400		○	○		Se		
149	H-6	d	8.9	5.6	4.0	300		○	○		S		
150	H-6	d	(10.9)	9.8	4.7	590					Se		上面欠損
151	H-9	d	11.5	8.4	4.1	550					S		
152	H-9	d	10.0	8.1	3.6	430		○	○		S		
153	H-11	d	(10.0)	6.3	5.5	430		○	○		Se		上面欠損
154	H-12	d	10.8	6.3	4.7	370		○	○		Se		
155	H-13	d	(11.0)	5.9	4.0	500					Se		上面欠損
156	H-14	d	(12.0)	4.4	4.2	660		○	○		S		上面欠損
157	H-18	d	8.9	7.8	5.0	520					Se		
158	I-5	d	11.9	8.9	3.6	570					Se		
159	I-5	d	(7.0)	7.8	4.1	370	○	○	○		Se		上面欠損
160	I-5	d	11.5	7.5	5.8	650		○	○		S		
161	I-6	d	10.0	7.3	4.1	510		○	○		Se		
162	I-11	c	10.4	8.1	5.1	470		○	○		Se		
163	I-13	d	10.0	7.1	5.1	450		○	○		Se		
164	I-13	d	(7.0)	7.1	4.8	420		○	○		Se		上面欠損
165	I-15	d	7.6	5.1	4.3	250					Se		
166	I-18	d	7.4	5.0	3.5	190					Se		
167	I-21	d	8.5	4.8	5.0	280		○	○		Se		
168	J-2	d	12.2	6.9	5.1	645		○	○		S		
169	J-2	d	10.2	8.9	4.2	485		○	○		Se		側面磨面
170	J-2	d	9.3	5.9	3.4	280	○				S		
171	J-4	d	(11.3)	8.0	5.4	570					S		上面欠損
172	J-6	d	12.2	6.7	5.3	505	○				Se		
173	J-6	d	10.2	8.4	6.7	960		○	○		Ka		
174	J-7	d	12.7	8.1	5.1	650	○		○		Se		
175	J-7	d	(7.2)	6.8	5.2	480	○				S		
176	J-7	c	7.8	6.8	5.4	480	○			○	S		上面欠損
177	J-8	d	11.1	8.2	5.1	780		○	○	○	S		
178	J-9	d	13.1	12.4	5.1	1070		○	○		Se		
179	J-10	d	9.4	6.1	3.9	400		○	○		Se		
180	J-11	d	(7.0)	7.7	4.1	470		○	○		Se		上面欠損
181	J-12	d	9.3	5.7	3.5	285					S		
182	J-15	d	10.3	7.3	4.5	560	○		○		Se		
183	J-16	d	11.8	6.1	4.0	350		○	○		S		
184	J-16	-	14.4	7.0	5.7	820		○		○	S		底面1/2欠損
185	K-2	c	13.8	9.2	5.5	830		○	○		Se		
186	K-3	d	9.6	6.4	3.1	410					S		
187	K-4	b	12.1	6.7	3.9	660					Se		
188	K-5	b	12.3	8.1	6.0	600		○	○		Se	PL114-69	
189	K-7	b	11.6	7.4	5.0	730		○	○		Se		
190	K-7	d	9.7	6.0	3.8	425					Se		
191	K-7	d	(8.6)	7.5	4.7	480		○	○		Se		上面欠損
192	K-8	d	(10.5)	7.6	5.4	735	○				S		上面欠損
193	K-9	d	9.3	6.2	4.8	500	○	○	○		Ka		
194	K-10	d	8.6	6.5	4.6	460		○	○		S		
195	K-12	d	9.2	5.8	2.6	220					S		
196	K-12	d	11.1	7.9	5.1	640					F		
197	K-16	d	(8.7)	5.6	(3.1)	270				○	S		縦1/2欠損
198	K-17	d	7.5	7.4	3.5	280		○	○		Se		
199	K-18	d	7.2	5.6	3.0	225		○			C		
200	K-20	d	9.4	8.3	5.6	495		○	○		S		
201	L-3	d	13.0	7.1	6.5	910		○	○	○	S		
202	L-3	d	10.4	6.5	5.1	650		○	○		Ka		
203	L-3	d	(6.4)	6.1	4.5	370					S		上面欠損
204	L-3	d	8.2	6.5	4.1	430		○	○		F		
205	L-4	d	9.5	7.1	4.0	380					Sm		
206	L-5	d	10.8	7.7	5.5	660					Se		
207	L-6	d	9.0	5.3	4.5	330	○				S		
208	L-6	d	(9.3)	7.3	5.0	550	○				S		上面欠損
209	L-6	d	10.6	6.3	5.3	610		○	○		Se		敲打有
210	L-6	d	10.5	6.8	4.6	440		○	○		Ka		敲打有
211	L-6	d	10.3	5.6	4.3	370		○	○		Se		
212	L-11	d	6.9	6.6	3.5	220					Ka		
213	L-11	d	7.1	5.4	4.1	280					R		
214	L-14	d	10.5	7.1	4.5	525		○	○	○	S		

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
215	L-14	d	(6.5)	5.4	4.7	300		○	○		S		上面欠損
216	L-14	d	10.0	7.2	6.1	590		○	○		Se		
217	L-14	d	(7.6)	8.3	4.0	390		○	○		S		上面欠損
218	L-15	d	6.7	7.0	3.9	280	○	○	○		Se		
219	L-17	c	12.0	4.8	4.2	310	○	○	○		S		
220	M-3	d	11.8	6.9	5.1	590		○	○		S		
221	M-4	d	7.8	3.7	3.4	180		○	○		Se	PL113-58	
222	M-4	d	(11.6)	7.0	6.5	640	○				S		上面欠損
223	M-4	d	10.8	7.0	5.0	690		○			S		
224	M-5	d	9.2	4.7	4.8	260		○			Se		
225	M-5	d	11.4	7.1	3.5	600		○	○		S		
226	M-7	d	9.9	8.4	4.3	560	○	○	○		S		
227	M-7	d	10.3	6.7	6.4	710			○		Se		
228	M-8	d	10.6	7.4	4.3	470		○	○		Se		
229	M-9	d	(9.5)	7.6	5.0	570	○	○	○		S		上面欠損
230	M-10	d	(11.5)	6.5	4.5	600	○	○	○		Rs		上面欠損
231	M-11	d	8.9	4.6	2.5	190					Se		
232	M-14	d	11.6	7.3	3.3	410	○	○	○		Se		
233	M-15	d	11.7	7.8	4.5	590	○	○	○		Se		
234	M-16	d	7.6	5.0	3.9	240		○	○		Se		
235	M-16	d	13.3	6.7	4.7	520	○				S		
236	M-16	d	9.7	8.0	4.5	400	○				Se		
237	M-17	d	10.4	7.7	5.0	490	○				Se		
238	M-17	d	10.1	6.7	4.1	430		○	○		Se		
239	M-17	d	10.7	9.2	4.4	550					Se		
240	N	d	8.5	7.5	4.5	450	○				S		
241	N-4	c	12.7	8.9	4.8	800		○	○		Se	PL112-54	
242	N-4	d	11.3	5.9	5.5	440		○	○		Se		
243	N-4	d	12.8	8.4	5.8	960		○	○	○	Se		
244	N-4	d	10.0	7.0	4.4	500				○	Se		
245	N-7	d	(5.6)	6.1	3.7	220		○	○		Se		上面欠損
246	N-9	d	9.3	6.8	3.1	290					F	PL113-60	
247	N-9	d	(5.6)	7.0	3.2	210		○	○		Se		上面欠損
248	N-9	d	10.2	7.8	4.0	440	○				S		
249	N-9	d	10.8	7.2	3.9	470		○	○		S		
250	N-9	d	11.7	7.4	6.6	590		○	○		Se		
251	N-10	d	8.6	6.2	4.5	350	○	○	○		Se		
252	N-10	d	12.2	10.0	4.8	830					Se		
253	N-10	d	13.5	7.3	5.6	770	○		○		Se		
254	N-15	d	(6.9)	7.2	4.0	320					S		上面欠損
255	N-15	c	(11.8)	8.3	4.3	620	○	○	○	○	S	PL114-70	上面欠損・SI18-246
256	N-16	d	7.8	6.7	4.0	320			○		Se		
257	N-16	d	7.6	4.9	4.2	300	○				S		
258	N-16	d	8.2	6.4	5.5	300	○				S		上面欠損
259	N-16	d	9.7	7.1	5.1	420		○	○		S		
260	N-16	c	10.6	6.0	3.5	360				○	S		
261	N-20	d	(8.4)	6.8	4.1	400		○	○		Se		上面欠損
262	O-4	d	4.9	3.0	3.1	70			○		Se		
263	O-4	d	10.6	7.7	4.4	550		○	○		Se		
264	O-5	d	10.7	8.7	4.1	550	○	○	○		Se		
265	O-5	d	12.8	5.5	5.5	560			○		Se		
266	O-8	d	12.4	7.5	5.4	730					Se		
267	O-8	d	10.2	5.4	4.9	350		○	○		Se		
268	O-9	c	9.3	6.4	3.9	300					S		
269	O-9	d	11.9	7.0	5.6	590		○	○		Se		
270	O-10	d	10.6	7.3	4.1	450			○		Se		
271	O-13	d	7.7	6.9	4.4	290	○				Gy		
272	O-14	d	10.8	6.5	5.2	510		○	○		Se		
273	O-14	d	10.9	6.8	5.9	560		○	○		S		
274	O-14	d	12.3	7.0	4.1	520					Se		
275	O-15	d	11.4	7.7	3.8	560	○	○	○		Se	PL113-63	敲打有・SI18-262
276	O-16	d	12.0	7.2	5.1	600				○	Se		
277	P-3	d	7.9	5.1	3.5	250					R		
278	P-4	d	10.5	6.3	4.6	580		○	○		Se		
279	P-4	d	10.9	6.1	4.5	520	○				Se		
280	P-5	d	8.3	5.2	3.0	210		○	○		S		
281	P-6	d	11.1	7.3	4.3	520	○	○	○		Se		
282	P-6	d	7.5	6.4	4.3	350		○	○		Se		
283	P-9	d	(11.1)	6.2	3.9	450	○				Se		
284	P-9	d	(11.3)	6.2	4.7	500					S		
285	P-9	d	(9.8)	7.0	4.8	480					S		
286	P-10	d	(10.0)	7.9	4.0	380					S		底面一部欠損

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
287	P-10	d	(11.4)	6.3	5.2	500				○	S		
288	P-14	d	(12.2)	7.2	6.0	680			○	○	S		側縁敲打
289	P-16	d	(9.6)	5.3	4.0	340					R		底面一部欠損
290	Q-2	d	8.9	4.6	4.7	280	○				S		
291	Q-3	d	10.4	7.9	5.2	610		○	○		Se		
292	Q-6	d	9.7	6.6	4.8	470					Se		
293	Q-7	d	12.0	7.5	5.0	410		○	○		Se		
294	Q-7	d	8.7	6.1	4.1	370		○	○		Se		SI24-187
295	Q-8	d	11.4	6.5	5.1	610			○		S		
296	Q-8	d	10.5	6.5	5.1	620	○		○		Se		
297	Q-8	d	(7.0)	6.5	3.7	270			○		石英斑岩		上面欠損
298	Q-9	d	9.0	7.6	4.5	470			○		Se		
299	Q-9	d	12.5	6.3	6.2	700		○	○		Se		上面一部欠損
300	Q-10	d	12.6	6.7	4.5	570	○	○	○		S		
301	Q-11	d	12.9	7.0	5.6	710	○				Se		
302	Q-13	d	11.8	7.9	4.8	460		○	○		S		
303	R-5	d	11.1	8.1	4.5	570		○	○		Se		
304	R-5	d	12.3	6.9	3.9	520			○	○	S		SI24-105
305	R-5	d	11.2	9.3	6.6	830		○	○	○	Se		
306	R-5	d	11.5	6.2	6.3	830	○			○	S		上面欠損
307	R-7	d	10.5	8.9	5.4	700				○	S		
308	R-7	d	13.8	8.6	4.8	750					Se		
309	R-8	d	9.9	4.4	4.4	340		○	○		Se		
310	R-8	d	5.8	5.8	5.2	240		○	○		Se		
311	R-9	d	10.9	(5.5)	4.1	290					Se		縦1/2欠損
312	R-9	d	9.2	6.5	4.4	290		○	○		Se		
313	R-9	d	10.8	6.8	5.6	600					Se		
314	R-10	d	11.8	7.5	4.6	510				○	S		
315	R-10	d	8.9	7.1	4.2	300		○	○		Se		
316	R-14	d	9.2	(4.9)	(3.9)	100			○		Se		縦2/3欠損
317	R-16	d	12.2	6.6	3.8	510	○	○	○		Se		
318	S-1	d	10.5	5.5	3.4	290	○				S		
319	S-4	d	10.0	7.3	3.0	340	○				S		
320	S-6	d	9.2	6.8	4.5	450		○	○		S		
321	S-11	d	11.4	6.7	4.0	450	○				S		
322	S-11	d	6.0	4.5	2.9	110	○				F		
323	S-16	d	10.5	7.5	3.8	390	○				S		
324	T-3	d	10.5	7.5	4.5	630		○	○		Se		
325	T-3	d	10.3	6.0	2.9	310					Ka		
326	T-5	d	10.1	6.5	5.0	460					Se		
327	T-6	d	12.7	8.3	4.4	680		○	○		Se		
328	T-9	d	(8.4)	5.8	3.6	270		○	○		Se		上面欠損
329	T-9	d	6.1	4.7	3.2	160					S		
330	T-11	d	(7.2)	7.8	3.4	310					Se		上面欠損
331	T-13	b	11.8	7.1	3.7	410		○	○		Ka		
332	T-13	d	10.3	7.6	4.2	460		○	○		Se		敲打有
333	U-1	c	11.5	8.0	4.5	500	○				S		
334	U-3	d	10.7	7.8	5.8	660		○	○		Ka		
335	U-3	d	13.1	8.9	4.9	640	○				S		
336	U-4	d	7.4	5.9	4.0	280		○	○		Se		
337	U-4	d	(6.2)	6.1	4.5	270		○	○		Se		上面欠損
338	U-5	c	10.6	4.9	4.0	310	○				S		
339	U-6	b	(9.2)	10.7	4.0	580					Se		上面欠損
340	U-8	d	11.4	8.2	4.7	610					Se		
341	U-8	d	12.2	8.3	4.5	640					Se		
342	U-10	d	10.5	6.4	4.5	500		○	○		Se		
343	U-12	d	14.1	7.8	4.2	620					Se		SI17-240
344	V-3	c	12.0	8.2	5.8	620					Se		
345	V-3	d	9.0	6.5	4.6	340		○	○		Se		
346	V-3	d	13.7	7.0	3.5	480		○	○		Se		
347	V-3	d	13.1	8.4	5.3	690		○	○		Se		
348	V-5	d	13.4	7.4	4.3	640		○	○		Se		
349	V-5	d	9.9	6.6	4.5	490		○	○		S		
350	V-5	d	9.0	7.4	4.5	440		○	○		Se		
351	V-5	c	12.3	8.4	5.1	660		○	○	○	S		
352	V-6	d	12.3	8.5	5.7	790	○	○	○		S		
353	V-8	d	10.9	9.9	3.3	450	○	○	○		Se		側面敲打
354	V-8	d	10.7	7.4	5.0	630		○	○		Se		
355	V-8	d	12.4	9.0	3.4	560		○	○		Se		
356	V-8	d	10.5	7.7	3.8	440	○				Se		
357	V-8	d	8.8	6.4	2.7	230			○		Se		
358	V-9	d	10.7	6.2	5.0	580					S		

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
359	V-9	d	(11.2)	6.9	3.6	460	○			○	S		
360	V-9	d	(6.2)	8.2	4.5	390		○	○		Se		上面欠損
361	V-10	d	12.2	9.8	5.9	1020					Sm		
362	V-10	d	9.5	6.8	3.8	380	○				S		
363	V-10	d	8.5	6.8	4.5	400	○		○		Se		
364	V-10	d	10.3	7.3	4.0	480	○			○	S		
365	V-10	d	12.0	8.7	3.8	590		○	○	○	S		
366	V-10	d	(8.7)	8.4	4.0	430		○	○		Se		上面欠損
367	V-10	d	(7.4)	7.8	4.2	340					S		上面欠損
368	V-10	c	9.2	6.4	4.4	370				○	S		
369	V-10	d	10.4	7.7	4.5	560		○	○		Se		
370	V-10	d	8.8	5.7	3.2	260		○	○	○	S		
371	V-11	c	13.5	8.3	4.9	650			○		Se		SI17-138
372	V-12	c	10.9	(6.2)	3.9	320	○				S		底部一部欠損
373	V-13	d	8.6	5.9	4.4	380	○		○		Se		
374	V-13	d	11.4	8.7	5.0	630	○	○	○		Se		
375	W-6	d	8.3	7.0	5.5	410	○				F		
376	W-6	d	9.6	7.5	4.5	440			○		Se		
377	W-6	d	10.0	7.9	4.9	540		○	○		Se		
378	W-6	d	9.3	7.8	4.9	480		○	○		S		
379	W-7	b	(13.5)	8.7	5.8	710	○	○	○		Se	PL112-55	上面欠損
380	W-10	d	11.8	8.5	5.3	730					Se		
381	W-10	d	6.7	4.8	3.4	140				○	S		
382	W-11	d	12.1	8.6	4.5	680		○	○		Se		
383	W-11	d	8.4	3.2	3.2	120				○	S		
384	W-11	d	11.8	6.6	5.6	640		○	○		S		
385	x-6	d	10.5	6.3	5.1	550		○	○		Se		SI28-185
386	y-4	d	14.2	10.5	4.4	720	○				S		SI28-25
387	y-4	d	11.0	7.3	4.2	470					Se		SI28-31
388	y-5	d	12.0	7.3	6.6	680			○		Se		SI28-109
389	z-4	d	6.9	3.9	2.6	120		○		○	Sm		SI28-155
390	z-4	d	(10.0)	5.0	5.6	490		○	○	○	S		上面欠損・SI28-51
391	z-4	d	12.6	8.0	4.8	510	○				Se		SI28-76
392	z-4	d	5.6	4.1	4.0	180					Se		SI28-1
393	z-4	d	10.6	6.5	3.9	370				○	S		SI28-21
394	z-5	d	6.8	5.1	3.4	180					S		SI28-94
395	z-5	d	7.9	7.2	4.8	420		○	○		Se		SI28-98
396	z-6	d	11.7	8.2	5.8	880					Se		SI28-136
397	一括	c	14.0	8.8	5.3	880	○	○	○		S	PL112-53	ろ-16
398	一括	c	15.0	10.4	5.6	1160	○		○		Se	PL112-56	研磨有
399	一括	d	11.1	5.7	4.0	385	○		○		S	PL113-57	上部一部欠損
400	一括	d	11.7	5.4	3.8	340	○	○	○		S	PL113-59	
401	一括	d	8.9	7.5	3.1	380		○	○		Se	PL113-62	研磨有
402	一括	c	5.7	4.8	4.0	120					Gy	PL114-65	砥ぎ痕有
403	一括	a	14.8	6.9	5.7	830	○			○	S	PL114-66	
404	一括	c	10.5	6.5	5.2	540	○	○	○		Se	PL114-67	
405	一括	d	10.4	5.8	5.6	570		○	○		S		い-8
406	一括	d	13.8	9.0	5.7	980					Se		い-10
407	一括	d	9.9	7.0	4.8	510					S		い-12
408	一括	d	11.4	7.6	5.5	700		○	○		Se		ろ-7
409	一括	d	12.7	4.0	4.1	350			○		S		ろ-16
410	一括	d	10.9	5.8	4.2	470					C		研磨有
411	一括	d	10.7	6.7	4.5	420	○	○	○		Se		
412	一括	d	12.2	7.5	6.1	700	○		○		Se		
413	一括	d	10.7	6.6	6.5	590	○	○	○		S		
414	一括	d	10.1	7.4	4.2	500	○	○	○		Se		
415	一括	d	8.9	6.6	4.4	410					S		
416	一括	d	8.5	5.4	4.5	340					Ka		
417	一括	d	7.2	6.6	4.1	210					Se		
418	一括	d	10.9	8.1	4.9	620		○	○	○	S		
419	一括	d	8.3	4.2	3.4	240	○		○	○	Se		
420	一括	d	6.3	6.5	3.8	250		○	○		Se		
421	一括	d	9.2	6.6	5.3	530	○	○	○		Se		
422	一括	d	9.5	6.5	3.0	230					S		
423	一括	d	10.9	6.9	4.5	450	○		○		Se		SD1-S14
424	一括	d	11.1	5.8	4.2	380	○		○		S		SD1-S14
425	一括	d	9.5	6.6	3.5	350			○		Se		SD1-S17
426	一括	d	(7.7)	7.1	4.8	390					S		上面欠損
427	一括	c	(9.8)	8.8	5.0	630		○	○		Se		上面欠損
428	一括	d	9.2	5.3	3.3	350	○				Se		
429	一括	d	11.7	6.7	3.9	475					Se		
430	一括	d	13.2	9.0	5.3	850		○			Se		

番号	出土地点	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	底面整形	底側剥離	底面磨耗	被熱	石質	図版番号	備考
431	一括	d	10.5	7.8	5.4	560	○	○	○		Se		敲打有
432	一括	d	10.6	6.3	4.8	500				○	S		
433	一括	d	12.2	6.4	3.6	450		○	○		S		
434	一括	d	(4.3)	(7.5)	4.0	160	○		○		S		4/5欠損
435	一括	c	11.3	8.6	5.2	600	○	○	○		Se		
436	一括	d	10.6	8.4	4.5	500		○	○		S		
437	一括	d	11.2	6.3	5.1	450				○	S		

第18表 剥片石器計測表

番号	出土地点	刃部	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	自然面	図版番号	備考
1	SI1-3	円	1	6.5	6.3	2.2	130	F	A		
2	SI1-65	円	1	6.8	7.7	2.6	90	F	B	PL3-12	
3	SI3-89	円	1	8.2	7.8	2.0	100	F	A		
4	SI5-85	円	1	8.1	7.5	1.7	80	F	A		
5	SI5-198	円	1	5.8	9.0	1.6	72	F	A		
6	SI5-248	偏	1	6.8	7.3	2.1	110	F	B		
7	SI5-286	円	1	10.1	4.7	1.8	60	Ke	A	PL20-47	(削器)
8	SI5-429	円	6	8.3	6.0	1.9	96	S	B		
9	SI7-85	偏	1	6.2	4.8	2.3	80	F	A		
10	SI7-153	円	1	7.9	6.5	1.7	100	S	B	PL32-33	
11	SI7-178	円	1	5.4	7.7	2.2	60	F	B	PL32-29	(削器)
12	SI7-205	偏	1	8.5	7.5	2.4	65	F	A		
13	SI8-34	偏	1	7.8	8.0	2.7	50	F	B	PL37-19	
14	SI8-131	直	1	8.5	5.2	1.9	80	F	B	PL37-20	
15	SI9-36	直	1	9.2	6.9	2.7	140	F	A	PL41-24	
16	SI9-115	偏	1	5.1	5.3	2.1	41	C	A	PL41-25	
17	SI9-153	円	1	4.4	5.1	2.2	47	F	A	PL41-23	
18	SI12-71	偏	1	9.0	5.8	1.6	100	F	A	PL54-33	
19	SI12-100	偏	1	12.7	6.8	2.4	160	F	A	PL54-32	
20	SI13-17	直	1	4.4	5.9	1.5	42	F	A	PL61-18	
21	SI14-58	円	1	8.2	7.8	1.8	80	F	A		
22	SI16	円	1	8.5	4.8	1.8	47	F	B		
23	SI16-4	直	1	5.1	6.3	1.9	26	F	B		
24	SI16-14	直	6	5.2	7.3	2.0	53	F	A		
25	SI16-14	直	1	4.3	8.0	1.9	55	F	A		
26	SI16-30	直	1	4.2	7.5	1.8	40	F	A		
27	SI23-1	円	1	7.8	7.7	1.1	45	F	A		
28	SI23-5	直	1	4.5	2.5	1.0	10	F	A		
29	SI23-30	円	1	6.6	5.6	2.0	60	F	A		
30	SI23-214	偏	1	6.8	5.6	1.8	60	F	A		
31	SI23-267	偏	1	5.3	4.0	1.5	30	F	A		
32	SK19	円	1	5.0	10.3	2.0	105	F	A		
33	SK19	円	1	6.3	6.9	2.5	116	F	C		
34	SK19	円	1	4.9	7.2	2.1	52	F	A		
35	SK19	直	1	4.6	9.4	1.0	47	F	A		
36	B-7	偏	1	5.4	10.3	1.7	105	F	A		
37	C-7	偏	2	5.9	5.0	2.3	100	F	A		
38	C-7	偏	1	9.9	5.3	1.8	78	F	A		
39	C-8	円	1	8.5	5.0	0.8	30	F	B		
40	C-9	偏	1	4.3	6.7	1.5	40	F	A		
41	C-16	偏	2	4.7	5.5	1.6	52	F	A		
42	C-19	円	1	7.0	7.4	1.8	92	F	B	PL115-80	
43	D-7	偏	1	6.3	6.9	1.4	52	F	A		
44	D-9	円	1	9.3	4.2	2.2	60	F	B	PL115-84	
45	F-1	円	5	5.6	4.1	1.2	30	F	C		
46	F-8	円	1	5.1	5.5	1.6	70	F	C		
47	F-10	直	1	6.0	7.1	1.5	100	F	A		
48	F-11	直	5	5.5	4.7	1.3	30	F	C		
49	F-14	偏	1	6.5	3.2	1.8	62	F	C		
50	G-18	円	1	5.7	6.5	2.4	120	F	B		
51	I-5	円	3	5.2	3.2	1.5	20	F	A		
52	I-5	円	3	7.4	4.7	1.9	80	C	A		
53	I-20	円	1	5.6	7.5	2.1	86	F	A		
54	I-20	直	1	7.7	5.5	1.7	52	F	A		

番号	出土地点	刃部	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	自然面	図版番号	備考
55	J-6	偏	1	5.1	(5.3)	2.5	90	F	A		
56	J-7	偏	1	7.9	4.7	1.9	60	C	A	PL115-73	
57	J-10	偏	1	7.8	7.2	2.3	110	F	B	PL115-81	
58	J-10	偏	1	6.4	3.5	2.2	70	F	A		
59	K-4	偏	1	7.4	7.8	2.0	148	F	B		
60	K-6	偏	1	3.2	4.5	1.5	72	F	B		
61	K-6	直	1	3.2	4.5	1.5	20	Ke	B		
62	K-8	偏	1	7.1	6.2	1.3	70	F	C		
63	K-8	偏	3	9.9	6.3	1.8	145	F	A		
64	K-10	偏	1	10.2	6.0	2.0	100	F	A		
65	K-14	偏	1	4.2	4.5	1.0	20	F	A		
66	K-14	偏	3	7.4	7.0	2.2	145	F	B		
67	K-19	円	1	4.6	8.3	1.2	52	Ke	B	PL115-75	(削器)
68	K-20	偏	1	5.5	5.1	1.7	40	F	A		
69	L-3	偏	1	7.4	7.4	2.1	145	F	A	PL115-82	
70	L-5	偏	3	3.5	5.5	1.8	40	F	A		
71	L-5	偏	1	3.6	4.8	1.0	25	F	A		
72	L-7	偏	1	9.3	6.0	2.2	120	F	A	PL115-85	
73	L-7	直	1	5.0	7.8	1.6	50	Gy	A	PL115-71	
74	L-12	円	2	(6.9)	5.5	1.6	50	F	B	PL115-78	
75	L-13	偏	1	9.3	7.5	2.0	175	F	A		
76	L-13	円	1	6.0	7.2	1.8	90	Gy	A	PL115-72	
77	L-21	偏	1	3.9	5.2	1.5	33	F	A		
78	M-9	直	1	5.3	7.8	1.9	65	F	B	PL115-79	(削器)
79	M-11	円	1	5.7	4.0	1.4	49	F	A		
80	M-12	偏	2	5.2	7.5	2.0	90	F	A		
81	M-13	直	1	2.5	4.6	1.0	12	Gy	C		
82	M-15	円	1	4.1	5.1	1.6	60	F	C		
83	N-3	円	1	7.1	8.2	1.9	160	F	C		
84	N-6	円	1	4.9	8.1	1.2	104	F	C		
85	N-8	円	1	5.0	7.8	1.0	85	F	C		
86	N-9	円	1	7.7	5.1	1.4	70	F	A		
87	N-9	円	1	5.2	4.2	1.2	50	F	C		
88	N-9	直	1	4.7	7.5	1.6	95	F	C		
89	N-16	直	1	5.9	8.4	2.1	180	F	A		
90	N-16	偏	1	6.6	6.2	2.0	110	F	C		
91	O-7	偏	7	(3.7)	4.1	1.5	30	F	C		
92	O-8	直	10	(4.5)	(6.1)	1.2	60	F	C		
93	O-9	偏	1	11.4	5.7	2.4	130	F	B	PL115-77	
94	O-9	偏	1	9.3	5.1	1.7	90	F	A		
95	O-9	直	1	4.0	4.8	0.7	30	F	C		
96	O-10	直	1	5.5	7.7	2.0	55	F	B	PL115-76	(削器)
97	O-11	偏	1	10.0	4.1	1.5	70	Gy	A	PL115-83	
98	O-14	偏	1	7.3	3.9	2.0	90	F	A		
99	O-15	偏	1	11.2	6.8	2.1	195	F	C		
100	P-5	直	1	6.0	10.0	2.2	190	F	C		
101	P-6	直	1	5.2	8.1	1.6	100	F	C		
102	P-6	円	1	10.1	6.3	1.6	130	F	A		
103	P-10	偏	1	6.5	10.2	2.1	210	F	C		
104	Q-3	円	1	4.2	8.9	1.7	102	F	A		
105	Q-3	円	1	8.7	7.0	2.4	220	F	A		
106	Q-4	円	1	3.0	4.1	1.2	22	F	C		
107	R-9	偏	1	8.4	5.0	1.6	39	F	A		
108	R-9	円	1	6.6	4.6	1.7	35	S	A		
109	S-11	直	1	4.8	8.5	1.8	70	F	A		
110	S-11	偏	1	7.6	3.8	2.4	61	F	A		
111	一括	円	2	7.9	9.8	2.2	136	F	A		
112	一括	円	1	8.0	6.5	2.0	115	F	A		
113	一括	円	1	6.3	10.2	2.6	185	F	A		
114	一括	直	1	6.8	7.5	2.2	94	F	A		
115	一括	円	1	5.0	7.0	1.8	53	F	A		
116	一括	直	1	4.5	6.5	1.8	51	F	B		
117	一括	直	1	5.5	8.0	2.1	7.6	F	A		
118	一括	円	1	7.5	6.0	2.5	128	F	B		
119	一括	円	1	4.3	5.0	1.4	28	F	A		
120	一括	-	1	8.0	5.8	2.5	116	F	A		
121	一括	偏	1	9.2	6.0	2.2	124	F	A		
122	一括	円	1	8.6	8.1	3.3	220	F	A		
123	一括	円	1	8.4	7.2	3.0	265	R	B		
124	一括	偏	1	16.7	8.2	3.0	525	S	B		

第19表 石匙計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	U-10	a	4.2	9.5	0.9	40	N	PL115-74	

第20表 石錐計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI1-43	1	4.7	4.7	0.9	15	C	PL3-10	
2	SI3-73	1	4.5	4.6	1.7	25	F	PL9-27	
3	SI7-62	1	6.2	3.7	1.6	30	C	PL32-31	
4	J-16	1	5.4	3.6	1.4	10	S	PL116-95	
5	M-14	1	5.8	3.5	1.4	20	F	PL116-96	

第21表 石核計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI3-6	1	6.5	6.6	5.1	110	C	PL10-31	
2	SI3-137	1	7.0	5.1	2.7	77	C	PL10-32	
3	SI5-252	1	5.2	5.1	4.2	130	C	PL20-46	
4	SI7-140	1	6.5	7.2	2.6	100	C	PL32-34	
5	SI10-8	1	4.2	7.3	7.1	375	F	PL44-9	
6	SI12-83	1	6.0	5.1	3.0	100	F	PL54-35	
7	SI12-106	1	9.6	9.5	4.8	310	F	PL54-36	
8	SI23-431	1	6.3	5.7	4.1	160	F	PL57-23	
9	SS6-6	1	6.7	4.6	4.6	275	F		
10	C-8	1	10.3	8.5	6.0	620	F		
11	I-5	1	5.5	7.4	6.9	270	F	PL116-97	
12	I-16	1	8.1	7.0	3.6	295	C		
13	M-21	1	5.5	5.0	3.0	135	F		
14	P-3	1	6.1	5.6	3.8	170	F		
15	P-5	1	4.2	7.7	4.4	265	F		
16	一括	1	12.9	8.1	5.5	540	Ke	PL116-98	
17	一括	1	5.0	6.0	6.8	260	Ke	PL116-99	
18	一括	1	8.3	6.6	4.5	480	F		
19	一括	1	4.7	3.3	3.8	120	F		

第22表 礫器計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI1-3	a	6.5	7.7	2.5	130	F	PL3-11	
2	SI2-81	a	7.4	5.8	3.3	120	F		
3	SI2-170	a	5.9	9.1	5.0	300	F	PL6-13	
4	SI3-14	a	8.2	10.6	4.2	450	F		
5	SI3-97	a	10.2	7.5	5.3	410	F	PL10-30	
6	SI3-129	a	7.6	9.3	4.4	360	F	PL9-29	
7	SI3-300	a	6.0	9.7	4.4	260	F	PL9-28	
8	SI4	b	11.0	4.8	3.4	225	F		
9	SI4-223	a	7.2	10.9	3.5	270	F	PL14-15	
10	SI4-552	a	6.5	7.7	3.6	220	F	PL14-13	
11	SI4-660	a	5.5	6.5	3.0	160	F	PL14-14	
12	SI5	a	10.8	7.7	2.8	300	F		
13	SI5-6	a	7.0	6.7	4.5	255	Sm	PL20-45	
14	SI5-244	a	13.4	7.8	3.9	470	F	PL20-44	
15	SI5-253	a	6.9	10.0	3.7	310	F	PL19-38	
16	SI5-414	a	8.8	6.0	3.6	210	F	PL20-42	
17	SI5-440	b	(6.0)	5.6	2.3	80	F		
18	SI5-468	a	10.1	6.8	3.3	240	F	PL19-37	
19	SI5-478	a	6.6	8.0	2.9	180	F	PL20-39	
20	SI5-539	a	7.8	6.8	4.2	240	F	PL20-40	
21	SI6	a	8.4	7.3	3.6	225	F	PL24-22	
22	SI6-102	a	9.1	8.0	4.4	520	F		
23	SI6-122	a	6.5	7.5	4.0	210	F	PL24-20	
24	SI6-123	a	7.2	6.1	2.9	175	F		
25	SI6-137	a	7.0	8.5	3.8	285	F	PL24-21	
26	SI6-140	a	9.6	8.2	5.2	430	F	PL24-23	
27	SI6-144	a	6.2	9.0	3.6	255	F	PL25-24	
28	SI7-10	a	6.5	9.3	3.2	220	F	PL32-30	
29	SI7-178	a	7.4	4.8	1.6	60	F		
30	SI8-1	a	9.4	6.9	4.0	380	F	PL37-21	
31	SI8-21	a	12.6	10.6	4.6	780	F	PL37-23	
32	SI8-49	a	8.9	6.2	3.1	55	F	PL37-22	
33	SI8-131	d	8.2	6.2	3.7	280	F		
34	SI9-27	a	8.3	9.5	3.1	290	F	PL42-28	
35	SI9-28	b	(6.6)	7.2	3.2	210	F		
36	SI9-30	b	(3.7)	10.0	2.8	135	S		
37	SI9-89	a	5.8	7.0	3.1	150	F	PL42-27	
38	SI9-91	a	9.5	6.6	3.5	330	F	PL41-26	
39	SI9-92	a	9.5	9.7	3.7	225	F	PL40-15	
40	SI9-160	c	9.7	(7.6)	5.1	345	F		
41	SI10-82	a	8.4	6.9	3.5	240	F	PL44-10	
42	SI11-23	a	9.7	5.1	3.9	240	F		
43	SI11-29	a	7.0	5.0	3.1	145	F		
44	SI11-43	a	7.1	8.8	3.4	295	C	PL47-9	
45	SI12	a	12.0	9.0	4.7	450	Se		
46	SI12-51	a	8.6	9.6	5.9	710	S	PL53-25	
47	SI12-66	a	7.8	9.0	5.0	390	F		
48	SI12-71	c	10.9	9.8	3.0	280	F		
49	SI12-94	a	5.7	6.4	3.1	40	F		
50	SI12-109	a	6.2	9.4	3.7	260	F	PL54-30	
51	SI12-143	a	7.0	9.3	5.9	430	F	PL54-31	
52	SI12-144	a	8.0	8.4	4.4	345	F	PL54-28	
53	SI12-178	a	9.5	7.6	5.0	540	F	PL54-29	
54	SI13-29	b	(9.7)	(4.6)	3.0	50	F		
55	SI13-93	b	(6.5)	(6.2)	(3.0)	100	F		
56	SI15-44	a	5.0	7.3	2.0	50	F	PL67-18	
57	SI18-58	a	9.6	4.0	3.4	190	F		
58	SI23-5	a	6.0	8.1	3.8	330	S		
59	SI23-64	b	9.3	(4.8)	4.1	200	F		
60	SI23-161	a	7.1	5.4	3.9	140	F	PL56-17	
61	SI23-194	c	(7.4)	6.9	3.4	170	F		
62	SI23-215	a	4.9	8.0	2.1	120	F		
63	SI23-297	a	5.8	7.2	3.4	180	F	PL57-20	
64	SS2	a	8.8	6.1	5.2	350	F	PL87-7	
65	SS2	a	6.1	7.4	4.7	290	F	PL87-8	
66	SS4	a	9.2	10.3	5.2	790	S	PL88-19	被熱有
67	SS4-14	a	8.6	8.3	3.3	475	F	PL88-17	
68	SS5-13	a	8.3	9.2	5.9	480	F	PL89-27	

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
69	SS6-10	a	7.5	8.4	4.5	360	F	PL89-32	
70	A-12	c	5.4	8.1	(2.9)	150	F		
71	A-12	b	(6.7)	9.6	-	230	F		
72	A-13	c	6.5	(7.3)	(2.1)	130	F		
73	A-13	a	8.3	10.7	5.0	630	F		
74	A-14	a	8.8	9.1	5.3	615	C		
75	A-16	c	(6.3)	8.8	4.2	335	F		
76	B-7	a	7.5	5.0	2.4	190	F		
77	B-12	a	4.8	9.5	3.5	260	F		
78	B-16	a	8.2	6.5	4.9	450	F		
79	B-16	a	8.5	5.0	3.0	170	F		
80	B-18	a	7.0	8.5	5.4	510	F		
81	B-19	a	8.0	11.1	3.8	440	F		
82	C-6	a	9.8	8.9	2.0	290	F		
83	C-6	a	7.1	8.2	3.6	250	F		
84	C-6	a	8.7	7.0	3.2	265	F		
85	C-7	a	10.1	8.8	5.1	540	F		
86	C-7	a	7.2	7.4	3.0	220	F		
87	C-9	a	4.3	5.5	2.3	50	F		
88	C-10	a	(10.8)	(8.6)	8.0	890	F		
89	C-12	c	(8.4)	6.1	4.0	300	S		
90	C-12	a	9.3	6.1	4.0	300	F		
91	C-19	a	8.5	7.2	4.3	360	F		
92	D-6	c	6.7	5.7	2.1	115	S		
93	D-7	a	7.7	9.1	5.2	500	F		
94	D-9	a	6.6	11.5	3.6	315	F		
95	E-7	a	6.8	9.5	3.2	210	F		
96	E-8	a	11.0	7.5	5.0	540	F		
97	E-9	a	8.6	4.2	3.3	180	F		
98	E-12	c	9.1	(8.9)	4.4	550	F		
99	E-21	a	8.0	5.8	2.5	120	F		
100	F-8	a	9.0	5.7	3.6	180	F		
101	F-10	a	9.3	4.1	2.5	168	F		
102	F-10	a	8.2	7.8	3.0	230	F		
103	F-11	a	5.8	6.4	4.0	270	F		
104	F-11	a	7.3	7.1	2.7	180	F		
105	F-11	a	6.0	5.4	2.9	110	F		
106	G-2	a	5.6	6.2	3.5	170	F		
107	G-2	a	7.8	8.1	2.5	202	F		
108	G-3	b	(3.0)	(6.0)	(4.0)	140	F		
109	G-6	a	10.4	10.6	5.1	605	Gy	PL118-121	
110	G-6	d	(6.7)	6.8	4.0	240	F		
111	G-7	a	8.0	7.1	3.0	210	F	PL118-117	
112	G-13	a	9.3	6.3	3.7	290	F	PL117-108	
113	G-17	a	7.7	7.4	3.4	260	F	PL118-113	
114	H-3	a	6.2	9.7	4.1	322	F		
115	H-4	a	13.1	12.2	5.2	960	F	PL117-112	
116	H-6	b	(7.8)	(4.4)	3.6	180	F		
117	H-9	a	8.3	7.7	2.8	270	F		
118	H-12	a	7.9	7.5	2.1	150	F		
119	H-12	b	7.6	7.7	(4.1)	490	F		
120	H-14	a	8.0	10.1	5.2	500	F	PL117-103	
121	H-17	-	6.2	(6.7)	(3.7)	220	F		
122	I-10	a	8.1	6.1	3.5	290	F		
123	I-15	d	6.5	6.1	2.6	130	F		
124	I-15	a	6.2	5.5	2.6	130	F		
125	I-15	a	7.1	5.3	3.6	170	F		
126	I-20	a	6.6	7.0	2.1	140	F		
127	J-2	a	9.2	10.0	4.3	420	F	PL118-122	
128	J-3	d	9.5	(8.7)	3.4	380	F		
129	J-3	a	9.8	7.3	3.6	360	F		
130	J-4	a	7.1	8.5	4.1	400	F	PL117-102	
131	J-4	a	3.1	8.5	4.1	270	F		
132	J-6	a	9.4	5.6	4.1	275	F		
133	J-6	a	5.8	4.5	2.1	100	F		
134	J-9	a	8.0	8.5	4.5	320	F	PL117-110	
135	J-10	a	8.6	6.1	4.5	410	F		
136	J-11	a	7.5	8.0	4.3	450	F		
137	J-12	c	5.1	(5.2)	2.8	100	F		
138	J-13	a	8.3	9.1	5.2	480	F		
139	J-15	a	7.8	6.1	3.5	200	F		

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
140	J-15	a	9.0	9.8	2.7	280	F		
141	J-17	a	8.8	6.7	4.1	310	F		
142	K-5	a	8.5	7.2	3.0	190	S		
143	K-6	a	8.9	8.7	3.0	240	F		
144	K-8	a	7.4	5.4	4.7	310	F		
145	K-10	-	(4.7)	(5.3)	(2.9)	80	F		
146	K-10	b	(7.3)	(4.9)	5.0	200	F		
147	K-10	a	6.7	8.4	3.6	240	F		
148	K-11	d	(6.0)	8.2	2.2	160	F		
149	K-12	b	9.9	(6.3)	4.3	370	F		
150	K-12	b	(7.6)	(6.0)	5.2	260	F		
151	K-15	b	5.7	(8.0)	4.1	220	F		
152	K-18	b	(6.9)	(9.5)	4.3	310	F		
153	K-20	a	6.5	6.6	2.4	140	F		
154	L-3	d	8.7	(8.7)	5.1	450	F		
155	L-4	d	9.8	(8.8)	4.1	430	F		
156	L-4	a	8.2	6.3	2.8	230	F		
157	L-5	a	7.6	6.8	3.0	180	F		
158	L-6	a	7.8	6.0	3.6	200	F		
159	L-6	a	11.6	7.4	4.1	480	F		
160	L-7	d	(5.6)	6.8	(3.9)	148	F		
161	L-7	d	(8.2)	8.7	4.0	280	F		
162	L-9	a	5.8	6.8	2.8	150	F		
163	L-9	d	3.0	4.7	(2.7)	56	F		
164	L-12	a	6.8	5.1	2.5	100	F		
165	L-13	b	6.0	(2.7)	2.4	50	F		
166	L-13	c	10.0	11.0	(3.9)	500	F		
167	L-14	a	9.0	9.9	3.5	440	F		
168	L-14	a	7.0	6.8	3.5	200	F		
169	L-17	c	8.9	6.8	(3.6)	298	F		
170	L-19	c	8.9	(12.2)	3.1	450	F		
171	L-20	d	7.8	5.1	3.8	252	F		
172	L-21	d	9.1	7.8	3.7	315	F		
173	M-4	a	8.5	6.1	3.0	200	F		
174	M-5	a	9.1	6.4	3.2	185	F	PL117-105	
175	M-8	a	8.2	7.2	5.4	430	F		
176	M-8	a	5.0	7.3	2.4	110	F		
177	M-8	-	(6.4)	(10.9)	(2.8)	252	F		
178	M-8	b	(9.0)	(4.8)	6.2	358	F		
179	M-8	a	7.7	6.1	3.5	290	F		
180	M-11	a	6.2	8.0	3.4	230	F	PL117-104	
181	M-12	a	9.1	7.4	3.5	290	C		
182	M-15	c	7.0	6.9	2.2	122	F		
183	M-16	a	3.5	6.4	2.1	50	F		
184	M-17	a	7.4	6.5	3.3	200	F		
185	N-3	a	8.6	7.4	3.0	300	F		
186	N-3	a	10.6	7.0	3.1	320	F		
187	N-4	a	7.0	7.2	3.5	275	F		
188	N-4	a	10.5	12.2	6.0	770	F		
189	N-4	a	11.5	10.5	4.4	650	F		
190	N-5	a	8.9	8.5	3.2	330	F	PL117-111	
191	N-6	a	7.3	8.8	3.1	230	F		
192	N-8	a	7.3	7.9	4.6	350	F		
193	N-8	a	7.7	6.8	3.0	200	F		
194	N-9	c	8.2	7.1	3.0	230	F		
195	N-9	d	8.2	6.8	2.5	160	F		
196	N-9	c	(5.1)	8.7	4.5	245	F		
197	N-9	a	7.2	6.7	3.3	260	F		
198	N-9	c	8.4	5.2	2.3	190	F		
199	N-14	a	10.0	7.3	3.7	440	F		
200	N-15	d	6.2	9.3	4.5	355	F		
201	N-16	a	8.0	8.5	3.3	290	F		
202	N-16	a	11.0	6.9	2.9	200	F		
203	N-16	c	9.7	8.8	(4.2)	410	F		
204	O-5	c	(6.5)	9.1	2.6	210	F		
205	O-5	c	(8.5)	8.8	4.7	450	F		
206	O-6	b	(10.3)	(6.5)	3.7	360	F		
207	O-6	c	(6.8)	(7.2)	4.8	260	F		
208	O-6	b	(3.5)	5.6	2.1	50	F		
209	O-7	c	(6.7)	(8.3)	3.2	250	F		
210	O-9	b	(8.6)	(7.5)	4.5	300	F		

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
211	O-9	c	5.9	(6.6)	3.3	160	F		
212	O-9	c	7.4	(9.3)	4.2	400	F		
213	O-9	a	7.7	4.1	3.7	150	F		
214	O-9	a	6.3	7.1	2.8	160	F		
215	O-9	a	9.2	8.3	4.5	440	F		
216	O-10	a	7.0	8.0	2.8	230	F		
217	O-11	a	7.9	9.0	5.8	490	F		
218	O-12	b	(5.4)	(6.6)	3.5	130	F		
219	O-13	a	9.3	7.0	3.7	260	F	PL116-100	
220	O-14	a	9.6	11.7	4.5	640	F		
221	O-15	b	(5.3)	(9.6)	2.3	130	F		
222	O-16	a	7.1	12.0	3.6	350	F		
223	O-18	b	(7.9)	(5.0)	5.3	320	F		
224	P-5	a	6.9	8.6	4.4	350	F		
225	P-5	b	(10.1)	(8.1)	2.0	270	F		
226	P-5	d	10.7	6.7	3.7	300	F		
227	P-6	b	(6.1)	10.8	3.1	280	F		
228	P-7	a	11.5	5.5	4.6	320	F		
229	P-9	c	6.5	8.6	4.7	285	F		
230	P-9	c	7.6	6.7	(3.0)	205	F		
231	P-14	a	7.9	5.3	2.9	200	F		
232	Q-5	c	9.0	(7.7)	3.3	270	F		
233	Q-5	b	6.3	(7.9)	2.9	190	F		
234	Q-5	a	9.5	6.1	3.2	220	F		
235	Q-5	a	7.5	5.9	3.0	190	F		
236	Q-6	a	7.8	9.5	2.9	280	F		
237	Q-6	d	7.8	12.0	5.0	250	F		
238	Q-6	a	14.0	9.9	5.1	750	F		
239	Q-6	a	6.8	12.1	4.5	520	F		
240	Q-7	a	8.2	6.4	4.4	290	F		
241	Q-8	d	7.1	9.8	5.1	400	F		
242	Q-8	b	10.5	7.4	4.3	410	F		
243	Q-9	b	(4.9)	(8.7)	3.6	130	F		
244	Q-9	d	5.9	7.7	3.3	120	F		
245	Q-9	a	6.0	7.5	3.8	280	F		
246	Q-10	a	6.8	9.8	4.0	290	F		
247	Q-11	d	7.7	7.3	4.1	252	F		
248	Q-12	b	(7.4)	(6.4)	3.5	220	F		
249	Q-13	-	(5.4)	(5.8)	(4.4)	150	F		
250	R-6	a	7.7	9.5	4.1	370	F	PL118-114	
251	R-6	a	10.6	8.0	6.8	820	F		
252	R-7	a	9.5	7.6	3.6	280	F		
253	R-8	a	8.0	8.2	3.7	340	F		
254	R-8	b	(4.2)	(7.0)	3.5	110	F		
255	R-10	b	10.6	(6.2)	4.6	320	F		
256	R-10	a	7.5	7.4	3.8	320	F		
257	R-11	d	7.5	8.6	5.5	340	F	PL118-116	
258	R-11	b	(8.2)	(6.0)	5.0	330	F		
259	R-11	a	8.2	9.5	3.4	190	F		
260	R-12	b	5.1	(4.7)	3.3	120	F		
261	R-16	a	6.5	7.8	4.3	290	F		
262	S-1	a	12.5	7.9	4.5	440	F	PL117-109	
263	S-2	a	7.4	8.3	4.2	280	F	PL117-107	
264	S-8	-	(7.6)	(5.3)	(4.7)	240	F		
265	S-8	-	(5.6)	(7.7)	(3.0)	152	F		
266	S-11	a	10.1	8.4	4.8	490	F	PL118-123	
267	S-11	a	8.1	3.7	4.8	240	F		
268	S-12	b	(8.3)	(7.2)	3.8	260	F		
269	S-13	a	6.6	5.9	3.8	190	S		
270	T-4	a	6.4	6.8	3.5	200	F		
271	T-5	-	7.5	(8.2)	4.1	238	F		
272	T-9	-	7.3	(4.2)	3.8	140	F		
273	T-10	b	10.3	(8.0)	2.6	250	F		
274	T-12	a	10.7	7.3	2.8	100	F		
275	T-12	d	11.1	5.5	5.6	420	F		
276	T-12	a	7.6	9.1	4.6	280	F		
277	U-3	d	9.5	(8.4)	2.5	240	S		
278	U-4	b	(6.9)	7.9	2.3	150	F		
279	U-7	a	7.4	6.9	4.1	250	F		
280	U-8	a	17.2	7.7	5.7	830	F	PL117-106	
281	U-10	a	8.7	9.6	5.8	500	F	PL118-119	

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
282	U-13	c	4.8	(6.4)	3.7	150	F		
283	U-14	d	(6.7)	(5.7)	3.4	165	F		
284	U-15	a	7.0	6.6	2.6	170	F		
285	V-5	d	8.7	(10.3)	3.5	420	F		
286	V-5	-	(8.6)	(5.9)	(4.5)	280	F		
287	V-5	a	8.3	5.4	3.0	150	F		
288	V-7	a	4.9	12.0	4.2	260	F		
289	V-7	b	(6.2)	(9.6)	4.0	330	F		
290	V-7	b	(4.8)	10.2	4.3	290	F		
291	V-9	a	10.2	8.2	4.0	400	F		
292	V-9	a	9.8	6.6	3.2	230	F		
293	V-10	-	(6.9)	(7.6)	4.4	180	F		
294	V-10	-	(6.8)	(4.2)	2.7	110	F		
295	V-10	a	6.5	7.7	3.6	190	F		
296	V-11	a	8.8	8.3	2.5	240	F		
297	V-11	a	5.7	6.5	3.5	130	F		
298	V-11	a	6.4	9.8	3.2	200	F		
299	V-12	b	8.2	(4.6)	3.8	170	F		
300	V-13	a	8.5	8.7	3.7	310	F		
301	V-19	a	7.7	7.1	5.1	350	F		
302	W-11	d	(6.1)	(6.2)	2.4	130	F		
303	W-13	a	7.2	7.0	3.4	220	F		
304	Z-5	a	8.1	5.5	3.7	220	F		
305	Z-6	d	(14.5)	6.3	5.5	760	F		
306	一括	a	9.4	9.9	3.7	430	F	PL116-101	
307	一括	a	5.4	7.8	3.2	180	F	PL118-115	
308	一括	a	6.7	8.6	4.3	375	F	PL118-118	
309	一括	a	10.2	9.9	4.9	650	F	PL118-120	
310	一括	a	8.4	5.4	3.3	235	F		い12
311	一括	a	11.0	7.1	3.6	380	F		ろ19
312	一括	a	8.1	6.2	3.7	300	S		ろ11は11
313	一括	a	6.5	4.6	3.5	180	F		
314	一括	a	6.0	8.0	3.4	210	F		
315	一括	a	10.2	7.2	3.1	390	F		
316	一括	a	6.0	8.9	4.3	290	F		
317	一括	a	7.9	8.9	3.1	365	F		
318	一括	a	9.3	3.6	3.4	180	F		
319	一括	a	7.3	7.2	3.5	200	F		
320	一括	a	7.5	5.4	3.2	180	F		
321	一括	c	(9.2)	6.3	2.7	180	F		
322	一括	a	5.4	7.7	4.9	250	F		
323	一括	a	8.2	9.6	3.9	380	F		
324	一括	a	9.8	9.5	3.3	410	F		
325	一括	a	8.5	10.7	3.3	440	F		
326	一括	d	(8.9)	7.0	5.1	390	C		
327	一括	a	6.1	11.4	3.1	300	F		
328	一括	b	(6.2)	5.2	3.8	200	F		
329	一括	c	4.6	(6.9)	3.7	180	F		
330	一括	d	(7.0)	8.2	3.6	110	F		
331	一括	c	6.8	8.6	(6.3)	770	F		
332	一括	b	(6.2)	5.1	2.8	110	F		
333	一括	c	7.1	(5.6)	3.3	175	F		
334	一括	a	7.3	8.0	4.2	300	S		

第23表 磨製石斧計測表

番号	出土地点	形状	刃部	残存	最大長(cm)	幅(cm)			最大厚(cm)	重量(g)	石質	自然面	図版番号	備考
						基部	中央	刃部						
1	I-19	2	円	1	7.1	2.5	2.5	2.5	0.8	26	Gy	B	PL119-125	
2	J-18	3	直	1	2.6	1.7	1.8	1.8	0.8	5	Gy	B	PL119-124	局部磨製
3	L-8	1	直	1	7.6	4.0	5.8	5.5	1.8	110	J	B	PL119-127	
4	N-16	2	偏	1	(8.2)	3.6	3.5	2.8	2.1	90	Gy	B	PL119-126	局部磨製
5	U-14	1	円	1	9.5	2.5	4.1	3.7	1.5	80	S	B	PL119-128	局部磨製
6	Z-3	2	円	1	7.6	3.5	3.8	3.5	1.3	60	S	B		
7	一括	1	円	1	16.1	2.7	4.3	3.3	2.6	300	Rs	B	PL119-129	

第24表 打製石斧計測表

番号	出土地点	形状	刃部	残存	最大長(cm)	幅(cm)			最大厚(cm)	重量(g)	石質	自然面	図版番号	備考
						基部	中央	刃部						
1	SI4-626	3	円	1	7.1	2.5	4.6	5.0	1.7	80	F	A	PL14-16	
2	SI7	3	円	1	9.8	3.4	4.1	4.6	1.1	63	F	A	PL32-32	
3	SI9-13	2	円	1	9.9	3.3	3.8	3.7	1.4	70	F	C		
4	SI9-137	2	-	-	(11.1)	-	5.3	-	1.4	140	H	C		
5	SI11	3	-	7	(4.8)	2.7	(3.9)	-	1.3	30	F	C		
6	SI16-11	1	円	5	(5.3)	-	-	-	(1.5)	75	S	C		
7	A-12	1	-	7	(8.0)	-	7.1	-	3.3	224	F	B		
8	A-13	3	円	1	10.6	3.5	4.3	4.8	1.0	80	H	A		
9	C-7	2	-	9	(3.7)	3.7	-	-	1.4	20	F	C		
10	C-7	2	直	1	9.1	3.3	3.5	3.6	2.2	110	F	B		
11	C-7	1	円	1	10.7	-	3.8	6.5 7.3	2.5	170	F	C		
12	C-9	2	円	1	10.3	4.7	5.0	4.5	1.5	130	F	C		
13	C-12	3	円	5	(4.5)	-	-	8.0	(1.8)	80	F	A		
14	H-4	2	円	1	6.7	3.1	3.9	3.6	1.2	50	F	A	PL119-134	
15	H-7	2	円	1	10.1	4.4	4.7	3.8	2.0	150	H	B	PL119-140	
16	J-16	3	円	1	10.2	3.1	5.4	6.5	1.9	117	F	A	PL120-143	
17	J-16	1	円	5	4.7	-	2.9	-	1.2	40	F	A		
18	J-16	3	円	3	(5.4)	-	(5.3)	5.4	2.5	110	F	A		
19	J-17	2	-	9	(5.5)	3.9	-	-	1.3	45	F	A		
20	K-3	1	直	1/2	(7.1)	-	(5.5)	-	2.1	155	F	C		
21	K-6	3	円	1	6.8	2.1	2.7	3.3	1.8	55	S	B	PL119-130	
22	K-9	3	円	2	(7.8)	(3.3)	(4.0)	5.4	1.5	70	S	A		
23	K-12	2	直	3	(9.0)	-	5.2	4.2	2.4	150	F	B		
24	L-2	3	円	2	(5.9)	(2.7)	(3.2)	3.9	1.1	40	F	C		
25	L-3	2	直	1	9.2	3.4	4.9	4.8	1.8	120	Gy	B	PL119-132	
26	L-4	2	-	10	(9.7)	-	(4.9)	(3.5)	1.8	140	F	B		
27	L-6	2	円	1	6.9	2.5	3.2	3.5	1.5	40	F	A	PL119-133	
28	M-14	2	円	1	9.5	3.1	3.8	3.5	1.4	63	F	A	PL119-137	
29	M-16	2	円	1	10.4	2.8	3.3	3.0	2.0	110	F	B	PL119-136	
30	M-20	3	直	2	(8.7)	(3.4)	(4.3)	6.1	3.0	195	F	C		
31	M-21	3	直	1	8.3	3.0	4.6	4.3	2.0	93	F	A		
32	N-7	3	円	3	(8.1)	(3.7)	(4.8)	4.0	1.4	70	F	C		
33	N-10	2	偏	1	9.8	3.7	4.8	5.4	2.5	180	F	A	PL119-139	
34	N-16	1	-	7	(6.0)	-	5.0	-	(2.0)	135	F	C		
35	O-7	3	円	3	(6.0)	-	(4.7)	5.1	2.7	100	S	A		
36	O-8	3	-	7	(7.6)	2.7	3.4	-	1.7	57	S	B		
37	O-10	2	円	2	(9.0)	-	4.6	3.6	2.2	98	F	A		
38	O-11	3	円	1	7.7	2.3	4.0	4.6	2.7	100	F	A	PL119-138	
39	O-14	3	円	1	10.6	3.3	5.2	6.1	2.2	210	F	A	PL120-142	
40	P-3	1	円	1	10.0	-	4.4	6.0 7.0	2.1	140	F	A	PL120-147	
41	Q-5	2	-	7	(16.0)	5.7	5.8	-	3.8	570	F	A	PL120-145	
42	R-6	2	偏	2	(7.5)	(2.6)	(3.2)	3.2	0.9	30	F	A		
43	R-7	2	偏	-	(6.0)	5.6	5.2	3.6	2.0	110	F	B		
44	R-12	2	直	7	9.2	-	3.3	3.4	1.5	80	S	A		
45	S-13	3	直	1	6.1	2.0	3.3	3.4	1.8	45	F	A	PL119-135	
46	U-7	1	直	6	(8.5)	-	3.9	-	2.7	135	S	C		
47	U-13	3	円	3	(8.4)	-	(5.6)	6.7	1.9	135	F	A		
48	U-18	3	直	3	(7.2)	-	(5.2)	6.6	1.2	90	F	A		
49	V-3	1	円	1	11.4	-	5.0	-	1.9	210	S	B		
50	V-10	2	円	1	9.5	2.8	3.6	3.4	1.7	95	F	B	PL119-131	
51	V-10	2	円	1	12.4	3.0	4.8	4.3	2.3	215	F	B	PL119-141	
52	W-11	3	偏	1	9.2	3.3	3.8	4.5	2.8	104	F	A		
53	一括	3	円	1	13.0	5.1	8.1	8.0	3.1	400	F	A	PL120-144	
54	一括	1	直	1	14.1	-	6.8	10.6 11.2	3.8	780	F	A	PL120-146	
55	一括	3	直	1	12.2	4.3	5.5	8.0	2.0	261	H	B		
56	一括	3	円	5	(6.3)	-	-	6.0	1.1	50	F	C		
57	一括	3	偏	1	10.4	2.2	4.7	5.4	1.7	110	Ke	C		

番号	出土地点	形状	刃部	残存	最大長(cm)	幅(cm)			最大厚(cm)	重量(g)	石質	自然面	図版番号	備考
						基部	中央	刃部						
58	一括	1	円	3	6.7	-	4.2	-	1.8	100	F	C		
59	一括	3	-	3	6.3	-	4.8	-	1.5	70	F	A		

第25表 石錘計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI23-140	1	5.0	4.0	1.0	30	S	PL157-19	
2	一括	1	5.0	3.6	1.1	31	S	PL120-148	
3	一括	1	5.4	4.1	1.1	40	S		

第26表 へら状石器計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	C-9		(3.3)	2.1	0.5	6	Ke	PL120-150	
2	L-8	b	(11.5)	1.9	0.8	25	F	PL120-152	敲打痕・被熱有
3	O-11	a	8.2	2.6	0.8	31	Ke	PL120-151	擦痕・被熱有

第27表 有孔礫計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	L-7	1	8.1	6.1	1.5	97	Rs	PL120-149	

第28表 砥石計測表

番号	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI4-36	(7.3)	(5.7)	3.1	172	F		
2	SI4-81	(6.5)	(3.7)	3.5	112	F		
3	SI4-235	(5.2)	(3.6)	1.5	40	F		
4	SI4-360	(7.2)	(5.8)	6.1	280	F		
5	SI4-371	(3.0)	(0.9)	2.2	10	F		
6	SI4-394	(6.4)	(2.3)	2.4	45	F		
7	SI4-425	(5.2)	(3.7)	3.6	98	F		
8	SI4-427	(6.5)	(3.8)	(2.6)	80	F		
9	SI4-429	(4.5)	(2.9)	(1.6)	20	F		
10	SI4-450	(6.5)	(2.8)	(2.2)	50	F		
11	SI4-479	(3.4)	(3.0)	(3.3)	30	F		
12	SI4-497	(7.1)	(3.1)	(1.7)	42	F		
13	SI4-510	(3.3)	(2.1)	(1.4)	14	F		
14	SI4-530	(7.1)	(5.7)	2.3	150	S		
15	SI4-533	(4.2)	(1.7)	(1.2)	12	F		
16	SI4-541	(4.0)	(2.6)	(0.9)	11	F		
17	SI4-581	(3.4)	(2.6)	(1.0)	10	F		
18	SI4-680	(8.6)	(5.8)	3.3	220	D		
19	SI4-710	(6.3)	(5.6)	2.6	90	F		
20	SI5-16	(9.4)	4.8	2.0	121	Gy	PL21-53	
21	SI5-542	(3.4)	(3.7)	2.8	60	F		
22	SI9-79	(5.7)	(4.6)	(6.3)	210	Sm		
23	SI16-9	(6.5)	(2.9)	5.0	170	F		
24	SK19	(7.4)	5.3	3.2	239	S	PL77-22	
25	SS2-12	(7.2)	(5.0)	(3.5)	160	S		
26	C-7	(5.8)	(3.5)	1.7	60	S		
27	C-16	8.3	4.5	2.3	95	D		
28	J-4	(6.3)	(6.1)	(2.5)	140	S		
29	J-4	(7.2)	6.5	(5.3)	300	S		
30	J-4	(5.8)	(6.1)	4.5	260	S		被熱有
31	L-4	(3.7)	(2.7)	2.9	30	D		
32	N-2	(6.5)	(3.5)	1.3	35	S		
33	O-2	(5.0)	(3.5)	1.4	30	S		
34	O-3	(5.2)	(4.0)	(1.8)	50	D		
35	P-6	(7.0)	(4.0)	7.5	265	F		
36	P-8	9.3	5.2	2.1	47	A	PL121-154	
37	P-9	(10.5)	7.0	6.5	350	D		
38	Q-2	12.1	5.2	1.7	124	Rs		
39	U-4	(4.7)	(4.1)	(3.0)	80	Ka		
40	V-5	7.9	4.6	1.0	63	S	PL121-153	
41	V-16	10.6	6.6	2.5	202	S		
42	Y-5	9.1	(5.1)	3.6	240	Sm		
43	Z-4	(5.6)	(5.7)	2.2	90	F		
44	一括	(5.8)	(3.8)	(2.5)	50	D		
45	一括	(11.2)	3.5	2.9	151	S		
46	一括	10.2	5.9	1.4	120	S		
47	一括	10.3	5.0	3.2	179	D		

第29表 磨石計測表

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
1	SI1-22	I	b	(6.2)	9.3	3.8	325	2	1.3	-	Se	a	PL3-15	
2	SI1-71	I	b	(6.4)	9.2	3.7	300	2	-	-	Se	a	PL3-13	
3	SI1-117	I		(8.3)	(5.4)	4.0	280	3	3	-	Se	a		
4	SI1-149			(7.6)	(6.1)	(3.2)	160	2.4	-	-	Se	b		
5	SI1-171.6	I	c	(8.9)	7.7	3.6	290	2	-	-	Se	a	PL3-14	
6	SI1-198	I	a	6.8	6.1	2.8	180	3.4	-	-	S	a		
7	SI2	IV	a	7.0	7.0	4.8	380	4	-	-	Rs	b	PL6-11	
8	SI2-14	I	a	6.1	5.2	2.6	110	3	-	-	Se	a	PL6-10	
9	SI2-109	II	d	9.9	6.5	3.1	270	3	-	-	S	b	PL6-12	
10	SI2-151			(3.4)	(4.0)	2.8	40	3	-	-	Se	b		
11	SI3-70	II	a	6.5	3.7	1.6	62	3.4	3	-	Se	a	PL10-37	
12	SI3-84			(5.3)	-	2.3	84	-	-	-	Ka			
13	SI3-96			(3.5)	(8.4)	1.9	70	-	-	-	Se			
14	SI3-101	II	b	(8.0)	7.8	4.0	300	3	1.3	-	Se	a	PL11-39	
15	SI3-113	V	c	(6.5)	(6.0)	3.5	190	2.3	1	有	S			
16	SI3-121			-	-	-	18	-	-	-	Se			
17	SI3-121			-	-	-	25	-	-	-	Ka			
18	SI3-152	II		(6.6)	(8.5)	2.8	182	3	-	-	Se			
19	SI3-156			(8.8)	8.2	4.0	440	2	-	-	S			
20	SI3-221	II	a	12.4	8.3	4.6	680	3.4	-	-	S	c	PL11-40	被熱有
21	SI3-253			-	-	-	20	-	-	-	Ka			
22	SI3-356			-	-	-	32	-	-	-	Ka			
23	SI3-404	I	b	(6.1)	(9.0)	(4.9)	340	3	1	-	Se	b		
24	SI4	II	b	(9.2)	7.1	5.0	545	2	-	-	S	b		
25	SI4-56	V	a	8.7	7.1	4.6	500	3.4	1	-	Se	b	PL15-19	
26	SI4-58			(9.0)	(5.8)	6.6	580	2	-	-	Ka			
27	SI4-83	I	a	10.1	8.5	3.8	415	3.4	-	-	Se	a	PL15-21	
28	SI4-122	I	a	7.1	6.6	3.2	200	3.5	-	-	Se	c	PL15-18	
29	SI4-172			-	-	-	55	-	-	-	Ka			
30	SI4-231	I	a	8.3	9.0	2.7	310	3.4	3	-	Se	a	PL15-20	
31	SI4-286	V	a	6.6	5.0	3.5	220	4	-	-	Ka			
32	SI4-335		b	5.7	5.8	3.5	170	-	-	-	Ka			被熱有
33	SI4-361			(3.1)	(3.3)	5.3	87	-	-	-	Ka			
34	SI4-466			(5.7)	(4.5)	-	135	2	-	-	S			
35	SI4-604			6.4	4.7	2.0	70	-	-	-	S			
36	SI4-646			(7.1)	(5.3)	3.5	210	3	-	-	Ka			
37	SI5-1.2	II	b	12.9	(7.6)	4.3	420	3	3	-	Se	b		
38	SI5-9	II		(3.5)	(6.5)	3.9	70	-	-	-	Se			
39	SI5-14	I	a	5.7	7.0	2.4	130	3	1	-	Se	b	PL21-50	
40	SI5-42	II	a	3.8	6.4	2.6	90	2.5	-	-	S	b	PL21-48	
41	SI5-67.445	VI	a	12.1	8.0	3.8	470	3	3	-	Se	a	PL21-54	
42	SI5-89			(6.0)	(4.3)	(4.1)	120	-	-	-	Se			
43	SI5-91			-	-	-	25	-	-	-	Ka			
44	SI5-96	VI	a	10.3	8.2	3.3	400	3	-	-	Se	b		
45	SI5-108			(6.8)	-	-	100	-	-	-	Ka			
46	SI5-111			-	-	-	40	-	-	-	Ka			
47	SI5-112	II	b	(8.3)	9.4	5.0	550	3.4	-	-	Ka	b		
48	SI5-158	II	b	(8.2)	7.2	6.1	460	3	3	-	Se	b		
49	SI5-159			(2.7)	(2.3)	3.0	15	-	-	-	Se			
50	SI5-200			(5.4)	(4.7)	3.7	150	2	-	-	Se			
51	SI5-202	II		(4.4)	(5.0)	4.8	100	-	-	-	Se			
52	SI5-249	II		(6.5)	6.1	3.8	240	3	3	-	Se	b		
53	SI5-301			-	-	-	30	-	-	-	Ka			
54	SI5-314			(8.2)	-	-	110	-	-	-	Ka			
55	SI5-321	VI	a	9.6	11.9	3.1	580	3	3	-	Se	a	PL21-49	
56	SI5-336			(5.5)	(4.8)	2.0	40	-	-	-	Se			
57	SI5-345			(4.5)	-	(6.4)	360	-	-	-	Ka			
58	SI5-359			(11.2)	-	(4.6)	300	-	3	-	S			
59	SI5-370			(10.0)	(7.8)	9.5	680	-	-	-	Se			
60	SI5-380	I	a	10.9	9.9	3.1	470	1	1	-	Se	a	PL21-56	
61	SI5-389			(3.9)	(4.9)	2.3	35	-	-	-	Se			
62	SI5-402	VI	a	10.6	7.9	3.4	380	3.4	-	-	Se	b	PL21-52	
63	SI5-425			(4.4)	(4.5)	(4.3)	152	-	3	-	S			
64	SI5-474			(2.8)	(5.4)	3.0	80	-	-	-	Se			
65	SI5-501			(4.3)	3.3	2.0	30	-	-	-	Se			
66	SI5-504			-	-	-	6.0	-	-	-	Ka			
67	SI5-538	VI	a	8.0	9.0	3.9	370	3.4	-	-	Se	b	PL21-51	
68	SI6			(4.0)	(2.8)	1.4	8	-	-	-	Se			

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
69	SI6-40			(6.6)	(5.9)	4.1	175	-	-	-	Se			
70	SI6-119	VII	a	9.0	6.3	4.5	350	3.5	-	-	Se	c	PL26-33	
71	SI6-136			(11.9)	(7.2)	7.9	530	-	-	有	Se			
72	SI6-148	III	b	(7.0)	6.8	3.8	205	3	1	-	Se	b		
73	SI6-154	VI	b	(9.3)	9.5	(3.4)	335	2.5	1	-	Se	a		
74	SI6-200	VI	a	13.1	9.0	3.5	540	3	3.6	-	Se	a	PL26-35	特殊磨石
75	SI6-205	II	c	(7.6)	(5.6)	3.9	200	-	1	-	Se			
76	SI6-222		b	(10.3)	(5.9)	3.8	230	-	3	-	Se			
77	SI6-285	I	a	7.3	6.3	3.7	230	1	-	-	S	b	PL26-32	
78	SI6-301			(5.0)	(6.3)	2.0	70	-	-	-	Se			
79	SI6-303	II		(6.1)	8.1	3.7	270	3	1	-	Se	b		
80	SI6-357	VI	a	8.2	9.6	4.3	470	1	-	-	S	a	PL26-34	
81	SI7			(4.4)	(3.7)	2.9	30	-	-	-	Ka			
82	SI7-15			(3.7)	(3.0)	3.3	40	3	-	-	Se			
83	SI7-22,172	II	c	9.8	7.8	4.5	360	3	1	-	Se	b		
84	SI7-30	II	a	8.4	5.5	3.3	252	1.3	-	-	S	c		
85	SI7-52			(4.0)	(2.7)	2.8	40	1	-	-	S			
86	SI7-55	II		(6.5)	8.6	5.0	320	3	1	-	Se	b	PL33-48	
87	SI7-60			(3.6)	(5.7)	1.8	60	1	-	-	Se			
88	SI7-80	VI	a	8.0	8.0	4.4	390	3.4	3	-	Se	b	PL32-45	
89	SI7-91	II	b	(9.2)	7.6	4.0	325	3	3	-	Se	a	PL33-50	
90	SI7-128	VI	a	11.1	6.8	4.8	435	1.3	-	-	S	c		
91	SI7-136			(2.3)	(4.2)	(1.8)	40	2	-	-	Se			
92	SI7-195	I	a	6.5	6.3	2.3	165	3.4	-	-	Se	a	PL32-44	
93	SI7-196	I	a	4.9	4.5	1.2	40	2	4	-	S	a	PL33-46	
94	SI7-202			(3.8)	7.3	4.0	110	3	-	-	Se			
95	SI7-216			(6.7)	12.1	6.5	650	1	-	-	Se			
96	SI7-220			(5.0)	(4.6)	3.7	90	1	-	-	S			
97	SI7-229	I	a	7.2	8.6	3.8	390	3.4	3	-	Se	b	PL32-43	
98	SI7-234			(5.3)	(7.0)	2.5	120	1	-	-	S			
99	SI7-243	II	d	11.7	9.3	3.0	530	1	1	-	Se	a	PL33-52	
100	SI7-289	II	a	10.2	8.3	3.4	440	2	-	-	Se	b	PL32-42	
101	SI7-311			(5.0)	(2.7)	4.6	90	1	-	-	Se			
102	SI7-327			(3.7)	(3.6)	3.0	70	3	-	-	Se			
103	SI7-361	II	b	(10.3)	6.9	4.2	350	3.4	3	-	Se	b		
104	SI7-396	VII	a	8.6	8.1	5.4	560	3.4	-	-	S			
105	SI7-405			(2.7)	(2.5)	(2.3)	30	2	-	-	Se			
106	SI8-31	II	b	(6.6)	7.0	3.3	200	3	1	-	Se	a	PL37-24	
107	SI8-31	I	a	(4.9)	4.4	1.9	60	2	2.4,5	-	Se	b	PL37-25	
108	SI8-38	II		(5.3)	7.3	3.8	140	6	-	-	S	b		
109	SI8-67			(5.8)	6.4	3.2	200	1	-	-	S			
110	SI8-73	III	a	9.8	4.1	2.5	165	1.3	-	-	S	c		
111	SI8-75	VII	a	8.8	6.7	3.2	230	3.4	-	-	Se	a	PL37-26	
112	SI8-94			(6.7)	(5.0)	3.1	120	3.4	-	-	Se			
113	SI8-107			(5.9)	(5.1)	(3.2)	130	6	-	-	Se			
114	SI8-111			(6.0)	(3.0)	4.2	110	1	-	-	Se			
115	SI8-124			(6.5)	(7.1)	3.1	220	3	3	-	Se			
116	SI8-128	VI	a	6.5	5.5	3.5	180	1.3	-	-	C	b		
117	SI9-3	II	b	(8.3)	(6.7)	3.8	240	2.4	-	-	S	b		
118	SI9-12	I	d	8.7	7.5	2.0	170	3.4	-	-	Se	a	PL42-32	
119	SI9-25	II	b	(9.2)	7.4	3.5	310	3.4	-	-	Se	a		
120	SI9-26	II		(5.6)	(4.7)	(2.5)	80	2	1	-	Se	b		
121	SI9-26			(4.3)	4.7	2.7	100	3	-	-	Se			
122	SI9-44	I	d	(9.6)	9.2	3.6	422	3	-	-	Se	a		
123	SI9-67	I	a	9.5	8.9	3.3	430	3.4	3	-	Se	a	PL42-29	
124	SI9-69			-	-	3.5	160	-	-	-	Ka			
125	SI9-86	VI	a	11.1	11.0	4.0	720	3.4	-	-	Se	a	PL42-33	
126	SI9-100	II		(9.8)	(5.6)	3.1	200	2	-	-	Se	b		
127	SI9-108	II	a	9.1	6.2	4.2	350	1	-	-	S	b	PL42-31	
128	SI9-119			(3.4)	(3.5)	2.6	45	2	-	-	Se	b		
129	SI9-157	I	a	5.4	5.2	2.0	70	1	-	-	Se	a	PL42-30	
130	SI9-158	II	b	(7.5)	(8.1)	(1.9)	180	2	1	-	Se			
131	SI10			(6.5)	(6.0)	3.6	210	3.4	-	-	Se	a		
132	SI10	II	a	(7.1)	(5.5)	3.7	170	1	-	-	S	a		
133	SI10-19	II	b	(6.9)	8.1	3.7	260	3.4	-	-	Se	b		
134	SI10-55	III	b	(8.4)	4.2	2.5	140	1.3	-	-	S	a		
135	SI10-90	II	d	11.2	7.5	4.0	510	3.4	-	-	Se	a	PL44-11	
136	SI11-5	II	b	9.6	(4.0)	3.6	200	2	-	有	Se	b		
137	SI11-11	II	b	(9.6)	9.4	2.8	360	3.4	-	-	Se	b	PL48-12	
138	SI11-12			(6.1)	(4.7)	3.5	160	3	-	-	Se			
139	SI11-13	II	a	8.1	8.6	4.5	420	2	-	-	Se	b	PL48-13	

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
140	SI11-18			-	(7.5)	3.5	190	-	-	-	S			
141	SI11-19	II	c	(10.7)	8.5	4.0	690	3.4	-	-	Se	b		
142	SI11-22			(5.8)	(5.7)	4.3	180	2	-	-	Ka			
143	SI11-42			(6.6)	-	4.0	210	2	-	-	S			
144	SI11-47	II	a	8.2	6.8	3.1	260	3.4	-	-	Se	b	PL48-11	
145	SI11-55			-	-	-	30	-	-	-	Ka			
146	SI11-80	II		(6.5)	7.3	3.5	200	3	-	-	S			
147	SI11-83			-	-	-	65	-	-	-	S			
148	SI12-3	II		(7.8)	(3.8)	3.6	150	4	1	-	Se	b		
149	SI12-7	II	b	(6.5)	(6.0)	3.6	150	3	-	-	Ka	b		
150	SI12-11	II	c	(12.5)	8.9	3.6	590	3.4	2	-	Se	b		
151	SI12-12	II	b	(14.4)	10.3	5.8	1240	1	3	-	S	b		
152	SI12-28	II		(5.3)	4.3	(3.4)	115	2	-	-	S	b		
153	SI12-37	II	a	10.0	9.0	4.1	570	3.4	-	-	Se	b		
154	SI12-68			(8.6)	(7.0)	3.8	400	1	-	-	Se			
155	SI12-69	II		(4.5)	(8.2)	3.4	150	3	-	-	Ka	b		
156	SI12-74	II		(8.0)	(8.7)	2.7	220	2	-	-	Ka	b		
157	SI12-81	II	a	9.5	6.6	2.7	210	3.4	-	-	Se	b		
158	SI12-90	II	b	(5.9)	6.2	3.7	180	2	-	-	Se	b		
159	SI12-93	II	a	10.2	6.6	3.4	350	2.4	-	-	Se	b	PL55-37	
160	SI12-113	II	b	(8.8)	9.8	4.0	400	1	-	-	Se	b		
161	SI12-116	II		(6.4)	8.4	3.7	270	2	-	-	S	b		
162	SI12-125	II	a	12.2	8.8	5.0	820	3.4	-	-	Se	b	PL55-38	
163	SI12-140	II	b	(6.0)	7.0	4.7	290	2.4	-	-	Ka	b		
164	SI12-149	II	b	(12.5)	(8.0)	5.5	820	4	-	-	S	b		
165	SI12-154	II	a	8.3	5.2	2.1	130	1	5	-	S	b		
166	SI12-155	II	a	12.5	10.2	3.7	670	2.4	-	-	Se	b	PL55-39	
167	SI12-161			(10.5)	(2.5)	5.2	80	1	-	-	Se			
168	SI12-218			(2.5)	(5.4)	4.2	90	2	-	-	Se			
169	SI12-244	II		(5.1)	4.8	2.9	102	3	-	-	Se	b		
170	SI13-13			(8.9)	(4.6)	4.3	190	1	-	-	Se			
171	SI13-26			(8.6)	(4.3)	3.5	160	-	-	有	Ka			
172	SI13-34	II	a	10.7	9.1	2.7	430	3	2.4	-	Se	b	PL62-29	
173	SI13-45			(6.4)	(6.5)	3.0	170	-	-	-	Se			
174	SI13-102	VI	a	8.0	8.8	3.0	360	3.4	-	-	Se	b	PL62-27	
175	SI13-105	VI	a	7.9	9.7	1.2	120	2	-	-	A	a	PL62-28	
176	SI13-114	II	a	11.5	5.3	2.4	230	3	2.3	-	S	b		
177	SI13-119	II	a	5.7	4.6	2.0	70	2	1	-	Se	b	PL62-26	
178	SI13-124	I	a	6.8	6.0	2.8	160	3.4	-	-	S	b		
179	SI13-151	I	a	3.8	3.9	3.2	60	2.5	-	-	S	b	PL62-25	
180	SI14-35	II	b	(7.3)	(9.0)	3.6	180	1	3	-	Ka	b		被熱有
181	SI14-41	II	b	(10.0)	(9.0)	3.6	330	3.4	1	-	Se	b		
182	SI14-63	II	c	8.0	6.9	3.7	320	3	-	-	Se	b	PL64-13	
183	SI15-2	II	b	(7.2)	7.6	4.0	300	3.4	-	-	Se	c		
184	SI15-62	II	a	8.6	6.9	3.8	280	3.4	-	-	Se	b	PL67-19	
185	SI16-1	II	a	7.2	6.3	1.7	120	1	-	-	Se	a	PL70-15	
186	SI16-28	III	b	(5.6)	5.2	3.0	150	1	-	-	S	b		
187	SI16-29	II		(4.8)	7.5	3.5	180	3	3	-	Se			
188	SI16-41	III	b	(8.1)	3.7	2.6	100	3.4	-	-	Sm	b		
189	SI16-51	II	a	8.9	7.0	4.1	340	1	-	-	S	b		
190	SI16-63	VI	a	10.5	8.3	4.5	560	1	-	-	Se	b	PL70-18	
191	SI16-64	II	b	(8.3)	(9.0)	5.0	430	3	-	-	S			
192	SI16-65	II	a	13.0	8.7	3.5	660	1	-	-	Se	c	PL70-17	
193	SI16-69			-	-	-	100	-	-	-	Se			
194	SI16-73	II	a	7.8	5.0	3.2	180	1	-	-	Se	b	PL70-16	
195	SI16-205	II	c	(7.6)	(5.6)	3.9	200	-	1	-	Se			
196	SI18-81			(5.4)	(6.1)	2.9	110	2	-	-	Se			
197	SI18-105	II	a	15.4	7.1	3.9	670	1	1	-	S	b	PL73-6	
198	SI18-166	I	b	(5.2)	8.4	3.2	210	2	-	-	Se	b	PL73-5	
199	SI18-200			(3.6)	(3.2)	(2.1)	20	-	-	-	Se			
200	SI18-236			(6.5)	(5.5)	6.6	400	1	-	-	S			被熱有
201	SI18-286			(6.0)	(1.8)	1.5	20	1	-	-	S	c		
202	SI19	I	a	3.7	3.2	2.7	45	1	-	-	Se	b		
203	SI23-8	III	c	(12.5)	5.0	1.9	210	3.4	-	-	S	a		
204	SI23-105			(6.2)	(3.5)	(2.7)	70	2	-	-	S			
205	SI23-106			(7.0)	(8.5)	4.8	390	1	-	-	Ka			
206	SI23-111			(3.3)	(2.0)	3.0	30	3	-	-	Se			
207	SI23-127	II	a	9.8	7.4	4.1	430	3.4	-	-	Se	b	PL57-26	
208	SI23-155	II	a	11.0	7.3	2.6	330	2	-	-	Se	b	PL57-27	
209	SI23-191			(7.3)	(4.1)	2.9	80	1	-	-	Se			
210	SI23-233	II	a	6.7	5.3	1.7	70	3	-	-	S	b	PL57-25	

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
211	SI23-248	II	b	(7.5)	7.1	3.1	240	2	-	-	S	b		
212	SI23-253			(2.8)	(4.1)	3.7	50	1	-	-	Se			
213	SI23-269	II	a	9.0	7.8	2.8	310	3	-	-	Se	b	PL57-24	
214	SI23-342	II	a	9.0	5.1	2.0	140	3.4	-	-	Se	b	PL57-28	
215	SI23-361			(4.5)	(4.7)	4.5	190	2	-	-	Ka			
216	SI23-365			(6.7)	(6.2)	5.0	270	1	-	-	Ka			
217	SI23-419			(6.7)	(3.8)	(4.2)	80	2	-	-	Se			
218	SK7	II	b	(7.0)	(9.6)	3.5	360	4	6	-	Ka	c	PL76-12	
219	SK7	II	a	10.5	8.6	4.3	605	3	4	-	Ka	b	PL76-14	
220	SK19	II		(5.1)	5.4	3.9	140	1	-	-	Se	b	PL77-23	
221	SK19	VI	a	6.3	8.2	3.0	230	1	-	-	Ka	b	PL77-24	
222	SS	II	b	(6.0)	(6.3)	4.4	220	1	1	-	S	b		
223	SS			(9.2)	(9.6)	-	298	-	-	-	Ka			
224	SS1	II		(4.3)	8.8	3.7	160	2	4	-	Ka			
225	SS2			(7.1)	5.1	3.5	190	3	-	-	Ka		PL87-9	
226	SS2			-	-	3.6	70	-	-	-	Se			
227	SS2-7			(6.5)	(5.5)	(2.6)	100	-	-	-	Se			
228	SS2-9			(5.9)	(8.0)	(2.5)	110	-	-	-	Se			
229	SS2-11			-	-	-	10	-	-	-	Se			
230	SS2-A			-	-	-	125	-	-	-	Ka			
231	SS3	II	c	(8.1)	9.8	3.5	408	3	-	-	S	b	PL88-12	
232	SS3-14	II	b	(5.3)	(7.3)	3.5	200	1	-	-	Ka			
233	SS4			(9.8)	(5.6)	3.6	240	-	-	-	Ka			
234	SS4	II		(7.8)	9.7	3.3	353	2	3	-	Ka	b		
235	SS4-17	II	c	(11.5)	(5.0)	3.0	240	-	-	有	Ka			
236	SS5	II	a	12.3	9.4	5.6	890	2	1	-	Se	b	PL89-28	被熱有
237	SS5			-	-	3.7	115	-	-	-	Ka			
238	SS5		b	(5.8)	5.4	2.6	140	3	1.5	-	Se			
239	SS5-14		b	(6.7)	5.5	3.0	190	-	-	-	S			
240	SS5-21	I	d	(8.9)	8.2	3.2	340	3	1	-	Se	b	PL89-29	
241	SS6			(5.6)	(14.5)	(4.7)	540	-	1	-	S			
242	SS6-3			(2.5)	-	(4.2)	57	-	-	-	Se			
243	SS6-7			(3.4)	(3.2)	(2.8)	66	-	-	-	Se			
244	SS7	II	a	6.3	4.8	2.0	110	1	-	-	Se	b	PL90-36	
245	SS7	VI	a	10.5	4.4	3.1	153	1	-	-	Se	b	PL90-37	
246	SS10	II	c	(8.3)	(11.0)	4.5	550	3.4	4	-	Se	b	PL90-41	
247	SS13	II	d	13.8	(7.3)	5.5	880	3.4	-	-	Ka	b	PL91-44	
248	SS13	IV		(8.4)	(9.5)	5.0	630	1	-	-	A	a		
249	SS14-3	II	a	13.0	10.3	4.2	720	4	4	-	Se	b	PL91-49	
250	SS14-9			-	-	-	29	-	-	-	Ka			
251	SS14-10			-	-	-	37	-	-	-	Ka			
252	SS14-17	II		(7.1)	(6.9)	3.0	180	1	-	-	Se		PL91-46	
253	A-8			-	-	-	26	-	-	-	Se			
254	A-8			(6.4)	(5.3)	1.9	90	2	-	-	Se			
255	A-10	II	a	12.8	9.4	5.6	770	3	4	有	S	b		
256	A-13	II	a	10.2	6.0	2.9	210	3	-	-	Ka	b		
257	A-13	II	b	(8.6)	(11.4)	3.3	390	1	-	-	Ka	a		
258	A-15	III	c	(11.7)	(6.1)	3.3	320	3	-	-	S	b		
259	A-15	II	a	12.7	6.3	3.0	380	3	3	-	Ka	b		
260	A-15			(8.3)	(5.2)	4.0	190	2	-	-	S			
261	B-7	II	a	10.5	5.2	3.3	260	3	-	-	Se	b		
262	B-7	II	b	(10.0)	6.3	1.5	140	3	-	-	S	b		被熱有
263	B-11			(4.4)	(3.8)	3.9	100	3	-	-	Ka			
264	B-11	II	b	(5.1)	4.0	2.2	80	4	1	-	S	a		
265	B-12	II	a	10.4	7.2	3.0	290	3	-	-	Ka	b	PL121-157	
266	B-12			(6.3)	(2.4)	(3.8)	90	3.4	-	-	Se	a		
267	B-13	II	a	11.3	8.1	4.2	550	3	5	-	Ka	b	PL121-156	
268	B-13	II	b	(7.8)	6.8	4.7	330	3	3	-	S	b		
269	B-15	II	a	8.7	6.6	5.2	400	3	-	-	S	b		被熱有
270	B-16	I	b	8.6	(4.8)	3.1	210	3	4	-	Se	a		
271	B-18	II	c	(9.7)	7.3	3.7	370	2.4	3	-	Se	a		
272	B-18	VI	a	8.8	10.0	3.7	400	3	-	-	Se	b		
273	B-20	II	a	13.4	5.2	3.4	280	1	5	-	Ka	b		
274	B-20	I	a	7.6	8.3	3.2	270	2	-	-	Se	b		
275	B-26	II		(9.7)	5.6	(3.0)	225	3	-	-	S	b		
276	C-6	I	c	(8.0)	8.5	4.4	440	3	3	-	Se	b		
277	C-7	II	c	(6.7)	6.1	2.8	150	3	-	-	S	b		
278	C-7	V	b	(10.2)	8.0	3.4	520	1	3	-	Ka	a		
279	C-7			(7.6)	(7.5)	4.7	340	2	1.3	-	Ka			
280	C-7			-	-	-	220	-	-	-	Se			
281	C-8	II		(4.9)	5.6	3.0	105	3	-	-	Se			

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
282	C-8	II	d	(12.3)	10.2	3.0	600	3	1	-	Ka	b		
283	C-8	II	b	(6.1)	7.1	4.1	250	2	-	-	S	b		
284	C-9	II	a	7.6	6.4	4.3	270	3	1	-	Se	b	PL121-158	
285	C-9	II	b	(7.0)	9.8	3.7	360	3	1	-	Ka	b		
286	C-9	II	d	(10.2)	4.7	3.5	220	1	-	-	S	b		
287	C-9	II	a	6.0	3.9	2.7	90	3	-	-	Se	b		
288	C-10	I	a	8.7	7.5	2.1	190	1	-	-	S	b		
289	C-10	II	b	(3.6)	4.6	2.3	50	3	-	-	Se			
290	C-10			(4.6)	(7.9)	3.7	165	3	1	-	Se			
291	C-10			(6.0)	(5.0)	3.6	140	3	-	-	S	a		
292	C-13	I	a	6.7	5.7	4.1	240	3	3	-	Se	b	PL121-155	
293	C-13	II	a	10.9	8.0	3.8	490	3	3	-	Se	b		
294	C-13	II	a	7.0	5.4	2.5	100	3	-	-	S	c		
295	C-16			-	-	-	48	2	-	-	Se			
296	C-20	VI	a	10.4	6.6	3.8	340	1	-	-	Ka	b		
297	D-6	VI	d	5.6	6.6	3.1	170	3	-	-	Ka	b	PI122-169	
298	D-7	II	a	5.5	3.9	1.4	40	3	-	-	Ka	b	PL121-159	
299	D-7	I	a	6.1	5.7	1.1	60	3	1	-	S	a	PL121-162	
300	D-7	II	a	7.8	5.7	3.6	220	2.4	-	-	Ka	b	PL122-172	
301	D-7	II	a	9.1	7.2	4.2	465	3.4	-	-	Ka	b		
302	D-7	II	c	(9.8)	5.5	2.0	158	2.4	-	-	S			
303	D-7	II		-	-	-	98	-	-	-	Se			
304	D-8	II	a	13.2	10.7	4.7	985	3	4	-	Ka	b		
305	D-8	II	b	(11.0)	(9.0)	3.1	330	2	-	-	Ka	b		
306	D-8	II		(5.0)	(7.4)	-	125	-	-	-	Se	b		
307	D-8	II	d	6.3	4.7	2.3	89	3	-	-	Se	b		
308	D-9	II	a	7.2	5.3	2.3	140	3	4	-	Ka	b	PL121-161	
309	D-9	II	a	8.3	5.6	2.9	160	3	1	-	S	b	PL122-171	
310	D-9			(4.0)	(7.2)	-	75	-	-	-	Se			
311	D-9			(5.9)	(7.2)	2.7	158	3	-	有	S			
312	D-10	II	a	11.2	5.0	3.5	300	1	-	-	Ka	b	PL122-167	
313	D-10			(3.4)	7.3	3.7	142	2	-	-	Se			
314	E-7	II	a	9.3	3.8	3.2	150	1	-	-	S	b		
315	E-7			(4.5)	5.4	2.2	100	1.3	-	-	S	a		
316	E-8	II	b	(6.3)	7.5	(2.8)	160	3	-	-	Ka	b		
317	E-9	II	b	9.0	6.0	(2.9)	210	2.4	-	-	S	b		
318	E-9			(4.2)	6.6	3.1	150	2	5	-	S			
319	E-11			(3.8)	(5.3)	(2.0)	50	2	-	-	Se			
320	E-11			(6.3)	(5.8)	3.1	150	3	-	-	Ka	a		
321	E-12			(3.1)	(3.7)	(2.5)	35	3	-	-	R	b		
322	E-14	I	a	9.5	8.0	3.8	390	3	-	-	Ka	b		
323	E-19	II	d	7.9	4.4	2.6	130	3	3	-	S	b		
324	E-19	II		(5.6)	(6.3)	(3.0)	110	3	3	-	S	b		
325	E-19			(5.9)	(6.2)	(2.5)	100	2	-	-	Se	b		
326	F-1			(5.7)	(5.9)	3.1	150	3.4	-	-	Se	b		
327	F-8	II	a	10.5	9.0	5.2	690	2.4	1.4	-	Se	b		
328	F-8	I	a	10.0	8.1	5.0	450	3.4	-	-	S	b		
329	F-9	II	a	9.2	6.0	3.5	290	3	1	-	Se	b		
330	F-9	VI	d	9.7	8.9	3.2	630	1	5	-	Ka	b		
331	F-10	II	b	(9.3)	8.0	3.6	370	3	-	-	Se	b		被熱有
332	F-10	III	b	(8.6)	4.0	4.5	270	3.4	5	-	Ka	b		
333	F-10	VII	b	(5.6)	4.0	3.6	150	3.5	-	-	S	a		
334	F-10	I	b	(4.7)	(5.0)	3.0	90	3	-	-	Se	b		
335	F-11	II	b	(8.8)	(5.7)	1.5	80	3	1	-	S	a		
336	F-11	I	b	(6.8)	(8.5)	2.9	185	3	-	-	Se	a		
337	F-12	I	b	6.0	5.2	1.4	60	2	-	-	Ka	a		
338	F-12	II	a	9.5	6.7	4.8	410	3	-	-	S	b		
339	F-12	II	a	10.3	7.3	3.4	410	2	-	-	Se	b		
340	F-12			(4.8)	(6.7)	(3.0)	100	3	-	-	Se	b		
341	F-12	VII		(5.4)	6.2	3.1	200	3.4	-	-	Se	b		
342	F-13	I	a	5.0	4.7	1.8	50	3	-	-	Ka	b		
343	F-16	VI	a	5.7	5.4	1.8	70	1	-	-	Ka	b		
344	F-19	II	a	6.8	5.8	3.5	180	3	1	-	Se	b		
345	G-2	V	a	13.8	9.5	6.1	1340	2.5	5	-	Se	a		
346	G-3	II	a	8.8	5.5	2.4	180	3	1	-	Se	b	PL122-170	
347	G-3	II		(9.4)	-	-	95	2	-	-	Ka			
348	G-3	II		8.7	-	-	80	2	-	-	Ka	b		
349	G-3			-	-	-	6	-	-	-	Se			
350	G-3			-	-	-	87	-	-	-	Ka			
351	G-3			-	-	-	35	-	-	-	Ka			
352	G-3	II		(2.6)	(6.3)	3.5	200	3	-	-	Se	b		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
353	G-3	II	a	11.3	8.2	3.9	500	1	-	-	S	b		
354	G-3	II	a	9.7	6.9	5.2	490	3	-	-	S	b		
355	G-3	VI	a	6.2	6.2	4.0	200	3	-	-	Se	b		
356	G-3	II	a	6.0	4.7	2.5	100	3.5	-	-	Se	b		
357	G-3			-	-	-	40	-	-	-	Se			
358	G-5	II	a	8.8	3.9	2.9	150	1	-	-	S	b		被熱有
359	G-6	IV	a	10.2	7.6	4.3	470	1	-	-	S	b		
360	G-7	II	a	11.3	6.8	3.6	370	2	-	-	Se	b		
361	G-7	II	a	8.6	7.6	4.5	400	3.4	-	-	S	b		
362	G-8	VI	a	5.7	6.3	3.9	180	3	-	-	Se	c		
363	G-13	II	a	9.4	8.1	2.9	300	2	-	-	Se	b		被熱有
364	G-13	II	c	(11.2)	7.7	3.3	420	3	1	有	Ka	b		
365	G-13	II	d	10.6	8.2	4.7	500	2.4	1	-	S	b		
366	G-14	II		(5.7)	(8.3)	5.1	300	-	-	-	Ka			
367	G-17			-	-	-	260	-	-	-	Ka			
368	G-18	II		(6.5)	(7.0)	3.7	220	1	-	-	Se	b		
369	H-2	II	a	10.3	6.7	4.9	500	1	-	-	Se	b		
370	H-2	VI	a	5.5	4.6	2.3	80	1	-	-	Se	b		被熱有
371	H-3	II	a	11.1	7.0	4.0	460	2	4	-	S	b		
372	H-3	II	a	9.6	5.8	3.4	331	3	-	-	Se	a		
373	H-3			(6.8)	(10.3)	-	195	-	-	-	Ka			
374	H-3			-	-	-	11	-	-	-	Ka			
375	H-4			(7.9)	(4.6)	(3.6)	115	4	-	-	Ka			
376	H-4			(6.1)	(3.8)	(2.8)	77	3	1	-	Ka	b		
377	H-4			(4.2)	(8.4)	(2.4)	71	-	-	-	Ka			
378	H-4			-	-	-	85	-	-	-	Se			
379	H-4			-	-	-	6	-	-	-	Se			
380	H-4			(5.2)	(4.5)	4.5	87	-	-	-	Se			
381	H-4	II		(9.2)	(5.3)	(4.5)	230	2	1	-	Se	b		
382	H-4			(4.0)	(7.5)	4.3	120	3	-	-	Se	b		
383	H-4	II		(11.5)	(5.1)	(3.6)	240	2	1	-	Ka	b		
384	H-4	II	a	20.8	10.3	6.2	1690	3	3	-	S	b		被熱有
385	H-5	II	a	9.3	7.0	3.3	340	1	-	-	S	b		
386	H-5			(10.1)	(7.0)	(2.8)	230	2.4	-	-	Ka			
387	H-5			(5.9)	(4.6)	(3.4)	110	2	-	-	Se			
388	H-6	II	a	10.3	6.8	3.8	400	3	3	-	Ka	b		
389	H-6	I	a	7.6	6.5	4.0	300	2	-	-	Se	b		
390	H-6	I	a	6.0	5.2	2.7	130	1	-	-	S	b		
391	H-6	II	a	11.2	8.2	7.5	880	2	1	-	Se	b		
392	H-6	II	b	(5.1)	7.8	3.7	240	3.4	1.4	-	Se	b		
393	H-6	II		-	-	-	70	-	-	-	Se	-		
394	H-6			-	-	-	50	-	-	-	Ka	-		
395	H-6			-	-	-	80	-	-	-	Se	-		
396	H-6	I	b	(7.8)	(8.1)	4.2	340	1	1.4	-	Se	b		
397	H-6	II	b	(6.0)	7.2	3.7	250	1	-	-	Se	b		
398	H-9			(5.5)	(3.3)	(3.5)	120	2.4	-	-	Ka			
399	H-9			(4.5)	(3.1)	(1.9)	30	2	-	-	Gy			
400	H-11	II	b	7.9	8.0	3.5	355	4	-	-	S	b		
401	H-11	II	a	5.9	4.5	1.3	60	2	-	-	Se	b		
402	H-14	V	a	15.4	7.8	5.6	1130	2.4	-	-	Se	b		
403	H-14	II	a	9.2	8.3	4.5	470	3.4	3	-	S	b		
404	H-14	VI	c	(11.6)	10.0	4.0	690	2.4	-	-	Se	b		
405	H-14	II	-	(4.5)	7.0	3.2	120	1	1.3	-	S	b		
406	H-15			(7.8)	-	4.1	120	3	-	-	Se	b		
407	H-15			(4.8)	(5.5)	-	80	3	-	-	Se	-		
408	H-15			-	-	-	10	-	-	-	Se	-		
409	H-15	II	a	11.7	6.5	3.9	450	3	1	-	S	b		
410	H-15	VI	a	8.2	8.4	4.1	310	1	-	-	Ka	c		
411	H-15	VI	a	10.8	6.0	2.0	200	1	-	-	Ka	a		
412	H-16	II	a	9.5	9.0	3.4	410	3	3	-	Se	b		
413	H-16	VI	a	11.8	4.7	3.0	170	1	-	-	Ka	b		
414	H-16	II	b	9.5	(6.8)	(2.4)	190	-	-	-	Se	b		
415	H-16			-	-	-	22	-	-	-	F			
416	H-18	II	a	9.0	7.1	4.0	360	2	1	-	Se	b		
417	H-19	I	b	7.7	9.3	3.2	380	3.4	-	有	Se	a		
418	I-2	II	c	(14.2)	7.5	5.0	680	3	-	-	Se	b		
419	I-5	VI	a	10.9	7.9	3.5	480	2	-	-	Se	b		
420	I-5	VI	a	8.8	6.4	3.8	340	1	-	-	Se	b		
421	I-5	II	a	8.3	5.4	2.3	150	2	-	-	Se	b		
422	I-6	III	a	11.5	4.6	3.2	120	2	-	-	S	a		
423	I-7	II	a	7.8	6.1	3.2	220	3	-	-	Se	a		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
424	I-7	I	d	(9.4)	8.1	3.2	340	2	-	-	Ka	b		
425	I-7	II	d	(9.2)	6.5	3.8	340	2.4	5	-	Se	b		
426	I-7	II	b	(5.9)	5.0	3.6	175	2	-	-	S	c		
427	I-9	V	a	16.3	6.7	4.0	500	3	-	-	Se	b		
428	I-11	II	a	10.3	8.1	4.4	490	3	-	-	Se	b		
429	I-11	VI	a	6.1	7.2	2.6	180	3.4	-	-	Se	b		
430	I-11	II	a	5.3	4.5	2.7	80	3.4	-	-	Se	b		
431	I-14			(3.2)	(6.3)	(2.7)	80	3	-	-	Se	a		
432	I-15	II		(5.4)	(6.3)	(3.6)	190	3	-	-	Se	b		
433	I-15	II	a	7.8	5.6	3.3	200	2.4	-	-	Ka	b		
434	I-15	VI	a	8.1	6.2	4.1	280	2.4	-	-	S	c		
435	I-16	II	a	10.8	6.1	5.2	490	2	-	-	Se	b		
436	I-17	VI	a	9.3	6.8	4.1	360	2.4	-	-	Se	b		
437	I-17	VI	a	9.3	7.2	4.1	410	3.4	-	-	Se	b		
438	I-17	III		(7.2)	4.4	4.2	205	1.3	-	-	S	c		
439	I-17	II	b	(10.9)	(6.6)	(2.6)	300	1.3	-	-	Se	a		
440	I-17	II	b	(6.0)	6.6	3.9	300	3.4	1	-	Se	a		
441	I-19			(3.6)	(2.6)	(1.4)	20	2	-	-	Se			
442	J-2	VI	a	8.0	6.2	3.7	270	2	-	-	Se	b		
443	J-2	II	c	(9.0)	7.0	5.2	385	4	-	有	Se	b		
444	J-3			(5.5)	(8.5)	(2.8)	160	1.2	-	-	Se	a		被熱有
445	J-3	II	a	9.5	5.5	3.6	290	3.4	1.4	-	Se	b		
446	J-4	II	a	10.4	7.5	3.0	350	3.4	-	-	Se	b	PL122-174	
447	J-4	II	b	(4.2)	7.1	3.2	170	2	-	-	S	a		
448	J-4			(5.3)	(3.3)	2.2	60	3	-	-	Ka	a		
449	J-4	I		(1.9)	(9.1)	(1.8)	80	2	-	-	Ka	b		
450	J-4			(4.6)	(2.1)	2.6	40	2	-	-	Se	a		
451	J-4			(5.0)	(3.5)	(2.5)	60	3	-	-	Se	b		
452	J-5	I	b	(3.9)	7.2	3.7	160	3	1	-	Se	b		
453	J-5	VI	b	(6.2)	(10.3)	5.1	390	1.4	-	-	Ka	b		
454	J-5	II	b	(7.3)	6.8	4.0	300	1	3.6	-	Se	b		
455	J-6	VI	b	(4.6)	6.3	3.0	150	3.4	3	-	Se	a		
456	J-6			(1.5)	(4.2)	(2.8)	30	2.5	-	-	Se			
457	J-7	I		(3.4)	(6.9)	3.6	145	3	-	-	Se	a		
458	J-7	II	a	7.0	5.6	3.6	200	2	-	-	Se	b		
459	J-8	II	b	(8.0)	10.1	3.3	390	3.4	1	-	Se	b		
460	J-11	II	a	11.1	7.7	3.7	480	2	-	-	Ka	b		
461	J-11	II	d	(12.4)	(6.7)	4.4	550	3.5	1	-	S	b		
462	J-12	II	b	(5.8)	6.1	1.8	100	1	-	-	Ka	c		被熱有
463	J-13	II	a	8.5	7.1	4.0	380	2	-	-	Se	b		
464	J-14	V	a	10.1	6.0	3.9	380	2	-	-	S	b		
465	J-14	II	b	(4.8)	7.6	3.5	160	2	-	-	Se	b		
466	J-14	II	b	8.9	(5.3)	3.8	240	2	-	-	Se	b		
467	J-15	II	b	6.8	6.6	5.0	300	2	-	有	Se	b		
468	J-15			(10.7)	(5.9)	(2.4)	150	2	-	-	Se			
469	J-15	II		(9.5)	(5.5)	(2.0)	100	2	-	-	Se			
470	J-15	II	c	11.5	(6.0)	4.3	430	2	-	有	Se	b		
471	J-15			(3.0)	(4.2)	4.1	80	4	-	-	Se	b		
472	J-15	II	a	13.0	7.9	4.1	560	3	-	-	Se	b		
473	J-16	VIII	b	(6.4)	4.6	3.5	190	1.3	-	-	S	a		
474	J-16	VI	b	(7.1)	7.4	3.3	275	3.4	-	-	Se	a		
475	J-16	VI	a	6.3	5.4	3.0	140	1	-	-	Se	b		
476	J-16	IV	a	8.9	7.4	5.2	500	2	-	-	S	b		
477	J-16			(6.3)	(3.8)	3.6	130	1.3	-	-	Ka	a		
478	J-17	II	a	10.6	6.0	4.4	440	3	-	-	Se	b	PL122-173	
479	J-17	III	b	(7.2)	3.5	2.7	120	3.5	1	-	S	a		
480	J-17			(5.3)	(5.8)	(2.3)	120	2.4	-	-	S	a		
481	J-19			(2.1)	(4.4)	(3.7)	60	3	1	-	Se			
482	J-20			(4.4)	(5.0)	(2.1)	60	2	1	-	Se			
483	K-3	II	a	12.5	5.5	3.6	390	2	-	-	Ka	b		
484	K-3	V	b	(9.2)	(7.5)	4.8	540	3	-	-	S			
485	K-3			-	-	-	58	-	-	-	Ka			
486	K-4	II		(5.0)	7.8	4.1	172	3	-	-	Se	b		
487	K-4	-	-	(4.5)	7.3	4.0	200	3	-	-	Se	b		
488	K-4	-	-	-	-	-	72	-	-	-	Ka			
489	K-4	-	-	(7.2)	(5.4)	4.1	268	3	-	-	Ka			
490	K-4	II	c	(8.8)	8.0	4.2	410	1	3.5	-	Se	a		
491	K-4	II	a	14.2	12.0	4.1	980	1	1	-	Se	b		
492	K-4	II	a	9.1	7.1	3.4	300	3	-	-	Se	b		
493	K-4	II	d	(10.1)	9.6	3.4	530	3	1	-	Se	b		
494	K-5	II	b	(11.8)	(9.5)	6.0	815	3	-	-	Ka	b		被熱有

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
495	K-5	II	b	(7.8)	(8.8)	3.1	395	3	-	-	Se	b		
496	K-5			(9.7)	(4.1)	-	110	-	-	-	Ka			
497	K-6	II	d	(9.0)	7.7	4.3	420	2.4	3	-	Se	b		
498	K-6	II		(6.9)	7.3	4.9	340	3	-	-	Se	b		
499	K-7			(6.8)	8.0	4.0	297	3.4	-	-	Se	b		
500	K-7	II	a	7.0	4.9	2.6	140	3	-	-	Ka	b		
501	K-7	II	a	8.6	6.0	2.5	190	3	-	-	Ka	b		
502	K-7	II	a	10.2	7.6	3.4	370	1	-	-	Se	b		
503	K-8	II	b	(6.3)	6.8	2.7	180	3.4	-	-	S	b		
504	K-9			(7.4)	(9.2)	-	210	2	-	-	Ka			
505	K-10	II	a	12.1	8.0	4.7	720	3.4	-	-	S	b		
506	K-10	II	a	7.0	3.6	1.7	6.0	3	-	-	Se	b		
507	K-10			(2.1)	(4.7)	(2.5)	40	4	-	-	Se			
508	K-10			(1.2)	(2.4)	(2.7)	11	4	-	-	Se			
509	K-10			(4.5)	(4.1)	(3.0)	80	2	-	-	Se			
510	K-10	III	b	(7.1)	4.7	3.1	150	3	-	-	S			被熱有
511	K-11	I	b	(6.3)	(4.5)	2.3	110	2	-	-	A	a		
512	K-11	II	a	10.8	7.8	3.5	450	5	-	-	F	b		
513	K-12	II	b	(7.8)	7.2	3.0	270	3	-	-	Se	b		
514	K-13	II		(4.2)	(8.6)	4.1	245	3	-	-	Se	c		
515	K-14			(6.0)	(5.5)	(0.9)	40	2	-	-	Ka			
516	K-14	II	b	(10.5)	6.0	(4.5)	320	2	-	-	S			被熱有
517	K-15	II	a	9.6	8.0	3.7	480	2.4	-	-	Se	b		
518	K-17	II	b	9.5	5.5	3.3	170	3	6	-	S	b		
519	K-19	I	b	(6.0)	7.8	3.7	305	3	3	-	S	a		
520	K-20	II	b	(5.9)	4.1	1.3	48	2	-	-	S	b		
521	K-20	II	a	7.4	6.2	2.7	190	3	-	-	Se	b		
522	L-3	II	b	(4.3)	(6.9)	3.4	120	3	-	-	S	b		
523	L-3	II	b	(9.3)	8.5	3.0	300	2	1	-	A	b		
524	L-3	II	b	(8.0)	8.7	3.7	460	3	1	-	Se	b		
525	L-3			(4.8)	(5.2)	4.5	150	3	-	-	Se			
526	L-3			(4.2)	(7.4)	4.1	160	2	-	-	Se	b		
527	L-3	I	a	9.0	7.9	6.0	565	4	-	-	Se	b		
528	L-3	II	a	10.8	7.0	3.5	330	3.4	-	-	Se	b		
529	L-4	II	b	(6.1)	9.1	4.0	330	2	-	-	Se	b		
530	L-4			(6.2)	(2.6)	-	60	3	-	-	Se			
531	L-4			(4.0)	-	-	20	-	-	-	Se			
532	L-4	VI	a	5.6	5.6	2.0	100	1	-	-	Se	b		
533	L-5	II	b	(3.5)	(5.7)	2.5	60	3	-	-	Se	b		
534	L-5	II	b	(7.3)	(5.0)	(4.7)	150	3	-	-	Se	b		
535	L-5	II	b	(9.2)	7.9	4.4	430	3.4	1	-	Se	b		
536	L-6	II	a	13.0	7.9	3.3	540	1	-	-	Se	b		
537	L-6	II		(6.0)	7.4	4.6	300	2	-	-	S			
538	L-7	VI	b	(9.0)	9.3	3.8	480	3.4	-	-	Se	a		
539	L-7	II	b	(6.7)	(13.4)	3.3	350	3	1	-	Se	b		
540	L-7	II		(5.2)	5.5	3.1	110	2	-	-	S			
541	L-8			(7.1)	(4.8)	4.8	280	3	-	-	Ka	b		
542	L-8	I	a	9.7	8.6	4.0	500	3.4	-	-	Se	b		
543	L-11	II	c	(13.3)	7.5	3.8	510	1	-	-	Se	b		
544	L-11	II	a	9.3	5.7	2.3	180	3	1	-	Se	b		
545	L-11	II	b	(6.8)	(9.0)	4.1	350	3	-	-	Se			
546	L-11			(5.5)	-	-	40	2	-	-	Se			
547	L-11			-	-	-	30	2	-	-	Se			
548	L-11			(6.1)	-	-	70	2	-	-	Se			
549	L-11			-	-	-	20	2	-	-	Se			
550	L-13	II	c	13.6	(7.1)	3.0	380	1	-	-	Se	b		
551	L-14	II	b	(7.0)	6.1	3.6	180	3.4	-	-	Se	b		
552	L-14	II	b	(3.7)	(6.1)	(2.4)	60	2	-	-	Se	b		
553	L-14			(6.2)	(7.6)	(3.7)	210	2.4	-	-	Se			
554	L-15			(5.4)	(4.0)	(1.6)	38	2	-	-	Se			
555	L-17			(4.0)	(2.7)	(1.2)	20	2	-	-	Ka			
556	L-17	II	b	(7.4)	(4.4)	4.2	260	2.4	3	-	Se	a		
557	L-19	II	a	6.3	4.5	3.1	110	2	-	-	Se	c		
558	L-21	II	b	(6.4)	(6.2)	4.2	230	3.4	-	-	Se	b		
559	L-28	II	b	(6.2)	(9.8)	(3.5)	170	2	-	-	Se	b		
560	M-3	I	a	9.7	9.0	4.7	550	3	-	-	Se	b		
561	M-3	II	a	11.6	7.5	3.1	400	2	-	-	Se	b		
562	M-3			(6.4)	(3.3)	3.2	83	-	-	-	Se			
563	M-3			-	-	-	9	-	-	-	Se			
564	M-4			-	-	-	89	-	-	-	Ka			
565	M-4	II	a	11.8	7.0	4.0	495	2	-	-	Se	b		被熱有

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
566	M-4	II	a	9.9	8.1	4.9	550	2	3	-	Se	b		
567	M-4	VI	a	8.8	7.0	4.2	380	2	3	-	Ka	b		
568	M-5	II	b	(7.5)	4.9	3.3	160	2	-	-	S	b		
569	M-6			(5.3)	(7.5)	2.9	140	3	-	-	Se			
570	M-7			(3.0)	(5.3)	(1.3)	20	-	-	-	Se			
571	M-7	VI	a	8.2	5.3	3.5	250	1	-	-	Ka	b		
572	M-8	II	a	10.5	8.2	4.2	470	2	3	-	Se	b		
573	M-8			(11.0)	8.3	2.9	310	1	-	-	S	a		
574	M-8			(4.8)	(5.0)	3.1	90	3	3	-	Ka			
575	M-8			-	-	-	110	-	-	-	Se			
576	M-9			(4.2)	(6.6)	3.9	90	-	-	-	Se			
577	M-9	II		(4.9)	(6.8)	4.0	200	2	1	-	Se			
578	M-10	II		(6.9)	7.2	4.0	180	2	3	-	Se			
579	M-10			(5.2)	6.1	5.4	360	6	3	-	S			
580	M-11			-	-	-	70	-	-	-	S			
581	M-11	II	a	10.4	9.1	3.3	450	3	-	-	Se	b		
582	M-12			(3.6)	(3.9)	(3.2)	70	-	-	-	Se			
583	M-12	V	a	10.5	8.4	4.5	600	3.4	-	-	Se	b		
584	M-13	II	a	6.8	5.9	3.4	200	3	-	-	Ka	b		
585	M-13			(4.3)	(3.4)	-	90	-	-	-	Se			
586	M-13			(5.6)	(5.0)	4.7	200	2	-	-	Ka			
587	M-13	II	b	(5.2)	7.5	4.3	270	3	3.5	-	S			
588	M-14	II	a	10.4	7.5	3.5	370	3	-	-	Ka	b		
589	M-14	V	a	9.7	7.4	3.9	440	3.4	-	-	Ka	b		
590	M-14	V	c	(9.0)	6.1	3.7	300	3.4	-	-	S	b		
591	M-14			-	-	2.8	50	3	-	-	Se			
592	M-14	II		(5.0)	7.5	4.0	210	-	4.6	-	Se			
593	M-15			(5.0)	5.8	2.9	180	2.4	-	-	S			
594	M-15			(1.9)	(6.0)	(2.6)	40	-	-	-	Se			
595	M-15	I	a	7.0	6.1	3.7	220	2	-	-	S	b		
596	M-15	IV	a	8.0	8.4	4.6	530	1	-	-	Se	a		
597	M-16	II	d	6.5	(5.4)	2.4	120	3	1.3	-	Se	b		
598	M-16	II		(5.0)	(7.2)	(3.9)	170	4.2	-	-	Se			
599	M-17			(5.0)	(9.9)	3.8	240	6	3.5	-	Se			
600	M-17	II		(8.9)	10.1	5.6	610	3	5	-	Se			
601	M-17	VI	a	7.8	10.9	4.4	530	1	-	-	Ka	b		
602	M-19			(3.0)	(5.0)	3.6	50	-	-	-	Se			
603	M-19			(6.8)	(7.9)	7.7	435	2	-	有	Se			
604	M-20	III	a	11.2	3.9	3.7	250	1	-	-	F	b		
605	M-21	II		(6.0)	(7.4)	3.6	280	3	-	-	Se			
606	N-3	II	b	(11.0)	(3.5)	3.3	180	3	-	-	Se	b		
607	N-4	II	a	10.5	7.3	3.9	360	3	6	有	Ka	b		
608	N-4	II	b	(8.8)	8.7	3.3	390	3	-	-	Ka	a		
609	N-5	II	a	9.0	8.1	3.5	400	1	-	有	Ka	b		
610	N-5	II	a	13.1	8.1	5.2	740	1	-	-	Ka	b		
611	N-5	II	c	(8.6)	7.1	4.2	330	3	5	-	Ka	b		
612	N-6			-	-	-	25	-	-	-	Se	-		
613	N-7	II	b	(5.9)	5.8	4.0	210	1	1	-	S	b		
614	N-7	II	b	(7.0)	5.2	3.1	190	3	5	-	S	b		
615	N-7			(8.2)	(3.7)	3.7	130	3	3.5	-	Se	b		
616	N-7	I	a	8.6	8.6	2.3	230	2	-	-	S	b		
617	N-7	II	a	8.6	7.4	3.1	310	2	-	-	Ka	b		
618	N-8			(2.7)	(4.1)	(5.1)	70	2	1	-	R			
619	N-8			(3.8)	6.4	2.6	100	3	1.4,5	-	Se	b		
620	N-8			-	-	-	20	-	-	-	Se	-		
621	N-8	II	a	6.5	5.9	2.3	140	2	-	-	Ka	b		
622	N-8	VI	a	7.7	9.0	3.7	360	1	-	-	S	b		
623	N-8	II	a	7.3	10.4	4.0	440	3.4	-	-	Ka	b		
624	N-8	II	a	8.0	6.2	4.1	250	1	-	-	Ka	b		
625	N-9	II	a	9.0	6.1	4.3	350	2	1.5	有	Ka	b		
626	N-9	II	a	6.9	5.8	3.3	170	3	-	-	Ka	b		
627	N-9	VI	a	7.5	8.6	3.8	350	3	-	-	Ka	b		
628	N-9	II	c	(8.1)	8.0	5.0	450	3	-	-	Se	b		
629	N-9			(5.3)	9.6	5.6	310	3.4	1	-	Ka	b		
630	N-9	II	c	(10.1)	7.4	3.3	280	3	1	-	Se	b		
631	N-9			(7.4)	(7.1)	(2.3)	145	2	-	-	Se			
632	N-9			(4.0)	(5.8)	(1.6)	50	2	-	-	Se			
633	N-9			(4.0)	(4.4)	(2.1)	60	3	-	-	S			
634	N-9	III		(5.7)	3.7	2.6	105	3.4	-	-	S	b		
635	N-10	II	b	(6.2)	7.4	3.2	250	3	-	-	Se	a		
636	N-10			-	-	3.1	110	3	-	-	Se	-		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
637	N-10			-	-	3.2	70	-	-	-	Ka	-		
638	N-10			-	-	5.6	140	-	-	-	Ka	-		
639	N-11	II	a	9.6	8.5	2.6	300	3	-	有	Ka	b		被熱有
640	N-11	II		(7.0)	(5.0)	3.4	110	3	-	有	Ka	b		
641	N-11	II		(8.0)	(6.4)	3.1	260	3	-	-	Ka	b		
642	N-11			(4.5)	7.6	3.3	180	3	1	-	Ka	a		
643	N-13	I	b	(4.9)	10.0	3.3	255	2	-	-	Se	a		
644	N-13			(4.3)	(4.4)	2.5	75	3	-	-	Ka	a		
645	N-13	VI	b	6.3	(6.7)	2.5	150	3.4	-	-	S	c		
646	N-14	II	b	(6.0)	6.2	3.2	220	4.5	-	-	Se	b		
647	N-15	II	b	(4.2)	5.1	3.1	100	3	1	-	Ka	b		
648	N-15	II	b	(9.1)	7.7	(2.5)	240	2.5	-	-	Se	a		
649	N-15	II	b	(7.2)	7.0	3.4	295	3.5	-	-	Se	a		
650	N-15	VI	a	7.6	8.2	3.5	315	1	-	-	S	b		
651	N-15	II	a	9.6	8.2	3.9	460	3	2	-	Se	b		
652	N-16	VI	b	(5.6)	9.1	3.6	245	3	2	-	Se	a		
653	N-16			-	-	-	54	-	-	-	Se			
654	N-16			(4.0)	6.1	3.0	110	3	1.5	-	Ka	b		
655	N-16			(4.5)	6.0	3.9	190	3	5	-	Ka	b		
656	N-16			(4.8)	(6.3)	(3.8)	185	-	-	-	Ka			
657	N-19	II	a	7.2	4.0	1.4	70	3	3	-	Ka	b		
658	N-20			(5.0)	(4.0)	(1.5)	50	2	-	-	Ka			
659	O-3	I	a	9.0	8.2	3.6	350	3	-	-	Se	b		
660	O-4	II	a	7.6	4.9	3.6	200	3	-	-	Ka	b		
661	O-4	II	a	11.0	7.9	4.5	600	3.4	-	-	Se	b		被熱有
662	O-4			(7.6)	(6.1)	(2.6)	205	4	-	-	Ka			
663	O-5	V	b	(8.6)	(7.6)	4.6	555	2	-	-	S	a		
664	O-5	II	a	8.3	6.1	3.0	230	3	-	-	Se	b		
665	O-5	II	b	(7.5)	9.5	2.5	260	2	3	-	Se	b		
666	O-5	II	b	(4.7)	(7.0)	(2.1)	100	3	-	-	Se	b		
667	O-6	II	a	10.4	7.2	3.5	400	1	-	-	Se	b		
668	O-6			(6.7)	(5.1)	2.9	150	2.4	-	-	Se	a		
669	O-6	I	b	(4.8)	7.9	2.6	180	3	-	-	Se	a		
670	O-6	II	b	(8.0)	8.1	3.4	300	2	1.5	-	Se	b		
671	O-6			(5.5)	(4.0)	(4.6)	140	2.4	-	-	F			
672	O-8	II	a	9.2	7.2	4.0	380	3.4	-	-	Se	b		
673	O-8	II	a	9.5	3.9	1.5	80	2	-	-	S	b		
674	O-8	II	b	(6.7)	6.4	(2.9)	175	3	-	-	S	b		
675	O-8			(4.2)	(5.8)	(3.6)	110	3	-	-	Se	a		
676	O-9	I	b	(3.6)	(8.4)	3.6	160	3	-	-	Se	b		
677	O-9	I	b	10.9	(5.3)	3.4	295	3	-	-	S	a		
678	O-9	II	b	(6.6)	7.3	2.1	170	3	-	-	R	a		
679	O-9	I	b	(5.1)	9.9	3.5	270	2	5	-	Se	b		
680	O-10	II	a	14.4	6.9	1.6	250	3	-	-	RS	b		
681	O-10	II	b	(5.3)	8.0	3.0	215	2	3	-	Se	b		
682	O-10	I	b	(3.2)	7.6	3.5	150	3.4	-	-	Se	a		
683	O-10	VI	b	(8.6)	(4.1)	(3.3)	170	3	-	-	Se	b		
684	O-10			(4.3)	(1.5)	(3.1)	3.0	4	-	-	Se			
685	O-11	II	b	(6.6)	6.3	3.2	165	3	-	-	S	b		
686	O-11	I	b	(6.5)	(7.8)	1.2	72	3	5	-	S	a		
687	O-11	II	a	13.3	10.2	4.2	810	2	-	-	S	b		
688	O-12	II	a	14.2	5.8	4.0	390	1	-	-	S	b		
689	O-12	I	b	(4.5)	6.9	3.8	195	3	-	-	Se	b		
690	O-13	I	b	(8.4)	(3.9)	(1.7)	80	5	-	-	Se	a		
691	O-14	II		(2.7)	(5.0)	(2.4)	50	3	-	-	Se	b		
692	O-15	I	b	(9.7)	(3.9)	3.6	200	3	-	-	Se	b		
693	O-16	I	a	8.8	8.7	3.6	420	3.4	-	-	Ka	b		
694	O-20	II	b	(5.1)	(6.5)	4.0	210	3	1.3	-	Se	b		
695	P-3	II	b	(7.2)	7.6	3.3	250	3	-	-	Se	b		
696	P-3	II	b	(7.5)	8.6	2.9	360	2	-	-	Se	a		
697	P-3			(2.9)	(3.0)	2.2	30	1.3	-	-	Se			
698	P-4			(5.1)	(3.8)	5.1	103	1.3	6	-	S	b		
699	P-4			(7.1)	(6.0)	3.1	180	3	-	-	Se	a		
700	P-4	I	b	8.0	7.6	(3.1)	270	2.4	-	-	Se			
701	P-4			(4.5)	(3.8)	2.5	50	3	-	-	Se			
702	P-5	II	b	(8.5)	6.9	3.6	300	3	-	-	Se	a		
703	P-5	I	a	9.1	8.9	4.3	450	3	-	-	Ka	b		
704	P-5	II	a	10.3	7.5	3.1	380	3	-	-	Ka	b		
705	P-5	II	a	8.8	8.1	4.5	440	3	-	-	Se	b		
706	P-6			(5.0)	(3.3)	(3.1)	60	3	-	-	Se			
707	P-6			(4.2)	(3.3)	(1.7)	25	2	-	-	Se			

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
708	P-7	II	b	(9.0)	8.3	5.0	590	2	-	-	Se	a		
709	P-7	II	b	(7.2)	7.0	3.5	315	3	3	-	Se	b		
710	P-8	VI	b	(5.7)	8.3	35	275	2	-	-	Se	a		
711	P-8			(5.5)	3.1	(2.0)	40	2	-	-	Se			
712	P-8			(4.4)	(3.2)	3.1	72	3	-	-	Se			
713	P-10	I	a	8.6	9.0	3.8	430	3	-	-	S	b		
714	P-10	II	c	(7.5)	5.2	(4.2)	230	2.4	-	-	Se	b		
715	P-11	II	b	(10.5)	9.2	(4.5)	580	2.4	-	-	Se	b		
716	P-13			(1.4)	(3.3)	(3.0)	25	2	-	-	Ka			
717	Q-4			(2.2)	(6.0)	(3.0)	62	3	1	-	Se			
718	Q-5	I	a	9.2	8.3	4.2	440	1	-	-	Se	c		
719	Q-5			(10.2)	(3.6)	2.6	200	2.5	-	-	F	a		
720	Q-5	II	b	(5.6)	(6.9)	3.0	210	3.5	-	-	Se	a		
721	Q-5	III		(3.8)	3.7	2.1	50	3.5	-	-	Se	a		
722	Q-5	II	b	(6.7)	8.1	3.7	270	3.4	1	-	Se	b		
723	Q-5	I	b	(5.9)	9.5	2.2	220	3.5	-	-	S	a		
724	Q-5	VI	b	(6.6)	(9.1)	2.4	240	3.5	1	-	Se	a		
725	Q-5	V	d	10.8	7.5	7.0	970	1.3	-	-	S	b		
726	Q-6	VI	b	(5.9)	(7.5)	2.6	235	4	-	-	S	a		
727	Q-6	V	b	(8.1)	6.5	2.5	230	1	-	-	Se	a		
728	Q-6			(5.6)	(5.3)	(1.5)	45	2	5	-	Se			
729	Q-7	II	a	11.6	7.2	4.3	480	3	-	-	Ka	b		
730	Q-7			(6.5)	(4.9)	3.4	170	3	-	-	Se	a		
731	Q-8	II	a	12.3	7.8	4.5	630	3	-	-	S	b		
732	Q-8			(7.1)	(6.6)	(5.9)	368	3.4	-	-	Se	b		
733	Q-8			(7.0)	(6.3)	(2.8)	210	2.4	-	-	Se			
734	Q-9			(4.0)	(4.0)	(2.0)	45	2	-	-	Se			
735	Q-9			(5.7)	(5.9)	3.7	152	3	-	-	Se	a		
736	Q-9			(3.9)	(7.2)	3.1	125	3	1	-	Se	b		
737	Q-9	II	a	10.7	8.0	4.5	581	2.4	-	-	Se	b		
738	Q-10	I	a	6.2	5.8	1.7	70	3	-	-	S	a		
739	Q-10	II	a	11.0	6.2	3.8	362	3	-	-	Se	b		
740	Q-11			(7.8)	(5.7)	(2.4)	155	2.4	-	-	Se			
741	Q-14	II	b	(10.0)	8.8	3.3	400	1	3.5	-	Se	b		
742	R-2	II	b	(7.5)	(11.5)	6.3	500	2.4	-	-	Se	b		
743	R-3	II	b	(7.5)	7.1	3.5	240	2	3	-	Se	b		
744	R-3	VI	a	10.6	7.2	3.6	405	1	-	-	Ka	b		
745	R-3	VI	a	8.0	7.3	4.9	400	1	-	-	S	b		
746	R-4	II	b	(7.0)	(5.9)	(3.8)	130	3.4	3	-	Se	b		
747	R-4			(6.6)	(6.3)	(2.6)	140	-	-	-	Se			
748	R-4	II	d	12.5	8.6	6.3	840	3.4	3	-	Ka	b		
749	R-4	VI	a	7.0	8.9	4.0	380	1	-	-	Ka	b		
750	R-5	II	a	12.1	7.4	4.8	610	3.4	-	-	Se	b		
751	R-5	II	a	9.3	7.3	5.0	425	3.4	-	-	S	b		
752	R-5	VI	a	9.8	7.2	4.6	440	1	-	-	Ka	b		
753	R-5	II	b	(7.5)	(7.7)	3.5	250	3	-	-	Se	b		
754	R-5			(4.8)	(5.7)	4.2	120	3	-	-	Se	b		
755	R-5	II	b	(6.2)	7.5	3.6	230	3	-	-	Se	b		
756	R-5			(10.5)	(3.8)	5.0	250	1	-	-	Se			
757	R-5	II	a	9.8	6.6	1.8	190	3	-	-	Se	b		
758	R-6	I	a	4.8	4.7	4.0	115	3.4	-	-	S	b	PL122-165	
759	R-6	II	a	12.6	9.3	5.1	950	2.4	-	-	Se	b		
760	R-6	II	a	16.0	8.8	5.2	1015	3.4	-	-	S	b		
761	R-6	II	b	(7.2)	8.3	5.2	440	3.4	1	-	S	b		
762	R-6			(6.4)	(2.8)	(3.8)	120	3	-	-	Ka	b		
763	R-6	II	a	13.0	9.4	5.0	800	3.4	-	-	S	b		
764	R-6	II	a	14.4	7.9	4.5	850	3.4	-	-	Se	b		
765	R-7	II	b	(7.6)	(10.6)	4.4	310	3	-	-	Se	b		
766	R-8			(8.4)	(7.9)	-	120	-	-	-	Se	b		
767	R-8			(5.2)	(6.9)	-	90	-	-	-	Se	b		
768	R-8	II	b	(4.8)	6.1	3.0	110	2	-	-	Se	b		
769	R-9	II	b	(5.1)	7.0	2.8	160	3	3	-	Se	b		
770	R-10	II	c	(9.2)	7.8	4.6	490	1	-	-	Se	b		
771	R-10	II	c	(9.2)	7.8	4.6	490	1	-	-	Se	b		
772	R-10	II	a	19.1	8.8	5.5	1460	1	-	-	Se	c		
773	R-10	V	a	10.0	7.9	3.6	490	3.4	6	-	Se	a		
774	R-11	II	a	11.9	7.2	5.8	555	3.4	3	-	S	b	PL122-166	特殊磨石
775	R-11	II	a	13.3	7.6	3.8	490	3	-	-	Ka	b		
776	R-14	II	a	12.3	7.0	1.2	220	3	-	-	S	b		
777	R-14	II	b	(8.2)	12.7	5.7	700	2.4	3	-	Se	b		
778	R-16	II	a	6.1	4.1	2.8	90	3	-	-	S	b	PL122-164	

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
779	R-16			(7.7)	4.5	1.8	100	3.4	-	-	S	b		被熱有
780	S-2			(6.9)	(4.0)	(3.2)	140	2	-	-	Se			
781	S-3	VI		(4.5)	(7.7)	(3.6)	190	3	-	-	Se	b		
782	S-4	II	b	(8.2)	7.9	4.4	350	3	-	-	Se	b		
783	S-4	I	b	(5.5)	6.8	(1.3)	100	2.5	-	-	Se	a		
784	S-5	II	a	10.2	7.5	3.8	455	1	-	-	Ka	b		
785	S-5	I	d	7.8	7.6	2.6	225	3	3	-	Ka	b		
786	S-7	VI	b	8.4	(6.0)	3.0	245	3	-	-	Se	a		
787	S-8			(3.1)	(7.2)	(3.1)	90	2	1	-	Ka			
788	S-8			(5.1)	(4.9)	(3.1)	110	4	-	-	Se			
789	S-8	II	a	6.5	4.9	2.5	105	3.4	-	-	Ka	b		
790	S-9	II	b	(4.7)	(7.1)	(4.1)	220	3.4	-	-	Se	b		
791	S-9	II		(5.0)	(5.1)	(3.8)	145	3.5	-	-	Se	c		
792	S-9			(4.5)	(7.2)	(2.2)	100	2	-	-	Se			
793	S-9			(8.9)	(6.5)	(6.8)	402	2	-	-	Ka			
794	S-10	II	a	8.9	6.3	2.8	230	3	-	-	Ka	b		
795	S-11	II	b	(6.7)	6.1	3.6	265	3.4	1	-	Se	a		
796	S-11			(3.4)	(4.9)	(3.8)	102	2	1	-	Se			
797	S-11	II	b	(5.5)	6.1	3.5	190	3.4	-	-	Se	a		
798	S-11			(5.0)	(2.8)	(1.6)	40	4	-	-	Se			
799	S-11			(4.5)	(4.3)	(1.8)	45	2	-	-	Se			
800	S-11	II	a	6.3	5.3	1.1	63	3	-	有	S			
801	S-12			(4.3)	(4.0)	(1.3)	40	3	-	-	Se			被熱有
802	S-12			(4.0)	(6.4)	(3.1)	100	2	1	-	Se			
803	S-13			(4.6)	(7.1)	(2.1)	70	2	-	-	S	a		
804	S-15			(2.9)	(7.0)	(4.7)	140	3.4	-	-	Se			
805	S-15	I	b	8.5	8.1	(1.4)	135	2	-	-	Se	b		
806	T-4	I	d	(9.2)	8.0	3.9	400	3	1	-	Se	b		
807	T-5	II	a	9.6	4.5	2.8	170	2.4	-	-	Ka	b		
808	T-6	II	d	(7.3)	(10.0)	2.7	330	3	3	-	Ka	a		
809	T-7	I	b	(4.3)	(5.7)	3.9	140	3	1	-	Ka	a		
810	T-7	VI	d	7.2	5.8	4.2	200	1	1	-	S	c		
811	T-8	II		(8.1)	5.2	3.9	210	3	-	-	Ka	b		
812	T-8	I	a	7.7	7.0	2.5	200	2	-	-	Ka	b		
813	T-8	VI	a	6.1	4.8	1.8	60	2	-	-	Ka	b		
814	T-9	VI	a	5.6	4.6	2.0	70	3	-	-	Se	b		
815	T-9	II	a	5.6	4.0	1.9	60	2	-	-	S	b		
816	T-9	II	d	10.5	7.1	4.1	370	2.4	2	-	Se	b		
817	T-9			(7.6)	(6.7)	(3.0)	150	3.4	-	-	Se	a		
818	T-9	II	b	(4.5)	(4.9)	2.5	92	3.4	-	-	Se	a		
819	T-9	VI	b	(6.1)	(6.2)	2.5	170	3.4	-	-	Se	a		
820	T-11	II	a	9.2	7.0	3.8	340	1	1.3	-	S	b		
821	T-11	VI	a	11.6	8.8	4.4	570	3.4	-	-	Ka	b		
822	T-11			-	-	3.7	135	2	-	-	Se			
823	T-11			(4.6)	(3.2)	(4.3)	110	2	-	-	Se			
824	T-12	VI	a	10.2	8.4	3.8	400	3.4	-	-	Se	b		
825	T-12	I	a	6.3	6.0	1.3	80	3	-	-	F	a		
826	T-12	II	b	(4.6)	6.2	2.8	130	3	1	-	Se	a		
827	T-13	I	b	(5.4)	(9.3)	(3.5)	195	3	1	-	Se	b		
828	T-13	II		(7.6)	(8.0)	5.0	270	3	1	-	Se	b		
829	U-1			(6.2)	(3.7)	5.2	140	2	3	-	Se			
830	U-1	I	a	9.2	8.2	4.8	540	3	1.3	-	Se	b		
831	U-2	I	b	(4.0)	7.7	2.7	135	1.3	-	-	Se	a		
832	U-2			(3.3)	(4.9)	(1.6)	45	3.4	-	-	Ka			
833	U-2	II	b	(10.5)	9.8	5.9	790	2	-	-	Se	b		
834	U-2	II	a	11.9	7.9	2.5	290	3	-	-	S	b		
835	U-4	II		(5.8)	(7.0)	3.3	200	3	-	-	Se			
836	U-5			-	-	-	2	-	-	-	Ka			
837	U-6	III	b	(5.9)	3.9	2.0	75	3	-	-	S	a		
838	U-6	II	d	11.7	9.6	3.3	500	3	1	-	Ka	b		
839	U-6	VI	a	12.6	9.0	3.6	560	3.4	-	-	Se	b		
840	U-7	VI	b	8.3	(4.3)	2.7	180	3.4	-	-	Se	a		
841	U-7	VI	b	8.0	9.5	(2.0)	280	3.4	-	-	Se	a		
842	U-7			(3.6)	(3.5)	(1.4)	30	2	-	-	Ka			
843	U-8	II	b	(5.5)	6.6	3.9	210	1.3	-	-	Se	b		
844	U-8			(5.5)	(2.9)	(2.4)	50	3	-	-	Se			
845	U-8			(4.7)	(4.7)	(2.6)	90	2	-	-	Se			
846	U-8	II	a	12.1	8.7	5.1	810	2	-	-	Ka	b		
847	U-9	II	a	10.9	7.7	3.5	410	3	1	-	Se	b		
848	U-9	II	a	10.4	6.9	3.5	400	3.4	-	-	Ka	b		
849	U-9	VI	a	9.7	8.7	4.9	500	1	-	-	Ka	b		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
850	U-9	II	a	9.7	4.7	2.6	180	3	-	-	Se	b		
851	U-9	II	d	9.2	8.6	3.6	400	3	3	-	Ka	b		被熱有
852	U-9			(4.5)	(7.8)	4.2	210	3	-	-	Se			
853	U-9	II		(5.4)	(4.9)	3.7	140	2	3	-	Se			
854	U-9			(5.7)	(5.0)	3.9	120	2	3	-	Se			
855	U-9			(4.2)	(7.3)	-	70	2	-	-	Se			
856	U-10	II		(4.8)	(6.3)	4.4	190	3.4	-	-	Se	b		
857	U-10	II	a	14.5	9.9	4.7	900	2.5	-	-	Ka	b		
858	U-10	II	a	11.0	5.5	4.3	320	1	-	-	S	b		
859	U-10	II	a	10.7	5.7	2.7	230	3.4	-	-	S	b		
860	U-11	II		(8.1)	(4.7)	3.7	265	3	-	-	Se	a		
861	U-12	II	a	5.9	3.8	0.7	20	3	-	-	S	c		
862	U-12	II	a	12.7	6.3	1.5	190	1	-	-	S	c		
863	U-12			(5.3)	(5.8)	3.8	90	3	-	-	Se			
864	U-14			(7.3)	7.1	4.5	290	4	1,3.5	-	S			
865	U-14			-	-	-	40	-	-	-	Se			
866	U-14	II		(12.3)	(4.3)	3.5	300	3	3	有	S			
867	U-14			(4.6)	(3.8)	-	80	3	-	-	S			
868	U-14	II	b	(5.5)	4.8	3.5	155	3	-	有	S			
869	U-14	II		(4.3)	8.3	3.8	180	3	-	-	Se			
870	U-14	II	b	(7.0)	(5.8)	3.5	200	3	-	-	S	b		被熱有
871	U-15	I	a	9.5	6.7	3.7	350	1	-	-	Se	b		
872	U-15	II	d	10.7	(8.6)	3.9	591	3	3	-	Se	b		
873	U-15	II	b	(8.3)	7.3	4.5	380	1	-	-	Se	b		
874	V-1			(5.5)	9.5	3.4	300	1	-	-	Ka			
875	V-2			-	-	-	30	-	-	-	Ka			
876	V-2			-	-	-	50	-	-	-	Ka			
877	V-3	II	b	(7.3)	6.2	2.2	150	3.4	-	-	Se	a		
878	V-3	II	d	(10.4)	5.6	3.5	260	3.4	1.5	-	S	c		被熱有
879	V-3	II	b	(7.4)	6.3	2.1	150	3.4	5	-	Se	b		
880	V-4	II	a	10.2	5.2	3.0	250	1	-	-	Ka	b		
881	V-4	II		(5.0)	5.5	3.6	100	3	5	-	Ka	b		
882	V-4			-	-	3.2	80	3	-	-	Se	b		
883	V-5			-	-	-	50	2	-	-	Se			
884	V-5			(3.7)	(4.7)	-	90	1	-	-	Se			
885	V-5	II	a	9.7	8.0	5.1	600	3.4	-	-	Ka	b		
886	V-5	II	a	11.9	7.7	4.5	550	3.4	-	-	S	c		
887	V-5	II	a	9.2	6.4	3.5	330	1	-	-	Ka	b		
888	V-5	II	a	5.4	4.0	3.7	110	2	-	-	S	b		被熱有
889	V-6			(4.3)	(7.5)	5.3	180	1	-	-	Ka			
890	V-8			-	-	2.7	90	3	-	-	Se			
891	V-8			(5.2)	5.9	3.4	140	3	-	-	Se	b		
892	V-8			(6.5)	(5.0)	3.1	170	3	3.5	-	Se	b		
893	V-9			(8.5)	(7.4)	4.3	430	3.4	5	-	Se	b		
894	V-9	II	c	(13.0)	7.3	6.7	630	4	3	-	Ka	b		
895	V-9	II	b	(10.8)	(5.0)	4.0	280	3.4	1	-	Se	b		
896	V-9	II	a	9.5	5.8	3.1	250	1	-	-	Ka	b		
897	V-9	I	a	7.5	7.2	3.8	320	3.4	-	-	S	b		
898	V-9	I	a	10.1	8.9	5.2	600	3	-	-	S	b		
899	V-9	I	d	12.6	10.4	4.5	770	3.4	3	-	S	b		
900	V-9	II	a	9.6	7.2	4.1	440	3	-	-	Ka	b		
901	V-9			-	-	-	340	-	-	-	Ka			
902	V-9			(6.0)	(4.0)	2.9	90	1	-	-	Ka	a		被熱有
903	V-10	II	b	(9.7)	9.3	3.8	480	1	-	-	Se	a		
904	V-10			(4.7)	6.4	3.6	150	3	1	-	Se	b		
905	V-10	II	a	11.7	7.0	5.1	630	1	-	-	Ka	b		
906	V-10	VI	a	9.5	8.2	3.4	360	1	-	-	Ka	b		
907	V-11			(5.0)	(4.3)	3.1	70	3	-	-	Se			
908	V-12	II	a	9.6	7.0	3.1	340	3	-	-	Se	b		
909	V-12	VI	a	7.2	8.0	1.2	100	3	2.4	-	S	b		
910	V-12	II	c	7.5	3.9	1.9	70	1	-	-	Ka	a		
911	V-12			(3.6)	4.0	2.3	45	3.4	-	-	Ka	a		
912	V-13		b	(5.9)	8.9	4.9	510	3	1.3	-	S	b		
913	V-13			(2.4)	(7.4)	1.9	70	3	-	-	Se			
914	V-13	II	a	7.0	5.0	2.0	100	3.4	-	-	Ka	b		
915	V-14	II	d	(9.9)	9.3	3.8	478	1	-	-	Se	b		
916	V-16	I	c	9.5	(8.2)	3.8	370	3	3	-	Se	b		
917	W-6			(7.8)	(6.4)	(4.9)	420	3	-	-	Se	b		
918	W-6			(5.9)	(3.6)	(1.6)	42	2	-	-	Se			
919	W-7	VI	b	(5.6)	8.8	(3.4)	270	3.4	-	-	Ka	a		
920	W-7			(3.2)	(6.0)	(2.5)	70	3.4	-	-	Se	b		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
921	W-9	II	b	(8.4)	10.3	5.3	810	3.4	-	-	Se	b		
922	W-10	III		(4.8)	4.5	2.2	90	3.5	-	-	S	a		
923	W-10			(2.2)	(4.2)	(0.7)	12	2	-	-	Se	a		
924	W-10	II	b	(6.4)	6.3	3.3	220	3.4	-	-	Se	b		
925	W-10	II	a	9.5	7.3	4.0	355	2	-	-	Se	b		
926	W-11	II	b	(3.6)	(7.1)	(2.9)	115	3.4	-	-	Se	b		
927	W-11	II	b	(4.1)	(6.7)	3.2	140	3.5	-	-	Se	b		
928	W-13	II	a	7.6	6.3	5.2	330	1	5	-	Ka	b		
929	W-13	II	a	13.5	7.6	5.1	790	2.4	-	-	Se	b		
930	W-13	II	b	(6.1)	(7.3)	3.8	230	3.4	-	有	Se	b		
931	W-16			(3.0)	(5.1)	(3.8)	70	3	-	-	Se			
932	X-6	II	b	10.3	(9.0)	4.7	540	-	-	-	S			
933	X-15			(6.6)	(3.0)	2.3	86	2	-	-	Se			
934	Y-3	I	b	(5.2)	(5.9)	(2.8)	130	2	1	-	Se	b		
935	Y-3	II	b	(7.7)	9.9	3.8	350	2	1.3	-	Se	b		
936	Y-3			-	-	-	10	-	-	-	Se			
937	Y-4			-	-	-	24	-	-	-	Se			
938	Y-5			-	-	-	170	-	-	-	Se			被熱有
939	Y-5	II		(6.7)	7.5	3.5	240	3	1	-	Se	b		
940	Y-5	II	b	(11.2)	8.5	4.0	690	2	-	-	Se	b		
941	Y-5	II	b	(6.1)	5.8	3.1	150	1	-	-	S	b		
942	Z-3			(6.9)	(4.4)	3.3	-	1	-	-	S			
943	Z-3	II	b	(11.8)	(10.6)	3.4	460	2	3	-	Se	b		
944	Z-3	II	a	9.8	8.6	2.3	300	2	3	-	S	b		
945	Z-3			-	-	-	70	-	-	-	Se			
946	Z-3			(10.9)	(4.5)	4.2	-	1	-	-	F			
947	Z-3			(10.5)	(4.5)	4.0	-	1	-	-	S			
948	Z-4	II	b	(9.2)	9.5	3.0	410	2	-	-	Se	b		
949	Z-4	I	b	(7.6)	(5.2)	(2.6)	170	2	-	-	Se			
950	Z-4			-	-	-	12	-	-	-	Se			
951	Z-4			(6.9)	(4.7)	-	-	1	-	-	Ka			
952	Z-4	II	a	11.2	8.6	6.3	870	5	-	-	Se	b		
953	Z-4	II	b	(7.0)	4.6	3.0	130	1	-	-	S	b		
954	Z-4			(6.6)	(3.6)	2.8	110	3	-	-	RS			
955	Z-4			(3.7)	(8.3)	4.7	180	2	-	-	Se	b		
956	Z-4			(7.1)	(4.2)	1.7	70	1	-	-	Ka	c		
957	Z-4			-	-	-	13	-	-	-	Se			
958	Z-4	I	b	-	-	2.2	100	-	-	-	Se			
959	Z-5			(7.8)	(8.5)	-	-	1	-	-	Ka			
960	Z-5	II	a	7.6	5.8	3.1	210	3	-	-	Se	b		
961	Z-5	VI	a	10.2	8.6	5.4	600	2	-	-	Se	b		
962	Z-5			-	-	3.4	51	-	-	-	Se			
963	Z-6	VI	a	6.5	5.5	3.5	180	1.3	-	-	C	b		
964	Z-6	II	a	7.7	5.4	1.8	110	3	-	-	Se	b		
965	Z-6	II	a	11.2	9.6	3.7	560	3	3	-	Se	b		
966	一括	II	a	11.9	8.9	5.0	700	3	6	-	Se	b	PL121-160	
967	一括	II	a	14.6	8.4	5.8	980	3.4	5	-	Ka	b	PL121-163	3B-32・被熱有
968	一括	II	a	13.1	6.5	5.5	600	3	3	-	Ka	b	PL122-168	特殊磨石
969	一括	II	b	(4.9)	7.2	3.5	170	2.4	5	-	Se			い
970	一括	II	a	8.7	7.4	2.3	210	2.5	-	-	F	b		ろー7
971	一括	II	a	11.9	6.8	4.2	510	3	-	-	Ka	b		
972	一括	II	a	10.6	6.9	4.0	460	3	-	-	Ka	b		
973	一括	VI	d	9.4	7.4	3.9	350	3	-	有	S	b		
974	一括	II	a	11.0	5.4	2.5	250	3	-	-	Ka	b		
975	一括	II	a	13.5	5.9	3.5	370	2	-	-	Ka	b		
976	一括	VI	a	9.7	11.4	3.1	510	3	-	-	Ka	b		
977	一括	VI	a	8.5	8.8	4.3	410	1	-	-	Ka	b		
978	一括	II	a	7.2	5.3	3.1	170	3	-	-	Se	b		
979	一括	II	a	6.8	6.2	3.4	200	2	-	-	Ka	b		
980	一括	II	a	7.3	5.2	3.0	160	3	-	-	Ka	b		
981	一括	I	a	8.0	7.2	2.0	170	3	-	-	S	b		
982	一括	II	a	12.7	6.2	2.7	290	3	3	-	S	b		
983	一括	I	a	6.0	5.4	1.5	80	3	-	有	Ka	b		
984	一括	II	d	6.8	5.5	2.2	100	3	1	-	Se	b		
985	一括	VI	a	6.7	6.4	2.8	200	1	-	有	Ka	b		
986	一括	II	a	5.9	4.4	2.2	80	3.4	1	有	Se	b		被熱有
987	一括	VI	a	19.2	13.9	10.4	3100	2.4	-	-	Se	c		
988	一括	II	b	(7.1)	8.6	3.4	300	3	3	有	Se	b		
989	一括	II	b	9.1	7.9	(3.4)	240	2	-	-	Se	b		
990	一括	II	b	9.2	(6.8)	3.9	370	3	-	有	Se	b		
991	一括	I	b	(7.0)	7.8	3.8	240	3	-	-	Se	b		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
992	一括	II	b	(6.2)	6.9	3.6	260	3	-	-	Se	b		
993	一括	II	b	(7.4)	6.4	4.0	270	3	-	-	Se	b		
994	一括	II	b	(6.7)	6.5	3.5	210	3	-	-	Ka	b		
995	一括	II	b	(5.6)	9.5	2.6	210	2	-	有	Se	b		
996	一括	II	a	9.9	7.6	4.3	450	3	1.3	-	Se	b		
997	一括	I	c	(8.6)	9.2	3.5	410	3	1	-	Se	b		
998	一括	II		(6.3)	7.5	4.1	300	3	-	-	Se	b		
999	一括	II	b	(7.6)	6.5	4.1	280	1	-	-	S	b		
1000	一括			(4.8)	6.0	2.0	100	3	1	-	S	a		
1001	一括	II		(5.8)	9.2	4.3	275	4	5	-	Se			
1002	一括			(4.0)	(4.5)	(1.9)	60	2	-	-	Se			
1003	一括			(5.5)	(4.1)	(1.9)	45	-	-	-	Se			
1004	一括			(4.0)	(3.6)	(3.6)	70	3	3	-	Se			
1005	一括	II		(3.3)	(6.4)	3.0	80	3	-	-	Se			
1006	一括			(5.4)	(4.8)	3.6	150	3	3	-	Se			
1007	一括	III		(5.9)	4.2	2.7	95	3.5	-	-	Se			
1008	一括	III		(6.2)	3.8	3.6	110	4	5	-	S			
1009	一括			-	-	-	30	-	-	-	Se			
1010	一括			-	-	3.6	100	2	-	-	Se			
1011	一括			(2.7)	(7.0)	(3.6)	80	-	-	-	Se			
1012	一括			(4.4)	(7.0)	3.8	160	2	1.4	-	Se			
1013	一括			(6.0)	(4.7)	(2.4)	100	4	-	-	Ka			
1014	一括			(4.3)	(4.6)	4.0	130	4	-	-	Se			
1015	一括	II		(2.5)	(7.8)	4.3	100	-	-	-	S			
1016	一括	II		(6.1)	(7.9)	4.6	315	2	-	-	Se			
1017	一括			(4.8)	(4.7)	(3.7)	130	2	3	-	Se			
1018	一括	II		(7.9)	(6.4)	4.6	260	2	5	-	Se			
1019	一括	II		(5.8)	(4.8)	(3.1)	120	3	3.6	-	S			
1020	一括			(6.8)	(4.4)	(4.8)	160	6	3	-	Se			
1021	一括			(4.5)	(4.6)	4.7	320	2	5	-	Se			
1022	一括			(5.3)	(5.2)	3.3	120	1	-	-	Se			
1023	一括			(5.4)	(3.7)	4.1	90	3	3	-	S			
1024	一括		b	(9.2)	4.9	3.1	190	3	5	-	S			
1025	一括			(4.5)	5.5	2.5	100	2.4	-	-	Se			
1026	一括	II	a	10.5	6.7	3.7	330	3	-	-	S	b		
1027	一括	VI	a	10.5	9.7	3.8	510	4	-	-	Se	b		
1028	一括			(5.2)	(12.7)	3.8	298	3	-	-	Se			
1029	一括			(4.5)	(4.2)	-	58	-	-	-	Se			
1030	一括			(5.9)	(3.3)	4.1	98	-	-	-	Se			
1031	一括	II	b	(6.6)	(8.3)	3.2	235	3	-	-	Ka	b		
1032	一括			(5.3)	(7.2)	3.7	190	3	3	-	Se			
1033	一括			(5.6)	(3.4)	3.4	110	3.4	-	-	Ka			
1034	一括			(9.8)	(7.8)	-	262	2	-	-	Se			
1035	一括	I	b	(5.0)	8.6	3.1	210	1	1	-	Se	a		
1036	一括	II	a	10.8	7.0	3.3	440	3	-	-	Se	b		
1037	一括	II	a	7.1	4.8	2.4	120	3	-	-	S	b		
1038	一括	VI	a	11.3	9.0	4.0	680	3	-	-	S	a		
1039	一括	II	b	(7.6)	8.1	3.8	310	1	-	-	Se	b		
1040	一括	II	a	9.8	4.3	1.9	120	2	-	-	Ka	b		
1041	一括		c	(9.2)	4.2	2.9	190	3	3	-	S			
1042	一括	II	b	(6.7)	6.0	4.8	250	3.5	3.6	-	Ka	b		
1043	一括	II	a	10.3	8.0	4.3	495	3	3	-	Ka	b		
1044	一括	II	a	9.0	6.8	4.8	372	2	1	-	S	b		
1045	一括	II	a	12.3	5.9	2.6	255	2	-	-	Ka	b		
1046	一括	II	a	10.0	5.9	5.5	460	2	-	-	S	b		
1047	一括	II	a	6.3	5.1	3.3	130	2	-	-	S	b		
1048	一括	II	b	(8.9)	8.8	3.2	400	1	-	-	Se	b		
1049	一括	II	b	(4.8)	6.8	3.8	190	1	1	-	Se	b		
1050	一括	II	b	(5.0)	7.2	4.2	180	3.4	1.3.5	-	Ka	b		
1051	一括	II	b	(8.3)	7.2	3.4	300	1	-	-	Se	c		
1052	一括	II	a	8.9	4.8	2.6	122	1	-	-	Ka	b		
1053	一括	II	a	9.2	5.7	1.5	120	2	1.4	-	S	b		
1054	一括	II	a	12.8	7.6	4.0	600	3.4	1	-	Ka	b		
1055	一括	VI	a	5.6	5.7	2.1	10.9	1	-	-	Ka	b		
1056	一括	II	a	10.0	6.9	2.6	270	1	1.3	-	Se	b		
1057	一括	I	b	(5.3)	9.3	3.7	250	3	4.5	-	Se	b		
1058	一括			(5.7)	(5.7)	6.4	360	1	6	-	Ka	b		
1059	一括			(4.7)	(7.5)	3.0	140	1	-	-	S	b		
1060	一括			(6.3)	(4.0)	(2.6)	90	1	-	-	S			
1061	一括			(3.1)	(3.0)	(2.0)	30	3	-	-	S			
1062	一括	II	b	(7.4)	8.0	3.6	275	3	-	-	Se	b		被熱有

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
1063	一括			(9.2)	(6.5)	(4.9)	335	2	-	-	Se			3B-7
1064	一括			(5.8)	5.1	(3.6)	180	3.4	-	-	Se	b		3B-21
1065	一括			(4.4)	(3.3)	(3.2)	60	2	-	-	Se			3B-22
1066	一括	VI	a	8.5	10.2	4.1	490	3	-	-	Ka	b		3B-47
1067	一括	II	a	11.4	7.0	3.8	430	1	-	-	Ka	b		3B-53
1068	一括	II	a	11.2	8.7	4.8	600	1	-	-	S	b		3B-59
1069	一括	II		(6.2)	(5.8)	(4.5)	255	3	3	-	Se	b		3B-61
1070	一括	I	b	(4.5)	8.2	4.0	230	3	-	-	Se	a		5下

第30表 敲石計測表

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面	図版番号	備考
1	SI7-7	III	a	12.1	4.5	3.7	230	-	1	-	S	c	PL33-47	
2	SI12-112	-	-	(12.7)	(7.6)	(7.4)	770	-	3	-	S	c		被熱有
3	SI12-126	III	b	(5.9)	4.6	3.3	120	-	3.6	-	Gy	b		
4	SI13-128	III	a	11.3	4.9	3.0	230	-	1	-	S	b	PL62-30	
5	SI15-99	III	a	12.4	4.4	2.4	175	-	1	-	S	a	PL67-20	
6	SI16-55	III	a	10.7	4.3	3.3	210	-	1	-	S	b	PL70-19	
7	SI18-270	III	c	(12.2)	5.3	6.0	340	-	3	-	S	b	PL73-4	
8	SI23-410	II	a	9.8	3.8	2.4	160	-	3	-	S	b		
9	SS4-22	II	c	(11.5)	10.4	6.8	1200	-	1.5	-	Ka	b		被熱有
10	C-7	II	a	7.3	4.6	1.5	82	-	6	-	S	b		
11	F-10	III	b	(7.6)	3.3	2.0	60	-	1	-	S	a	PL123-175	
12	F-12	II	a	12.6	5.0	2.9	250	-	1	-	Rs	c	PL123-187	
13	F-14	II	d	(14.3)	11.5	7.0	1390	-	1	-	F	b		
14	I-16	III	b	(7.9)	3.9	1.5	65	-	1	-	Sm	a		
15	J-2	V	a	10.6	7.2	4.2	470	-	3	-	S	b	PL123-177	
16	K-4	II	a	12.7	7.5	4.3	590	-	3.5	-	S	a		
17	K-6	III	b	(8.8)	5.3	4.5	350	-	3	-	S	a		
18	K-12	VII	a	11.5	8.8	5.3	720	-	3	-	S	c		
19	M-16	III	b	(10.5)	4.0	2.4	150	-	3	-	Sm	a		
20	N-5	III	a	12.1	4.4	3.9	270	-	3	-	S	a	PL123-178	
21	N-5	I	a	6.7	6.6	1.9	120	-	2.4,6	-	F	c		
22	N-8	III	a	10.2	3.8	3.1	190	-	3	-	S	a	PL123-183	
23	N-8	III	b	(5.5)	3.6	3.3	62	-	1	-	S	c		
24	N-9	III	b	(6.0)	4.2	2.7	100	-	4	-	S	a		
25	O-10	III	b	(8.8)	(4.5)	4.0	190	-	3.5	-	S	a		
26	O-12	II	b	(5.2)	(5.2)	3.5	90	-	3.5	-	S	a		
27	O-15	III	a	11.5	4.2	2.9	210	-	1	-	S	a	PL123-176	
28	Q-7	III	a	16.5	5.7	3.0	380	-	1	-	S	a		
29	Q-9	II	b	(8.5)	7.2	4.0	322	-	3	-	Ka	a		
30	R-5	II	b	(9.0)	5.8	3.0	210	-	3	-	S	a		
31	T-1	III	b	(9.5)	3.8	2.6	100	-	3	-	S	a		
32	一括	II	a	9.1	4.3	4.9	240	-	1	-	S	b		

第31表 棒状礫器計測表

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI1-55	a	8.7	2.8	2.5	90	S	PL3-16	
2	SI1-94	-	(12.2)	4.9	2.9	270	Rs	PL3-17	
3	SI3-412	a	11.9	5.1	3.2	210	F	PL11-41	
4	SI7-16	-	(7.3)	5.7	2.2	150	Sm	PL33-49	
5	SI7-48	-	(13.6)	5.4	2.8	255	S	PL33-51	
6	SI12-138	a	9.6	4.4	2.0	130	S	PL55-40	
7	SI12-142,150	a	12.5	4.5	2.0	180	S	PL55-41	
8	SI12-173	a	13.0	4.8	3.6	270	?	PL55-42	
9	SI23-10	a	12.8	3.8	2.9	205	Sm	PL57-29	
10	SS7-6	a	8.0	2.7	1.0	20	Gy	PL90-35	
11	A-11	a	11.1	4.4	2.5	170	S		
12	B-12	a	12.4	3.8	2.1	120	Sm		
13	B-12	b	10.6	4.9	3.1	190	S		
14	B-13	d	12.4	4.0	2.3	150	S		
15	C-6	d	(10.7)	4.0	3.0	140	S		
16	C-9	a	12.6	5.2	2.9	300	Ka		被熱有
17	C-10	a	10.1	2.8	2.8	120	F	PL123-181	
18	C-10	a	10.4	3.6	2.4	130	Ka	PL123-188	
19	C-12	a	11.7	4.4	2.0	160	Sm		
20	C-20	b	(6.2)	3.3	3.2	70	S		敲打1)
21	D-7	a	10.8	3.6	2.6	135	Sm	PL123-182	
22	D-8	b	(7.6)	4.2	2.5	110	S		
23	D-19	a	14.4	5.3	2.9	290	S		
24	E-10	a	11.2	3.7	1.5	90	S		敲打3)
25	G-2	a	13.5	5.4	2.9	240	S		
26	G-21	a	8.8	3.4	1.6	60	S		
27	H-2	a	7.8	3.9	2.9	130	S		
28	H-9	a	13.2	5.6	2.7	230	S		敲打1)
29	H-11	a	12.4	5.3	3.2	260	S	PL123-185	
30	J-10	a	10.3	4.3	2.0	150	F		
31	J-11	c	(9.9)	4.7	2.3	170	S		
32	J-16	a	13.2	4.6	3.7	300	S		
33	J-20	b	(7.4)	3.4	2.7	80	S		
34	K-4	a	12.7	4.5	3.2	280	Se		
35	K-7	a	11.9	4.5	2.9	230	S		
36	K-8	a	7.7	3.3	1.9	70	C	PL123-180	
37	K-8	a	15.6	5.7	3.1	410	Gy		
38	K-10	a	13.5	4.5	3.8	370	S		
39	L-3	a	8.5	2.2	0.9	30	Sm	PL123-179	
40	L-4	a	12.8	5.5	2.8	250	S		
41	L-4	a	13.1	4.3	2.1	170	Sm		
42	L-7	a	12.0	3.8	3.5	195	?		
43	L-13	a	7.6	2.8	1.5	40	Sm	PI123-184	
44	L-17	b	(7.3)	4.8	2.5	120	Sm		
45	L-20	d	(13.8)	4.9	2.6	250	S		
46	M-10	b	(11.2)	4.2	3.2	230	S		
47	M-16	b	(7.7)	4.8	3.3	190	S		
48	M-17	a	10.3	3.0	1.5	70	Sm		
49	M-18	d	18.9	6.5	3.2	550	S		
50	N-10	a	12.0	4.1	3.7	210	S		
51	P-4	a	13.7	4.9	3.5	330	S		
52	P-5	d	(12.3)	4.7	2.1	200	Sm		
53	Q-10	a	15.2	4.7	3.4	340	S		
54	R-4	a	12.4	4.1	2.6	210	S		
55	R-5	b	(7.7)	3.8	1.5	70	S		
56	R-6	a	16.5	6.2	4.5	670	S		
57	R-7	a	16.0	4.6	2.3	240	Sm		
58	R-11	c	(12.7)	4.4	2.4	210	Sm		
59	R-14	a	15.0	3.1	3.6	240	S		
60	T-9	b	(8.1)	4.0	2.1	80	F		
61	U-9	b	(10.2)	3.3	1.1	60	Rh		
62	V-3	b	(10.5)	5.0	2.4	170	Sm		
63	V-5	a	13.2	5.5	3.5	340	S		
64	V-5	b	(7.1)	5.2	2.2	150	Sm		
65	V-5	c	(8.5)	3.2	1.8	80	Rh		
66	V-8	b	(7.3)	3.6	2.3	100	Sm		
67	V-10	b	(6.9)	4.6	2.3	100	S		被熱有
68	V-12	b	(10.0)	4.3	2.0	140	F		

番号	出土地点	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
69	W-13	a	14.7	6.0	3.7	470	Rs		
70	Z-3	-	(10.4)	4.5	2.7	170	S		
71	Z-4	a	9.8	3.1	2.7	120	S		
72	一括	a	14.3	3.2	2.8	200	Sm	PL123-186	
73	一括	a	14.4	4.8	3.3	360	Ka		
74	一括	b	(9.1)	4.6	1.8	100	S		
75	一括	b	(8.8)	4.6	2.7	160	S		

第32表 凹石計測表

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	側面形状	図版番号	備考
1	SI23	II	b	(8.7)	7.3	(3.3)	280	-	-	有	S	b	PL57-22	
2	E-11	II	b	(7.5)	6.6	2.9	200	4	-	有	S	c		
3	O-5	II	c	(9.4)	7.9	4.2	310	2	-	有	Se	b		
4	Q-10	I	c	(8.8)	8.9	5.1	540	3	-	有	Se	b	PL123-189	
5	Q-11	II	b	(9.7)	(7.1)	4.3	350	3	-	有	Se	b		
6	U-1	V	c	(13.6)	5.6	3.4	320	2	-	有	S	b	PL123-190	

第33表 石皿計測表

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	図版番号	備考
1	SI3-200	VI	a	17.0	13.6	5.3	1520	3	1.4	-	S	PL10-38	被熱有
2	SI4	VI	a	13.4	9.1	3.2	545	2.4	1.5	-	Se	a	PL14-17
3	SI4-58	II	b	(18.6)	21.0	(5.1)	2400	2.4	-	-	Se	PL15-23	被熱有
4	SI4-236	II	b	(14.6)	(17.4)	10.2	3500	2	5	-	Ka	PL15-22	
5	SI5-94.97	II	-	(9.5)	(9.6)	3.3	380	3	3	-	Se		
6	SI5-155	-	-	(7.0)	(7.3)	7.4	430	3	-	-	Se		
7	SI5-315	II	-	(7.2)	(12.0)	3.8	650	3	3	-	Se		
8	SI6-134	V	b	(11.7)	16.9	(11.3)	3000	4	-	-	Se		被熱有
9	SI7	-	-	(7.1)	(6.5)	2.5	190	3.4	-	-	Rs		
10	SI7-81	VI	-	(8.6)	(8.5)	2.1	200	2	4	-	Gy		
11	SI7-86	III	b	(7.7)	7.5	2.7	230	6	2	-	F		
12	SI7-92	II	a	19.6	15.0	3.1	1480	3	-	-	Se	PL33-53	
13	SI7-183	-	-	(7.0)	(6.1)	(2.6)	170	2	-	-	Rs		
14	SI9-70	II	a	17.0	12.7	5.6	1560	3.4	1	-	Se	PL42-34	
15	SI9-86	-	-	(6.5)	(4.7)	6.1	340	2	-	-	S		
16	SI12-25	-	b	(9.1)	(6.6)	(6.1)	490	3	-	-	S		
17	SI12-59	I	b	(16.4)	(10.2)	4.0	780	2	-	-	Se		
18	SI12-61	II	b	(11.6)	(5.4)	4.4	340	3	-	有	Se		
19	SI12-97	II	b	(13.4)	17.0	4.9	1470	3	-	有	Se	PL55-44	
20	SI12-117	II	a	18.5	12.5	3.2	1060	3	1.3,5	-	Se	PL55-43	
21	SI13-142	I	a	13.5	12.6	3.1	820	3.4	-	-	Se	PL62-31	
22	SI18-8	II	b	(14.3)	(9.5)	4.2	810	2	1	-	Se	PL73-7	
23	SI19カマド	II	b	(21.0)	20.7	6.8	3400	3.4	-	-	S		被熱有
24	SI19カマド	II	a	30.4	13.7	6.8	4200	2	-	-	S		被熱有
25	SI19カマド	II	d	36.9	19.0	7.3	6400	3	-	-	S		被熱有
26	SI23-28	II	b	18.5	18.5	5.7	2168	2	1	-	Se		
27	SI23-46	-	b	15.1	12.6	8.6	1875	2	-	-	Se		
28	SI23-82	-	b	8.1	4.2	5.1	230	3	-	-	Ka		
29	SS1	II	d	13.9	(15.5)	4.5	1270	2	-	-	Se	PL87-1	被熱有
30	SS3-22	II	b	(17.4)	(10.8)	(4.9)	1050	2.4	-	-	Se	PL87-10	
31	SS4	II	b	(16.5)	14.4	6.6	2140	3	-	-	Se	PL88-20	
32	SS6-8	I	b	(9.1)	(6.8)	3.5	270	3	-	-	Ka		
33	SS10	-	-	(7.4)	(9.7)	5.7	380	3	-	-	Ka		
34	SS11	II	b	19.1	(13.6)	5.8	1460	2	-	-	Se	PL90-42	
35	SS11-7	I	b	12.4	(9.1)	6.8	830	2.4	-	-	S		
36	SS13	II	b	10.8	14.3	6.4	1120	2.4	-	-	Ka		
37	SS14-1	II	b	(12.8)	(11.8)	7.0	1330	2.4	-	-	Se		
38	SS14-8	II	c	(15.5)	9.8	4.4	710	3.4	1	-	Se	PL91-48	
39	A-12	II	d	(22.4)	14.8	5.0	2110	3	1	-	S		
40	A-16	II	d	15.8	(11.3)	4.7	980	4	1.3	有	Se		被熱有
41	B-12	I	a	16.5	15.0	4.2	1580	3	-	-	Se		
42	C-7	I	b	11.1	14.3	5.7	1140	4	3	-	Ka		SI26-58
43	C-7	V	b	17.7	19.5	3.1	1560	2	-	有	Rh		SI26-149
44	C-9	II	d	14.6	11.7	4.4	970	2	-	-	S		被熱有
45	D-7	II	b	(13.0)	13.6	2.8	600	3	-	有	Se		被熱有
46	D-13	I	b	14.7	(9.1)	3.3	700	3.4	-	有	Ka		
47	G-2	I	b	(13.0)	(12.9)	6.2	970	3	-	-	Se		
48	G-3	II	a	22.9	9.5	5.7	1710	3	-	-	Se		

番号	出土地点	形状	残存	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	研磨	敲打	凹み	石質	図版番号	備考
49	H-4	VI	c	(14.1)	14.9	4.2	1220	2	3	-	Se		
50	H-14	I	b	(6.7)	(9.3)	(3.5)	310	-	-	-	S		
51	H-18	VI	a	16.1	14.5	4.0	1310	3	-	-	Se		
52	J-7	II	b	(16.3)	(10.5)	6.2	1780	3	-	有	S		
53	K-14	I	b	10.3	9.6	2.5	315	-	-	-	Rh		SI29-SF1
54	K-18	II	b	(10.6)	7.6	2.0	280	3	-	有	S		
55	L-4	I	d	18.4	(16.8)	4.7	1960	3.4	-	-	S		
56	L-4	I	b	(13.4)	(10.4)	4.5	910	3	-	-	F		
57	L-4	II	b	(15.7)	11.5	5.3	1080	3	-	-	Ka		
58	L-10	VI	a	15.2	14.6	3.4	1250	3	-	-	Se		
59	M-4	I	b	(12.9)	(8.7)	4.4	570	3	1	-	Ka		
60	M-7	II	a	17.8	9.8	3.0	710	3	-	-	S	PL124-192	
61	M-9	I	a	18.2	15.4	4.0	1640	3.4	3	有	Se	PL124-194	被熱有
62	M-11	II	b	11.3	(14.7)	5.0	1210	3	-	-	Ka		
63	M-21	II	a	33.0	23.9	4.7	6500	3	-	有	Rs	PL124-195	
64	N-10	-	-	(16.7)	12.5	7.9	2000	-	-	-	F		
65	N-15	II	a	16.2	9.2	4.0	600	3	1	-	S	PL124-191	
66	N-91	II	a	12.7	8.6	3.7	590	2	-	有	Ka		
67	O-5	V	b	(12.6)	9.0	4.9	950	2	-	-	Ka		
68	O-8	I	b	18.4	(11.8)	3.9	1110	3	-	-	S		被熱有
69	P-4	-	-	(11.1)	15.6	5.8	1520	2	1	-	Ka		被熱有
70	P-5	I	d	(17.2)	16.2	4.3	1830	3	4	-	Ka		
71	P-10	II	a	16.7	11.7	6.5	1850	3	-	-	Ka		
72	P-11	II	b	(15.0)	16.0	6.5	2065	3	-	-	S		被熱有
73	Q-11	II	-	(8.8)	(7.5)	3.5	360	3	1	-	Se		
74	R-6	II	b	(14.6)	9.5	5.5	940	2	-	-	Se		
75	R-6	I	b	16.3	(9.5)	3.7	765	3	-	-	Se		
76	R-7	-	-	(6.8)	(12.8)	5.7	600	2.4	-	-	Se		
77	S-3	II	a	13.2	17.0	3.3	1060	3	-	-	S		
78	S-10	II	b	(20.7)	(11.0)	4.1	1360	3	1	-	Se		
79	S-11	I	d	(19.0)	17.8	4.5	2300	3	1.3	-	S		
80	S-15	II	a	18.8	10.8	4.8	1420	3.4	-	-	Ka		
81	T-2	VI	a	21.0	16.9	5.3	2170	3	3	-	S		
82	T-4	II	d	18.0	12.5	5.5	1280	3	-	-	S		被熱有
83	U-1	II	b	(11.1)	(12.9)	(3.5)	540	3.4	-	-	Ka		
84	U-10	II	a	13.5	11.0	3.2	570	2	2.4	-	S	PL124-193	
85	V-2	I	a	14.0	12.8	3.0	860	3	3	-	Se		
86	V-10	-	-	(19.1)	(11.4)	7.2	1590	2	-	-	Se		被熱有
87	W-7	I	b	(17.3)	(6.9)	3.5	460	1	-	-	Ka		被熱有
88	Z-4	II	a	18.5	10.5	3.5	1135	3	1	-	Ka		
89	Z-4	II	a	16.9	12.4	3.7	1110	2	-	-	Se		
90	Z-4	I	b	10.5	12.6	3.8	680	2	1	有	Se		
91	一括	VI	d	19.5	14.6	5.1	2160	3.4	-	-	Se		ろ-8
92	一括	I	a	14.8	13.3	3.8	1060	3.4	3	-	Ka		
93	一括	IV	b	(12.0)	(9.1)	4.6	770	3.5	-	-	Se		
94	一括	II	a	23.3	11.8	6.1	2500	2	-	-	S		
95	一括	-	-	(8.0)	(10.8)	5.8	650	4	-	-	Se		
96	一括	II	b	(12.5)	(10.4)	3.4	660	3	-	-	Ka		
97	一括	II	b	(13.2)	11.6	3.5	740	3	4	-	Ka		

第34表 有溝砥石計測表

番号	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI1-23	(5.3)	(5.5)	0.8	31	S	PL3-18	被熱有
2	SI7-185	(3.2)	5.5	1.3	24	S	PL32-35	被熱有
3	SI12-19	(5.6)	(6.4)	1.0	51	S	PL54-34	被熱有
4	SI14-7	(5.6)	(3.7)	1.1	23	S	PL64-16	被熱有
5	SI14-23	(3.3)	(5.3)	(1.1)	28	S	PL64-15	被熱有
6	SI14-53	(2.3)	3.3	0.8	7	S	PL64-14	被熱有
7	SI15-65	(3.7)	6.5	1.0	25	S	PL66-17	
8	SI23-50	(7.0)	(5.5)	1.6	49	S	PL57-21	被熱有
9	SS5-7	(4.2)	(3.2)	(1.3)	23	S	PL89-26	被熱有
10	F-7	(7.9)	(5.0)	(1.1)	56	S	PL125-202	被熱有
11	F-13	9.6	7.0	1.1	99	H	PL125-205	結晶片岩 被熱有
12	I-4	(6.7)	(4.8)	(1.2)	37	S	PL125-196	被熱有
13	I-6	(4.2)	(3.8)	1.0	15	S	PL125-200	被熱有
14	I-7	(7.5)	(5.2)	(1.4)	41	S	PL125-211	
15	K-10	(7.2)	(5.9)	2.9	154	S	PL125-209	
16	K-19	(7.2)	(4.4)	1.1	41	S	PL125-204	被熱有
17	N-5	5.5	(5.3)	1.1	35	S	PL125-197	被熱有
18	N-5	(3.1)	(4.7)	1.5	23	S		
19	N-9	(5.8)	5.2	1.1	39	S	PL125-199	被熱有
20	O-16	(5.6)	6.0	1.8	63	S	PL125-206	被熱有
21	Q-5	(5.6)	(5.4)	1.7	33	S	PL125-198	
22	Q-8	(3.5)	(2.0)	(2.5)	8	S		
23	Q-13	8.2	5.9	1.6	98	S	PL125-210	被熱有
24	T-1	(5.4)	(6.0)	1.3	56	S	PL125-207	被熱有
25	T-6	(3.7)	8.1	2.2	56	S	PL125-208	被熱有
26	U-6	(5.5)	(5.4)	1.0	31	S	PL125-203	被熱有
27	一括	(4.6)	(5.2)	1.4	33	S	PL125-201	被熱有

第35表 チャート原石計測表

番号	出土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版番号	備考
1	SI3-347	8.0	6.5	5.0	345	C		
2	J-5	10.5	6.3	4.8	530	C		
3	N-11	6.7	6.2	4.5	260	C		

第36表 石槍計測表

番号	出土地点	形状	刃部	残存	最大長 (cm)	幅(cm)			最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	自然面	図版番号	備考
						基部	中央	刃部						
1	SI5-22	2	円	1	5.7	2.7	3.0	1.6	1.5	25.6	F	C	PL21-57	

報 告 書 抄 録

ふりがな	はぎやまいせき							
書名	萩山遺跡							
副書名	—							
巻次	—							
シリーズ名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編集者名	森田安彦							
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会							
所在地	〒360-8601 熊谷市宮町2-47-1 TEL048-524-1111							
発行年月日	西暦2015(平成27)年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東緯 (° ' ")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はぎやまいせき 萩山遺跡	くまがやしせんだい ぼん 熊谷市千代325番1	11202	65-021	36° 7' 3"	139° 20' 3"	19940318 ～ 19940722	15,500	公共施設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
萩山遺跡	集落	縄文時代	住居跡 18 集石土坑 10 集石 4 屋外埋甕 3	縄文土器 石器		縄文時代早期撚糸文期の住居跡17軒、平安時代の火葬墓2基を検出。		
		平安時代	住居跡 1 火葬墓 2	土師器 須恵器				

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第17集

萩山遺跡

本文編

平成27年3月20日発行
発行/埼玉県熊谷市教育委員会
印刷/大屋印刷株式会社